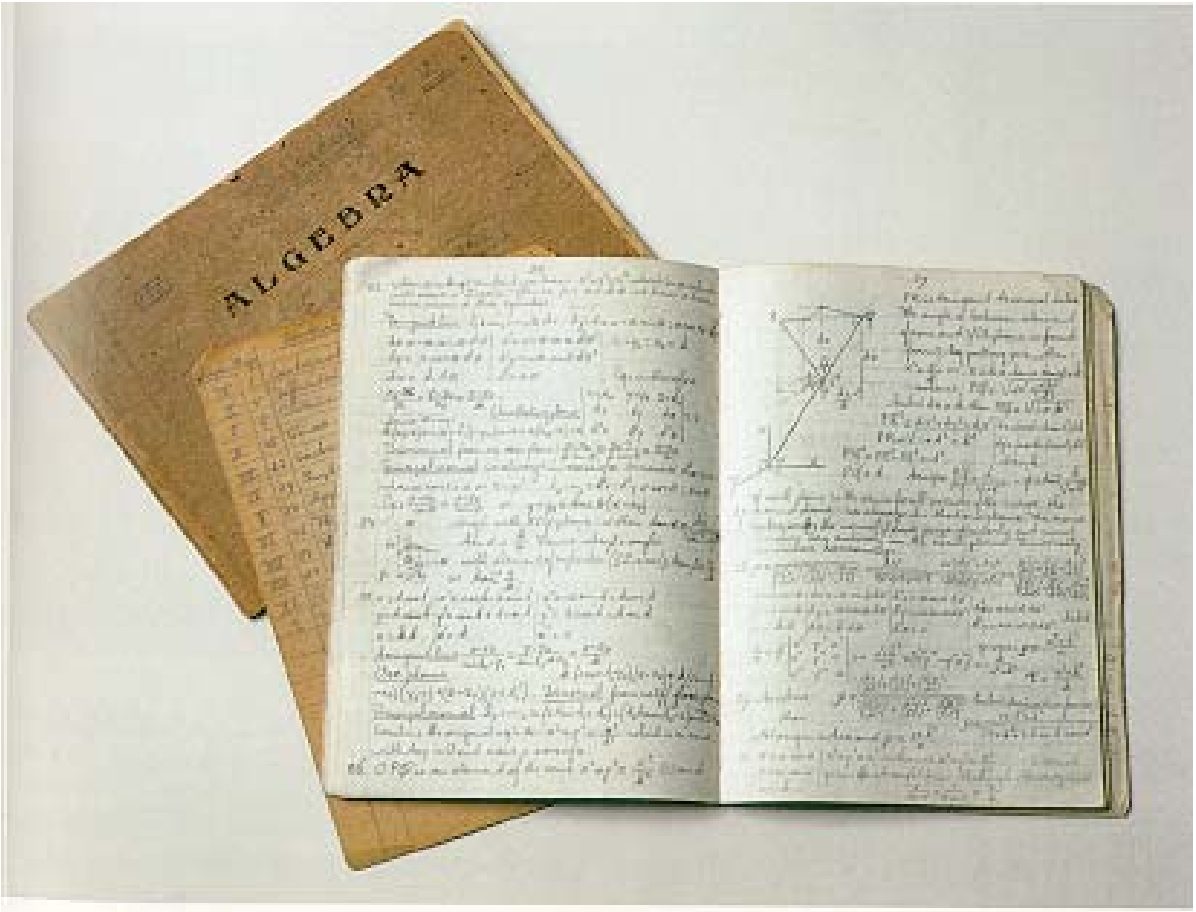
# 日記でみる日本占領時代の蘭印

## バンキナンに於いて書かれた日記




Nederlands Instituut voor Oorlogsdocumentatie（オランダ戦争資料研究所）

この出版物はオランダ戦争資料研究所が「日蘭歴史研究プログラム」の一環として行った『日記プロジェクト』の成果の一つである。「日蘭歴史研究プログラム」は、1994 年に当時の村山富市首相が提唱した＜平和友好交流計画＞から生まれ、日本政府による助成金により運営されるものである。

2004 年、オランダ戦争資料研究所
A digital version of this manuscript can be studied on http://niod.nihon.nl

# 日記でみる日本占領時代の蘭印

## バンキナンに於いて書かれた日記

編纂：Mariska Heijmans-van Bruggen

編集：Elisabeth Broers

翻訳：Reiko Suzuki

# 目次

背景 1

序文 3

輸送と住環境 28

収容所組織：西洋人及び日本人収容所幹部 45

日本人の抑留者に対する扱い 55

食糧と物資事情 66

仕事 119

健康と医療情況 132

イラスト 175

教育、娯楽と宗教 179

収容所の雰囲気 207

互いの関係と性意識 221

収容所外との接触 234

戦況の知らせと噂 265

和平の知らせ 280

# 出版にあたって

日本の蘭領東インド占領に関して残された一次資料は数少ない。日本の公文書は終戦時に大量に破棄され、インドネシアの資料は殆ど無いか、またあったとしても、その入手は困難である。一方、オランダの資料は主に戦後になって作成された報告書や声明書に限定されるが、その中で例外が戦時中に記された日記である。この日記を基に十一巻からなる＜日記シリーズ＞が編纂され、これはそのシリーズの一冊である。シリーズのうち五巻分の日記集はすでに『日記の中の日本占領』シリーズとして、ベルト・バッカー社（アムステルダム、2001－2002年）からオランダ語で出版されている。日記は現実の主観的表現ではあるが、日本占領下での日常生活の様子を良く表している。

ここで言う日記はすべて、オランダ人が記したものである。日本人管理下の収容所では‘書き物’をする事は禁じられていた。収容所外でも、家宅捜索の際に日記が見つかると罰を受ける可能性があった。それでも多くの人々が敢えて日記を付けていたことから、日記が書き手にとっていかに重要な意味を持っていたかが窺われる。彼らの個人的な語りは、これまでに形成されてきた日本占領のイメージに新たな視点を提供するものである。

シリーズでは各巻毎に強制収容所、あるいは捕虜収容所に焦点を当てたが、収容所外の生活にも関心を注いだ。シリーズにはある日記を一冊、丸ごと収めたわけではなく、日本占領下の西欧人の日常生活がはっきりしたイメージが得られるように、取捨選択が行われている。

選択に先立って、複数の日記からの情報をいかに明瞭な方法で組み合わせるにはどうしたらよいか、熟考され、長い議論が行われた。一見すると、それぞれの日記から部分を選んで、日付順に並べるのが最も妥当ではないかと思われた。しかしこのように並べると、日記の各々の部分が提供する収容所生活の独立した側面についての情報を全体の中から抽出する事が難しくなり、そのために情報が失われてしまう恐れがあると懸念された。また、我々は日記の部分をさらに細かく項目分けすることで、全体がさらに読み易いものになるではないかと考えた。さらに最終的には、シリーズには各収容所毎、独立した巻が設けられ、複数の日記が出版されるということがあり、我々は複数の日記からの情報を並べ、比較することができるような方法を見いだそうとした。

そこで結論として、日記を各々、収容所生活の重要な側面を表す項目に分ける方法が選ばれた。項目毎に日記の部分を日付順に並べ、時の経過がはっきりと分かるようにした。さらに、こうすることで、シリーズ内の複数の日記に見られる話題の発展、例えば医療情況を、互いに比較することができる。しかし実際、項目内容はそれぞれ相互関係にあり、分け難い。したがって日記の部分の多くは幾つもの項目に跨るものである。

編纂にあたっては日記原本を使用した。ただし、読み易くするために、文章は現代オランダ語に統一する方法が採られた。また、紙不足から日記の書き手があまり考慮しなかった句

読点や段落を付け加えることにより、読み易さを促進した。略語は幾つかの例外を除いて通常語に戻した。読み易いようにするためか、あるいは説明のためか、いずれにしても原本に後から書き加えられた文章は、すべてカギ括弧で括った。プライバシー尊重の観点から、文中、書き手を著しく傷つけるような文脈、あるいは犯罪的な行為をしたとなどの非難の文章に限り、その個人名を伏せるようにした。時には書き手自身が、ある状況の中では名前を伏せている場合もある。全体として、書き手の認識は個人的なものであり、彼らが置かれていた極端な状況に影響されているものであることを特記しておきたい。

使用した日記の著者およびその近親者からは、我々が彼らを捜し出せる限りにおいて、この日記プロジェクトに彼らの日記を使う許可を得ている。

# 序文

1942年３月11日及び12日、日本の第二十五軍はスマトラ島、アチェの北海岸三カ所に上陸した。北部及び中部スマトラに居た蘭領東インド軍(KNIL)の大部分はすでにアチェのアラス峡谷に向かって撤退していた。短い闘いの後、３月28日にはアラス峡谷のブラングケジェレンで、このKNIL大隊の全面降伏が調印された。こうしてスマトラも、公式に日本占領下に入った。

州都の‘スマトラ西海岸’にはパレンバンから来た日本軍が1942年3月16日と17日にはすでに入城してきた。その数日後に州都の西洋人の収容が始まった。ほとんどの人々は占領初期の数ヶ月間、先ず居住地及びその周辺で収容された後、パダンの集積収容所に集められた。合計約1000人の男達は、最終的にはパダンのムアラ刑務所、またの名を‘ブーイ’に集められた。最後には2380人になる女性と子供達のためには、パダンの宣教地区が強制収容所に改装された。1943年10月18日に男達はバンキナンの収容所に移され、旧ゴム製造工場敷地内の建物に収容された。翌日には女性と子供達が、男達の入っていたブーイに移されることになったが、その違いは人数が倍以上であるということだった。ブーイでの滞在は幸い‘たったの’二ヶ月であった。1943年12月５日から10日にかけて、女性と子供達もバンキナンに移送され、男性収容所の近くに収容された。

## パダンの宣教地区

パダンのローマン・カソリック宣教地区の建物群は、修道士用建物群、尼僧用建物群、そしてマリア協会(MVビル)から成っていた。建物群はケルクストラート（教会通り）とグールンケチル（グールン小道）の両側に建っていた。そこにあった建物は神父館付き教会、修道院、尼僧院、そして幾つかの学校であった。戦後の報告に、ある修道士は書いている。‘４月上旬に、また数人の兵士が我々の９つの学校全ての教室を訪れ、それぞれの教室で40という数字を書いていったので、ひどく怪しいと思いました。’心配は本当になった。1942年４月７日、中部スマトラ全域の、全ての西洋人を収容するという公式命令がおりた[1]。その日に、パダンの1283人の女性と子供達が宣教地区に連れてこられた。司教であったモンセニヨルL.T.M.ブランスと修道士達は始めの頃は地区内に住み続けることができた。シルヴェスター・ファン-カステレン修道士、リベラタス・ホッペンブラウワー修道士、レオナルダ・ファン-デル-ヘイデン尼僧院長、イグナチウス・ステインス-ビショップ尼僧とともに、モンセニヨルL.T.M.ブランスは収容所を指揮した。1942年６月21日、上記二人の修道士を除く他の修道士と司教は、ブーイに移送された。収容所内からの、指導層が全員聖職者であることに対する抗議の後、指導幹部は５人の

[1] L. Lanzing著、 *Kura! De noorderzon boven de gordel van Sumatra*［コラ！スマトラ一帯上の北方陽］(Bergen 2000)、ｐ 159.

平信者によって増員された。H.C.A.ホレ-ファン-エルプ夫人、T.E.L.ハネドゥース-ハルフヒデ夫人、A.L.ファン-デル-リンデン-クノープ夫人、C.カプテインおよびJ.ナイダム-ニーフェーン[2]である。彼女たちは収容所住人からの全体投票で選ばれた。宣教地区で形作られた収容所組織形態は、その後全収容期間に渡る組織の基礎となった。

やっと2ヶ月後に収容所の周りに囲いが巡らされた。そのほとんどが学校であった煉瓦造りの建物は良好な住環境を提供した。最初の頃には教室毎に10人から15人の収容者が割り当てられた。しかしスマトラ西海岸の他の場所から続々と新しい抑留者が輸送されてくるとともに、収容所はどんどん狭くなっていった。1943年10月にはこの収容所に2380人が住んだ。1943年２月に収容所がケルクストラートとグールンケチルの一方の側だけに縮小され、そのために尼僧院建物群とＭＶビルを立ち退かなければならなくなると、場所の狭さはひどく深刻化した。この時から、教会も住居として使われるようになった。1943年６月９日にパダンを襲い、建物に大きな損害を与えた地震は、抑留者の生活を狭苦しいだけでなく、恐怖をともなうものに変えた。ある女性は開放倉庫の屋根が落ちてきてその下敷きになった。数日後、彼女は死亡した。[3]

1943年９月19日、２月に立ち退かされたＭＶビルが憲兵隊によって使用されるようになった。

> ９月24日にエンゲル-ブラウンは彼女の日記に書いている。MVには約100人のアンボン人とメナド人が収容されている。手を交差させて、彼らは入っていった。武装したヤップによる厳しい警備。人数は日毎に増えているようで、その中には西洋人もいる。ブーイから来た軍人達だと人は言っている。そして私たちは今ではもう130人の男達のために料理している。

宣教地区のMVビルに隣接する場所に住んでいた抑留者達には、尋問を受ける囚人達の叫び声やうめき声が頻繁に聞こえた。

宣教地区の給水設備は粗悪なものだった。また問題であったのは食糧供給だった。1942年には抑留者が自分の食糧を全額負担しなければならなかった。1943年１月１日からは日本側が日額一人25ギルダーセントを支給し、それで全てを買わなければならなかった。この金額は２月11日には15セントに、５月１日には10セントに下げられた。必要に迫られて、幹部達は再び自費による収容所全体のための共同食糧購入に切り替えた。食糧は始めは中央炊事場で調理されていたが、不公平であるという苦情と、炊事場作業の重労働のために1943年９月に中央炊事場は廃止され、全員が自分で調理するようになっていたのである。

---

[2] Lanzing著作、ｐ 167.
[3] Lanzing著作、ｐ 240.

もうすぐ移送されるという噂がすでに数ヶ月前から広まっていたが、それでも1943年10月19日に発せられた引っ越し命令は突然のものだった。引っ越しは同日午後２時に開始されるというものだった。全てを時間までに梱包し、準備を終えるのは時計との競争だった。収容所は完全な混乱に陥った。女性達は荷物を全て自分たちで、徒歩で新しい抑留地、その前日に男達が去っていったブーイに運ばなければならなかった。戦後になって、ほとんど全収容期間中パダンとバンキナン女性収容所の幹部であった３人の女性達によって書かれた収容所報告書には、この引っ越しが次のように描かれている。

> 女性達の士気は賞賛されるべきものであった。彼女たちは死ぬほど疲れているにも関わらず、胸を張って荷を運び、気の利いた言葉のやりとりをし、もうほとんど何もできなくなった人達に励ましの言葉をかけ、明るい歌を唱って警察や、女性達を追い立てる日本人を驚かせた。この毅然とした行動にも関わらず、多くの所持品は宣教地区に残してこなければならず、その大部分は二度と戻ってこなかった[4]。

## ドゥ・ブーイ

パダンのムアラ刑務所は民衆の間ではドゥ・ブーイとして知られていた。ある日記著者は女性と子供達がブーイで直面した情況について、次のように活写している。ドゥ・ブーイ。

> ここは地獄だ。私たちは石造りの簡易ベットの、冷たいコンクリート上に直接寝ている。どの様にぎゅう詰めになっているかは、書き表すこともできないほどだ。浴室は無く、井戸が二つあるだけで、トイレは数個の穴が開けられた、少し高く造られた場所が３列あるだけである。囲いは無い。トイレに行くときには少しでも守られて座ろうと、毛布やシーツを持っていく。ここに入って２日目に、便壺が溢れた。無理もない。500人の男達用に作られた刑務所に現在は2000人が入り、しかもその４分の３は下痢をしているのだ。私たちは足首までこの汚物に浸かって歩いている。

数日前までここに抑留されていた男達は、自分たちの妻や子供達が移送されてくるとはつゆ知らず、ここをきちんとして出る努力は一切しなかった。幸いにもブーイでの滞在は２ヶ月だけだった。1943年12月２日に、３日後には収容所を遠く離れた場所、バンキナンに移し始める、と通告された。６回に渡る輸送で女性と子供達は移動して行った。旅は荷物を持ち、徒歩でパ

[4]‘Verslag vrouwenkampen Padang en Bangkinang (Sumatra’s Westkust)[パダンとバンキナンの女性収容所報告書（スマトラ島西海岸）] 1942-1945’、ｐ6.

ダン駅に行くことから始まった。続いて目隠しされた列車でパジャクムブーまで行き、そこからは覆いのないトラックで運ばれた。バンキナンまでの道は素晴らしい景色だったがひどく曲がりくねっており、多くは車酔いになった。パダンからバンキナンまでの旅は全体で８時間余りかかった。この８時間の間、抑留者達には水も食べ物も与えられなかった。目的地はゴム林に囲まれており、切り開いた場所に木製のバラックが建っていた。

## バンキナン

> 今やこの収容所は、ブーイと比べれば‘宮殿’である。それは５棟の大きなバラックから成っており、それぞれが約500人分だ。バラックAが私たち用だった。バラックの壁添いに二段になって寝床が造られ、真ん中にも２列にくっついて、やはり上下二段の寝場所があった。バラックの巾は10メートル以上、長さは50メートルから60メートルは確実にあるだろうと思う。

ブーイから出られたことの安堵感は抑留者全員に共通のものだった。抑留者達は一人巾75cm、長さ２メートルの寝場所を与えられ、これは大きな改善だった。加えてこの収容所には給水設備が良好で、洗面設備も充分だった。しかし残念ながら、ブーイ滞在の影響はバンキナン到着直後に始まった細菌性赤痢の流行として現れ、そのために15人の抑留者が亡くなった。

バンキナンの情況に対する最初の喜びは早くもしぼんでいった。ここでも、住環境は欠陥を示し始めた。バラックは長期居住用に造られてはいないことは明らかだった。荒廃は収容所到着後早々にも始まった。雨が降ると屋根が漏り、最後の頃には建物の状態は情けないばかりで、1945年４月30日の嵐で木製屋根のバラックは崩れ落ち、バラックEは継ぎ目がバラバラにはずれてしまった。水の供給に関しても故障が起こることがよくあり、その際にはほとんどいつも抑留者自身が解決策を考えなければならなかった。

収容所の敷地は高い塀で囲まれ、その周りにまた鉄条網の柵で囲まれていた。抑留者達は、ここが一つの小さな村を除いて全てゴムの木の森に囲まれていることを知っていた。男性収容所のある修道士は書いている。

> パジャクムブーからパカンバルに至る道沿いに、およそ600人の人間が住む村がある。周りはどこもゴムの森だ。土は痩せていて、米も少なく、食糧の大部分は遠距離から運んでこなければならない。ひどく暑く、マラリアによく罹る。橋のな

い、大きな２本の川の間にある。つまり、彼らは人間生活には最も適していない場所を探しだしたようだ。[5]

森の真ん中という立地は、1944年の９月と12月に、周辺に猛威を振るった森火事が足早に迫ってきた時にはほとんど致命的なものになりかけた。幸いにも、二度とも危険を回避することができた。しかし孤立した立地には‘長所’もあった。ある前抑留者は書いている。‘この収容所の良いところは、夜には全く素晴らしい星空に覆われ、浴室とトイレの裏にはちょっと削れたところがあり、水がさらさらと流れていたことだ。私たちは“峡谷”と呼んでいた。この峡谷の端の、少し高くなった所からは塀の遙か向こうに、山脈の頂上が見えた。ブキット・バリサンだ。’その上、到着後しばらくして、女性達は、女性収容所からおよそ２キロほどの所に男性収容所があることを発見した。自分の夫や息子達がすぐ近くにいると知ることは、多くの女性達を大いに元気づけるものだった。

**指導体制**

バンキナン到着時にオランダ側収容所運営の形態に変更が行われた。パダンではまだ収容所指導者として加えられていた二人の修道士達は到着と同時に男性収容所に移された。続いて尼僧達も指導層から身を引き、その結果として収容所の指導は５人の‘平信者女性’のみに任されることになった。パダンでこの役割を引き受けた５人の女性のうち、H.C.A.ホレ-ファン-エルプとT.E.L.ハネドゥース-ハルフヒデ両女史は、その後も収容期間の最後まで収容所幹部として残った。他の３人の女性達はある時を境に、遅くとも1944年３月までには、おそらく選挙によって他の人と交代した。登場したのはA.ハウスマンス夫人、L.F.マウラーール-スフローダー夫人、そしてA.P.ブロッフ夫人であった。1944年10月および1945年５月の選挙では収容所幹部の構成は変わらなかった。収容所幹部達はバラックリーダー、バラック副リーダー、そして例えば諍いを治める法規委員会など、あらゆる委員会によって補佐された。収容所内では幹部達のやり方は高い評価を得ていた。

1944年４月までは民政体制の元に、マヅダワ中尉がバンキナンの女性、男性両収容所の司令官であった。収容所は日本人監督下のインドネシア警官の一隊に警備されていた。日本人達は、大通りの向かい側、男性収容所の正門のそばにある、以前ゴム工場支配人の住宅であった建物に滞在していた[6]。1944年４月１日から、収容所は軍政下に置かれることになった。これは収容所司令官がマヅダワからハシモト・ヒデジロー大尉に代わることなども意味していた。実際にはしかし、その時から、副司令官であったヤマダ・マゴチ曹長が収容所管理をするこ

[5] ‘Verleden en heden van de congregatie der fraters van Tilburg[ティルブルグ修道士会の過去と現在]’ (1946) 第5、ｐ 31.
[6] Lanzing著作、ｐ 286.

とになった[7]。通常は、日本の収容所指導者達はオランダの指導層のやり方に余り干渉しなかった。抑留者達はその間にも、日本の収容所指導者よりも、頻繁にある日本護衛官の収容所訪問に悩まされた。この訪問時には収容所をぴかぴかに磨き上げておかなければならなかったからである。日本の指導者が干渉した例は、1945年１月末に、オランダ指導層が日本人のために綿の種を取ることを拒否した時であった。日本人達は収容所にとって貴重な品である砂糖提供を交換条件として出したにもかかわらず、女性達は綿の種が戦争遂行に使われる可能性があるとしてこれを拒否した。女性幹部はだが、この問題で、男性収容所のオランダ指導者、知事のG.A.ボッセラール修士に‘説得’された。彼は種が戦争遂行に使われる可能性は無いと固く信じており、そのうえ抑留者達には砂糖がひどく必要であったからである。日本人達は知事本人を女性収容所に連れて来、種の取り出しを非常に簡単にする器械を使って見せる二番目の男も連れていた。女性幹部達の疑いは晴れなかったが、‘拒否すればニッポンはそれを知事に対する批判として受けとめるかもしれないので’[8]最終的には承諾した。女性幹部達がボッセラール知事の影響を受けたのはこの時だけではなかった。彼は日本の収容所指導者を通じて、例えば女性収容所の食糧配給についても影響力を行使し、その際には女性達自身の考えはほとんど考慮しなかった。その反面、ボッセラール知事は日本の収容所指導層との衝突を恐れず、男性収容所も女性収容所も、その状況を改善しようとあらゆる努力を試みた。日本人が女性収容所から毎日100人を収容所外の畑仕事に出させるために知事の援助を求めたときには、それを拒否しただけでなく、‘その反対に、彼はその仕事は女性には重過ぎると主張し、重労働は全て男性がすることができるように家族全体を収容することを要求した。’[9]

運営面だけではなく、医療面に於いても男性収容所は女性収容所のやり方に干渉した。これは1944年２月には、女性収容所医師であるM.J.ライオン医師の辞任につながった。ライオン医師はオーストラリアの出身だった。彼女が西スマトラに来てしまったのは、彼女と友人のE.V.クロウ医師が乗り、シンガポールから1942年２月13日に出航した避難船が、リアウ列島近海で日本の爆撃機に沈没されたからであった。彼女は約700人の同乗者達とともに数日間小さなプラウ・ポンポン島（リンガ列島の一部）で餓えと渇きに苦しんだ後、漁船に救われてスマトラ島のタンブリハンに運ばれた。バスの旅に耐えられる者は迅速にパダンに運ばれ、そこからイギリスの駆逐艦や巡洋艦でシンガポールに帰ることに間に合った。両医師も入っていた他のグループは、救急車での輸送を待たねばならず、やっと３月６日金曜日になってパダンに到着した。しかしこの日以降、イギリス船はもうパダンに寄港しなかった。

1942年３月17日の日本軍進行後、ライオン医師とクロウ医師は救世軍病院に収容された。この病院にはパダン到着後、負傷したイギリス人の女性や子供達が入院していた。1942年

[7] Lanzing著作、ｐ 315.
[8] ‘Verslag vrouwenkampen［女性収容所報告書］’、ｐ 40.
[9] ‘Verslag vrouwenkampen［女性収容所報告書］’、ｐ 38.

６月25日、彼らは全員宣教地区の改装された強制収容所に移された[10]。この時からライオン医師が女性収容所医療スタッフの長となった。ライオン医師は病人の世話に全身全霊を傾け、抑留者達の状況改善を実現するため、日本人司令官とも何度も交渉した。しかし彼女は同時に頑固者であり、誰の指示も受けようとせず、自説を押し通した。これは抑留者達や女性収容所医療スタッフ内部での衝突を招いた。特にオランダ人医療スタッフはイギリス人やオーストラリア人と比べて優遇されていないと感じていた。

この情況は1944年２月始めに、知事の命令で男性収容所の２人の男性医師が医療衛生情況検査のために女性収容所に来たとき、頂点に達した。この処置が執られたのは、短期間に女性収容所で、ブーイから持ち込まれた赤痢に罹った15人の患者が亡くなったためであった。ライオン医師にとっては、これが我慢の限界を超える最後の一滴で、職務辞退を申し出た。女性収容所幹部は日本指導層に、代わりとなるオランダ人女医を探すように頼み、1944年３月にJ.J.エイントホーフェン医師が入所した。1944年４月11日、ライオン医師は職務を公式にエイントホーフェン医師に受け渡した。

## 接触

バンキナンでは早々に、女性収容所と男性収容所の間で密かな手紙のやりとりが始まった。抑留者達寄りの警官が、金と引き替えに手紙を届けた。手紙交換は、手紙が発見され、処罰が行われると暫く途絶えた。1944年11月に警官が、まだまだ日本寄りのスカリラ（ボランティア[11]）に替わると、手紙のやりとりは一段と少なくなった。これらの手紙には個人的な知らせの他に、男性収容所にしか入ってこなかった日本の宣伝新聞からの戦況の知らせも入っていた。手紙を送る他の機会は、女性達が壊れた家具や備品を修繕のために男性収容所に送るときであった。しかし残念ながらそれが許されたのは２回だけだった。さらには、定期的に少年達が女性収容所から男性収容所に移されるとき、女性収容所からの手紙を持っていった。少年達は15歳になると強制的に男性収容所に行かなければならなかった。それより幼い少年達も、10歳からは自由意志で、例えば母親が亡くなったりしたときには男性収容所に行くこともできた。最後に、男性と女性の接触の場として大変重要だったのは葬式であった。ある前抑留者はこれについて次のように書いている。

> 墓地は両収容所の丁度中間の距離に、森の中の、先ず木を掘り起こさなければならない場所にあった。両収容所の誰かが亡くなると、近親者は時にはとても長い間、棺に付き添い、それから墓掘りグループ［男性収容所からの］がそれを受け

[10] ‘Vrouwenkampen Padang en Bangkinang (Sumatra’s Westkust)[パダンとバンキナンの女性収容所報告書（スマトラ島西海岸）] 1942-1945’、第 2巻、 A1-A13.
[11] ここではスカリラは、現地人の日本軍補助兵、兵補を指している。

取って葬式が行われる。ここでも喋ることは許されない。しかし棺の受け渡しの時にはいつも手紙がやりとりされる。始めはこの様な事態を利用しなければならないことに気が咎めた。しかし、これが期間中には接触を取る唯一の方法であることが多かった。[12]

男性収容所の赤痢流行のため、1945年４月にはこの方法による接触も不可能になった。この月に35人の男達が死に、感染を恐れてこの月には誰も葬式に参加することが許されなかった。

1944年５月19日、誰もが驚いたことに、戦争捕虜の輸送隊がバンキナンを通った。戦争捕虜となった夫の姿を一目見ようと、女性達は収容所周囲の塀に、単純に殺到し、その重さで塀が壊れそうになった。彼女たちは日本人のそこから離れるようにという命令を完全に無視した。最後には日本の警備は女性達が塀を出て、鉄条網の内側から走っていくトラックを見ることを許した。多くの女性達は夫を、息子を、あるいは兄弟を見たと思ったが、通っていった輸送車はジャワからの戦争捕虜をパカンバルーに送るものであったため、それが本当である可能性はほとんど無かった。日本軍はそこで戦争捕虜とロームシャを使って鉄道を敷設しようとしていた。[13]数回、女性達は公式に家族や親戚に葉書を出すことが、スマトラ島でも、その外でも許可されたが、男性収容所から密かに持ち込まれる手紙以外には女性収容所に入ってくる手紙は無いといってよかった。このため1944年10月１日に葉書がバンキナンに配達されたときの喜びは最初は大きなものだった。しかしこの葉書が約30人の戦争捕虜の死亡通知だと分かったとき、喜びは深い悲しみに変わった。彼らは輸送蒸気船ファン・ワールヴァイクが1944年６月26日、戦争捕虜が乗船しているという印を付けずにベラワン港からシンガポールに向かう途中で、連合軍の魚雷攻撃にあって死亡したのだった。乗船していた720人の戦争捕虜の内、178人が命を亡くした。[14]

## 仕事

収容所の毎日の運営に関する作業は、バンキナンではオランダ側収容所幹部の指令で行われた。その他にも、幾つかの作業が日本側収容所幹部の命令で遂行された。その幾つかの例は、前述の種とり、薪集め、野菜畑労働である。時にはこの強制的作業に抗議が行われることもあったが、日本人が収容されている若い女性や少女を収容所外で日本人のために働かせようと試み

---

[12] M.H. den Ouden-Hille著、 *Ik wou dat ik een vlinder was. Mijn jeugd op Sumatra van Fort de Kock tot Bangkinang ［蝶になりたい。コック要塞からバンキナンまで、スマトラでの私の青春］*(Franeker 1983) ｐ107.

[13] これがパカンバルーの鉄道建設に使役された戦争捕虜の、最初の輸送であった。1944年５月16日にバタビアを出発している。H. Hovinga著、 *Eindstation Pakan Baroe 1943-1945. Dodenspoorweg door het oerwoud［終着駅パカンバルー1943-1945.原始林を通る死の鉄道］*(Blaricum 1996) ｐ17-26.

[14] H. Neumann と E. van Witsen共著、 *De Sumatra spoorweg［スマトラ鉄道］*(Middelie 1985)、ｐ 41-43.

たときほど激しい抗議が行われたことはなかった。この試みはすでに最初の収容所、パダンの宣教地区で始まっていた。事務仕事、看護、レストラン仕事のために労働力を提供するようにいわれた。最初からオランダの収容所指導層は、本人が自発的に希望した場合にのみ、そのような仕事のために女性や少女達が収容所外に行かせるということを日本人に対してはっきり示していた。こうして1942年10月、２人が任意でコック要塞の売春宿で働くために出ていった。1943年２月、日本人は強圧的に何人かの娘達を収容所から連れ出そうとしたが、これは抑留者達によって阻止された。前収容所幹部のハネドゥース夫人はこれについて書いている。

> 私たちはこの娘達のために、本当に日本人と闘った。私たちはこの娘達を後ろに隠し、その前に大勢で立った。８列から10列の厚さで。ヤップはそこを通り抜けることはできなかった。彼らは娘達を捉えようとし、私たちは彼女たちを取り返した・・・。私たちは本当に彼らと闘った。しかし彼らは決して彼女たちを捉えられなかった。[15]

1943年10月にブーイへ引っ越した後、同じ月に15歳から24歳までの若い女性100人がパダンのカソリック少女連合会(KMB)に移送された。彼女たちの身を案じて、収容所幹部の内二人、ホレ夫人とハネドゥース夫人が、志願して付き添った[16]。KMBでは日本人は女性達を仕事に志願させようと画策を始めた。最も重要な勧誘策は、惨憺たる情況のブーイに戻すという脅しだった。この結果、KMBから14人の女性が、コック要塞の日本レストランで将校達に給仕する仕事に志願した。その間にも日本人達はブーイでも力づくで娘達を連れ出そうとしたが、失敗した。だが３人は志願して収容所を出ていった。しかしこの17人の女性はコック要塞には送られず、エマ港に向かっていった。そこで彼女たちは船に乗せられ、ニアスに送られた。‘そこでの仕事は、実際に日本人将校の給仕であることが分かった。彼女たちの待遇は良かった。［...］しばらくしてから娘達はシボルガに送られ、バンキナン収容所に帰ってきたのは２人だけだった。’[17]

KMBでは日本人達はひどく狡猾な方法で、女性達を連れ出す２度目の試みをした。これが失敗に終わるとKMBの全ての抑留者はブーイに連れ戻された。その内11人は惨憺たるブーイに帰るのが嫌さの余り、その時点になってコック要塞で働く方を選んだ。ブーイに残っていたE.C.ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール夫人は1943年12月２日、彼女の日記に次のように書いている。

---

[15] E. Captain、 A. van der Schatte Olivier共著、 *Indië, een verre oorlog van dichtbij. Herinneringen van vrouwen in bezet Nederlands-Indië［蘭領東インド、すぐそばの遠い戦争。占領下蘭領東インドの女性の思いで］* (Zutphen 1995)、ｐ 115.
[16] Captain著作、p 118
[17] ‘Verslag vrouwenkampen［女性収容所報告］’、ｐ 44.

ＭＶビル［KMBのこと］の娘達は私たちの所に戻された。それは全く面白い話しだった。ある日の午後、彼女たちは保護者達とともに大きなトラックに乗って、盛大な歓声の中を凱旋してきた。私たちが余りに大声を上げ、バンザイを叫んだのでその罰として食事を抜かされたが、そんなことはどうでもよかった。彼女たちから聞かされた話は全ての努力に値した。それはこんな話しだった。彼女たちはしばらくの間、実際にましな食事を与えられ、楽々とした生活をした。仕事はなかった。ある日、ヤップがバスで乗り付け、全員が、いわゆる事務所か何かに登録のために同乗しなければならなかった。２，３人の年上の女性も、ヤップに禁止されたが、構わず乗り込んだ。最後には彼らは出発し、しかし市役所に行く代わりにコック要塞に行く道に入った。そこは喫茶店と売春宿のある兵士達の娯楽センターなのだ。その時、彼女たちは全員で助けを求めて叫び、怒鳴った。もちろんだれも助けには来なかったが、しかしヤップはそれでひどく神経質になった。それで彼女たちは爪と髪留めピンで襲いかかり、運転手の英国領インド人の戦争捕虜ももみくちゃにされて運転できなくなった。それで彼らはパダン郊外で止まり、小さなポン引きヤップはバスを降り、それから彼女たちは運転手に連れて帰るように命令したのだった。少なくとも聞いたところではそうで、全くすごい話しだと思った。そして、このために彼女たちは帰されたのだ、何の使いものにもならないというので。

**食糧と健康状態**

バンキナンの食糧は絶対的に不足していた。そこで女性達はあらゆる方法を使って非常に乏しい配給食糧を補おうとした。禁制取引、物々交換、販売、購入。食糧を密かに運び込むのがそのために最もよく使われた方法だった。大量の追加食糧が、収容所監視のために投入されたインドネシア人警官の仲介で、非公式に塀を越えて収容所に流入した。1944年11月にこの警官達が日本寄りのスカリラ（志願者）に替えられると、禁制取引は低調になった。しかし緊急事態は法をも犯すもので、今度は見つかる可能性が大きかったが、それでもまた取引が始まった。禁制取引は日本人から厳しく禁じられていたのだ。発見される度に罰せられ、警官も抑留者達も様々な場合にビンタの雨を受けなければならなかった。この様な処罰の後では禁制取引も一時的に止まったが、しかし処罰の記憶が薄れ、空腹にひどく苦しめられに従って、また盛り返した。追加食糧購入のための金銭を得るため、抑留者達はすでに少なくなっていた所有物の中で、少しでも必要性の薄い物は全て売った。宝飾品がまず最初に取り引きされ、衣料品も収容所外で高く売れた。

この禁制取引も収容所住人の衰弱や、脚気や浮腫などの欠乏症の広がりを抑えることはできなかった。女性収容所は２度、赤痢の流行に襲われた。最初の流行はバンキナン到着直後、前の収容所、ブーイでの劣悪な環境の結果として起きたものだった。２度目の流行は解放の月、1945年８月に起きた。この月には64人の感染者が記録されている。[18]

発生した病気には、医薬品や医療器具の不足のために充分に対処することはできなかった。女性収容所に居た医師や看護婦達はできるだけのことはしたが、それでも成功する機会は少なかった。上述したように、女性収容所の医療は1944年４月まで、オーストラリア人医師のM.J.ライオン医師が指揮していた。彼女はE.V.クロウ医師によって補佐されていた。ライオン医師が辞任した後、医療スタッフの指揮はオランダ人のJ.J.エイントホーフェン医師の元に移った。ライオン医師はイギリス人患者の治療は続けた。1944年８月と12月には女性収容所で男性収容所から来た男性外科医のP.A.フィスによって手術が行われた。彼は1943年９月９日に妻と子供達とともに、その当時は女性収容所であったブーイに抑留された。しかしバンキナンへの輸送時に、妻や子供達と離されて男性収容所に送られた。

パダンとバンキナンの女性収容所で、2300人の住人の内合計165人が死亡し、死亡率は7.3%だった。男性収容所の残っている記録はこれほど正確ではない。H.ファン・デン・ボスの調査結果からすると、収容所の平均住人数976人の男性、少年の内、127人の抑留者が亡くなった。この数字では、男性の死亡率は13.1％になる。[19]

## 日本降伏の後

1945年８月22日にバンキナンの女性収容所でも男性収容所でも、和平が公式に発表された。翌日には男性は妻や子供達を訪問することが許された。発表の時から、大量の食糧、医薬品その他の物資が収容所に入ってきた。

８月30日に、ボッセラール知事とその夫人を始めとする50人の地位の高い元抑留者達が、連合軍受け入れの準備をするため、車でパダンに向けて発った。９月始めには約100人の病人を含むおよそ1300人の男女が４回に分けてトラックでパダンに輸送された。

９月７日に南アフリカ人のG.F.ヤコブス少佐がバンキナンに到着した。ヤコブス少佐は、連合軍東南アジア総司令官であったルイス・マウントバッテン卿の指令でスマトラに送られたのだった。彼が受けた任務はスマトラに散っている強制収容所の情報を収集することと、抑留者達を避難させることだった。ヤコブスの訪問はバンキナンへの様々なチームや人間の訪問の先駆けとなった。９月10日には７人から成るチームがバンキナンの上にパラシュート降下した。チームは３人のイギリス人RAPWI（連合軍戦争捕虜及び抑留者救済）メンバーと、４人

[18] ‘Verslag vrouwenkampen［女性収容所報告］’、ｐ 35a.
[19] ‘Vrouenkampen Padang en Bangkinang[ パダン及びバンキナン女性収容所]’、 B1-B2.

のオランダ人インシュリンド軍団で構成されていた。[20]チームはC.A.ラングレイ少佐の指揮下に置かれていた。彼らは抑留者達のおかれている情況を調べ、必要とあれば改善策を講じるために送られたのだった。

６日後に、バンキナンに高位の客人が訪れた。マウントバッテン卿夫人である。彼女は抑留者達を力づけ、その訪問は非常によい印象を残した。少しするとKDP（罹災者事務所）のチームが避難準備としてバンキナン抑留者の登録を始めた。

この避難は1945年９月27日に開始された。その前に抑留者はメダン、パレンバン、パダン、あるいはジャワ（メダン、またはパレンバン経由）の４つの目的地の中から一つを選ばされた。メダンとパレンバンへの輸送はパカンバルーから飛行機で行われた。パカンバルーまではトラックで送られた。パダンへは全行程をトラックで行かなければならなかった。1945年11月11日、バンキナン両収容所からの避難は終わった。

バンキナンの中では抑留者達は、避難をするまでインドネシア民衆の過激化にはほとんど気付かなかった。しかし、避難後にそれに直面することになった。

## 採用原典

### 日記著者[21]

ファン・ドゥ・ワル-クーラース

J.H.I.（ジャネット）クーラースは1902年２月４日、ブルンサム（オランダ、リンブルグ州）で生まれ、1927年11月10日、オランダで王立海軍中尉ヨセフ・フェリックス・ファン・ドゥ・ワル（1898年11月10日生まれ）と結婚した。冒険好きのヨセフ・フェリックスは３年間のパラマリボ［南米のオランダ植民地首都］派遣に赴き、ジャネットはそれに従った。パラマリボで娘が二人生まれた。ジャネット・メア・マリア(1929年２月18日生)と、ジャネット・ソニャ・ヘルミナ・マリア-アナ(1930年７月７日生)である。オランダに戻ると、ヨセフは王立蘭領東インド軍を選び、一家は東インドに旅立った。1939年までの間に駐屯地は何度か変わった。マゲラン、タパクトゥアン、コタ・ラジャ、そしてロークセウマヴェであった。大尉への昇進もあった。1939年４月、一家は休暇を得てオランダに帰り、そこで７月３日に息子のヨセフ・フェリ

[20]インシュリンド軍団は1942年３月にセイロンで発足した。軍団の目的は日本占領下のスマトラ島で情報を収集し、ゲリラ活動を組織することなどであった。成功と失敗を繰り返しながら、1943年、1944年、1945年にスマトラ海岸への上陸を数度実行した。日本降伏の後、インシュリンド軍団は約15,000人のスマトラに於ける戦争捕虜や抑留者達の安全確保などを担当した。1945年11月にインシュリンド軍団の解体が始まり、1946年３月始めに終わった。コマンド軍団のウェブサイト(www.korpscommandotroepen.nl)、およびJ.Th.A. de Man著、*Opdracht Sumatra. Het Korps Insulinde［任務スマトラ。インシュリンド軍団］ 1942 – 1946* (Houten 1987)　からの情報より。

[21] これ以降に書かれた情報は日記そのものから、及び日記著者の家族との連絡で得たものである。

ックス（ジェフ）が生まれた。同年10月に東インドに帰る旅が始まった。そこでの新駐屯地はジャンビだった。ファン・ドゥ・ワル大尉はその地域の軍事司令官となった。

戦争が始まると、ファン・ドゥ・ワル-クーラースは、夫の長く強い要請を受けて子供達とともに疎開することに決めた。彼女達はムアラテボに向かった。1942年２月半ばに、ファン・ドゥ・ワル大尉が命令したジャンビの石油施設破壊の後、彼の軍もまたムアラテボに撤退した。1942年２月24日、ファン・ドゥ・ワルはパダンに異動になり、家族と別れを告げた。ファン・ドゥ・ワル-クーラースはその後、ムアララブーまで行った。そこから、彼女は３月始めに一人でパダンの夫の元に向かった。1942年３月10日、子供達を迎えに行くため、彼女は再び夫と離れた。これが３年半の別れの始まりになった。彼女が再びパダンに着いたとき、ファン・ドゥ・ワルは、彼の一隊とともに北方に旅立っていたからである。

パダンではファン・ドゥ・ワル-クーラースは一旦知人の家に住み込んだが、他の知人の空き家に、独立して住める機会を見つけると、また引っ越しをした。そして４月７日に、彼女は宣教地区に強制収容された。1942年８月25日にファン・ドゥ・ワル-クーラースは日記を付け始めた。それは夫に宛てた、一種の手紙で、日記の中で彼女は夫と‘話し’をした。彼がパダンを去って以来、一切の消息はなかった。彼がどこにいるかも、どうしているかも分からず、日記の最初の部分に溜息混じりに書いている。‘あなたが生きてさえいれば、私のハートさん、それが私の最大の心配事よ。別れているのはとても辛い。後どれだけかかるのかしら。収容所では彼女の夫が負傷した、あるいは戦死したかもしれないという噂が行き交い、彼女の恐怖を増大させた。やっと10月末に不安に終止符が打たれた。手紙が届いたのだ。

> 私は本当に感動した。こんなに長い月日の後、あなたの言葉が私に届いた。あなたが健康で、怪我もしていないなんて、何という信じられないほどの幸運でしょう。私が望みうるすべてよりも、もっと素敵。今や私は心軽くこの収容所で生きていく。

それでも彼女の夫が正確にどこにいるのかはまだ分からず、1943年１月に何通かの短い手紙が来た後にもそれは変わらなかったが、しかしメダンが最もそれらしいと思われた。特別だったのは、この短い手紙の中に写真の同封されたものがあったことだった。‘収容所では全くユニークなことだ。どうしてこれが可能だったのかは聞かないことにしよう。’１月の手紙の後で、不安はまた月を追う毎に募っていった。ファン・ドゥ・ワル-クーラースは平均２週間に一度日記を書いた。もっと書きたいところであったが、しかし：

> ここは本当に大変だ。朝の一日の始まりから夜、今私が書いている時間、ニッポン時間の10時頃になるまでずっと、信じられないような叫び声やお喋りの騒音のなかで過ごすという状態が、あなたには想像がつくかしら。私がさっきまで小一

時間こぶ袋［簡易マットレス］に横になっていた部屋の前の遊び場は、いつもずっと甲高い話し声と叫び声で満たされている。

後になると日記を付けるのは平均月一回にまで減り、ファン・ドゥ・ワル-クーラースはそのため、1945年８月には彼女の日記を月記と呼んだ。彼女が書いた題材は、夫が居ないことの寂しさ、子供達の、特に末っ子ジェフに関する、様々な出来事だが、収容所の日常生活についても書いた。1943年10月19日、全収容所住人とともに宣教地区からブーイに引っ越しさなければならなかった。この引っ越し、そしてそのために直面した情況は、全員にとって大惨事だった。ファン・ドゥ・ワル-クーラースも例外ではない。２ヶ月後にバンキナンへの輸送が始まった。

そこでの滞在中、ファン・ドゥ・ワル-クーラースの身体はひどく衰弱した。1944年５月、彼女は初めて赤痢のために病院に入院した。９日間の最初の入院の後、２，３ヶ月に一度はこの病気がまた頭をもたげるようになった。1945年４月に、彼女は３回目の入院をした。彼女がまたバラックに、そして子供達の所に戻れるようになるまでに２ヶ月半掛かった。衰弱のため、この間には脚気の症状も呈するようになった。幸いにも彼女には家族生活で彼女を支える２人のしっかりした娘達が居た。メアとソニャは他にも様々な雑役をこなし、例えば薪集めや収容所外での作業をした。そこから、彼女たちは何らかの追加物資も持ってきた。収容期間中には、避けられない母娘の葛藤もあったが、相互の敬愛の方が強かった。

そして遂に解放の時が1945年８月に来た。早々にも、彼女は夫がパカンバルーに居ることを知り、そこでの窮状についても聞いた。彼がコック要塞の憲兵隊の元で数週間尋問され、拷問を受けたこと、魚雷攻撃されたファン・ワールヴァイク号に乗っていたことも聞いた。彼女は書いている。

まだ私には、あなたがその全ての危険を生き抜いてきたことが信じられない。陸の、海の、人間の、ヤップの危険を。なぜこんなに恵まれているのか。感謝と沈黙だけが私に満ちている。

彼女は、彼女の月記を、最後に次の言葉で終えている。‘９月12日にあなたが私たちの元に訪ねてくる。再会・・・。“どんなに長い月日だったことか！”’

日本降伏はしかしながら悪い知らせももたらした。ファン・ドゥ・ワル大尉は品行委員会からの手紙を受け取った。それはファン・ドゥ・ワルが1942年２月15日に出した、ジャンビの石油施設破壊命令に関してだった。品行委員会は大尉がパニック状態で早すぎる判断を下し、そのため、KNILの制服を着る価値はないという判定を下したのだった。これはファン・ドゥ・ワル自身にとって大きな衝撃であり、名誉回復のための何年にも渡る闘いが始まり、それは家族全体にも影響を与えた。

J.H.J. ファン・ドゥ・ワル-クーラース夫人は1967年10月８日に亡くなった。

エルレー

ヘールトラウダ・マルガレタ・ウィルヘルミナ・エルレー(1897年11月７日生)は、戦争勃発の時、パダンのオランニェホテルに住んでいた。彼女はパダンの第一小学校の主任教師だった。しかし学校は、1942年１月に、爆撃の危険のため閉鎖となった。２月末に、エルレーはホテルの部屋を出て、コック要塞に向かった。そこで、彼女は友人のP.C.（パオリン）ビンクホルスト・グロッスとその３人の子供達、タイス(1932年生)と、双子のツルースとドレ(1933年生)の元に住み込んだ。パオリンの夫、M.A.C.（タイス）ビンクホルストは動員されていた。

エルレーが1944年４月30日に始めた日記は、二冊目のものだった。彼女は次のように書いているからである。‘私はもう一冊半のノートを日記として書き尽くしたが、それは闘いの時になくしてしまった。今、その出来事の約半年後、もう一度始める元気が出てきた。’彼女は日記をジャワに住む彼女の姉妹、M.J.（マリッチェ）ミンダーマン-
エルレーのために書いた。

エルレーは彼女の日記をそれまでの戦時中の出来事の再記述から始めている。話しは1942年３月16日から17日にかけての夜、日本軍のコック要塞への進入から始まっている。それはインドネシア民衆による市街の略奪も伴っていた。数日後、パオリン、あるいはエルレーの呼び方によればパウルの家は取り上げられた。エルレー、パオリンと３人の子供達は３月19日にランドラード通りの田舎屋に引っ越しをした。もう二家族がそれに加わった。しかし、３日後にはすでに、レジデンツ［知事］通りの、すでに多くの西洋人家族が集まっていた副知事S.ナイダムの家に引っ越した方が安全であることが明らかになった。彼らには馬小屋があてがわれた。やっと少し落ち着きかけた時、1942年４月２日に、知事住宅街全体が日本人によって立ち退かされた。そこに住んでいた人、約６０人は全員、カンプメンツ大通りの旧女教師養成学校に出頭しなければならなかった。この現地人女子寄宿学校であり、以前ドイツ人やNSB［オランダのナチ］の強制収容所だった場所に彼らは捕らえられた。３日後に、男達と年かさの少年達はパダンパンジャンのKNIL野営地に移送された。女性収容所の指揮は副知事夫人J.ナイダム-ニーフェーンと神学者のE.ハンガー-カプテインがとった。まだ引っ越しは終わりではなかった。1942年５月18日、この収容所も立ち退かされ、抑留者達は荷物をまとめなければならなかった。この輸送について、エルレーは書いている。

> バイオリン、あらゆるバラン［物］の入った薬戸棚、様々な物の詰まった小戸棚、それにベッドを置いていかなければならなかった。自分で運ぶにはそれでも大変な量だった。私は毛布やクッションや靴等々の入った洗濯袋、化粧品バック、ハンドバック、もう一つショルダーバック、レインコートを持っていた。全てを運ぶには重過ぎたが、ドカル［小車］約束されていたので、何とかなりそうだった、しかし・・・ドカルは来ず、私たちは自分で運ばなければならなかった。そ

れはひどい旅だった！！！洗濯袋は引きずって行くしかなかった。それは散歩なら15分の所を私たちには45分は確実にかかった。ヤップたちはひどく行儀良く、追い立てられはしなかったが助けてもくれなかった。20人から30のグループで道を歩いていった。現地人達は近くに来ることを許されなかった。私たちは最初は木から木へと歩き、そして休み、それから電話用柱から電話用柱へとなり、最後にはその半分の距離ずつになった。しかし私たちは、皆生き生きとした顔で、沢山の冗談を言い、ボロボロになった手で到着した。へこたれたところを見せるな、が我々のモットーだった！！それから自分たちで荷を積み込み、やっと何とか列車の中に座ったときには、自分たちに関してかなり満足していた。

目的地はパダンの宣教地区だった。エルレーとパウルは尼僧学校に場所を見つけたが、‘インドネシア系の人はトトク［純血オランダ人］と離れなければならなかった。[...]彼女はそれで教室７に移り、私は教室１に残った。’エルレーは教室長になり、それは1944年４月30日まで続いた。1943年２月に６回目の引っ越しが行われ、今度は収容所内で、収容所の敷地が縮小され、尼僧学校を含めた尼僧院建物群が立ち退かされたときだった。エルレーとパウルは再び一緒に、修道士のMULO［中等普通校］に住んだ。すでに知事住宅の時から、日本人から禁止されてはいたが、エルレーはまた子供達に教え始めていた。パダンの収容所では健康上の理由で授業を一時停止していた。1943年10月19日にはブーイへ、それから２ヶ月弱の内にさらにバンキナンへと輸送が続いた。彼女はこの報告を全ての日記に共通する重大テーマで結んでいる。金銭とそれに関連する食べ物である。

今、２年後になってもまだ私たちがお金を持っているなんてどうしたら可能なのか、と思うでしょう。それはそれだけでもう一つの物語です。私は始めには確実に800ギルダーは持っていました。最初の頃は私宛のとパウルの請求書を支払っていました。買い入れも沢山しました。そして金銭は安全なところに隠しました。パダン到着時に所有金銭を差し出さなければいけなくなったのですが、聖書のカバーの間などから275ギルダー以上は見つかりませんでした。それは差し出しましたが、少なすぎるような気がしました。そのお金の中から10ギルダーは手元に置き、残りは収容所のために、一年分として提供しなければなりませんでした。数ヶ月後、私たちが退屈していたある日、写真帳を取り出して見ていると、カバーの間や大きな写真の後ろなどから確実に250ギルダーは見つけたのです。何という幸運だったか、今や分かるでしょう。その時は禁制取引が始まったばかりで、私は少なくともそれに参加するお金を持てたのです。その、元々あった金額の内、私はまだ30ギルダー分の銀貨を持っています。この収容所の中では様々な物の売買が始まっています。シーツ、私の金のスピッツファイヤー、私の腕時計、これ

は40ギルダーになりました、知っているでしょう、私の防水ニッケルスチールの腕時計。幾つもの小さな銀製品が10ギルダーになりました。しかし、数ヶ月後にはその金ももう終わってしまいました。それからドレス一枚で22.50ギルダー。[...]私はとてもお腹がすいているので、食物に沢山お金を使いました。私たちは様々なビタミン欠乏のぎりぎりの所で生活しているのです。

収入を得るため、エルレーは1944年９月末に再び教え始めた。すぐに10人の子供の集まるクラスができた。また、彼女も他の多くの抑留者同様、熱烈なレシピー収集家だった。しかし、彼女はレシピーを書きとめるだけに留まらなかった。1944年９月７日、彼女は書いている。

私はもうレシピーをほとんど書き終わりました。台所の内装などに関するあらゆるメモも沢山書き添えたわ。私の家の内装用購入物リストも入っています！！まだこれから初めての買い物リストも作るよ。こうして将来計画を立てることで時を過ごしています。

エルレーの周辺で多くの人達が死んでいくのを見たが、1944年12月にパウルの友人ミース・スペルティーが亡くなった時には死がひどく身近なものになった。そして1945年１月17日にパウルはアメーバ性赤痢のために病院に入院しなければならなかった。２月始めにエルレーは、彼女がひどくゆっくりと回復に向かっている、と書いたが、しかし、時がたつに連れてその見込みは無いことがはっきりしてきた。パウリンはひどく衰弱し、遂に1945年3月10日に亡くなった。それはエルレーにとって、親友であり、収容所内でのコンシー［相互扶助グループ］仲間を失う、重い衝撃だった。エルレーはパウリンの子供達を引き受け、必要であると思われる限り子供達の面倒を見ると約束した。

それに続く数ヶ月はひどく辛いものだったが、遂にその時が来た。日本が降伏したのだ。1945年９月５日、エルレーとビンクホルスト家の子供達はパダンに避難した。覆いのないトラックでコック要塞へと向かった。そこで短い夜を過ごした後、さらに列車で旅を続けた。彼らは昔いた宣教地区収容所に連れてこられたが、今度はずっとゆったりした配置だった。９月25日に、シンパン・ハルーに引っ越す機会がおとずれた。‘それで私はすぐに飛びつき、今はブーデル家、ヘウンダー家の人達、２人の大きな男の子と３人のおちびちゃんとともに一戸建ての別棟に住んでいます。今ここは気持ちよく静かで落ち着き、清潔です。’彼女は日記を1945年10月17日にパダンで書き終えている。後のメモによると、エルレーは1946年２月末、彼女の里子達とともにメダンからアムステルダムに向けて発ち、４月１日に上陸した。その時には父親のタイス・ビンクホルストが1945年６月14日にパカンバルー鉄道の収容所で亡くなったことが分かっていた。

エルレー女史は1950年12月14日に亡くなった。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール

E.C.オールは1911年８月25日、バトゥトゥリスで生まれた。1939年１月27日、彼女はW.F.（ウィム）ファン・アメイデン・ファン・ダウムと結婚した。ウィムは森林設計士としてサワルントのオムビリン炭鉱で働いていた。彼らはムアラに住んだ。1942年２月27日、サワルントの病院で娘、マリアンヌが誕生した。病院に居る間に、日本軍がスマトラに進行してきた。ムアラへ帰ることはもう不可能となり、一家はサワルントに留まった。1942年４月7日、サワルントの西洋人社会は強制収容されることになった。しかし、これは炭鉱勤めの西洋人とその家族には適用されなかった。炭鉱は稼動し続けなければならず、そのため西洋人職員も当座は仕事に残り、その家族も一緒にいることができた。

裏切りがあり、日本人達は作業妨害が行われたことを発見した。オムビリン炭鉱の石炭発電所であるサラク発電所の蒸気タービンの一つが、日本人が来る前に、取り出した後には再び使用できるように梱包して湖に沈めてあることが分かったのだ。職員はタービンをまた陸揚げするように迫られ、圧力をかけるために彼らの家族は1942年４月23日、サワルントの病院に監禁された。その作業は実行され、家族は1942年５月30日、再び解放された。しかし1942年９月にはオムビリンの西洋人職員のほとんどは解雇され、やはり強制収容されることになった。家族達はパダンに運ばれた。女性と子供達は宣教地区に収容され、男達はブーイだった。

ファン・アメイデンはこの間、1942年８月16日に日記を付け始めた。彼女はそのために、彼女がイェニーともヤネケとも呼んだマリアンヌのベビーブック［成長記録帳］を使った。1943年１月18日の家宅捜索で日本人がこのベビーブックを見つけた。‘“これは何だ、”と彼はうなった。“ベービーブックよ”と私は答えた。日本ではこういうことはしないのかもしれない。いずれにせよ、彼は私が大変安堵したことに、それから何も言わずにその本を返してくれた。’収容初期数ヶ月間はインドネシア系西洋人解放の噂が抑留者の間に流れた。ファン・アメイデンはインドネシア系西洋人の血統だったので、解放される方に属することを期待した。1943年３月24日に彼女は書いている。‘また、私たちが早々に解放されるだろうという変な噂が流れている。金もなく、行くあてもなくてどこに行けというのだろう。将来のことを考えるのは止めよう。今この時点では明日一体何を料理したらよいか考え出すほうがずっと重要だ。’４日後に、本当に４家族が解放され、その後にもごくたまに解放される人たちがいた。ファン・アメイデンはしかし、そこに属してはいなかった。

早急に解放の時が来るという噂も、その度に本当ではないことが分かった。1943年４月20日に、ファン・アメイデンは書いている。‘昨日、ヨヨに髪を切ってもらった。パーマネントで素晴らしく波打たせようと、どんどん長くのばしていたのだが、ちっとも事がはかどらないので、もう切らせてしまったのだ。’ファン・アメイデンに取って、収容所内のすべての憂さを晴らす最高のものは煙草だった。1943年３月24日に次のように書いてはいるが。‘煙草が無くても、それほど嫌だとは思わなくなっている。食べ物に対する思いの方が、喫煙の希求

よりも強いからだ。’それでもその数日後に、また幾らか煙草が買えたときには有頂天になった。彼女を大変元気づけたのは、非公式の、そのためにひどく不定期な、ブーイにいるウィムとの手紙交換だった。しかしこれは、彼女の心配事を増やしもした。ウィムはマラリアに罹ったのだ。ファン・アメイデンは戦況やウィムのニュースを得るために、よくテーブルダンス［降霊術の一種］をした。信仰にはあまり価値を見いだしていなかった。1943年３月11日に、ヤネケに洗礼を受けさせたいというウィムの手紙を読んで、彼女は書いている。

> 私にとって、洗礼は全く何の価値もない。それに私の、カルマ［宿命］や生まれ変わりに対する信心は、他の全ての宗教と全く相反するものだ。洗礼を受けていないと天国に入れない、などと私の前でいわれると、いつもイライラする。それではすごく人の良い、その人生で一度も信仰だの宗教だのということを考えたこともない森の狩猟生活者は、死んでから一体どこに行くというのだろう。偉大なミステリーではないか。

1943年７月５日、ベビーブックがいっぱいになった。書き続けようかどうか迷ったが、８月23日に新しいノートに書き始めた。1943年９月に、彼女は収容所の炊事場に小さな職を得た。そこで得た金銭の使い道は多かった。多少皮肉に、彼女は指摘している。‘さあここにあなたのアット、第一級免状を持った教育者が、今や炊事場の助手をしている。全くお笑いね。ウィムが聞いたら何と言うかしら。’1943年10月３日に、全く思いがけず彼女はウィムを見る。

> 彼らは道向かいに、顔をMVビルの壁に向けて一列に並んでいた。私はもちろん身体が痺れるほど驚き、神経質になったが、その日、後になって、彼らが炭鉱で我々の夫達を働かせるために必要としているのだと聞かされて、少し落ち着いた。それに違いないと、私も信じている。ビエン［ドゥ・ハース］と私は必死でテーブルダンスをし、いつも‘ヨセフおじさん’の名前で宣告をする、我らが頼りのポルターガイストも、彼らはサワルントに行った、と言った。しかし、彼らが出ていくのは見ていないし、MVのすぐそばのバラックでは夜中にMVビルから悲鳴や叫び声がすると主張している。彼女たちは数人の男達が車で、頭の上に袋を持って出ていくのを見たという。一体これは何なのだろう。ブーイとも、全然連絡が取れない。夫達はサワルントに行ったと信じておくことにしよう。

２週間後に、女性と子供達は宣教地区から、すでに男達は運ばれ去ったブーイに引っ越しをさせられた。‘ここは地獄だ。’とファン・アメイデンは11月４日に、それまでの、この刑務所滞在に関する記述を始めている。そして彼女は、全く思いがけなく、再びウィムを見る。11月26日、彼女は書いている。

ウィムは、ここに、ブーイにいる。長い顎髭を生やして、へたくそなイエス像みたいだ。数日前、子供達の一団が、私に知らせに来た。“アットおばさん、ウィムおじさんが門の所にいるよ。”私はもちろん信じなかったが、子供達は本当だと言って頑張った。彼は他の30人の男達と一緒にトラックに乗っていた。彼らは小さな刑房の一つに入れられた。私はもちろん、いつもそのそばにいるようにした。これで私たちは我らのサワルントの男達に何が起こったか分かった。彼らは全然サワルントに戻ってはいなかった。MVビルは憲兵隊本部で、夫達はどこかの裏切り者に、ヤップに対する陰謀を巡らしたと告げ口されたのだ。技師達は死刑宣告を受け、他の人達は無期懲役でファン・デル・カペレン要塞に送られた、のだったと思う。ウィムは尋問中に病気になり、赤痢で、ヤップは伝染病を死ぬほど恐れており、そのため彼はフルスピードで病院に送られた。彼が回復したときには全ての判決は下りた後で、どうしたものかおかしな事に、彼らはウィムのことを忘れてしまったようだった。そして彼は今私たちの所にいて、生きて、罰の判決も受けておらず、もうすぐ私たちがバンキナンに行くときには、彼も一緒に行くのだ。

ファン・アメイデンの、このいわゆるオムビリン炭鉱事件に関する記述は、大筋では正しい。ウィムの経験に、当然ではあるが焦点を当てて見ると、この事件のより詳細な報告は次にようになる。

1943年10月３日と７日に、戦前からオムビリン炭鉱で働いていた、合計30人の男達はブーイから憲兵隊が使っていたMVビルに移された。そのほとんどの男達は戦時中には破壊団の一員だった。９月20日以降、オムビリン事件の他の容疑者達もすでにMVビルに拘束されていた。全員が、作業妨害、器物破損、連合軍寄りの考えを持っている、などの容疑を受け、長時間の尋問と拷問を受けた。10月20日頃、彼らの内の約10人が、さらなる尋問のためコック要塞の憲兵隊本部に送られた。判決が下る前に、コック要塞に拘束されていた内の２人、オムビリン炭鉱の炭鉱長であったW.J.R.ランジング工学修士と炭鉱技師のE.J.A.コサイン博士が身に受けた暴行のために亡くなった。いずれにしても、その他の囚人の一部も死刑を宣告され、1943年12月６日に処刑された。[22]

MVビルに残った囚人達のほとんどについては、1943年10月20日から30日の間に、パダンの最高裁判所で判決が下りた。ほとんど全員が15年の懲役刑を受け、ファン・デル・カペルン要塞に送られた。1945年始めに、彼らはそこからパジャクムブーの刑務所に移された。両

[22] 同事件の詳細に関しては、Lanzing著作、ｐ 250-258を参照。

方の場所の管理体制は余りに過酷で食糧は余りに少なく、その多くは解放の時を体験することはできなかった。[23]

ウィムはこの運命からは逃れることができたわけである。彼は女性達と同時にブーイからバンキナンに移送され、そこで男性収容所に収容された。密かに持ち込まれる手紙によって、比較的頻繁に連絡を取ることができた。こうしてファン・アメイデンはウィムが下痢、マラリヤ、脚気に悩まされていることを知っていたが、彼が特別というわけでは決して無く、彼女は実際的な心配はしていなかった。ヤネケと彼女自身も、様々な症状に悩まされていた。しかし1944年４月30日、ファン・アメイデンは直ちに男性収容所にウィムを訪ねて良いことになり、驚愕に襲われた。この様な優遇措置はきわめて例外的な場合にしか執られないことを知っていたので、ファン・アメイデンは最悪の事態を恐れた。しかし男性収容所で、ウィムは病気ではあるが、死に向かっている訳では決してないことが分かった。医師からも、他の人達からも彼女は心配するなと言われた。そのため、５月17日、２度目にウィムを訪ねて良くなった時も、心配はせずに男性収容所へと発った。だが、到着してみるとウィムは危篤状態であった。完全に失望して彼女は女性収容所に戻り、翌朝、ウィムが赤痢で亡くなったと聞かされた。同日にもう彼は埋葬された。ファン・アメイデンは葬式に参列することが許された。

葬式の後、ファン・アメイデンは日記を1944年10月まで書かなかった。‘人生はウィム無しで進んでいった。’と書いている。そして将来に関する短い想像文の後は、日常の雑事の記述になった。衰弱と病気も重なって、それからは極たまにしか書かなかった。日本降伏の10日後、ファン・アメイデンは病院に入院した。９月２日、彼女はパダンの病院に移された。ヤネケはバンキナンに残さねばならず、A.W.F.（アニー）モレンスキー-ヤンセンがヤネケの面倒を見てくれることになった。ファン・アメイデンは発熱し、下痢をしていたが、しかし食欲はあり、気分もまあまあであった。そのため、９月12日に結核にかかっていることが発見されたのは大きなショックだった。

> 私たちは全員徹底検査された。私の左肺に穴が空いている。痰は陽性だ。私は結核に罹っている。彼らは前からこれを疑っていた。つまり、そのために私はバンキナンでももう、死にかけた尼僧の横に寝かされたのだ。もうすぐ私たちは皆仕分けされ、結核持ちは隔離病棟だ。神よ、私にはまだ信じられない。これは何かの間違いだ。私の気分は良いし、咳もほとんどしない。

隔離病棟では多くの患者が死んでいった。やっと1946年１月にファン・アメイデンは病院を出てシンガポールに向かった。その時、彼女は日記を書き終えた。シンガポールから、彼女はオランダに旅立った。一年後にヤネケもオランダにやってきた。

---

[23] ‘De arrestaties van het Oembilin-personeel, Sumatra1943［ウムビリン職員の逮捕、スマトラ1943］’年金及び給付金評議会報告書。日付不明。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オールは1994年９月24日、デン・ハーグで亡くなった。

エンゲル-ブラウンス

C.M.（ロティー）エンゲル-ブラウンス(1909年５月５日生)は、1941年12月には貿易協会株式会社“アムステルダム”の所有だった紅茶会社、カジュ・アロの敷地に住んでいた。彼女の夫、H.K.（ヘンク）エンゲルはそこで副支配人として働いていた。1930年に彼らはオランダから蘭領東インドに出発した。彼らには娘のハンク(1931年５月19日生)と息子のヤン・ヘイン(1937年２月17日生)がいた。ヘンクはKNILの予備役一等中尉として動員された。

1942年３月８日、エンゲル-ブラウンスは彼女の日記を書き始めた。２日後に、ヘンクは彼の一隊とともにパダンを出て北に向かった。カジュ・アロの、他の動員された男達については消息が漏れ聞こえることもあったが、誰もヘンクに関しては知らなかった。日本軍がカジュ・アロに迫り、抑留の噂が流れたとき、エンゲル-ブラウンスは1942年４月12日にこう書いている。

> 私がここに短い記述を書き写している元の書き付けは、燃やしてしまわなければならないだろう。それを持ってい行く勇気はない。これはいい。[...]考えてもごらん、彼が戦死して、私が強制収容されるなんて。何という人生だろう。私には重すぎる、特に子供達が聞き分けのない時には。時々、私の脳が働きを拒否する。あの、流れ込んでくる全ての嫌な情報。

幸い一週間後にはヘンクに関する不安に終止符が打たれた。彼は生きているが、戦争捕虜になった、という知らせが来たのだ。‘ああ、私は本当に嬉しい。私たちがどのくらい会わずにいるかは神のみぞ知る、だけれど、今や私は何かに向かって生きていくことができる。あなたは生きている、バンザイ！子供達も大喜びだ。’

1942年４月22日に最初の日本人が会社に現れ、強制収容が早速それに続いた。４月30日に女性と子供達はスンゲイペヌーの幾つかの集合／戸建て住宅に収容された。収容所でエンゲル-ブラウンスはアルバイトに散髪を始めた。多くの人達同様に、彼女も混み合った女性社会に辟易していた。彼女は書いている。‘もし私が、あなたが生きていることを知らなかったら、人生に疲れてしまっただろう。ここの生活は忌むべきもので、追い立てられる動物か、監視されている人間のように感じている。’そして、‘ああ、愛しい人、私たち４人でどこかの小屋にでも居たらよかったのに。一緒に。そしたらどんなに気持ちの良いことか。あの子供のわめき声、怒鳴り声に叫び声、あの母親達の口喧嘩、耐えられないひどさだ。’

スンゲイペヌーの滞在は1942年６月29日に、女性と子供達がペダンに移送されて、終わりになった。４人の抑留者はスンゲイペヌーの病院に残らねばならなかったが、その子供達はこの移送に乗って行った[24]。エンゲル-ブラウンスはこの輸送を次のように記述している。

> 29日に、私たちは午前５時に出発した。おお、パパちゃん、もう書き表しはしないけれど、それは蓄獣のような旅だった。B.S.［バライセラサ］でちょっと埃りを払って良いだけだった。私はルセラー家の人達と、手作りのグロバック［牛車］に乗っていた。私たちは全行程中、余りに埃をかぶり過ぎ、最後にはまるで白髪の女性になってしまった。私が一番ひどかった。36人でこんなにベレットな［重くてギシギシした］荷車に乗って。私たちの車は全員インドネシア系だった。残りは３台のHVA車で、36人は、最初の車輌に座ったり自分のチラム［マットレス］にぶら下がったりしていた（クルース、ポルト達等）。一時間警察曙の前で待たされた後、夜８時にここで降ろされた。私の腹はこらえられず、私は車にぶら下がってした。下車は許されなかった。

最終目的地はパダンの宣教地区にあった強制収容所で、スンゲイペヌーから来た女性と子供達は感染の危険があるというので全員一緒に教会の建物の中に集められた。教会での滞在は長くは続かず、カジュ・アロ出身の女性と子供達も、早々と収容所全体に散っていった。パダンの方がひどく暑かったが、エンゲル-ブラウンスはこの収容所の雰囲気の方がスンゲイペヌーよりずっと良いと思った。ハンクとヤン・ヘインは、宣教建物にあった非公式の学校に通った。定期的に演劇の夕べも催された。1942年９月12日、エンゲル-ブラウンスは収容期間中初めて、病院に入院することになった。便に血が混ざっていたのだ。４日後にはまた日記帳がいっぱいになった。その次の、あるいはそれに続く数冊が欠けているため、次の日記抜粋は1943年７月23日の日付である。それは次の言葉で始まっている。‘これで何冊目だろうか！これも一杯にならなければいけないのかしら。そうでないことを心から祈る、最悪の事態になるのではないかと恐れてはいるけれど。うまく行ってはいるけれど、遅い。おお、何故ドイツ野郎は陥落しないの？’

1943年９月７日に、エンゲル-ブラウンスはヘンクから初めての知らせを受け取った。それは1943？？？年のクリスマスに、ヘンクがビルマ-タイ鉄道建設用の戦争捕虜として送られたムルメイン（ビルマ）で書いた葉書だった。葉書には少ししか書かれていなかったが、しかしそれは生きている印だった。‘私は“イグジスタンス・リーゾナブル［妥当な生活］”から類推して、あなたはまあまあなのだろうと想像している。楽しいことではない。あなたが働

[24] B.C.クリーヘル-ファン・デル・スホット夫人は1942年７月17日、病院で亡くなった。他の３人の女性達は後になって宣教地区建物群に移送された。‘Vrouwenkampen Padang en Bangkinang［パダンとバンキナンの女性収容所］’、第二部、 C34.

いているのはとても有り難い。いい給料で。’この文章から、そこで実際に何が起こっていたかを如何に人々が知らず、想像もできていなかったかがわかる。

エンゲル-ブラウンスに取っても惨事であった、1943年10月から12月のブーイへの引っ越しと滞在の後、バンキナンへの輸送がそれに続いた。彼女はそこで、他の２人の女性と、その３人の子供達とともにコンシーを結成したが、エンゲル-ブラウンスはその後すぐに、やはり‘自分一人で’やることに決めた。1943年１月始めに彼女は別のバラックに移り、コンシーから離れた。夫達がバンキナンの男性収容所にいる女性達に比べて、‘戦争捕虜の妻達’に対しては全然気遣いがされていない、ということがエンゲル-ブラウンスの気に障った。その女性達はしょっちゅう小包を受け取っているが、戦争捕虜の妻にはほとんど何も来なかった。1944年５月29日、彼女は書いている。

> ［バンキナンに抑留されている］カジュ・アロの男達は一度も私たちに何かを送ってきたことがない。一度たりとも。これは傷付く事よ！他の人達はいつも一週間に一度は何か、例えばカチャン［落花生］、テンテン［ピーナッツクッキー］等々を受け取っている。カルラは太ってきて、自分の夫の文句ばかり言っている！どうしようもない。一度でもあなたからの手紙を受け取ってみたい。天まで跳び上がってしまうだろう。

バンキナンでは教育をすることは、他のほとんどの強制収容所と違って、禁止されてはいなかったが、教材はひどく少なく、原始的なものだった。ハンクとヤン・ヘインもまた‘学校’に通った。ただし授業は、有料ではあった。時にはエンゲル-ブラウンスは子供達に言うことを聞かせることができず、‘父親’の存在がひどく恋しかった。その一方で、子供達は彼女に大きな満足感を与え、よく働いた。ヤン・ヘインはあらゆる小さな手作業をし、ハンクはしょっちゅう料理をし、また雑役で追加食糧を稼いだ。エンゲル-ブラウンスはまだ散髪でエクストラの金銭を得ていた。

彼女自身も恒常的に健康が優れず、その上何度も病院に入院していた期間があったにもかかわらず、彼女はハンクとヤン・ヘインの方をずっと心配していた。二人ともバンキナンでマラリアに罹り、頻繁に再発した。また、別の発熱や腹下しもよくあった。しかし1945年４月４日にはヤン・ヘインが急性バクテリア赤痢で病院に入院した。彼は感染病棟に寝ていたのでエンゲル-ブラウンスはそばに行くことができず、彼の病状を知るためには看護婦に頼らなければならなかった。病状は見るからに悪化していった。彼女は書いている。‘おお、何て酷いこと、卵を手放したくない鶏みたいに、なすすべもなく歩き回る。ハンクと私はひどく奇妙な気分だ！舵の無い船のよう。規則的なことが全て無くなった。彼のお喋りが懐かしい！！’４月７日にはヤン・ヘインの病状は危機的だったが、しかし４月９日から、奇跡的にゆっくり快方に向かった。

1945年５月24日から同年９月８日の間は日記のページが抜けている。そのため、その後最初に来る日記の記述は日本降伏の後になる。まだヘンクから何も知らせを受けておらず、そのため彼女は日記の中で彼と話し続け、計画を練り続けた。９月12日にはこう書いている。‘私たちはオランダに向けていくのよね、パパ？再建の手伝いをするのよ、そうでしょ？ヤン・ヘインは海軍士官に、ハンクは素敵で元気な娘にならなくちゃ。’やっと９月末、10月始めになって、ヘンクから最初の手紙を受け取った。彼女とハンク、ヤン・ヘインはその時すでにメダンに避難していた。ヘンクはバンコクのオリエンタルホテルに滞在しており、その情況の中としてはまあまあましな状態だった。エンゲル-ブラウンスが９月16日以来彼に送った手紙は一通も届かなかったとみえて、ヘンクは彼らの運命を（まだ）何も知らなかった。1945年10月９日、エンゲル-ブラウンスは彼女の日記を終えた。彼女はこの最後の一章を次の文で始めている。‘紙不足のため、この嫌らしい４年間（！！）の、最後の章をざっと書く。’

1946年１月に、ヘンクがメダンに到着した。続いてその年３月に一家はオランダに発った。エンゲル-ブラウンス夫人は1991年10月に無くなった。

## 収容所報告書

1945年11月と12月に、前バンキナン収容所指導層のメンバー達が‘日本の蘭領東インド占領中、スマトラ西海岸でパダン及びバンキナン収容所に強制収容されていた女性と子供達の収容期間報告書、1942年４月７日－1945年８月22日’を編纂した。編集者はH.C.A.ホレ-ファン-エルプ夫人、T.E.L.ハネドゥース-ハルフヒデ夫人とA.ハウスマンス夫人である。それは収容所生活の全ての面が記述された、非常に詳細な報告書である。情報源として、そして歴史的な意味で大きな価値があるため、また、この報告書がテーマ別に構成されているため、この報告書からの抜粋を、日記抜粋の前に置くことにした。

# 輸送と住環境

## 収容所報告書

バンキナンの収容所は特別に強制収容を目的として建てられ、４棟(A、B、C、D)の大きな、そして１棟(E)の小さな居住用バラックで構成されており、大きさはそれぞれ60 x 10と30x10メートルであった。それは木造で、アタプ屋根［椰子の葉で葺いた屋根］だった。寝場所は４列２段になって設置され、上段へは垂直の梯子で登るようになっていた。下段の寝床は床から約３０ｃｍ上にあり、上段はほぼ人の背丈の高さで、そのため、下段上で真っ直ぐに立つことはできなかった。通路は１メートルの巾だった。日光は入り口と換気用の隙間から入るだけだった。中央列の住人達はほとんど一日中薄明かりの中にいた。この状態は、横壁の壁板を何枚かはがして非常口を作る許可がおりてから、少しましになった。さらにあったのは、病院にするための小さな建物が一つと、二つの備蓄用フダン［倉庫］で、その後ろに炊事場が作られていた。[...]浴室とトイレ設備は良好で、他の建物よりも少し低いところに造られ、物干し場さえも考慮されていた。[...]しかし早々にも、この建物は長期滞在を意図した物ではないことが判明した。最初の長い雨期に雨漏りが始まり、それは次第にひどくなった。[...]梁は湿気とブブック［木につく虫］で傷み、特に季節の変わり目に起こる激しい突風には、どんどん耐えられなくなっていった。時が経つにつれ、そしてニッポンは全く修繕をしなかったため、バラックは次第に哀れを極める状態になっていった。

給水設備は大変良いといってよかった。澄んだ急流のカリ［川］から取った水を収容所に送り、長いコンクリートの水槽に貯水した。その前に支流を作り、それは炊事場の洗い桶に導かれていた。乾期に充分な水を収容所に流れ込ませるために、何度も川に堰きを造らねばならなくなって、その設備にも欠陥があることが明らかになった。ニッポンはこのためにも作業員を送り込まなかったので、水不足の悲惨さを良く知っている女性達は、自分たちでこれに立ち向かった。激しい雨の後ではしばしばこの堰を新しく作り替えたり、堤の穴を塞いだりしなければならなかった。[...]運水路も、定期的に浚渫し、清掃する必要があった。[...]激しい畑火事で、収容所が大きな危険に晒されたとき、水が一滴も無かった事から、ニッポンもやっとこの事態のもたらす危険性に気付き、専門家の指導でクーリー達によって、川の中に強固なダムが造られた。これで問題の一部は解決されたが、収容所内の運水路の水漏れや亀裂は次第に大きな問題となってきた。[...]1945年３月に遂にこの運水路が壊れ、一部陥没したときには、数日間、収容所に必要な水を川から人が運ばなければならなかった。これはクーリー達によって、亜鉛溝を敷設することで一時的に修復された。これも壊れてしまったとき、抑留者達自身でパイプ設備を設置しなければならなかった。この設備は最後まで壊れなかった。

コンクリートの水場の上に建てられた浴室は中仕切りで病院用、女性と子供達用、少年用に別れていた。その横にはコンクリートの床の上に長い洗濯用の板が置かれていた。たっぷりの水でバケツや桶を満たすのは楽しみであり、この水はトイレを流すのにも使われた。ドアと中仕切りとで区切られた、長いコンクリートのしゃがむ式のトイレの列が、流れの速い排水路の上に造られていた。給水量が充分である間は、この設備はこの情況の中で望みうる要求には非常に良く応えていたといえる。

## 日記抜粋

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール

1943年12月2日

私たちはバンキナンに輸送される！ブーイから出られる、やれ嬉しい！一回４００人から５００人毎のグループに分かれて行く。一日おきに一つのグループが出ていく。ヤップはウィムが私の夫であることに気付き、私たちが一緒の輸送に乗ってよいと言った。[25]

彼は男性収容所には連れて行かれず、私たちの所に居るとも。そしたら一体どうなることだろう。みんな激しく嫉妬している。私には信じられない。ヤップはそんな馬鹿なことをやりはしないだろう。ウィムは信じていて、このグループの男達は憲兵隊で何が起こったかを知り過ぎていて、他の男達にそれを知られてはいけないのだ、と言っている。[...]

私はアルバムから全ての写真をはがしていて、というのも、この４回目の引っ越しでも後に残していかなければならない物が多いだろうが、写真は必ず持っていきたいからだ。こうして、バラでなら大丈夫、この重いアルバムさえなければ。

エンゲル-ブラウンス

1943年12月19日

これで又、新しい旅程区が終わった。バンキナンというのが私たちの今の住所だ。一方では“旅が終わって本当に嬉しい！”おお、おお、辛い事が多かったこと。私たちは、ほとんど0.K.。ハンキーは少々調子を崩して到着した。今又快調になったと思ったら、突然赤い斑点が沢山出た。５日間[26]に罹ったに違いない。カッシアン［可哀相に］！ヤン・ヘインは快調、私も、少々の傷を除いては。ルッセラー達も良好。私たちはアタプ［椰子の葉で葺かれた屋根］のバ

[25] ウィムは1943年11月末に憲兵隊が入っていたマリア協会の建物からブーイに移された。序文参照。
[26] 蘭領東インドによくあった風邪の一種、熱が５日間続く。

ラックに、下段と上段に居る。ガタビシした住居だ。全ては薄い板と細い梁だ。しかし、私たちはまた、自分たちにできる限りのことをして、何とかしていくだろう。場所が狭すぎる。私たちがどの様に扱われているか、全くひどい。他の人達のために死ぬほど荷物を運んだ私たちが、収容所の掃除や警備にあんなに激しい労働をしなければならず、加えて最後の夜に引っ越し、等々をさせられて。１４日はヤンの誕生日、ココナッツミルク入りのコーヒーを飲んだ。テンペ［発酵した大豆のクッキー］を買い、しかもそれを楽しんで食べてしまった。しかし、それで良かったのだ、今や飢えに苦しんでいるのだから。１４日の午後３時３０分に最後部２棟の引っ越しの知らせ、ブーイの前の部分を全体掃き掃除と片づけだ。私たちは海軍が来るかと思っていたが、そんなのは無かったわよ。その夜は土砂降りの雨、嵐にシラミだった。私たちは庇だけの前ベランダに寝ていた。６時には収容所はきれいになっていなければならず、ヤップたちはそれでもまだ不満だった。私たちにはもうそれ以上は無理だった。おお、何という夜！おお嫌だ、又眠らなかった。１３日から１４日にかけても、蚊のお陰で寝ていないのに。おお、何という滅茶苦茶、そして私たちは何とフラフラになっていたことか。自分の食事の支度もしなければいけない。それから１５日の午前中に全てのティラム［マットレス］を梱包し、１，２，３，４，そして５グループの全てのバラン［荷物］を駅に運んだ。車も走っていた。コブ袋はもう持っていくことを許されなかった。６人の重病人は２台の病人用車で[P.A.]フィス医師とともに直接バンキナンへ。[M.C.]ゴースウェール[-ファン・ダイク]夫人はここの門口で死亡した。私たちは疲れる一日の後、午後８時に出発、整列は６時半にしなければならなかったのに。リーとロブ［ルッセラー］は熱があった。全くなんという事態。私は第１車輌（イギリス人も居た）の車輌長だった。私たちは必死で荷運びし、それから路上で２時間列車を待たされた。子供達は路上で寝てしまい、何人かはべそをかいていた。哀れな光景だ。本物の難民の一団。その時ヤップが私の袖を引き、列車が入ってくると、私の６４人の人間＋荷物を大急ぎで乗せなければならなかった。列車の中はひどく暑かったが、それはまだいい。他の人達は座ったり横になったりして寝てしまった。私はまた寝られなかった。

突然、日本時間の午前６時に呼び出しがあった。“パジャクンブー”。私たちは死ぬほどびっくりした。突然、全員下車しなければならなかった。私たちはトラックに積み込まれ、小さな荷物は別の車に乗せなければならなかった。私はそれでもできるだけ沢山自分で持っていった。この別送は信用できない。私たちは２番目の車に３７人で乗っていた。その道は私たちのケリンチ道に良く似ていたが、それより長くて花が多かった。きれいではあったが、私は死ぬほど疲れた。私たちは食べた料理や焼き飯をほとんどみな道に戻した。誰も何も食べなかった。あの旅は本当にひどかった！ガタガタ揺れ、曲がり、樽付けのニシンみたいにぎっしり詰まって（ウィンタース、ファン・メールワイク、ルーヴァー、v.S.、フレーヴ、ミュラーのおばあちゃん、ドゥ・クルース、モンスマ、等々）。本当にひどかった。午後の４時にここの囲いの所で止まった。ぞっとする、何というジャングル！！

エルレー

1944年4月30日[27]

急に知らせが来て、約５００人毎の５つのグループに分かれてバンキナンに行くというのです。これまでの体験から、荷物を後で送ってくれると言う約束を信じる必要はないということが分かっていたので、幹部達は荷物は、全て先送りにすることを主張しました。さてそれは聞き入れられ、私たちは前日（1943年12月４日）に全てのコブ袋、トランク、台所用品などを山積みにしなければなりませんでした。そして、そのようにしました。その日、取りに来る約束だったのですが、もちろん彼らは来ませんでした。夜には雨が降り始め、全ての、２０００個のコブ袋、数え切れないほどのトランク等々が雨に濡れてしまいました。私たちのトランクは土の上でも、全部の荷物の上側でもなかったので濡れずにすみました。コブ袋も同様で、縁が濡れただけでした。私たちは、というより、私は、大きなコブ袋から５つの小巻き袋を作りました。こうすれば、自分で運ばなければならない場合に運びやすいからですが、それでもまだ大きなコブ袋２つにも物を詰めました。翌日に、確かにトラックで荷物を取りに来るはずだったのです。ところが、それも空約束だということが分かりました。それで私たちはまたもや自分たちで行動を開始し、トラックやコブ袋を担いだり引きずったりして、徒歩約５分の距離にある、小さな貨物駅に持って行きました。そこに私は留まり、列車に荷物をきっちり詰めるのを手伝いました。私たちを手伝うような、クーリーもヤップもいなかったのよ！私たちは全て自分たちでやったのです。幸いにも家に着くとおいしい食事が私たちを待っていました。それはパウル[28]が用意しておいてくれたのです。次の日には最初のグループが出発するはずだったのですが、それも又ダメになりました。毎晩、私たちは堅い床の上で寝ました、冷たくって堅いのよ！

12月７日に私たちは出発しました。日本時間夜７時に整列させられました。私は第一車輌の車輌リーダーになる栄誉を受け、私たち４人、ビンクホルスト家を先頭にして立っていました。それから、紳士方は私たちを数えなければならなかったのです。さて、それが問題でした。私たちは“リマ、リマ”あるいは５列になって並ばなければなりませんでした。数えるのに４５分は確実にかかり、やっと８時か８時半になって出発することができました。きちんと５列ずつになって、大荷物を持って。なぜならみんな大切な物や必需品は自分自身で持っていたからです。私は重いリュックサック、革製小トランク、２つのハンドバックを肩から下げ、毛布の包みとクッションも持っていました。ほとんどみんながこんな感じでした。１０歳や１１歳の子供達が、大人の男のように荷を運びました。その小さな駅は近かったのですが、しかしそこへの道のりは重く、長く、到着したら、少なくとも荷物を下に置くことができ、それ

[27]エルレーは半年前に最初の日記を無くしてから1944年6月30日に2冊目の日記を書き始めた。彼女はこの日記をその前の時期の報告から始めた。バンキナンへの輸送が生き生きと活写されているため、例外的に報告のこの部分を‘日記抜粋’に入れることにした。

[28] これは彼女のコンシー仲間、P.C.（パウリン）ビンクホルスト-フロースのこと。

から列車を待ったのです。私たちは確実に１時間は待ちました。もちろんそこに座り、持ってきた食糧を少し食べて、空腹をなだめました。やっと列車が来たときにはもうとっぷりと暮れていました。１１時半頃に列車は出発しました。それは月の明るい夜で、周りがよく見えました。旅はコック要塞を経由してパジャクンブーに向かいました。早朝、やっと白みかけてきたときにそこに着きました。そこには大きな軍用トラックが沢山待っていて、そこに２０－２４人が乗っていきました。さて、私はリーダーとして、車に人をどんどん乗せていました。ビンクホルスト家を最初の車に乗せ、自分もそこにもぐり込むつもりだったのですが、全然ダメだったのよ。出発するときになったらその車に私の乗る場所はなく、私は２番目の車によじ登りました。そこに、畳んだ野営用ベッドの端に‘座席’がありました。さて、私がそこに３０分と座っていられなかったのは分かるでしょう。それに人々は早々にも車酔いになりました。それで私は立ち上がり、幌の留めパイプに掴まりました。すると、少しましになりました。私の足を置く場所も無い状態でした。素晴らしい景色でしたが、旅は確実に４時間は掛かりました。車酔いした人を少し休ませ、子供達や大人達の用足しのために、しょっちゅう止まらなければなりませんでした。３回目に止まった後、私はもう立ち続けていることができなくなりました。運転席の上には幌布をしまうために造られた長い箱がありました。そこで私はその上に座りました。少々危険な席ではありますが、風に気持ちよく吹かれ、吐き戻している人達を後ろにして、景色はもっと良くなりました。しかし、時々、私は席から跳び上がり、それほど道が悪かったのです。１１時半頃、私たちは収容所に到着しました。引っ越しグループが、私たちを待っていました。さて、収容所はブーイと比べると‘宮殿’でした。それぞれ約５００人用の大きなバラック５棟から成っていました。A棟が私たち用でした。

エンゲルーブラウンス
1943年12月22日

ペンを持つ気力もほとんど無い。これからどうしたらよいのか、私には分からない。今や充分というにはほど遠い食事だ。全てはこれから死体になるためのもののようだ。私たちのここへの到着から始めることにしよう。私たちはまたもや数えられてから、Eバラックに閉じ込められた。誰も出ることも、入ることもできなかった。人々は私たちを見ているだけで、HB［最高幹部］だけが私たちにお茶を持ってきた。私たちはある場所に座っており、そこはイギリス人用に用意されていた。私たちはそのためそこを出て、７人で、５人用の場所をもらった。絶望的。他のバラックの人達（つまり、幾つかのグループ）が、すでに良いコーナーはみんな占領していて、例えば私たちの左のベンスや右のニューケルクだ。１センチでも譲ってくれようという人は居らず、ベンスはもうガミガミ言っている（板の上に寝たまま）。私たちはそこに隙間を見つけることはできず、今もそうだ。決して、ほんの少しの自由もない、決して。現地人が

私たちの周りに居る、向かいにいるブークンカンプやスホーフだ。私たちは有り難いことに上にいる。下では身をかがめていなければならないし、ゴミが全て頭にかかる。[...]水と太陽はたっぷりある、これは気分の良いことだ。しかし、それ以外は、全く、みな死ぬほどに疲れる。私たちの場所はどこからも、最も離れている。小皿一枚洗うのにも、洗い場に歩いていく、つまり、調理しない日は他の人が皿洗いする（バケツに一杯！）火炊き用の穴がずらりと並び、他人の煙で窒息しそうだ。アングロ［調理台］は外に向けて置いてある。

エンゲル-ブラウンス

1944年1月3日

私はCバラックの新しい上段居住地にいる。近隣の人達はシラミに又シラミだ。嫌になる。そう、ここはもちろんシラミや南京虫、ゴキブリ等々の一大集会所なのだ。気持ちが悪いが、どうする事もできない。有り難いことに、私たちは今のところシラミの害はない。いや、南京虫は別で、それは野営用ベッドの縫い目に何時もいるのだ。しかし私は自分のコーナーを毎日、最高に磨き立てている。上段にいて嬉しい。下では全ての汚れが頭に被さってくる。もしそれが私だったら。ぞっとする！！！[...]

27日の午前、私は又、11時まで、荷物を持って、引っ越しができる時を待って立っていた。[...]幹部は私に柱二つ（＝広い場所！）を割り当てた。外側の上段。さあ、私たちはさっさとそこを居心地の良いコーナーにした。最初の３日間は板を手に入れて釘を打ちつけることに精を出した。知ってる？私たちはサモシル-バタクス[29]みたいに、上下二段に住んでいる。向かいにも、周りにも、どこにも隣人が居る。私の向かい（バラックの中央）にはナイラント・ファン・パダンパンジャン家（下士官。あなたを知っている、始め西インド人と、今は西洋人と結婚している人）。私の左には[C.]カプテイン夫人（ストゥープ、ファン・デル・リンドゥン）そして右はフランケン、リース・ホフケス等々。でも私は前を除いて全てを覆った。このバラックはずっと地味だが、でも私たちはまた３人になれて本当に嬉しい。気持ちよく自由だ！素敵。ハンクはずっと“おお、又３人一緒で何て素敵なんでしょう”と言っている。もう私たちは二度とコンシーには入らないわよ！[30]私たちは、これからもずっと、自分のことは自分で決めるわ。[...]

私は夜にトイレのドアをくすね、こっそり持ち込まれた釘を買った。ある少年が高い小テーブルを作った。その時、釘が少しと、私の鉛筆が無くなり、小木槌が壊れた。ドアの残

[29]マレー人種に属するバタクス人は、タパヌリ州全域、スマトラ東海岸の大部分、アチェの一部、そしてスマトラ西海岸北部に住んでいた。サモシル-バタクスはトバ-バタクスのことで、トバ湖の中のサモシル島に住んでいた。トバ-バタクスはそのほとんどがキリスト教徒だった。G.F.E. Gonggrijp著、*Geïllustreerde encyclopedie van Nederlands-Indië* [*蘭領東インド絵入り百科事典*](...)

[30] コンシーは、数人の抑留者達が互いに助け、支え合う、相互扶助会。

りは返してくれといわれた。あの間抜けた少年は、開けた場所でそれを、つまり第二番の小ベンチを作ろうとしたのだ。残り板よさようなら。それで小さなベンチを１ギルダーで買った。そう、周囲に男手が無くて残念よ！Eバラックからここに引っ越してくるときに、上に缶などが置いてあった大きな板をガメて来た。[...]ここでは夜は、有り難いことにずっと寒い。日中はひどく暑い。どこにも影がない。沸騰しそう！水がたっぷりあって本当にありがたい。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年1月5日

私たちはそれで12月に出発した。最初のグループだった。大きな荷物で一杯だった。おお、私たちは何と重い荷を運んだことか。最低必要な食糧、緊急用衣類、調理用品、私たちが最後の夜に寝た毛布４枚に枕、少ししかない私の英語の本とこのノート類を背に、食糧、油入りの瓶、だってここに着いたらやはり又食事はしなくては行けないのですから、おお、おお。列車の中は結構楽しんだ。おお、あの列車の旅は何と美しかったことか、明るい月の夜だった。ジェフが寝ていないときには、素晴らしい滝や深い峡谷を見せるために、その度に彼を持ち上げてやった。彼は光の中であの列車の旅をしてみたいといっている。夜遅く、あんなにひどく疲れてしまったのは残念だった。やはりひどく重い荷を運んだソニャは真っ直ぐに座っていることもできなかった。メアは頑張った。私たちは最後にやっと列車に入る時が来るまで、何時間も‘整列して’立ち、数えられ、又数えられ、そして又数えられた。扱いに関しては、それ以外はあまり文句は言えない。数分ごとに休憩する状態だったが、私たちより前に送られる筈だった、この荷物に関しては、もうニッポンを信用していなかったのだ。私たちは信じられないほど沢山運んだ。ソニャは両手に大きなタコができた。そしてここに来たのだ。早朝に、列車の旅の終点に着き、その後トラックでバンキナンに行った。午後２時までの旅だった。私は悲惨なほど酔い、ソニャも、ジェフクも同様だった。幸い、メアはしっかりしていた。最後には私は小さな子供のように彼女の膝の一部に横になり、ジェフクは私の腹の上にいた。[...]

周りには青白い顔をした人達、車酔いの人達がたくさん座っていた。収容所に着いたときには、私たちはひどく落ち込んでいた。ジャングルの真ん中の、こんな無人地帯の寂しい収容所。木も無く、何も無い！夜になると私たちも、少し気を取り直し、ほとんどの人達は横になって寝てしまったけれど、娘達はカチャン・イジュ[小さな緑の豆]おかゆを作りに行く気力を振り起こした。私たちのコブ袋は、幸いにも有った！私たちが望んでいた以上のことだ。今や私たちはすでに一ヶ月以上ここに居る。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月8日

彼［ヤン-ヘイン］は１日１時間学校に行く。その上で字を書くための小スツールさえも無い。彼らは床に座っている。カッシアン［何てかわいそう］。１ギルダーの小ベンチはすぐに壊れた。ガメたトイレドア・ベンチ＝テーブルは座るには不安定すぎる。それで私たちはコブ袋に座っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月14日

私自身は死ぬほど疲れている。どうしてだか分からない、ただ、そう、夜には咳や、痰を吐き、小用を足す子供達の騒音、それに警官達のたてるものすごい騒音。スキャンダラスなほど！（警備小屋に９人！）。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年１月30日

1943年12月13日に私たちはバンキナンの輸送に乗った。夕方６時にブーイを発つ。ウィムは私の横を歩くことができた。彼は青いパジャマを着て、木靴を履いて歩いていた。調子が悪そうで、荷物運びを手伝うことさえできなかった。ヤネカは看護婦さんに駅まで運んでもらった。そこで、私たちは列車に乗り込むまで何時間も待たなければならなかった。[...]

朝、ほぼ５時頃に列車はバジャクンブーで止まった。そこで私たちは降り、トラックに乗り換えなければならなかった。そしてそこで、ウィムはムカッ腹を立てたような顔をしたヤップに連れ去られた。私はぎりぎりで、急いで彼と握手する事ができた。彼はやはり男性収容所に送られたのだ。やっぱりそうだったでしょ！そこには30台くらいのトラックが来ており、私は何とかして最後のトラックに場所を見つけたが、しかしその時、その車は重量超過だということが分かった。４人が降りなければならない。私にとってそれが面白いはずが無い、ヤンは高熱を出していたし、やっと場所を見つけてホッとしていたのだから。しかし他の淑女方も外に行くのを喜ばず、さんざん口争いや文句の後、私は他の３人と一緒に放り出された。私は怒り心頭に達していた、それじゃあ私が病気の子を抱えているのが、彼らには見えないとでも言うの？しかし、その少し後で、私の憤怒は天にも昇るような心地に変わった。なぜって、それから私たち４人は、素晴らしく柔らかなマットレスを積んだ荷物用車に乗って良いことに

なったのだ！そして、私たち以外には誰も乗ってこない。私たちは車の後ろに、４人の女王のように座っていた。ヤンにはふかふかの気持ちの良いベットを作ってやった。私たちは一団の車の最後だった。私たちの前には他の車が、女性達でぎゅうぎゅう詰めになって走っていた。荷台の端にまでぎっしり、彼女たちは座っていた。

私たちには監視が一人だけ、結構人のよいヤップだった。運転手はイギリス領インド人、戦争捕虜だ。まだとても朝早く、大体６時頃だっただろう。空気は気持ちよく、新鮮で刺激があった。列車の中の長い、眠れない夜の影響は何も感じなかった。私たちはドライブを楽しみ、私たちの周りの美しい自由の土地に目を奪われた。２年以上、私たちは鉄格子の後ろに入れられていたのだ。それもあの嫌な海岸性気候の中で。私たちはとても清々し、又お喋りが始まり、ヤップ監視官からもう少しで彼の煙草を巻き上げるところだった。私たちがくずくず言うのに疲れて、彼は小さな村で車を止めさせ、直々に御自ら私たちのために煙草を数箱買ってきた。それだけで満足せず、私たちは図々しく果物も買いに行かせ、そしたら彼は本当に買いに行った。あの旅は私の人生の中でも最も美しい旅として、私は決して忘れないだろう。何回か、私たちは車から降りた、私はヤンの汚れたズボンを道沿いの小川で洗うため、他の人達は、‘必要な用を足す’という口実で。ヤンはまた相当腹を下していて、私はとても忙しかった。それでも私は輝くような上機嫌で、その旅をとてもしっかり楽しんだ。６時間後くらいに、私たちは新しい監獄に着いた、森の中を切り開いた場所で、それはものすごく大きな収容所だった。

私たちはバラックに住み、その中が又４つのブロックに分かれていた。私はＤ３ブロックに居て、幸い一階だ。どのバラックにも小梯子で登らなければならない上階があるのだ。隣にはルースとアンが住んでいる。一人につき半メートルの広さだ。私はヤンのために小さなマットレスと馴染みの蚊帳を運んできていた。これが最も重要なものだ。[...]

気候はとても気持ちよく、水が溢れるようにある。浴室とトイレは小峡谷に作られている。川を堰き止めて、その水をとても長いセメントの溝で収容所の中に引いてある。私は時には１日三回も水浴びをする、あの水は本当に気持ちがよい。トイレも充分にあって、もちろん私が望んだ通り。具合悪くしゃがまなければならず、ドアは半分しかないけれども。ドアの上に手が突き出していたり、タオルがぶら下がっていたりしたら、それは‘使用中’の印だ。浴室の長い水槽は中仕切りで３つに分けられている。最初の仕切の中で子供達が風呂に入り、それから‘女性用風呂場’で、200人が一度に入れるような所、それからまだ独立した場所が、天の処女、又の名を尼僧達用だ。彼女たちはすごくうまくやったわ。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月1日

チカル［竹ござ］で仕切カーテンを作り、夜は本当にくつろいだ気分。今のところ蚊帳は使っていない。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月8日

あの蝿、南京虫に毛ジラミの動き、吐き戻しそうになる。丁度野営ベッドの鉄の間に大きな巣を見つけたところだ。急いで石油をもらい、物を外に出した。毎日毛布やなにかを外に出している。そう、私たちにもすでに毛ジラミがついたのだ。おお嫌だこと、全く。ということはつまり、毎日チノソル[31]で処置（細かい櫛ですく！）し、今は又いなくなった。ただ、私たちの頭に傷ができた。何という生活、嘔吐しそうだ。げっそり！

エンゲル-ブラウンス
1944年3月2日

ただまだちょっと、私たちが毛ジラミや南京虫と気違いのように闘っていると言いたかっただけ。石油で床拭き。髪にチノソルを付け、等々。あの小さなシラミ（の卵）を排除することがどうしてもできない。ハンクもだ。私たちは毎日髪を洗い、これから石油を塗り込もうとしている。もうひどいこと。南京虫の害は絶大だ。私たちは有り難いことにそこから逃れられた、でないと夜全然寝られない。蝿は忌まわしい物だ。清潔な服の上にさえ来る。気が狂いそうになる。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月17日

４人の現地人［おそらくインドネシア系混血のこと］が又中に入ってきて、メダンから新しい女医が来た。看護婦と一緒の年寄りの女性だ。[32]２ヶ月間コック要塞のブーイに入れられ、メ

[31] 液状の消毒剤。
[32] これはJ.J.エインドホーフェン医師とフィスガー看護婦のこと。メダンのプラウブラヤン収容所で日本

ダンのブーイには３ヶ月入っていて、これが、彼女が食糧不足のために、闇買いをすることを煽り立てたためという。それが唯一の理由なのだろうか？考えられない。

エンゲル-ブラウンス

1944年4月14日

昨日K.が入ってきた。ちょっとした騒動で、人々は叫び立てそうだった。彼女をヤップの花嫁と呼んでいる。他の９人の女性達はここには来たがらなかった。[33]彼女は、KMBからエマ港の石炭船に乗った、と言った。彼女たちは叫び立て、日本に行くと思った（コック要塞という約束だった）。それから兵士輸送と一緒に３週間、島を真横に横切って（80kmの新道）ニアスに向かった。農家で豚の間に兵士と一緒に寝た。いつも酒を飲んでいた。彼女と他の数人は後にシボルガへ。そこの中国ホテルで、皿洗い、全ての掃除等々、午前８時から午後８時まで働いた。それから紳士方がいなくなると又掃除し、その後自分たちの物を洗った。毎日糊を利かせたドレスを着た。Kはヤップのためにピアノを弾かされ、ヤップ達は歌を唱った。考えても見てごらん。食事だけは良かった。一人はもう、ヤップ-ベビーを生んだ。他の人達は残る方がよいといった。Kは肺炎に罹った振りをして病院に運ばれた。自分で払い、数ヶ月居た！（ここに来たいと頼んだ）。さて、彼女は大げさに言う人なので、この中のどれが本当なのだろう？公正な態度というものについては、彼女は何も知らない、全く何も！！愛しい人、もう止めるわ。食事が来る！

エンゲル-ブラウンス

1944年5月23日

夜に息が詰まるほど頭痛がして、目も開けていられず、死ぬほど気持ちが悪かった。煙のせいだと思う。それも、ひどい。左から右から、前から後ろから煙だ。[...]あなたがいわゆる、立ち寄った午後[34]は、炊事場は煙のカーテンになっていた。おお嫌だ。あそこでは下女みたいにあくせくしている。

---

の収容所指導層と事件を起こし、1943年10月６日にメダンの刑務所に入れられた。２ヶ月後に彼女はコック要塞の、憲兵隊本部のある刑務所に移された。しかし彼女は裁かれず、1944年３月にバンキナンに移送された。(NIOD IC 日記コレクション、日記166)

[33] この女性達はその時、志願して日本人のために働きに行った。序文参照。

[34] 収容所外との接触の章、エンゲル-ブラウンスの1944年5月23日の日記抜粋参照。

エルレー
1944年6月1日

私たちはネズミ、ラット、ゴキブリ、南京虫、毛ジラミに全く慣れてしまいました。最後のだけは私を好んでいないようです。南京虫はもっとひどい。時には夜中に痒くて目が覚めます。それでも、数回で収まっています。毎日蚊帳とマットレスをくまなく検査しています。人間には一体何が起こることやら！！！

エルレー
1944年7月8日

しかし、浴室の水がありません。堰が壊れ、今や水は収容所に導かれてこないのです。まだ飲み水のあることは幸運だと言えるでしょう。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月13日

この暑さ、おお、この暑さ！！我慢できない！！昨日の夜、やっと雨が降り注いだ！いい気持ち！とても気持ちよく冷たく、私たちは自分たちにコーヒー入りお粥をおごった。私たちはこのコーナーでとてもくつろいでいる！！J.H.もひどく寒さに弱い。私も早くベットに入った。疲れていたし、あの外のぬかるみではどこにも行けない。今は又息詰まる暑さ。

エルレー
1944年9月7日

我々のバラックは長期滞在用には造られておらず、屋根もひどく粗末です。強い雨が降ると籠のように漏ってきます。私の所は幸い乾いています。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月17日

さらに、トイレもひどい状態だ。水無し！！汚い！！汚物は誰でも見られるようにそこに留まっている。さよなら、あなた。

エルレー
1944年9月19日

昨日は大騒ぎの日でした。もう何日も私たちの収容所の周囲が燃えていたのですが、それが本当に近づいてきて、実際に火事になる危険があったのです。すぐ隣のブロックは避難し、人々は包みや袋を持って外に立ちました。ヤップは“アンビル・エア［水を持ってこい］”と命令したのですが、その時急に収容所には水が無いことに気付いたのです。給水設備も最近はひどく悪くなっていました。川からの水取り入れ口はバンジル［土砂洪水］でそこここが詰まり、給水はひどく不規則でした。そんな仕事のできる女性達が、時々、ヤップの許可が出れば堰を直しに行き、すると数日はまた規則的になるのです。[...]さて、昨日はこうして水は無く、収容所の外の飲み水を持ってこなければなりませんでした。私たちの隣の警官タンシ［宿舎］は大きな危険に晒されました。警官は、外で火事の消火を手伝っていました。村人は呼び集められ、パカンバルーの消防隊もです。私たちは中で、危険なバラックのアタプ屋根［椰子の葉で葺いた屋根］に水をかけて濡らしました。幸いにも夜に雨が降り始め、遅くには激しい雷雨もあり、やっと全ての火が消えました。

エルレー
1944年10月24日

昨夜はひどい雷雨と突風で、最高だったのは浴室とバラックの後ろの囲いが吹き飛ばされたことでした。バラックは損傷し、休養のために病院にいた何人かの患者は突然自分の場所に帰されました。今やバラックは漏れて雨が流れ込んできました。私たちの所では全てが壁板から通路へ、そして泥の中へと吹き飛ばされました。さて、そのため今朝は大掃除です。幸い今は輝くような上天気で、濡れたマットレス、毛布等々を乾かすことができます。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月31日

キティーの誕生日(10月23日)[...]の夜は大洪水だった。J.H.は木を中に持ってこようとしてつむじ風に襲われ、びしょ濡れになった。私たちのパジャマ＋閉め切りチカル［竹ござ］等々は外の暗闇の、泥に中にあった。ノートなどはあちこちに吹き飛ばされた。そこら中、悲惨な状態。多くのテンパット［（眠る）場所］は雨に濡れた。赤痢バラックも屋根が吹き飛ばされた。何人かのましな患者は１日自分の家に送られ、残りは大部屋に行った。ひどいでしょ？

エルレー
1944年12月6日

昨日は又森火事があり、今度は私たちの側でした。森と囲いの間には道が一本有るだけで、炎が道までとどいたら、火事の危険性が大いにあります。私たちの最も貴重なバラン［荷物］は外に出し、少年達に警備させてその後の様子を見ました。私たち自身の消火隊が囲いを、そして屋根のアタプ［椰子の葉］に水をかけて濡らしました。外では警察＋クーリー＋ヤップ＋男性収容所の男達が消火に当たっていました。30分後には危険は回避され、又荷物をまとめることができました。全てを火事で失ったら、私にとっては大惨事だったでしょう。[...]建物はどこも消耗し始めています。屋根はそこここが籠のように漏れてきます。私たちの所はほんの少し、あまり困らない場所ですが。ただ物干し竿が完全にいかれていて私たちの洗濯物は屋根と物干しの残骸の竿の間をさまよっています。ヤップは自分たちでも１年以上かかるとは思っていなかったことは確実で、その一年はもう過ぎようとしています。８日［1943年12月］に私たちはここに到着したのです。その時間はどこに行ってしまったのでしょう。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月26日

ロビー［ルッセラー］は父親の所へ。突然知らせが来て、35人の志願者達は（24日の）午前10時に出発しなければならなかった（ロブ＝最年少）。何て大急ぎ。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年1月

ここはネズミの大被害を受けている。夜にはあの動物達は気違いのように私たちの足の上を走り回る。

エルレー
1945年3月14日

又新しい人達が入って来て、オランニェ・ホテルでの長い間の隣人、ジャンヌv.ステイン、今はゴールドベルフ夫人、等が居る。

エンゲル-ブラウンス
1945年3月18日

３月12日に約75人の人達が入ってきて、その中にC.やM.が居る（ドイツ鉤十字なんかを付けてきた）。さあ、大騒ぎ。彼女たちは勝手に連れて行かれたのだ。仲間がまだ残っている。何故？？人々はまだ700人（その内500人は男）が来る、とささやいている。さてさて（ドイツ人めも）。私は一度彼女らと話し、ヤップは嫌なことをしたか、と聞いたが、答えは：いや、そんなことをしたらMP将校のところに行かなくてはいけない、きちんとした男達だ。今や彼女たちは、しょっちゅう訪れる青髭の愛人だったことが分かった。C.は彼にダンスを教えさせられた！あの、最もいやらしい男に。彼女たちは食糧は豊富だった。オブリー米、プランチエ［カッサバ芋］、［フレンチ］ビーンズ、豊富な白砂糖、時々チキンや卵、等々。彼女たちはお金を稼ぎ、それに又買い足した。全て、インフレ値段で。彼女たちの支払いは小銭で、（大きくても10ギルダー）そしてその紙はトイレの巻紙のようにして、使った。ラジオ線＋新聞もあった。歯ブラシ工場や縫い物などの仕事をした。沢山の中国レストランに出入りした。みんな太って、脂ぎっている。２種類の人たちがいる。第１番目は、ヤップのために働き、最も良い待遇（！！！）だった、そしてその他は山に入り、自分の小屋を自分たちで造るなどし、何でも売った。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月5日

嫌になる暑さ。この間はひどい嵐で雷が落ち、（私たちのバラックに落ちるのを見た）そしてマンディ室［浴室］の屋根が燃え始めた。病院はパニック。私たちは急いで消し（雨も激しく降っていた）、その間にも、スカリラ[35]は気を失ったり、恐怖で道に逃げていったりした。ヤップから‘ビンタ’をくらっていた。私たちは何と冷徹になることか！私は全く落ち着いていて、J.H.にはバスローブを着るように（夜遅かった）言い、、ハンクはケープを着て、そして私たちの小トランクを用意した。“火事だ！！！”で私たちは出ていった。すぐにまた戻ってきた。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年4月8日

先週、雷がここの浴室に落ちた、10メートルと離れていないところだ。軽い火事になった。こうして、私たちは有り難いことに又助かった。

エルレー
1945年4月21日

バラックの屋根は今や私たちの場所も壊れてしまいました。強く雨が降ると、雨を受けるテンパルス［椀］が足りなくなり、眠ることは全くできなくなります。貧相な事です。

エルレー
1945年5月10日

昨日は又、注目すべき御加護を体験しました。夜10時半頃に嵐が始まったのです。風は斜めにバラックに吹き付けました。屋根は何回か持ち揚げられ、バラックは地震のように揺れました。しかし、バラックは保ち、屋根も大丈夫で、激しく雨が降ったにもかかわらず、どこも雨漏りしませんでした。いつもは雨もりを受けとめる椀が足りないのに、今度はなんともなかったのです！！

[35] 日本軍に雇われた現地人の補助兵。

エンゲル-ブラウンス

1945年5月11日

一昨日の夜、ここはものすごい嵐だった。バラックはギシギシ音を立て、あちらこちらに揺れた。私たちはバスローブとケープを着て外に出る用意をしていた。いろいろな経験をするものだこと。屋根が吹き上げられたりして。恐かった。

エンゲル-ブラウンス

1945年5月23日

ここはすごい喧噪だ。年を重ねた人達や弱った人達をこのバラックＣの後方に入れるため、全ては移動させ、引っ越しした。

エルレー

1945年6月19日

14歳以上の大きな少年達が先週日曜日［６月10日］に出ていきました。10歳以上の小さな少年達、つまりタイスやドレ［ビンクホルスト］も出ていかなければならないでしょう。[36]しかしそれはこの２ヶ月の間にあるはずで、その２ヶ月間には様々なことが起こり得ます。それが起こらなくても済むように祈りましょう。彼らが居なくなるとひどく寂しいし、３人一緒に父親に渡す方がずっと気分がよいですからね。[...]

今では沢山の年寄りや若い、力つきた女性達のために休息ハウスが造られました。その数はとても多く、14日以内に、休息ハウスを倍にしなければなりませんでした。そこでは完全看護で、その人達の子供達は健康な友人達が引き受けています。

[36] 1945年３月10日に友人のパウリン・ビンクホルストが亡くなってから、エルレーは彼女の３人の子供達を引き取っていた。健康と医療情況の章参照。

# 収容所組織：西洋人及び日本人収容所幹部

## 収容所報告書

バンキナンでは運営委員会は５人の平信者運営委員で構成されていた。修道士たちは男性収容所に送られ、運営陣中の彼らの場所はもう埋められなかった。収容所は最早宣教地区にはないので、尼僧達は身を引いた。委員達はそれぞれ収容所の一定の情況を代表していた。収容所はそれぞれブロック長の元に、５つのブロックに分けられていた。[...]ブロックは４つの下部ブロックに分けられ、下部ブロック長が率いていた。[...]新しい管理体制が造られた。ニッポンによって義務づけられた登録以外にも、カードシステムが設定され、抑留者の滞在場所や厚生状態に関する情報なども入れることで、戦後に役立てることも考慮されていた。[...]

金庫は金庫番が管理していた。２週間に一度、ブロック会議が招集された。それは運営委員、ブロック長、下部ブロック長、炊事場委員会、病院の看護婦長、財政委員会、そして警察長で構成されていた。

ニッポンとの交渉に於いては運営委員会が後ろの人々と相談することなく、自分のやり方で行い、自分で決定を下した。その他の事項に関しては重要事項は会議で話し合われ、会議での投票で議題の解決策が決定された。ブロック長が多くの場合彼女のブロックの意見を代表し、数回は収容所全体投票が必要なこともあった。運営委員会とフロック長の協力関係は大変良いと言えた。そのお陰で、この共同体に起こった数々の問題に、最終的には満足のいく解決策を見つけることができたのだ。この収容所に集められた、様々な人種や階級の人達から出る問題は、簡単とは決して言えないものであった。

運営委員やブロック長が気まぐれを起こしたときに抑留者達を守るため、法律家を委員長とした法務委員会が設置された。

警察任務はバンキナンで初めて設置され、これは収容所内の規律の乱れや、特に餓えが激しくなると共に盗難などが大変増えたことから必要な措置であった。[...]それは警察長[37]と、約30人の女性警官隊で構成された。この女性達は決まった時間に警備をし、違反者に罰金を科し、何度かは裁判に、初期には運営委員会の所に、法務委員会設置の後はこの委員会にかけた。警察長はこの様な裁判の時には検察の役目をした。彼女が盗難などの時に事前調査を指揮し、訴えも彼女に提出された。警察隊は収容所内で、難しく、そして多くの場合歓迎されない役目を遂行しなければならなかったが、しかし規律や落ち着きを保つ役割を確かに果たしていた。

[37] それはJ.M.バッカー夫人だった。Lanzing　著、*Kura*、p306

## 日記抜粋

エンゲル-ブラウンス

1943年12月22日

ブーク［ンカンプ］と私は交代で朝早くコーヒーをいれている。そのため、私は時には午前７時15分に、それ以外の朝は８時15分に起きる。[38]そしてある日はルッセラール家が調理し、他の日は私がする。[39]最初にまず顔を洗う。[...]この調理は最高に重労働だ。私たちは、だから午前に一度、午後に一度調理する。[...]さよなら、可愛い人、これから３時間、警察仕事をしてくるわ。

エンゲル-ブラウンス

1943年12月25日

昨日事務所に呼ばれ、[H.C.A.]ホレ［ファン・エルプ夫人］と[T.E.L.]ハネドゥース[-ハルフヒデ夫人]が私たちのためにバラックCのすごい場所、外側上段でトトク［純血西洋人］が周りにいる所をリザーブしたという。そこでは全て場所を空けなければいけない。２人の（リー［ルセラー］には一人と言ってしまった）イギリス人が来ることになり、私たちが行く所は全て詰め合わなければならないのだ。もし可能で有ればこの朝にも実行される。それじゃあどうぞ。荷物をまとめて用意して、・・・そして私たちのブロック長（[C.J.E.]ランドクール）は、それが中止になり、あさっての朝になったことを言い忘れていたのだ。おお、私は激怒、激怒！

エンゲル-ブラウンス

1944年1月3日

ハンキーがまだ今は料理している。午前約10時から12時まで（その日一日分）。私は洗濯、私たちのコーナーの片づけ、等々。ハンクが６日から１時から２時まで学校に行くようになれば、私が又料理する。私たちは夜にだけなにがしかのコーヒーや紅茶用水をつくる。この水はな

[38] これは1942年４月１日から導入された日本時間。その日まで有効だったジャワ時間はこれより１時間早かった。

[39] 宣教地区では1943年９月に中央炊事場を閉鎖し、食糧は現物で直接抑留者達に配分することに決められた。抑留者達の意見では、この方が食糧が公平に分けられる、ということだった。病人や子供のためのお粥用炊事場だけが残った。この情況はバンキナンでも続いた。

るべく飲まないようにしている。ヤン・ヘインは大体いつもハンクと一緒に行く。木材を運んだり、物をあちこちに持っていったり、荷物番をしたりだ。全ては当たり前のように手の中から盗られてしまうからだ。ひどいことだ。それからJ.H.は皿などを洗ったり、ベラス［脱穀した米］を持って来たりする。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月8日

ハンクが午前中に料理するのだ。私たちは８時１５分頃起きる。それから私は尼僧の所でコーヒー用の湯をもらう。母親達の文句のお陰で、今はお粥用炊事場が１週間閉まっているのでラッキーだ。コヒー一杯飲んで、私は風呂に、ハンクは料理をしに行く。食事は１２時頃。皆ハンクの器用さを誉めている。アニー・ドゥ・クルースさえもそうで、他の人からも言われる。最もユニークな、素晴らしく器用な娘ッ子。ええ、私は誇りに思ってますよ！あなたも？J.H.は物を持って行ったり持って来たりするために、忠実に彼女のそばに居る。風呂の後、私は私たちのコーナーを片づけ、そして同時に私は子供達から解放される。子供達は一緒に風呂に行き、私はテーブルをセッティングする。大体はJ.H.は１２時１５分に学校に行く。彼がいつも皿洗いをする。食事の後はハンクと私はちょっと横になり、その後翌日の食糧を下準備し、そしてその後、午後５時３０分にちょっとなにかを暖めて、お茶をつくる。その後私は風呂に入り（私の１日もこれで始まる！）そして又食事をする。[...]

この食事が全く必要に満たない物なので、今や簡単な販売市[40]の許可をヤップにもらいに行ったところだ。それで一昨日から一切闇で持ち込むのは許されず、市が始まり、それはカチャンイジュー［小さな、緑の豆］砂糖と豆で、後で又カチャンタナー［落花生］砂糖、米、等で、全ては不十分だ。全員が力が抜けて酔ったようで、全く気力が無い。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月14日

あまり寝ていない。朝は陽が出てくるのをベットの中で待ち、７時３０分（午前５時）に起き出す。風呂に入り、洗い、それからコーヒーを一杯飲む。それから片づけをするか、料理をする。１時３０

[40] 調理しなかった食料品は、少額の利益を乗せて収容所内の抑留者に売られた。売り上げは収容所金庫の収入となった。

分から、時には午後５時までは、散髪だ。[41]その後で料理をするか、あるいはハンクが食事の支度をする。食事をし、皿洗いをすると又午後７時３０分になる。大抵夜はあちらこちらを訪問に行く。今夜はエリー［ケルナー-イェプセン］、ジェニー、ウィル等の若い人達のためにコーヒーをいれる。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月30日

新しい司令官はひどい奴だ。来月は半分サゴ粉で半分米。私たちは米をたっぷり溜め込んだ。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年1月30日

私たちは、大きな別棟のバラックで、１日の４分の３くらいかけて調理している。朝５時に起きて火を起こし始め、それは３０分か、木が濡れていると、時には１時間かかる。それからコーヒーか紅茶をいれ、ヤンのお粥をつくる。それから洗濯をし、その後又２時半頃まで料理をする。５時には又粥をつくる。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月2日

今のところ、幹部と医師の中で悶着が多い。彼女はイギリス人スタッフだけで仕事をしたいのだ。ふん、いくら自分が望んだって無駄よ、ヤップの言うように働かなければならないんだから。しかしね。彼女はもちろんオランダ人スタッフをいじめて追い出している。今は[M.J.]ライオン医師問題の会議で誤解があった。ホレ、ハネドゥース、[L.F.]マウレル[-スフローダー]と[A.]ハウスマンが辞任し、[M.A.H.]ファン・ドングン[-パイパー]が残り、この最後の人は、確かライオンに反対なのだ！おお、あんな頑固なライオン相手ではどうしようもない、まあまあ良い医師がいることに満足しようじゃないの。一体何が起こっているのか、私は全部は知らないし、知りたくもない、しかし私たちはファン・ドングン運営委員会かよいか、ホレ運営委

[41] ‘食糧と物資事情’の章、1944年1月3日付けエンゲル-ブラウンスの日記抜粋参照。

員会がよいか、と聞かれ、私は即座にホレと答えた。あの気取ったヘティーはまっぴらご免だ。さて、私のお喋りもちょっと止めよう。足が痛む。[42]

エンゲル-ブラウンス
1944年3月17日

昨日又、金鉱の２人の女性達（最後に入ってきた。フィッサーと？）に１５ギルダー渡したヤップたちが、おお、ペラン［戦争］が数日中に終わる、と言った。２番目のはまだ１年か、２年、３年かかるかもしれない、と言った。今日も又高官の訪問（ひどく高位）。ふむ、この全ての訪問は、私に言わせればここから出ていくことを示唆している。何処へ？？？

エンゲル-ブラウンス
1944年3月26日

二人のヤップがいつも収容所を歩き回っている。今朝は大勢で来て、そして・・・、またもやエアバンギス（パカンバルーのそば）で働くために１５歳から２３歳までの娘を出せと言う。[43]出ていく代わりに今や又この始末だ。そう、そしてここでは私たちは全く閉じ込められている。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月30日

闇取引はほとんど無い、敷地内でヤップの警備がしょっちゅうあるからだ。ヤップの警備やヤップの数多くの訪問にもかかわらず、それは又始まったのだ。。今又知らせが来たところで、ついこの間、あのナカノ[44]、私たちを最初の収容所からブーイに送ったりした凶兆の、嫌な男が巡回していったところなのに。

[42] ‘健康と医療情況’の章、1944年3月2日付エンゲル-ブラウンの日記抜粋参照。
[43] パダンの収容所でも、日本人達はすでに何度も少女や若い娘達を彼らのために働かせようと、強制徴募を試みていた。序文参照。
[44] 日本人収容所司令官。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月30日

今日、高官の訪問。昨日来るはずで、午後３時以降はアングロ［コンロ］に火を付けるのが禁止された。全て清掃等。そうして今朝、その一団が来た。ブロックA、BとEを駆け抜け、幹部にもほとんど何も言わず、いなくなった。ハ、ハ！高官はブロックBがお辞儀をしなかったので怒っているとか言っている。ふん、無駄話よ。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月29日

私たちは４月１日から１．５０ギルダーの衣料費と３ギルダーの食費をヤップからもらう。[45] 子供達は半額。１，５０ギルダーから０，３０（石鹸）は私たちに渡し、例の３ギルダーは食糧市の時のために収容所金庫に貯金することになった。優しいでしょ？

エルレー
1944年6月9日

昨日は知事の［G.A.］ボッセラー[修士]が［男性収容所から］初めてここに入ってきて、９月には米の配給が半分になり、肉も、野菜もないと言ったのです！！私たちはしっかり畑（まだ小さな庭）仕事をして、自給できるようにするだけ。土地をこれからまだ開墾して、植え付け等々をして、そして３ヶ月後にはそれで食べていかなければならないなんて、想像してみて下さい！空想的、ヤップの脳にだけ適した考えね。どうなるか見てみましょう！！

エルレー
1944年6月23日

今日、戦後の必要経費払い戻しの紙に署名しました。そのために領収書がつくられ、自由になったら直ぐに私たちのお金が払い込まれるようになります。これは全て知事のプリンター［命令］です。

[45] 1944年４月１日から、ジャワとスマトラの民間人収容所は日本軍の管轄下に入った。‘食糧と物資事情’の章、収容所報告書参照。

エルレー
1944年7月27日

昨日の朝は８時にもう起こされました。８時半にはまたもや人数を数えるために整列しなければなりませんでした。私たちは直ぐ小ベンチなども持っていき、それでよかったのです、私たちがやっと数えられたのは１０時だったのですから！！！何のためにこんなことをしなければならないのか、私にも分かりません。

エルレー
1944年9月13日

昨日は、知事が計画していた、自由になったとき、緊急必要な出費に備えて金銭が手元にあるように、自由になったら直ぐに支払われる金銭の領収契約書に署名し、受け取りました。私のは６月までですでに３２１，７０ギルダーに登っています。これから毎月、私が今持っているお金から９ギルダーが足されていくので、お金はたっぷり準備できていて、そちらの心配をする必要はありません。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月2日

すでにこの［パカンバルー爆撃の知らせ］ため、収容所は燈火管制になった。午前７時前と、午後７時以降は火を焚くこともランプを点けることもできない。今夜は７時以降、全員屋内に入る。５０人の女性が火災警備に立つ、等々。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月４日

今は、この生活を憎んでいる。火災警報がしょっちゅう鳴るし、２日には収容所司令官の演説で、私たちはもっと礼儀正しくしなければいけない、小さな寝場所に満足せよ、食糧は少ししかない、とか、彼らもスサー！［難しいこと］があるのだ、等と。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月15日

さらに、他の人達が夫と共にいなくなったら、私たち、戦争捕虜の夫人達のために、別の運営委員会を作ろうとしている。[46]現在のHB［運営委員会］と炊事場委員会の再選挙もあった。その結果、[A.]ドゥ・ブール[-クサン]、[J.]サーイヤースと[E.A.M.]ホルマン[-シュネイダー]が炊事場委員として残り（ホルマンはカンジングより１２票多いだけだった）、HBはマウラー、ホレ、ハネドゥース、ハウスマンス、それに、[A.P.]ブロッグだ。全く興味がわかないわ。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月4日

つまり、今朝早く、［インドネシアの］警官＋妻＋子供達が突然、いわゆる移送、された。何処に行ったの？？彼ら自身も知らなかった、パダンというだけだ。今やここには‘ニッポン-ユーゲント’[47]が居る。何人かの淑女達とその半裸で歩き回る態度から、このユーゲントが権力を笠に着て悪事をするのではないかと心配された。これまでの所、弱虫の少年達（１５，１６歳）で、気味が悪いほど貧しい。

エルレー
1944年11月4日

それ以上は何も起こっていません。ヤップが警備の警官と替わったことが最重要事項です。そのため今では闇売買はまったく行われず、手紙も終わりです。

エルレー
1944年11月5日

今日は日曜なので観光です。少し前にも、３台の車いっぱいのヤップ、３６人も来ました。彼らは病院に直行し、中に入り、病人達をしばし見つめ、また収容所内を歩き回り、そして次の場所に行ってしまいます。本当に観光以外の何物でもありません。このため私たちは動物園の

[46] バンキナン収容所の男性と女性が別の所に送られ、そこで家族一緒に収容されるという根強い噂があった。
[47] この呼称をエンゲル-ブラウンは日本軍の現地人補助兵、スカリラを呼ぶのに使っている。

住人のように感じ、少々笑いの種にしています。あの男達の顔も、間抜けてはにかみ、猿のように歩き回っています。ここの新しい監視はヤップの軍服を着た現地人で構成されています。彼らには私たちは敵だと刷り込まれており、私たちも同様に考えています。それは若い、おそらく全員オランダ語が分かる男達で、そのため、その周りにいる人達にとっては危険です。彼らはまだ全然訓練されていなくて、ひどくぎこちない様子です。それでもまだ、この裏切り者達と接触しようとする‘淑女達’が居て、理解しがたいことです。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月14日

昔のヤッピェ達（ブチ殴りヤン、チャベ・ラウィット、ルジョック、尻触り等）は突然いなくなり、新しい、ここにはまだ慣れない人達が今は居る。このニッポン・ユーゲントは自分たちのやっていることがひどく嬉しそうだ。私は彼らを決してみないようにしている。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月17日

人々はヤップがここから居なくなり、スカリラ［現地人兵補］がここを支配するようになる、と言っている。素晴らしいことになるでしょうよ！淑女達はもうあの男達とデートの約束をしている、気分が悪くなる。ところでここのヤップ将校はJ.H.のような男の子が好みのようで、ハンクが何歳になるか、泳ぎが得意か、等と聞く。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月8日

視察があったので、ひどい騒動だ。全て清掃だ。気が狂ってるみたいにやり、その結果、ヤップは収容所を走り抜けていった。

エルレー

1944年1月12日

私たちの収容所は、最近多くの高官訪問に恵まれていますこと。今日もまた医者が来て、まだしっかりして見える女性達や子供達は屋内に留まり、痩せた人-大勢居るのです-は外を歩かされました。多分こうすると米の分量が多くなるのでしょう！！

エンゲル-ブラウンス

1945年5月11日

さらに、選挙があったが、全ての運営委員が残留した。誰もやる勇気がない。

# 日本人の抑留者に対する扱い

## 収容所報告書

バンキナンでは1944年11月に警察の警備は日本の兵士と、加えて数十人の兵補（スカリラ）[48]に受け継がれた。兵補達の一部は抑留者に同情的で、他の一部は抑留者を裏切り、自分の仲間達を裏切ることを目的としていた。

日本軍兵士の扱いは乱暴で、時に殴打した。警察と兵補の態度は通常、抑留者自身の態度次第だった。

バンキナンでは日本軍警備兵が女性や子供達を殴打することが何度も起こった。しかしそれに対してすぐに女性達が深く憤慨し、運営委員達がそれに続いて収容所長に抗議をすることで、殴打の衝動を抑え、実際にそれが起こる回数をかなり抑えていた。[...]‘殴打’は多くの場合顔を殴ることであった。数回だけ、棒やベルトが使われ、蹴られることは非常に稀だった。殴打される時は多くの場合、お辞儀をしなかった、闇売買した、畑で充分仕事をしなかったというのが理由で、時には理解できない理由の場合もあった。

## 日記抜粋

エンゲル-ブラウンス
1944年１月23日

ウィニーのシーツは［２月］１日まで押収された。司令官が通ったとき、警官は居眠りをしていて、この包みを取ったのだ。（ぼけた警官）。警官はニッポンから殴られ、シーツは１日に返される。

[48]日本軍に勤める現地人の補助兵。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月25日

・・・闇売買は日曜日以来停止している。裏切り！！ニップからスパイが送りこまれ、そいつはおとなしく一緒に闇取引していたのだ。ナイラントはもうそれを見抜いていた。始めは、彼らは警官は首になるか禁固刑になると言っていた。しかし、結果は１０人が講義を受けにパダンに行っただけだ。ニッポンが正確に何をしているのか私は知らないが、しかし多くの警官が例えば３００ギルダー分の品物（布地）を燃やした。今や彼らは何も持ってくる勇気がない。バナナも、何も来ない。ニップは時々歩き回っている(MP：見たことがない)。するとそこに又検査の噂、おお、脅しだけよ、それに、来るなら来てもらおうじゃないの！来るはずがないわ！！

エンゲル-ブラウンス
1944年4月16日

そしてニュースよ。昨日はひどく興奮した雰囲気だった。ヤップの１グループが[M.J.]ライオンと収容所を回った。私たちの所に来た中には、いわゆる日本人医師が居た。ライオンは笑ってニコニコと私を見た。ああ、彼女が又来てくれたらいいのに。オランダ人医師[J.J.エインドホーフェン]は居ても居なくても一緒だ。このヤップ（＝将校）はここの情況をどう思うかと彼女に聞き、彼女は“ベリー、ベリーバッド”と言った。後で又。私は家に帰れる！！神よ有り難う！！！[49]まず前の話しを終わりにしよう。ライオン医師は子供達も影響を受けるし、我々ももう少ししか耐えられないので、この状態が一体後どのくらい続くのか、知りたがった。ミルクもなく、子供達用の卵もない、等。それに答えてヤップはパダンは食糧危機と水不足に見舞われている、と言った。ここには少なくとも水はたっぷりある。彼としてもどうにもできない、何処にもミルク、卵など無いと。しかし、それでは何故闇商品としてあんなに沢山卵が来るの？兵士達や警官達はそれを充分食べたり飲んだりしているわ。とにかく、ライオンは又言った。“一体これがどれだけ続くのか、とにかく言って頂戴！”それに答えてヤップは“ニッポン・ムスチ・ジャツー・ドゥールー、ダン・アメリカ・ダン・イギリス・ナク・アタス”［先ず日本が負けて、それからアメリカとイギリスが支配する］続いて、彼はまた、イギリスとアメリカは和平条件について現在協議中だ・・・等（そのため、早期終結になるかもしれない）と言った。このヤップは病院からここへの引っ越しの時、‘ひどく優しい’！！！かったようで、病人を乗せる車をくれ、オバット［薬］が届けられるようにし、修道士収容所ではトレ

[49] エンゲル-ブラウンスは指の熱帯性潰瘍のため、収容所病院にいた。健康と医療情況の章参照。

ーシャ・スフリーダーに血清をくれ、彼女は今は回復して健康なところを彼に見せている。ではこれまで。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月15日

闇売買は又２０日間停止するだろう。４人の警官の名が書き留められ、監視されているという。ハ、ハ、私がそれを信じるものですか。闇取引する女性達を陥れるための、ヤップのお芝居よ。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月23日

そして、こうして少年や少女達も畑を作るために外で掘り起こしをすることになった。年寄りは時々薪集めや花探しに森に行ってもよい。ヤップのすることは理解できない。闇売買はまあまあで、あるヤップが警官を装い、人が言うことには、ここの警備は全面的に日本人になるからだそうだ。全然信じられない。[...]

この間、ティル・サルデマン[-ロード]とティンゲルが捕まった［闇売買で］。罰に禁固刑だ。幸いにも、物資は取り上げられなかった。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月29日

ヤップはひどく落ち着きがない。警官達は新しい人達と交代する。６月６日に全員（古い人達）出ていき、６月７日には私たちの番だという。ハ、ハ！先ず見てみましょう！！ジャガ（ヤップの長）はどの腕章が誰で、囲いを越えていったかどうかを正確に知っている、だから・・・グルになっているのよ。警官達はもっと私達を騙している。ある新しい警官が、間違えてクウェー・ウィパング［クッキーの一種］１包みを２ギルダーで売った。これは闇売買をする人は１０ギルダー払い、私達はその人に１２，５０ギルダー払うものだ。すごいでしょ？その警官は仲間たちから袋叩きにあった。[...]このところ、新しい警官達が居るし、前の警官が殴打に合ったので、誰も物を持ち込もうという人がいない。

エンゲル-ブラウンス

1944年6月15日

今や私達は非常に厳しく警備されている。ある警官長が全く全てを白状してしまった。囲いの何処からバラン［物資］が通って入ってくるか。森の中の、全てを貯蔵してある場所。この男は先ず闇取引で金持ちになり、今は全ての闇売買女性からののしられている。この男は‘ハッピー’なようには見えないわ！主要なことは今や警官が新しく、ブラニ［意気地］がないことだ。全般―警告、それは；後一度でも闇取引が発覚したら、私達の食糧は半分に減らされ、警官は重罰を受ける。ニッポンは食糧を増やすために最大限努力する。今や全員が餓えと脱力感でフラフラだ。闇取引の女性達はしつこく文句を言っている。そうよ、こうなったらあなたたちも‘まがい物’粥[50]を食べなければならないのよ。[...]

この間はある少年の髪を切っていたら、その子は突然ニッポン（ムッソリーニ［あだ名］）のために飛び上がった。私は一体何が起こったのか分からなかった。凍りついたように座り続けた。彼は私を殴りもしなかった。さようなら、可愛い人！！

エンゲル-ブラウンス

1944年6月19日

そして私達は又ヤップ兵士にお辞儀をしなければならない。気にしない。ヤップは神経質で忙しそうだ。

エンゲル-ブラウンス

1944年6月28日

毎日外での仕事で大騒ぎだ。罰のために中止になることも多く、水泳はほんの少し、そして日本の監視が厳しく、闇物資のチャンスはない。外の民衆はひどく乱れている。今やほんの少しでも売った物は書きとめておかなければいけない。そしたらそれは、あの人達によれば、まだ良いヤップなのだ。彼女たちは彼をなでつけ、子供達は彼を見ると大はしゃぎ、それでは警告しておきますが、ヤップの罠にかかってはいけない。彼らは今や気違いのようだ。あの眼鏡ユダヤ人［あだ名？］は、いきなり棒で殴りつける。数回見回りをし、米をつついているとか、つまり全く罪のないことをしている人に後ろから襲いかかり、誰彼無しに棒で殴る。病気で寝

[50] この粥はタピオカ製産の副産物であるアチを含んでいる。アチは糊付け剤の一種で、安物の綿を丈夫に見せるために使われる。

ていた尼僧長もだ。卑劣漢め。アニー・ドゥ・クルースなどはあのヤップ（良い方！！）と全く‘ウッド・ビー［would be 仲良し気取り？］’だ。私はある夜、私の近くでケンケンをする子供達と供に、囲い添いで読書し、お茶を飲んでいた。突然彼が私達の方に来た。私は静かに読書を続け、何も見なかった（振りをしていた）。ヤップは私の前でブツブツ言い、私は聞かない振りをし、すると２回目のブツブツとともに、バシッと左頬に手が飛んだ。私は何も感じなかったように振るまい、驚いたように見て、ゆっくり本を置いて立ち上がり始めた。彼はもう行ってしまっていた。‘あの優しいヤップ！！！’

エルレー
1944年7月1日

今日もまたもや、浴室の水が有りません。取り入れ口が土砂で詰まっていて、数人の女性と少年達が掘り下げに行かなければなりません。しかし、ヤップは知らん顔で許可を与えようとしないのです。この頃、彼らは私達にわざと意地悪をしています。彼らの情況はよくありません。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年7月3日

毎日収容所に騒動がある。ソニャは危うく３日間の禁固から逃れた。彼女は森の中で私の古い聖体拝領記念時計とメアの時計を１５０ギルダーで売ったのだ。おお、２つとも壊れていたし、金も大して付いてはいなかった。売れて本当に嬉しかった。マグカップ４杯の米に１０ギルダー近く払うのだから、４人いたらお金も飛ぶように無くなってしまう。あのソニャは、私に良く似ているけれど、あなたの性格も受け継いでいる。しっかりしていて、危険をかいくぐってくる。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月7日

私達は仕事（ヤップの小畑での）をしない。やっても無駄だし、私達の力は他のことに使う必要があるのだ。あのヤップは時に殴ったり、馬鹿なことをしたりする。そうよ、この間は髪を切っていたら、彼は棒で私のシャツを持ち上げた。楽しみたいわけ！！ブン殴りヤンから左頬

を殴られたことは話したかしら？！大馬鹿者よ、みんながあの腐った男を怖がっている、おお、おお、何という田舎者だろう。ケボン［畑］に行く前に行儀よく整列、お辞儀、等々。気が狂いそうよ。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月20日

でも、残念ながら、今は闇物資はこれっぽちも手に入らない。ヤップはひどく厳しい。毎日誰かが捕まる。あの女性達や子供達はおそろしく厚かましい。囲いの側に立っていて、それを見られたら乱打され、罰に立たされるのだ。３つの畑仕事グループがあり、その人達が古着や新しい衣類を村で売るために持っていくのに。警官が自分の分を取ることを思えば、この方がずっと沢山のお金が手に入るのだ。続けて何回か、見つかって捕まっている。厳しく警告され、私達から（つまり、知人達から）もで、それはＤ．とヤップ達も外に出ていったからだ。それでも数人の子供達が出ていった。カウヴェンホーフェンの子供が捕まり、他の３人を密告した。４人全員バンキナンに連れてこられた。母親達は涙、カウヴェンホーフェンを除いて。彼女は出てこなかった（彼女の長女は自由、ドイツ奴と結婚したのだ！）。これが起こったのは一昨日で、彼らは今戻ってきた。１４歳と１２歳の子供達。牢屋に入れられていた。ヤップからブブル［粥］少々もらったが、警官は内緒で彼らに食べ物を与えていた（ジミー達、ここに昔からいる人たちだ！）。丁度入ってきたところ。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月26日

早くから人は文句を言っている。最初の朝日が差し込んだら整列で、数えられなければならない。私達は列（５列の）に、並ばされたままだった。それから急にことが起こった。そう、私達は前日の夜もケボン［畑］仕事から帰ってきた人数が少なすぎるとか言って、夜遅くまで数えられたのだ。大混乱だ。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月8日

カルラ・マセット[-ブーケルス]が私達の古い蚊帳代として６０ギルダー持ってきた。いい値段でしょ？丁度良いときに入った、というのもまた何やかやと発見され、とくに中国人の買い取り屋のところの大量の衣料や宝石類だ。５人の警官が叩きのめされて連れ去られ（彼らの妻はこの食堂に）、残りは発見されたら全員収容され、ここにはヤップの警備が来るという。そんな風になるかしら？闇取引はこのためまた停止だ。[...]

[J.]ファン・バルト[-ミュラー]夫人は今日、胸（乳癌？）の手術を受けた。収容所全体に散水し、全て整えられた。患者達は浣腸や注射などさえしてもらい、断食療法をし、・・・ニッポンに、[P.A.]フィス［医師］と[J.Ch.]スフローダー［医師］は［男性収容所から］来てはいけないと言わせなきゃ！！何てことでしょ。全く嫌な奴ね。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月31日

さらに多くの警官がバンキナンに尋問呼び出しを受けた、中国人買い取り人（私達の宝石、布などの）が捕まり、大規模な裁判が行われているのだ。闇売買人の女性は涙。彼女たちの警官の命を心配して（そして闇物資をしのんで！）。

エルレー
1944年9月28日

昨日はこの敷地内にMPが来ました。彼らはHB［運営委員］が全てのブロックリーダー、炊事場委員、等々と会議で集まっている時に来ました。その中におそらく裏切りがあったのでしょう。彼らは闇取引をしている人達の名前を出すように要求し、しかしそれは拒否され、するともし本人が自分で申し出なければ、全ての在席者をパカンバルの刑務所に送り込むと脅しました。さて、それは行われました。あの誇り高い顔を見せたいものでした、時には少し青ざめて、最初に入っていったのです。私の心は満足でした。彼女たちは名前を紙に書かされ、そして帰されました。それ以来、これについて何も言ってきません。これから一体どうなるのでしょう？彼らにこの事件を処理する時間が無いと良いのだけれど。私達全員が何らかの恩恵を受けているのだし、４０人から５０人の活発な闇取引人達がそのために罰を受けるのはひどいことだと思います。彼女たちは金持ちにもなりましたけれどね！

エンゲル-ブラウンス
1944年10月15日

ニュース：ヤップが男性収容所向けの女性の包みの中に手紙を発見した。このため暫くの間小包送りは停止され、関係した女性達は、ハーゲンス、[A.]ドゥ・クルース[-ワルトマン]、［E.C.］フェルトカンプ[-ロスカム]等々を含めて、三日間、配給半分だった。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月31日

どうやら本当に、男性収容所にはある一定の女性達のために食糧が沢山用意されているようだ。しかしそれでもいまだに罰はあり、そのため修繕[51]や小包はここしばらくは中止だ。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月4日

昨夜は１１時から１時までフダン警備［倉庫警備］だった。尻触りが私達に向かってきた。私はトイレに入った。コンチクショウメと思った。今は立ち上がってお辞儀をしなければならない(HBプリンター［命令］)が、ヤップも私達を殴ってはいけない、ぶん殴りヤンのお得意のことだけどね！この間はルッセラー達の所にいると、そこにあのろくでなしが来て、自分が来るのか聞こえなかったのかと聞いた。私は“チダ”［いいえ］と言った。彼が来るのを見たのは私だけだった。キットは恐怖（リー・ルッセラーはそのためにパンツにおもら・・・、我慢できなかったのだ！！おかしかった。）私達は立ち上がってお辞儀をしなければならなかった。[C.A.]バルト[-ウェーセンドルプ]夫人が通りかかり、“１，２，お辞儀するのよ”・・・などと歌った。ぶん殴りヤンは振り返り、彼女の方に突進し、彼女は悲鳴を上げた。“もし私を殴ったら、殴り返すわよ”彼女は連れ去られた。彼は悪いし権力を振りかざすが、しかし彼女も悪い。彼は収容所司令官にブチのめされた（バルト夫人は警官に首を絞められた、など）。

[51] 男性収容所の男達が女性達の鍋などを修繕していた。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月14日

畑仕事の時にまだ闇取引をしようとしたその結果、クリーが発砲され、ハニー・ラウターはバンキナンに連行された（衣類も持たず、丁度‘生理’だった）。ひどい話しだ。[...]この頃はニップ達は男性収容所から来る粉袋を検査する。そのやり方で手紙が来たことがあるらしい。まるで第五列活動［破壊行為などで他国の進撃を助けること］かなにかみたい！！嫌な奴らめ。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月26日

２３日の夜はランゲンベルグのスパイ事件があった。夜遅くに大騒動！！ヤップＭＰが[M.]エラントの所で捜査。長い会議で悲鳴が上がったりして。とても冒険的！ヤップはタンプ・センター［懐中電灯］を持ってここに入ってきて、MP長はランゲンベルグのテンパット［場所］を照らした。真夜中まで私達は起きていて、HBが連行されるかと思った。

エンゲル-ブラウンス
1945年3月2日

ハンクは前の水曜日にまた畑方面に行き、プランチー［カッサバ芋］と葉っぱを少し持ってきた。青髭とMP男は芋を掘り出させた。もう全て取り去られていた。彼らは残りの芋を積み重ね、畑仕事に人達に取らせた（手は脇に置いて）。餓えは人々にくすねたりなんだりさせる。ひどいわね！

エンゲル-ブラウンス
1945年5月4日

水曜日にハンクはおいしいプランチー［カッサバ芋］をくすねてきた、彼ら、ヤップやスカリラの触診にもかかわらずだ。ハンクはお腹を叩いていたが、が恐怖だったようだ。そのお陰で、おいしいプランチーが有る！ヤップは全然楽しめない（一人も見たことがない）。殴る、毒づく、空砲を撃つ等々。[...］ナイラントは２回罰に前に立たされた。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月21日

スカリラの所でスプーン、フォーク、万年筆が見つかったところだ。誰も白状しようとしない。彼らはMPも入ってきたのでちょっと３，４日停止した。しかし、今夜またそれでも持ち込む、と、今聞いたところだ。昨日はある人が４００ギルダー分のバラン［物資］を持ってきて、MPを見ると、全てを外に捨ててしまった。やれやれ、私はお砂糖さえもらえればね。あのヤップは時には闇取引する女性達の真ん中に座ってお喋りをしている。そしてあの戯れ言！！吐き気がする、１０００回も吐き気だ！

エルレー
1945年6月5日

あのヤップたちはどうも暇つぶしにまた闇取引調査に乗り出したようです。娘や女性達が尋問のために連行されましたが、炎はチョロチョロしていますが、大して燃えはしません。運営委員会と関係者が少々面倒な時を過ごすだけです。私達には影響有りません。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年6月

暫く前に、男性輸送の大団体が私達の収容所の側を通った。次から次へとトラックが通り過ぎていき、女性達は興奮して大騒ぎだった。囲いに殺到し、蝿の房のように囲いにぶら下がり、それを乗り越えた。始めはヤップ警備の全員が緊張した。彼らは女性達に下に降りるよう命令し、彼女たちがそれを聞かないと、足を持って引きずり降ろした。しかし女性達は完全に舞い上がっており、足首を引っ張る手を知らん顔で蹴飛ばした。ヤップはどうすることもできなかった。もちろん、自分の夫を再び見る大きなチャンスだと思うから、長引けば長引くほど大勢の女性達が出てきた。彼女たちは大勢で正門に殺到し、門はメリメリと壊れそうになった。それは耳を覆うような大騒音と叫び声で、ある時、ヤップは諦めた。彼らは、トラックが近づいたら、門を出て道に立って良いと許可し、その後直ぐにまた中に入ると約束をさせた。車は５分か１０分おきにやって来て、エンジンのうなり声がする度に門が開けられ、女性達は道に飛び出ていった。遠くから、私はその騒ぎを見守っていた。笑いがこみ上げてきて、すでに何度目にもなる自分たちの大胆不敵さに驚いていた。自分の夫が輸送に乗っている可能性がある、というだけの理由で、ヤップをあんなに追いつめて、道に出る許可を出させるなんて。女性一

人に千人の男が手こずる［諺］としたら、２０００人の女達をおとなしくさせておくためには何万人の男がいることやら。

# 食糧と物資事情

## 収容所報告書

### バンキナン民政

ここでは最初の何週間かは丁度ブーイと反対で、食糧は少なく、木は大量にあった。数週間用であったらしい木材が高く積み上げられていたが、しかしニッポンが驚き立腹したことに、短時間でなくなってしまった。食糧は全く別のやり方で供給された。収容所から自由に注文することはもうできなかった。注文する度に、その前に収容所司令官の許可が必要であった。日当はパダンより多くなったが、しかし物価もそれに比例していた。野菜は田舎野菜の寄せ集めで、野生のものも多かった。葉野菜はプランチー［カッサバ］の葉だけであった。小さな子供達は黄色のワルー［カボチャ］しかもらえなかった。仲買人はバジェム［ほうれん草］とカンクン［チコリの一種］を植えるように注文を出す、と約束した。ここで手に入った果物はジェルック・ニピス［ライム］とパパイヤ少々と、非常に小さなバナナだけだった。もっと良いバナナが出回っていることは闇取引で明白だった。この闇取引市場が有ったことは、収容所にとって救いだった。囲いを越えて衣類、布類、宝石などが売られ、渇望されていた現金や食料が入ってこなかったら、より多くの死亡者が出ていたことは確かだろう。ただ、闇取引をする女性が要求する値段は膨大なものだったが、しかし売りに出した品物もそれに比例した値段で売れたので、ある意味ではバランスが取れていたと言える。闇取引は収容所を何度も騒動に陥れたが、それでもそれは目をつむって黙認され、運営委員会は闇取引をする女性のためにニッポンと交渉し、始末をつけてやることさえ多かった。ニッポンが長期に渡って病人用のジェルック［柑橘類］や卵、又はカチャン・イジュー［小さな緑の豆］を入れなかった時には、運営委員会自身がその方法を使わなければならない時も何度か有った。闇取引は大変盛んになり、正門を通ってくる物よりも裏門を通る物の方が多いほどだった。後者によって何が収容所に入るかは中国人の仲買人チューの気分次第だった。彼が日当を受け取っていたからである。収容所に提示された食糧供給予定は次のような物だった。１日１人、米２５０グラム、子供は１２５グラム。

ウビ［サツマイモ］５００グラム

砂糖１７グラム

塩１７グラム

茶５グラム

これらの物資の値段については訪ねても回答はなかった。単純に、１日２４５ギルダーが残り、それで注文しなければならなかったのは１人８０グラムの野菜、薪、バナナ、油、ココナツ、卵だった。全ては高額で、従って全ての量は少なかった。早々にも、米もサツマイモも約束されていた重量には達してはいないことが判明した。それにも我慢しなければならなかった。バンキナンの街までの道は遠く、袋は破れ、どうすることもできなかった。サツマイモを食べられない子供達は１２５グラムの米では全く足りないため、医師の許可を得て別の配給方法が採られた。[...]

バンキナンへは食料在庫を持っていったが、ニッポンの食料が不足していたため、すぐに無くなってしまった。そのため、すでに１９４４年１月には現金購入する事が決定され、購入物資は‘在庫市’で所内に売られた。医師たちはまたチケット[52]を処方することができ、１週間に１ギルダーの個人出費が許可され、それには収容所金庫用に５０パーセントの割増料金が付いた。しかし、この方法も機能しなかった。仲買人は［規定の］在庫用の注文すら満足に供給することができなかったからである。援助が必要な人には、もう現金は渡さず、‘市’で無料配布をした。しかしそれでも［規定量］全てを渡せず、残りを別途購入することも、このシステムが悪用される恐れがあるため、できなかった。援助を必要とする人達の中で、病人と孤児には規定量全量が配給された。

１９４４年末に、米は約半分に減量された。減った分はサゴ粉で補われた。木の値段は高騰し、最初の量の４分の３しか供給されなかった。不足分は抑留者自身が森から持ってきた。３月には他の物資の値段も上がった（それも５０パーセント増）。米と砂糖の配給は、全量は来なかった。

**軍政**

以前には１日２４５ギルダーを自分の裁量で使うことができたが、今後はニッポンがそれで何を持ってくるかに頼ることになった。１０歳未満の子供達にはニッポンは今や全てについて半量しかくれなかった。[...]軍政は食糧面においては改善を施し、それからは肉も頻繁に入り、米の供給も概ね改善された（大人１人１６０から１８０グラム）。[...]５月始めには収容所に数匹の山羊を買い入れることができた。このお陰で収容所には３日間肉の供給が途絶えた！この山羊達は、全量で１日多くても２５０ｃｃのミルクを重病人用に供給できるだけだった。

[52]ＡチケットとＢチケットが有った。チケットは医療スタッフが出すもので、追加食料を受け取ることができた。Ａチケットは無料で、Ｂチケットの場合は料金を支払うが、その金額は通常の、あるいは闇取引で支払う金額よりもずっと低かった。さらに、ある種の食料品は希少で、チケット所有者だけがもらう権利があった。

ニッポンは闇取引を禁止し、追加食料を買うためには現金が必要であったため、小遣いを出すことを強く要求した。１９４４年５月末、ニッポンは４月１日から遡って、次の金額を支給した。

| | |
|---|---|
| 大人用小遣い | １人１月３ギルダー |
| 子供用小遣い | １人１月１．５０ギルダー |
| 大人用衣料費 | １人１月１．５０ギルダー |
| 子供用衣料費 | １人１月０．７５ギルダー |

全ては日本の通貨だった。継続的な物価の値上がりと日本通貨の下落にも関わらず、この金額は収容期間の最後まで変わらなかった。この、いわゆるニッポン金は最初の月の後、抑留者自らが申し出て、現金で受け取らず、倉庫係を通じて食糧を買うことになった。[...]

１９４５年２月に食糧事情最悪期が始まった。米は減量された。収容所内の分配は次のようになった。

大人１人１日１４０グラム
子供１人１日１１０グラム

ニッポンは全ての肉を軍用に必要としていたため、収容所のすでに極端に減らされていた（４日か５日に１度）１００グラムの肉や骨も供給できなくなった。我々は１人１００グラムの‘肉の付いていない’骨を12日から１６日に一度で我慢しなければならなかった！

## 日記抜粋

エンゲルーブラウンス
1943年12月22日

今までは午前中に粥を少々食べていたが、それもできなくなった。昨日は丸一日でプランチェス［カッサバ芋］を少々食べただけ、それ以上何もなし。この何日かの内で、小さなバナナ１本もらっただけだ。

１日チャベ［唐辛子］１つ。砂糖は全く不足。米は足りず、ウビー［サツマイモ］も同様。野菜（ナンガ、ラブー［カボチャ］の亜種、カッサバの葉など）は稀。さらに、コーヒー無し、サッカ［砂糖］無し、もうすぐ油もなくなる、など。哀れだ。全員が飢えて息が詰まりそうだ。[...]何回かイノシシ、しかしバラックＡが全部もらう。運営委員会が居るのだ。

エンゲルーブラウンス
1943年12月25日

２日間何も食べておらず、今、少々お腹が減っている。J.H.もだ。私達はこの少ない食料に全く適応してしまった。朝はコーヒー一杯、しかし砂糖がないので、誰も欲しがらない。もうとっくに入っているはずなのだが、全ては最後か、あるいは全く来ないかだ。バラックＡが全て何倍も持っていく。さらには私達のクリスマス用買い物の、砂糖（カップ１杯２０セント）、カチャン［落花生］（カップ１杯５０セント）、１８セントの卵もまだ受け取っていない。どうしようもなくて、私の分のグラ・アレン［椰子砂糖］（１本２０セント）を今夜コーヒーの時に分けた（昨日は欲しくなかった）。皆ひどく喜ぶ。野菜無し、ラド［粉あるいは米を丸めてココナッツ粉をまぶした物］無し、バナナ無し、今日は何もなかった。８日で、小さなバナナ１本だけ。私達はやっと１時に食べ、それから７時だ。それだけだ。カチャン・イジュー［小さな緑の豆］がまだ少しある。しばらくしたら、ほんの少しの米と少々のウビー［サツマイモ］で過ごさなければならないだろう。明日又。暗くなった。

エンゲルーブラウンス
1943年12月26日

昨夜遅く、我々は挽肉とブイヨンを一鍋（豚の）もらった。すぐにでも食べてしまえた。だた、そう、それはだめ。きちんと分けるの！！（ロブ［ルッセラー］とJ.H.の分はもらえなかったが、一緒に分けた！）昨夜はそれを、それぞれ一匙ずつ、味無しご飯とウビー［サツマイモ］少々と暖めた。[...]第一クリスマスの日、トラック一杯の小ベンチ、小テーブル、椅子その他の小間物が、ここの男達の妻達のために届いた。J.H.の可哀相な顔、彼は“ああ、僕やっぱり行くのは止めよう、僕たちには何もないに決まっている！”と言った。カッシアン［何て可哀相］。小ベンチ３つ闇で手に入れよう。[...]今朝はお茶も、コーヒーも朝食も無し。１時に食べた。全て骨の隙間に落ちていく。馬鹿げているわ。[...]ちょっと水浴びに行って来よう。バンザイ、やっと９日分の砂糖をもらった。さようなら、愛しい人。

エンゲルーブラウンス
1944年1月3日

今日はテッコンの代わりに、小さな緑のカップ一杯のベラ［脱穀した米］（J.H.は小さなコップ！）、野菜はなく、小さなバナナ！！（１週間に１度）をもらった。それ以上は何もなかった。

木でさえも貴重品になった！！馬鹿馬鹿しい！こうして私は昨日ナイラント夫人を通して、サッカ［砂糖］（闇で手に入れた）を３片、１片３５セントで買った。すごいでしょ、何て高いこと！！私は昨日から又髪を切っている。小ベンチを外に出して、午後の１時半から４時か４時半まで。１日約０．８０ギルダーがまた財布に入ることになる。有り難いことに、又なにがしかが入ってくることもあるのだ。[...]

大晦日の夜にパンを作った（米＋カチャン・イジュー［小さな、緑の豆］をこのために貯めておいたのだ！）１０時まで、ベッドの中でパパのことを話していた！１日にはまだ、午前９時のコーヒー用にパンが残っていた。午後１時半に潤沢なライス・テーブル［品数の多いご馳走料理］！！！カチャン［落花生］、クリピック・ベラド［甘辛く味付けした、カッサバ芋あるいはテンペの細切り炒め］、プランチー［カッサバ］の葉とココナッツソース、ゆで卵２つとピーナッツソース、それにセルンデン［ココナッツをおろして炒めた物］！これってちょっとした物じゃない？？！！夜はウビー［サツマイモ］残り野菜のサラダとピーナッツソース＋コーヒー一杯。夜には又パン一切れ。つまり、豊かな日だったのだ。

エンゲルーブラウンス

1944年1月8日

今日はお祭り料理。パンと白豆を昨日、粥用炊事場で調理した。とてもうまくいった。私達はクリオ[53]とお米、少し前にパンを食べた！！卵を２つ取って置き、残り物の混ぜ煮と砂糖がパンにのせる物！！砂糖と濃いココナッツミルク入りコヒー！ちょっとしたものよ。昨日の夜、おばあちゃんの誕生日に米粉パンケーキを食べた。本当よ。おじいちゃんとおばあちゃんのはあなた写真の側に掛けてある。緑の葉で飾った椀はお祭りの飾り付けよ。またひどく暑い。頭が割れそう。有り難いことに夜は冷える。

エンゲルーブラウンス

1944年1月14日

最大の絶望事は薪不足だ。もう私はバラックリーダーではないので、木もガメて来られない。２日用に枝４本もらい、それで湯も沸かさなければならないのだ。食事を作るだけでも絶対不可能なのに、湯などとんでもない。どこかからガメて来なければならず、木の束には昼夜監視

[53]クリオはパダン独特の料理で、白豆と肉をご飯のおかずとして食べる。しかしバンキナン収容所では肉の配給はほとんど無く、そのため人々は工夫して、サゴ粉と密かに持ち込んだ森シダ（パキス）の若芽をボールやソーセージのように丸めた。G.J.スハウトマーカーSchuitemaker氏による。

が付いている。ひどい情況だ。森の真ん中に住んでいてこうなのだ。嫌になる。ヤップからは何ももらえず、もらえるものには代金を払わなければならないのだ。恥ずべきよ！！！！[...]

昨日１．７０ギルダー、今日１．５０ギルダー稼いだ。‘ノット・ソー・バッド［悪くない］’でしょ？！馬鹿みたいね、やろうと思えば、それでも何とか稼げるものよ。

エンゲルーブラウンス
1944年1月15日

そうよ、考えてもみて、こうやって、一月４５ギルダー稼げるわ。今はこれを一種のスポーツのように考えている。つまり、私のバリカン代を稼ぎ、所内売り買いと闇商品。この小銭でいつまでやっていかなければならないか、神のみぞ知る、だわ！まだまだ大丈夫と思うと安心する。でも、午後半日で１７人もの頭を刈るのは少々ベラット［きつい］だけれどね。あなたは“大げさにいうなよ”と言うでしょうね。さあ、明日は日曜日で、日曜は休日。私達はご飯料理のご馳走を食べる、それは、今日の残りのクリピック［カッサバ芋または大豆ケーキを切って炒めたもの］、J.H.が取って置いた卵２つ、白ラブー［カボチャ］のケチムン［キュウリ］だ。夜は挽いた米のプディングにワルー［カボチャ］ソースとサツマイモを混ぜたもの。丁度白砂糖をまたもらったところだ。あなたのロッチェは、どうやったらいいか、知っているでしょ、ね、パパ？まだ布地や靴も売れるけど、本当に必要になるまで待つわ。それはまだ、わざとやらないの。幸い石鹸はまだ充分にある。薪は絶対的に不足している。ヤップがくれる量は充分というにはほど遠い。私は昨日コーヒーを出す番だったので、ハンクと私は新しいセメント階段の外枠の、長い木をガメた。私は、ここのブロック長のステウプに見つかった。彼女は“それは一体どうしたの？”と聞き、私は“今説明に行くわ！”と言った。だがこのペカラ［問題］については、彼女は何もいわなかった。

少ししてからハニー・ラウテルとティネケ・アーレント[-フェルディンハ]が来て、乾いた杭（これも薪ではないわね）をどうしても欲しがった。それで私は彼女たちをちょっと手伝った、もう暗かったし。そしたら突然捕まってしまった、インドネシア系の人が密告したのだ。運営委員会が私達を探し、ステウプ夫人はこれを報告せざるを得なかった。ええ、この獲物は私の手に負えないわ。私がキパッセン［火を起こ］していると、髪を引っ張られ、そこにはヘティーとドリーが立っていた。私は直ぐに“降参よ、そこに立って、今話すわ！”と言った。しかし、乾いた杭のことは知らん顔で否定した。私達はいたずら坊主と同じね。アニー・ドゥ・クルースは、“ナントカカントカ禁止”と書かれた板をガメた。そして私達がどんなに笑ったことか！そうよ、でも悲劇的よ、森の真ん中に住んでいるのに。それから市でサッカ［砂糖］とカチャン・イジュー［小さな、緑の豆］を買うことができた。サッカは一人５０セント（５枚の小さな板）で、カチャン・イジューは一人カップ２杯で５５セントだ。私は闇で

もカップ一杯６０セントで５カップのカチャン・イジューを買った。スダー［とにかく］、また食事だ。もうどうでも良くなってきた。そこで[J.]アスペルスラッフ[-クネフテン]から１０ギルダーでバリカンを買い、私のものを売ろうとした。[F.M.]ステッフェンスのは、１ギルダー付けて返した。

エンゲルーブラウンス
1944年1月18日

私達はとても良好。ヤン・ヘイン最高最高。私達のお腹も良好。J.Hは真っ黒。ハンクは少々青白い。彼女は皿のものを平らげることもできない。こんなに、少なすぎる食事に慣れてしまうのだ。これで２回、カチャン・イジュー[小さな、緑の豆]（カップ一杯２７セント）とサッカ［砂糖］（一皿５５セント）の追加販売市と、一度は一個２２セントで大人一人に卵二つのがあった。この追加市にもかかわらず、まだ信じられないほどの闇取引が行われている。[...]追加注文はうまく行かない。私達の中国人仲買人はひどい奴だ。私達をいじめている。毎日ワルー［カボチャ］ばかり来る。米は少なすぎ、彼は茶色豆の何たるかを知らない！やっと昨日、私達のカチャン・タナー［ピーナッツ］が来た。私はカップ３杯分注文してあった。ハンクはそれをすぐに炒め、今、米＋ピーナッツソースを食べたところだ。とてもおいしい。楽しんだわ。残りのピーナッツはいろいろな事に使う。土曜の夜はハンクと私は日曜用に大きなパンを作る、２回分で、そうすれば日曜日にはそんなに料理をしなくて済み、朝寝ができる。[...]

日中は［炊事バラックの］煙でむせそうになる。木は湿っていて、他の人と肩を並べているからだ。それに加えて薪不足。ここには自分たちで森から持ってきた大きな太い木が入って、少年達が薪割をするが、それでままだ大振りの木で、それをまた小さく切るのは大変だ。バナナが入るのは、ひどく、ひどく珍しい（１０日に一度、ひどく小さいの）。それを希求している。

エンゲルーブラウンス
1944年1月20日

２回の食事でも何とかなるもので、子供達も痩せもしない。ハンクと私は食事にとても手を掛けていて、みんながハンクの器用さを誉めている。全員がで、とてもいい気分だ。今や私は朝食を食べろといわれても食べられないだろう。変なものね？。そして今や私は、私のしっかりした原則を折ることにした、つまり私も闇商品を買うのだ。でも、警官自身からではないのよ！私達の追加市は言語道断なほど高い。例えば：昨日、私達のバナナが来た。タンドゥク［焼

きバナナ］の代わりに唯のラジャ［バナナの種類］が一本１２＋６＝１８セントだ。１０個のマンギスタンは一個５＋２．５０セント＝７．５０セントだ。私達は怒り心頭に達し、上乗せ分はもう払おうとしない。あの中国人は気違いだ！！生きたまま皮を剥いでやるべきよ。あのイジュー［小さな、緑の豆］は、最初は５セントだと言っていたのよ。さて、私はナイラント夫人から太くて甘いバナナ（スス種［小型バナナの種］を１本４セントで３本もらった、この闇取引人の方が、全てがずっと安い。みんな闇取引をしている。アニー・ドゥ・クルースもうまくやっている。彼女は私に３５セントの鴨の卵を３つ差し出した。私は買った。私のパパちゃんなら“やれ”と言うだろうから、だからやったのよ。さらに私はラドス［粉、あるいは米の団子におろしたココナツをまぶしたもの］買い足し、ナイラントは時々私に、頼まなくても、例えばカチャン・タナー［ピーナッツ］を１ｋｇ２ギルダーで、等と提供してくれる。重量はもちろん保証の限りではない。彼女はほとんど上乗せせずに私に売ってくれる。彼女からマンギスタンを６つ、１つ２セントでもらった（彼女は１００個闇で買った）。私達の追加注文のハーブは何もない屑だ（クローブ２００グラムで５ギルダー等、あの中国人は頭がおかしいのよ）。それでナイラントは日曜日にはブムブー［ハーブ］を闇で買ってくる、と言った。それはすごいわ（ラド、塩、胡椒、ウコンの根等）。白砂糖が欲しいかですって！（１ｋｇ３．５０ギルダーで）リー・ポスト[-グスタフソン]もナイラントに助けて欲しいといった。大量の宝石が彼女のもとに運ばれ、それを彼女が警官を通じて売る。あの男達は外で金に埋もれている。こうして私もいらない絹の布をペチコート用に１．５０で売らせた。彼女はそれを１５から２０ギルダーと値踏みした。ハ、ハ。今夜答えが来る。あのジョーゼットの、私も１．５０から３．５０で買った布きれが、１５から２０ギルダーになる。どうしたら良いのか分からない。売った方が良いのかどうか。まだ６００ギルダー有るけれど、どんどん出て行くし、これでどれだけ持たせなければならないか、誰も知らないのだ。

エンゲルーブラウンス
1944年1月26日

ティル［サルデマンーロード］は、私の指輪とブレスレットを見て、３００ギルダーと値踏みした。これを売るなんて、可愛くないでしょ、でもあなただったらどうする？３００ギルダーはそれでも大したお金よ（購入価格１５０ギルダー）。今はひどく考え込んでいて、値踏みだけさせている。３００ギルダーは、でも全く大したお金だ。この取引が突然無くなってしまうかもしれない、そしたら３００ギルダーの方が、宝石より価値がある。どうしたらいい？ねえ、今、教えてちょうだい。あなたがこんなに必要よ！！[...]

今朝はワルー［カボチャ］（とサッカ［砂糖］）入りサゴプディングを作り、とろりとしたココナッツミルクをかけた。でも、私自身はもう甘いものを喜べなくなっている。さて

今夜はカチャン・イジュー［小さな、緑の豆］＋米。私はぐったりして気持ちが悪く、足のことで悲しい。膝と足首が腫れている。卵をそれでも３つ買った。（高い振る舞いだことね？）それにグラ・アーレン［椰子砂糖］少し＋玉葱少々。白砂糖はもうヤン・ヘインのためにもらうだけだ。私達はサッカ１枚を８日分として。玉葱はまた遅い。入ってこない。油も遅い。今や、北からの戦争捕虜達がここに（新しい収容所に）来て、私達はベラス「脱穀した米」、粉が半分にされる、と言う噂がある。本当かもしれない。だからベラスを貯めることができて、本当に有り難かった。今日の午後は白豆（カップ１杯４５セント）とカチャン・ケレデ［大豆］（カップ１杯２０セント）を買うことができ、また人の分を譲ってもらえた（これはお金がないと無理！、有って良かった）。安全な気分。お金はボケットから飛び出して行くけど。私はトラシ［魚やエビの抽出物］も買った！これがあると、昔は避けて通ったものだ。子供達は結構幸せだ。

エンゲルーブラウンス
1944年1月30日

子供達は、私達がとてもおいしいものを食べている、と言っている。昨夜は丁度１２時にパンと卵、ラブー［カボチャ］のケチムン［キュウリ］、白砂糖少し、アーレンシロップ少々そして、・・・昨日残しておいた、２本のおいしいバナナ。この頃買ってばかり。どうでも良くなったわ。カップ一杯１ギルダーの白砂糖を２カップ（もう１．２５ギルダーだった）。卵、グーラ・アーレン［椰子砂糖］とラド［粉、あるいは米の団子におろしたココナッツをまぶしたもの］。今はケチャプ［甘醤油］一瓶３ギルダーで買おうとしていて（ナイラントがそのようにしてくれる、他の人だと４，５０ギルダーする）、まだ魚もレンダン［辛味の肉料理］も来ていない。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年1月30日

ここの食事はひどく悪い。野菜はほんの少し、米も少し、それに気持ち悪いような味の粉、それで有名なお粥モドキを作る。

エンゲルーブラウンス
1944年2月１日

今日はジャム缶入りの米をもらった、３人とも。だが・・・明日は粉だけ。ウビー［サツマイモ］も少なくなる、等。卵を買い足すことにした、一個３５セントで。どうでもよ・・。[R.A.F.]ハーゲンス［医師］は一週間に卵３つ、肉とカチャン・イジュー［小さな、緑の豆］を処方した、そしたらバナナは要らないと。ハ、ハ、簡単に言うわね！肉は１kg３ギルダー＋１．５０ギルダー割り増し（収容所金庫用）。お金はどんどんポケットから飛び出していく。ブレスレットはまだ売っていない。トランクを警官に２０ギルダー［または２２０？］で売れる。売ろうか売るまいか？どうしたらいいか分からない。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年2月4日

［彼女の誕生日］そして今は、午後にこの私の寝床で書いていく。それでないと今夜はきっと書けないだろうから。私のドアの前の‘小道’（１ｍの）はコーヒーを期待している。私は下士官夫人の所でパンのようなものを注文した。こうしてここでは、誰かが誰かに稼がせる。お金の心配が無くて、私は本当に幸せだわ。こうして注文したり、闇市で買ったりするものは、驚くほど高いけど、幸いにも私はあまりお金を‘放り投げて’いない。

エンゲルーブラウンス
1944年2月13日

食べられない。何もおいしくなくて、卵少しと、バナナや肉がすごく食べたい。[...]闇取引の人から、私は小魚、卵、白砂糖それに有ればバナナ（トラシ［魚あるいはエビの抽出物］、ラド［粉、あるいは米の団子におろしたココナッツをまぶしたもの］）を買う。そしたら子供達も結構大丈夫なのよ！あまり不足はない、家でのおいしい食事の夢は見ているけれど。彼らは健康そうだ。J.H.はまるで黒人のように黒い。歯１本と短い前髪[54]でみっともない。髪型がおかしい。それでも姿の良い、可愛い子だ。今は本当に背丈が伸びている。ハンクは１７日[55]のことで頭が一杯だ。私は沢山物を売っていて、調理は後１週間[A.M.]メイヤース夫人にまかせようと思う。このところ闇取引で何でも手に入り、バナナ炒め等も一つ１５セントで入ってく

[54] ヤン・ハインの歯は生え替わるところだった。
[55] これは書き間違いで、ヤン・ハインの誕生日の18日を意味していると思われる。

る。油もバナナも自分では持っていないから、ほらお買いなさい。[...]愛しい人、食事にするわ。また明日。ハンクにドレスを２着作るわ。どれもこれも着られなくなった。

エンゲルーブラウンス
1944年2月21日

土曜の夜にアニーとエリー［ケルナーーイェプセン］は、闇で手に入れた２羽の鶏で作ったチキンブイヨンをくれ、昨日はクリーム煮を売った。コンシーのアーレントとラウターも闇取引をしている。前者が取引をし、後者が帳面を付ける！！！私は大抵ナイラントの所に行く。そこが一番安い（時にはアニーと一緒に）し、バナナ一度に３本も入る。ああ、それに人々は買い病に罹っている。みんな夜にお腹がすき、チャンスがあれば、販売をしている人から買ってしまう（フダン[倉庫]券）、例えば１５セントの小コロッケ、甘コロッケ、ココナッツミルク入りコーヒー、香味料入り紅茶、等（ウビ[サツマイモ]の串焼き）それに？＋カチャンソース[ピーナッツソース]、ペチェル[辛いソースの野菜料理]。何か考え出すものよ。午前中朝早く、雨が降っていなければ、ナイラントや[M]エラントなどが、１０セントや１２セントで何百もバナナ炒めを手に入れ、飛ぶように売れる。そうよ、私たちもこれを見過ごすことはできないわ。朝食も、油もなかったらどうなることか、私はこう考えるわ、つまり、これもまた食品よ（油脂＋バナナ）。私たちは今朝それを６つも買った、これは今夜のサンドイッチ用にも三つということ、豪華でしょ？昨夜はウィル・ドゥ・ルーファー[-ファン・ウィルゲン]（作って売っていた）からココナッツミルク入りコーヒー(熱い)を三杯。こうしてみんなが金銭を得るために何かをしている。死ぬほど笑ってしまうでしょ、これではほとんど助けにならない、だってみんながみんなのところから買っているのだから！！さあ、私は夜も幸い空腹にはならないけれど、でも誘惑は大きい！あなたもそうすると思う？ええ、するでしょう？私の水っぽいケチャプ［調味料］の瓶はその日４．５０ギルダーだった。リー・ポストと分けた。酷く高い。でも、私たちはもう５日も油が既になく、もう人から少し借りていた。何も入ってこない。大変なことだ、テルラルー［酷いこと］だ。どうすることもできない。あの料理屑（ウビやなにか）、吐き気がする。それだからパンは、時に大発明品となるのだ！！砂糖もジュルック［柑橘系果物］もバナナも野菜も（一日おきにナンカ、プランチェ[カッサバいも]の葉かワルー[かぼちゃ]だ。おお嫌だ!!）ヤップからはもらえない。哀れなものだ。そしてあの出来損ないの粉だ。つまり禁制取引できない者は気が狂うような飢えに苦しむのだ。

幸い多くの人たちはあらゆる物を売った。そう、もし禁制取引が停止したとしたら、もう少し多くヤップからもらえたら、でもそれでも十分というには程遠い、だから闇取引が大繁栄するのだ。大金が動いている。白砂糖一カップ1ギルダー、卵1個45から47.1/2セント。といった具合だ。私のジョーゼット布は30ギルダーで売れた。すごい。

エンゲルーブラウンス
1944年2月25日

一日置きにパンを食べている、尼僧たちの所でオーブンを使って焼くからだ（ただ、しょっちゅう嫌な顔をされる＝z.v.l[愛の尼僧たち]！！）。沢山の木や作業を節約できる。それからベラス[脱穀した米]（収容所内）14カップを14ギルダーで売った。ちょっとしたものでしょ？そのお金で私の[一部欠落]＋追加の白豆、茶色豆、そしてカチャン・ケデレ[大豆]（9.10ギルダーで）買った。これは販売市だ。これは今やまたもや必要度が倍増している、なぜなら・・・闇取引は日曜以来停止されているからだ。密告！ニップがスパイを送り込み、そいつは大人しく一緒に闇取り引きしていたのだ。[...]

さて、これで私の懐はちょっと一息、だってどんどん無くなるんだから。誘惑は酷く大きい。もう10日間、私たちの体には油脂が一滴も無い、（なぜなら、油はちっとも入ってこないし、C2では配給が停止されたところなのだ）。さて、変なことは、毎日3本のバナナ炒めを10セントで買うと、それはバナナ、それに油（たとえ気持ち悪くても！）それに朝食になるのだ！だが時には3本とも、例えばサンドイッチの具として食べてしまうこともある、そしてそれは12．5セントだ。そしてこうして糖分などが必要なのだ。ヤップはもう何もくれない!

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年3月1日

[1944年3月]全体的にはここはブーイよりずっとましだ。私は今、私のためにだけ料理していて自分の好きなようにできて楽しい。ただしお金はもうびた一文も無い。

エンゲルーブラウンス
1944年3月2日

闇取り引きはまだ停止状態だ。今や食糧不足が倍になってこたえる、これは果物などだ。私たちは粉、ウビ[サツマイモ]それに少しのベラス[脱穀した米]で生きている。油はなんだか腐った匂いのする椰子の実オイルだが、全く何も入ってこない。そしたら全ては煮て食べなければならず、本当に、この屑のような素材では酷いことになるのだ。そしたら豆やカチャン・タナー［ピーナッツ］（これも大事にしなければいけないのだが）を自分で買い、ありがたいことにそれはまだ可能なのだ。可哀相に、それができない人達もいる。そのためにこんなに酷い雰囲気なのだ！！みんなが、所持品や取って置いたもの全てを売り払おうとしている。それに現

地人の誰かがひっかかる。一昨日の夜は収容所内で市が開かれた。すると金銭を持っている人達（宝石など！）が貧乏人の衣服を買うのだ。J.H.の靴はまだ売れない。もういいわ！そしたらきっと売れることはないのだろう。絵のように美しいドレス、下着等々が売られている。可哀相に。１０ギルダーでおしろい一箱等。私はベビーパウダーが少々と、私は使わないポンドのクリームがホンのちょっとあるだけ。さらに、私達は歯を、時々は塩とジェルック・ニピス［ライム］（もしあれば）で磨かなければならない。もう長い間石鹸で歯を磨いていて、そうすると歯が真っ黒になる。私はそれに、パヨン石鹸[56]を使っているのだ！

私の化粧石鹸のかけらはとってある。つまり、あなたの丸いの二つ（一つは前に使い、二つは人にあげた）４７１１［商標］の丸いの（リーからの）、小さなラベンダー石鹸のかけらとライフブーイ石鹸の一片。それからまだ、洗濯用の大きな棒状石鹸とパヨン石鹸が幾つか。もし石鹸がなかったらどうしたらいいのだろう。あなたの大きな丸い石鹸は４ギルダーの価値があるって知ってた？そしてその価値はもっと上がるわ。練り歯磨きチューブが手に入るといいんだけれど（それほど高くなく）。そして今や、浴室では最も空想的なこと（そして人！！）が見られる。例えば小シャボン［石鹸］で歯磨きをし、粘土で手を洗い、化粧石鹸はほんの少ししか見あたらない。ええ、エラントみたいな人は、まだなんでも持っているわ。衣服ももう粘土やジェルック・ニピス［ライム］で洗っている。

ニッポンから、私達（赤ん坊も）は一月に砂糖半袋をもらう。これはテルラルー［酷いこと］だ。時々（１０日に一度）砂糖少々を買い足すことができる（ひどい物だ）、そして一昨日は初めて、１０歳以下の子供達に蜂蜜カップ１杯６５セントで買えた（発酵したような匂い）。おお、J.H.は飛び上がって喜んだ。彼らには砂糖が本当に必要なのだ。塩は内緒で人からもらった。バンザイ、今丁度、追加に蜂蜜カップ２杯、８０セントでもらい受け、白砂糖一杯をナイラント夫人から１ギルダーで分けてもらった（彼女自身も充分とはとてもいえず、砂糖はファン・ノーチェの所では１，２５ギルダーするのに）。私はとても嬉しかった。分かるでしょ、こういうことには私は絶対ケチケチしないのよ。子供達はよだれが出そうで、私は直ぐにスプーン数匙をあげた。分かる、私の髪のお客達がやってくれるのよ。彼らはみんな私を知っている、だからよ（私は彼らみんなの名前は知らないわよ！）。これで砂糖不足は当分解除されたわ、幸いにも。卵、バナナ、ラド［ココナッツの粉末をまぶした小麦あるいは米の団子］、ライムは今のところ全くない。ヤップからもなく、闇取引は停止。構っていられないわ。もう最低１年はミルク１滴も、バターも、果物も、肉も、パンも無いことを考えたら。人間が長期間それらの物無しでも生きられるのが素晴らしい。だけど、多く人達はひどい状態なのよ！[...]

ラ、ラ、ハンキーのドレスが２着できたわ。彼女の着古した服をしばらくは着せておいて、午後にはまた素敵になれる。彼女は本当に何もなかった。服はやっぱり人間を作るわよ

[56]パヨン石鹸は棒状石鹸の商標で、質が悪く、砂やガラスの粉が混入していることが多かった。G.J. Schuitemaker氏による。

！彼女は本当に誇らしげだ。これで彼女の布地は終わった（その後は私のをあげる）。今度はJ.H.の番だ。成長してどれもこれも小さくなっている。[...]

高くついた日だった。お茶の時に食べる物が何もなく（サツマイモさえも）、どろどろ粥の後（私は食べない、米をちょっとだけ食べた）でお腹がすいていた。ハンクに茶色豆と白豆のコロッケを三つ買わせた。コロッケを揚げる油がもう無かった。メタ・クノッテンベルトが今ここにいたところで、私は知っているが、彼女は金は少ししかない、それでも彼女は食べ物は、買えるものは何でも買う、コロッケなんかもだ。そしたら、私は買わないの？？？構うものか、とまた思ったところだ、買ってしまうわ！ロット［筆者の名／運命という意味もある］ほど変わりやすいものはない！

エンゲルーブラウンス
1944年3月17日

知ってる、私には売る物がもう何もない。宝石も、服もなく、そのためにどんどん物は減っていくが、増えはしない。多くの人達は宝石なんかをまだ持っている。そしてそれはすぐになくなる！！！あちこち飛び回っている。今は闇取引停止のために休止状態だ。全てに関して相当行き詰まっている、たとえば砂糖ももう無い。しょっちゅうナイラントはほんの少し（自分自身用に）手に入れる。今はまた、沢山行き渡るようになった。ただし、値段はまた上がった。例えば卵は６０セント、グラピパ［砂糖棒］６０セントと７５セント。まあ、私、それだけは出さないわ。バナナはあの皮だから恐くて買えない。ナイラントはまだパパイヤ、バナナ、魚、ジェルキェス［柑橘類］等を自分用に入れている。私は白砂糖（カップ１杯１，２５ギルダー）だけを買った。ヤップからは何ももらえない。恥知らずだ。[...]

恐いことだ。一昨日は例えば茶色豆カップ２杯と白豆カップ２杯を８５セント（カップ２杯分）で、砂糖一塊りを一人７５セントで買えた、つまり一人２，４５ギルダーだ。私は豆６単位を人から譲り受けた。手に入れられる物は手に入れる。この供給者は月末には供給を停止する、と人はいっている。新しい供給者が来て、その人はニッポンが供給しろと言った物だけを入れるという。ヤップは今はまだこの豆と砂糖のために券を出しているが、月末にはそれも終わりになる。だから１月に砂糖１枚だ。まあ聞いてよ。塩は３月１日にすでに減らされた。４月１日にはいわゆる、闇取引の罰、を受けるだろう。そしてそれから、ましになるかしら？？？嫌な謀略ばかり。

エンゲルーブラウンス

1944年3月26日

それから、私は５日間休みなく（髪を）切り、値段を、多くの人達の勧めに従って１５セントに値上げした。この差は大きいのよ！時には午前中に２ギルダーになる。そうでなければ金銭情況は恐いくらいだ。もう売る物は何もない。出ていった物はもう帰ってこない。そして、後どれだけ続くのか？闇取引はまた停止している。ヤップの警備が何時もいる。宝石と布の売買はまだ続いている。ああ、ヤップからもらえる物が悲惨なほど少ない。今では野菜もなくなり、もし入るとすればプランチェスブラールン［カッサバ芋の葉］だ。もうそろそろ吐き気がしてくる。

エンゲルーブラウンス

1944年4月14日

［病院で］最初の日はお粥－蒸した－粥だ。珍しく落胆。お粥は見たくもない。幸いにも早々に普通の食事になり、それは午前粥（シロップだけを食べるときもある）だ。午前１１時頃に砂糖抜きのぬかるみコーヒー。１時半に米＋サジュール［野菜（料理）］サンバル［香辛料］はほとんど無く、全ては塩抜きに近い。夜は同じく米とサジュール、でも冷たい。そう、そして考える、６日間ずっと、ナンカ［酸っぱいメロンのような果物］の水煮（ココヤシ粉少々でとろみを付けて、まずい）と、米はいつもひどく焦げていて、焦げの部分だけをもらっていたことを。ナンカは前から嫌いだったし、もう食べることができなかった。だから...昼食と夕食は味無しの米と、家から持ってきたサンバルと塩。おお、私、これは大好きよ！でも、これが病院の食事かしら？そうそう、午後４時には砂糖抜き薫製茶少々で、夜は６時には全ての食事は終わり、それからは夜中何も入らない薫製茶しかない。だからハンクは時々私に６０セントで闇で買った（ナイラントから、他の人だと７０から９０セント）ゆで卵をご馳走してくれる。その度に私は“もうこんな事しないで。”というが、それでも彼女はしてくれる。それから時々カチャン［ピーナッツ］や砂糖をもらう。私は塩やサンバルをがつがつ食べてしまう。白米を食べていると脚気[57]になるが、サンバルがそれを抑えるので良いのだ、と聞いた。その通り、また腫れた脚を沢山見る。私は死人のようだ。そして、だから私達はジェルク・ニピス［ライム］を沢山買う。ビタミン類は全く入ってこない。

[57] 脚気はビタミンＢ群の不足から起こる欠乏症の一種。脚気の症状には痩せたり麻痺を起こす乾燥症状と、栄養失調性浮腫で知られる水のたまる症状がある。(Van Velden著作、p 357)

ファン・アメイデン・ファン・ダウムーオール
1944年4月14日

ここで脚気に罹るのも無理はないことだ［筆者も罹っている］。もう何ヶ月もの間、野菜もカチャン・イジュー［小さな緑の豆］もない。４月１日から肉がもらえるのは幸運といえるが、肉というにも当たらない。もらえるのは内臓と骨だ。しかしそれでも私達はひどく嬉しい。私はもう２回‘肉’を食べ、とてもおいしくて何も捨てられない。骨をかみ砕こうとして前歯を折った。

エンゲルーブラウンス
1944年4月22日

私は飢餓状態みたいに見える［病院から戻って］。粥を塩とサンバルで食べた。小さじで砂糖を、カチャン［ピーナッツ］等を食べた。今は節約しなければ、少しは物が入ってくる（砂糖は無し）が驚くほどの高さだからだ。白砂糖が今やカップ１杯１，６０から２ギルダーだ。ヤップは私達にはほとんど何もよこさない。彼に砂糖やコーヒー等が欲しいといえば、彼は“ボレー・テタピ・バジャル・コンタント！！”［現金で払うんだな］と言うのだ。つまり、近々また集金が始まり（先ず砂糖＋石鹸）また支払いをしなければならない。このヤップの食事では生きていけない。米＋粉（それも足りない）、ほんの少しの砂糖（一月に一度）、塩少々、もう小さくなった肉を１４日に１度、それにひどく少ない油で、本当に節約して使ってももう７日間、一滴も無い。３日に一度野菜を少し、いつもプランチェスブラデレン［カッサバの葉］だ。吐き気がする！紅茶ももらえるが、それだけだ。豆も、ピーナッツもコーヒーも無い、等々。悲劇的だ。だから私は子供達のために闇商品を買った。ところで、ハンクは病院にいた私に時々６５セントの卵や２０セントの小魚等をご馳走してくれた。今では闇商品を手に入れるのも競争だ。人がまだ持っている金銭を見るとびっくり仰天してしまう。私はバナナ、ジェルッキェス［柑橘類］、ラド［ココナッツ粉をまぶした小麦粉あるいは米粉の団子］と塩をビタミンのために買い、半分腐ったパパイヤを６０セントで、ピサン・イジュー［未成熟のバナナ］を一本２５セントで、バナナ少々12.1/2セントで、ハンキーがオンゴル・オンゴル［クッキー］をとても食べたがったのでココナッツを１，２５ギルダーで買った。[...]今は８歳未満の子供達にはもう肉がもらえず、しかし１週間に卵一つになった。しかし卵は入って来ず、だから彼らは何ももらえない。それから、私達は４日に１度、小カップ１杯の米を追加にもらう。８歳未満の子供達にはない。[...]毎日６時にはナイラントの所は耐えられないほどの混みようになる。闇商品が入り、私達は家に入ることも難しい状態だ。彼らは競争で、お互いにも争っている（客達）。私は赤地に白い水玉模様のふくれ織りのドレス（５ギルダーした）を２０

ギルダーで売った。今夜の市で売るつもりだったのだが、昨日からみなは争って欲しがり、濃い青のズボンは２０ギルダーと値踏みされたがナイラント夫人は２５ギルダーで垣根越しに売った（警官はそこに前立てを入れた！）。それから、歯ブラシを５ギルダーで売った。そしてこのお金は追加買い足しのためにとって置くのだ。

エンゲルーブラウンス
1944年4月23日

また６１５ギルダーの金持ちとなった。何やかやと売って（そして髪切りをして）、この3.1/2ヶ月は６４５ギルダー－６１５ギルダー＝３０ギルダーかかった。しかし、今や売る物もあまり無く、高い闇商品の購入価格は馬鹿みたいに上がっている。まあいいわ、私は満足している。もう、“あの堅実なロットが居るわ、金銭亡者のくせに、それでもまだ使っている。”と言っているのが聞こえるようだ。それでも私は注意深くしなければね、ダディー、それでなければこんなにうまくやっては来られなかったわ。それに収容所金庫を当てにして生きるのは餓えと同じことよ。お金が無くなったら、稼がねばならず、それは大変なことだ。そしたらベツール［本当に］耐えられないだろう。そうよ、そしてこれがいつまで続くか、誰にも分からない、そして・・・収容所の門が開けられたとき、数百のオランダギルダーでどれだけ楽しめるものだろう。私は自立していたいのだ！！

エンゲルーブラウンス
1944年4月26日

冷然と、カチャン・タナー［ピーナッツ］を１２カップ、１カップｆ０．８０＝ｆ９．６０で買った。これができて、今もまだとても嬉しい。でも、それじゃあｆ１のラド［ココナッツ粉をまぶした小麦粉あるいは米粉の団子］を、そしてカップ何杯［？］またはバナナ、等々。お金は羽が生えたように飛んでいく。そしてそうよ、もしこれが今年の終わりまで続くとしたら、ちゃんと計算しなくてはいけないわ。門が開いたときのために、是非幾らか残しておきたい。それでは何も売る物もないし、だからまた床屋をするわ。私は指輪を何とかしようとしている、多分石が小さすぎる。父さんと母さんの指輪は何があっても手放さないわ。オランダの黄金も価値があまり無い。

エンゲルーブラウンス
1944年4月30日

昨夜、［C.A.］バルト［－ヴェーセンドルプ］夫人がベラス［脱穀した米］をもらいに（買いに）来た。彼女はもう何もない。私達は沢山余っているが、でも私は少しも売りたくない。でもその時、彼女を助けるために、４カップｆ１＝ｆ４で売った。そのお金でカチャン・イジュー［小さな緑の豆］ｆ１．３０のを２カップ、５５セントの卵（５月５日のために）、そしてｆ０．６０の玉葱２カップを買った。また一人ｆ４の市が開かれると、ささやかれている。この米やベラスでは持ちこたえられない。

エンゲルーブラウンス
1944年5月13日

私の所有物は数カップの豆だけで、それからはどろどろ粥と米少々だ。私達がもらえる物に野菜はなく、プランチェスブラールン［カッサバ芋の葉］ばかりで、そして約三日間は何も無し。砂糖は青くなって買いまくる。今月はｆ１１０使ったが何も特別な物は買っていない。子供達にはしょっちゅうほんの少しのカチャン・イジュー［小さな緑の豆］、ジェルック・ニピス［ライム］（１個１０セント）に砂糖を付けて（１カップｆ１．８０）、カチャン［ピーナッツ］に、時々バナナをあげる。これがまだできることが本当に嬉しい。しかしこのやり方では後８ヶ月しか維持できない。これではダメだ。つまり一月ｆ６０ということ。６ヶ月で計算してみる。そしたらまだｆ１５０残って、ｆ４０が予備だ。１日ｆ２と収入分を使える。残念ながら髪切りはさっぱり暇だ。あのふくれ織りのブラウスをｆ５で売ったところで、ハンクの黄色のブラウスもｆ５で売った（これはｆ５の儲け）。今はメモ帳の紙を１枚ずつ売ろうとしていて、さらに私のツウェカ・シャツ、真珠の首飾り、衿２つに濃紺のジャンパー。まず最初に市に出してそれから持って行商だ。さらにまだボタン、髪留め（１つ４０セント）に一巻きｆ２の光沢のある絹糸が２巻き。何てまあ掻き集めだこと。

エンゲルーブラウンス
1944年5月15日

そうよ、今ハンクの誕生日になるというのにまた闇取引停止だ。なんて間が悪いんでしょう。ところでナイラントの所も全く静まり返っている。いつもだったらイライラするほどなのに。しょうがない、卵はもう有るし、小魚にバナナだ。その時まで腐らずにいてくれると良いが。

私達はパンを２つ作り（ルシア尼僧がやった）、１／２を売って、つまり４５［？］切れを１切れ１０セントだ。それからその日は料理をさせて、午前中に６人の娘達をコーヒーに招待する。米のタペ［発酵米］、オンゴル［粉のクッキー］、クッキーに、いろいろ入れたチャーハンを作る。やる気は全然ない！ハンキーのブラウスをｆ５で売った（黄色＝１００％の利益）。ヤン・ヘインは昨日、７セントのジュルック・ニピス［ライム］を２５個買った。闇取引が停止して、そのため直ぐに９セントで売れ、彼は５０セント儲かって、私達に１５セントのパンケーキ３つ奢ってくれた。愉快でしょ？

エンゲルーブラウンス
1944年5月23日

またもや物価押し上げよ、もちろん！！今度はメイヤース夫人に少々の注文をすることができるという。彼女はv.d.エング夫人と一緒に闇取引をしているのだ。この後者が中心人物で警官達と（ビジネスライクに！）親しい。メイヤース夫人は品物を中に持ち込む手助けをする、v.d.エングに知られてはいけないので、私は手伝う必要はない（両方ともインドネシア系！）。例えば、私は１kgのコーヒーｆ．４から始めた。そこから１１カップ取れ、［Ph.H.］v.d.エングとメイヤースはその中から自分達の消費分を取るためだけに取り引きしているので彼女らの値段は安い。私は彼らにならわなければ。ほとんどの人達はコーヒーカップ１杯７５から６５セントで売っている。私達は６０セントだ。それでもまだｆ．２．６０の儲けで、つまり自分用のコーヒー１杯とｆ２の利益だ。そしたら私は一度はサッカ［砂糖］とバナナを、たまには砂糖やバナナを只で手に入れるために注文する。そしてそれをバラックＡとＢのトトクス［純血西洋人］の間で売るのだ、そうしたらここの人達には分からない。私は１日大体９０セントを散髪で手に入れる。それでも今日、ｆ１００の５枚の内の１枚を両替した。もう長くは持ちこたえられない。ついこの間も白豆（カップ１杯ｆ０．４５）、J.H.のためのココナッツ１個４０セント、ハンキーと私のための卵１個４５セントの販売市があった。ああ、そうだ、それから１０歳から１８歳の子供のためにピーナッツカップ１杯３５セント。

エンゲルーブラウンス
1944年5月29日

聖霊降臨祭に私達はパンとクウェー・タラム［米粉とココナッツミルクと椰子砂糖のプディング］を食べた（子供達はまあまあしか食べなかった）。明日、６月１日、おじいちゃんの誕生日にはプランチェス［カッサバ芋］（野菜の代わりにもらう物）と、夜にはナシ・クーニング

［ウコン汁で黄色に染めた米］と・・・肉！！！、今日もらう物だ。私の闇取引はおじゃんだ。警官が高すぎるとメイヤースは言っている。ピパ［棒状砂糖］１０個を１個５０セントで仕入れたが、その夜に何百個も入ってきて、私のは売れなかった。ナイラントのバナナ販売を申し入れた、いいけれど、仕入れることができたらの話しだ。もしこれで、只のバナナが手に入り、ヤップの市と散髪料で別に稼げば私の現金には手を付けずにすむ。そしてこうして掻き集めながら生きて行くのだ。

エルレー

1944年6月1日

この１９４４年６月１日で闇取引はもう１週間止まっており、私の足はまた腫れてきています。第一の原因はバナナが無いためだと私は思います。さて、ヤップからお金をもらいました。どうして彼らがそんなに気前よくなったかですって？赤十字社に援助を請うテレグラムが作成されたのです。ここは非常に死亡率が高く、飢えていて、一度も実行されない約束は沢山され、医薬品もほとんど無く、等々。それが影響を与えたかですって？私達は今や、大人一人ｆ３の食費、ｆ１．５０の衣料費を追加購入用にもらっています。さて、これで太るわけではないけれど、それでもなにがしかです。[...]もしこのノートがいっぱいになってしまったら、もう書き続ける紙がありません。ノート１冊がｆ１．５０もして、１冊も出回りません。

エルレー

1944年6月5日

今はニッポン時間でもうすぐ６時、ですから私達は食事に行きます。今日のメニューを並べてみましょう。これは７人分です。[58]今朝は挽いた米カップ１杯とサゴ粉カップ２杯のお粥一皿、ジェルック［柑橘類］汁とグラ・ピパ［棒状砂糖］２cm付き。昼は白豆を挽いた粉カップ２杯とサゴ粉カップ２杯のお粥、それにプランタイス［カッサバ芋］葉を挽いた調味料。今はカップ４杯の米＋小玉葱、唐辛子のリゾットとテーブルスプーン７杯のカチャン・イジュー［小さな、緑の豆］。丁度肉をもらったところで、素敵な肉２枚は焼きました。それを付けて今食べています。今夜用には挽いた米カップ１杯の粥が鍋に半分あって、これはひどくお腹をすかせてベッドに行かなくてもよいようにするためです。私達は順番に料理をしています。

[58] エルレーと、ビンクホルスト家のパオリン、ドレ、ツルース、タイス、それにF. ヴェルクホーフェンードゥ・フリースとその息子リニ。

エンゲルーブラウンス
1944年6月6日

食物はもう少なくなって、数日間、粉が無いところまで来た、それは・・・車が壊れたからだというのだ！！ハ、ハ！闇取引無しで、砂糖無し、塩無し、ラド［ココナッツ粉をまぶした小麦粉、あるいは米粉の団子］無し、等々。空腹はひどくなる！！

砂糖不足は全く深刻だ。砂糖や塩やラドが来る２日前、ナイラントと［コンシー仲間の］ラウターーアーレントは大量の闇物資を手に入れた。いや、あの時の、あの哀れな顔と（収容所の前の）少しのバラン［物資］のために争う人達を見てごらん！私達のバラックが先よ！！小さなピパ［棒状砂糖］１本７５セント、白豆カップ１杯ｆ１，８５、卵１個６５セント、カチャン［ピーナッツ］カップ１杯８５セント、ジャグン［トウモロコシ］カップ１杯７５セント、小さなサッカ［砂糖］１枚７０セント。おお、可愛い人、これは恥ずべき値段よ。ああそうそう、汚い玉葱１カップ８５セント。そしてそれでもみんなはどんどん買う。大変有り難いことに、一昨日、ヤップ砂糖（白）、塩等が来て、夜、直ぐに分配された。みんな、とても喜んだ。小麦粉にさえ、飛び上がって喜んでしまう。

ファン・ドゥ・ワルークーラース
1944年6月半ば

残念ながら私達はまた食糧事情の悪い時期にいる。人々はみんなお腹をすかせている。子供達が聞くことはいつも“いつご飯食べるの？”だけだ。

エンゲルーブラウンス
1944年6月15日

この間にも、もう一週間が過ぎた。私のお喋りを短くしなければならないだろう。紙は高くて手に入らない。ノート１冊でｆ１，５０も。[...]

［闇取引は停止している］ああ、特に最初の日にはどんなにカチャン［ピーナッツ］が恋しかったことか、それに砂糖。私達は空腹でグーグーいっている。３人で１日緑のベラス［脱穀した米］１．３／４カップ、テーブルスプーン１０杯ほどのミルク、３日に１度プランチェスブラールン［カッサバ芋の葉］、油はどこにも見あたらない。今、塩とラド［ココナッツ粉をまぶした小麦粉、あるいは米粉の団子］をもらってあってとてもありがたい。これだから、米は２食分にはとても足りない。砂糖はもう一週間無い。身体には砂糖一粒も無く、脂肪

も無い。その先も、何も無し、無し、無し。ありがたや、私はまだジャグン［トウモロコシ］カップ３杯に、ほんの少しのカチャンイジュー［小さな緑の豆］と豆が１カップある。朝食はなく、充分というにはほど遠い食事。コーヒーほとんど終わり。ぐちゃぐちゃの粥を塩と香辛料で食べる。おお、何とフラフラになることか。[...]

ニッポンから私達のサラリーｆ１，２０とJ.H.にｆ０，６０もらった。[59]煙草１レンペン［巻き］をｆ４で買うことができた。私は今は空腹を忘れるためにだけ吸っている。丁度私達の紙巻きタバコ２５０本を売ったところで、経費を差し引いて（それは私の紙１枚２０セント＋煙草ｆ５）それぞれｆ３，７５の利益が出た。今また、新しく売った、今や収容所には充分な煙草があるにもかかわらず（でも紙はない！）。私達はそれをそっと取ってある。ロトマンはそれを巻いて売っている。私は煙草代を出し、紙を提供する。彼女は素晴らしく器用に巻く。そしてこうして私達はお金を掻き集めている。

エルレー

1944年6月18日

やっとまた追加のサッカ［砂糖］が入ってきました。さあ、これはとても必要だったのですよ、砂糖は見るからに欠乏状態だったのですから。玉葱も入ってきません。玉葱も、油も、時には塩もない食事というのはひどいものよ。幸いにもパウルはやりくり上手で、私達はそれでも何とかなっています。私達の袋の中の石鹸不足も顕著になってきています。後２週間もしたら洗濯石鹸はなくなるでしょう。風呂用石鹸はなるべく取って置いたけれど、おそらく後一月分くらいしかないでしょう。補充はもう不可能です。ですから、早くここから出ないと、汚い垢がこびりつき、臭いの染みついた姉があなたの元に帰ってくるでしょう！！一体いつのことになるのやら！！

エンゲルーブラウンス

1944年6月19日

やっと昨日、いくらかのサッカ［砂糖の］シロップが１カップｆ１で手に入り、ヤップマネーから差し引かれた。ハンクはすでにシロップを溶かして取ったサッカの包み（＝干したバナナの皮）もねだった。そこから結構沢山の水っぽいシロップが取れて、土曜の夜はぐちゃぐちゃ

[59] ここで言うサラリーとは、日本側の支給する日給のこと。１０歳未満の子供達は配給物資も日給も、大人の半分だった。この章の収容所報告書参照。

粥の砂糖入りを作った。おいしかった！！お腹がすいて、煙草を吸いすぎてめまいがする。ちょっと横になろう！

エルレー

1944年6月21日

今日は良好な収容所日でした。あらゆるものが入ってきて、丁度私たちの番だったのです。昨日は私達のヤップサラリーでグラ・サッカ［砂糖］をもらいました。今日は収容所から油を一人１カップ、塩はスプーン２杯、粉、米、小さな缶１杯の白砂糖、肉（皮）。皮はいつも、たっぷり与えられます。私達は最初に私達の権利である６つの内の３つを取ります。まず最初はそこからブイヨンを取り、夜にそれぞれ大きなカップに入れて飲みます。次の日には米と肉を２回食べます。これは本当にお祭りの日で、それは充分に食料のある他の日も同様です。それでも私達は今や節約することを覚え、全ての可能性を利用するようにしています。後で収容所レシピーを沢山、よりおいしく作ってみようと思っています。あなたがどんな料理体験をしているか興味津々。私達のを合わせたら、料理の本がいっぱいになるほど新しいレシピーがあります。あなたもそれを書きとめている？

エルレー

1944年6月23日

明日は私達の最後の洗濯石鹸を使いきり、それから当分は衣服を水で洗わなければなりません。きれいになることでしょうよ！！！今でもみな灰色っぽくなっています。トランクにはまだ良い品物が入っています。もしそれほど長引かなかったら、それでも結構よい衣類で清潔に新しく始められるでしょう。今日は米と肉を食べます。昨日皮を３回分もらいました。それからブイヨンを取りました。今日の午後は野菜に肉を混ぜ、これからも米に添え、みなそれぞれに肉付きの骨です。コーヒーは無くなりかけています。今では１２時に飲むだけで、それも、無くなるまでの話しです。私は今まだｆ１３０持っています。だからまた節約しなければ。砂糖無しでは私はうまくやっていけません。ひどく疲れてしまうのです。今また１本ｆ０，８０で買うことができました。最初はこれまでの不足を取り戻すために１本丸ごと食べ、これからはまた毎日少しずつです。

エンゲルーブラウンス
1944年6月25日

せいぜい１週間に１度、ホンの少々追加のベラス［脱穀した米］をもらう。子供達にはもっと多く米をあげよう。時々、物資市があり、例えば大人１人、あるいは子供１人に４５セントで卵一個、ココナッツ５０セントというようにお金を払わなければならない。丁度J.H.に小さな肉一切れ。おいしい！！ええ、私達、贅沢ではなくなったわ。

エンゲルーブラウンス
1944年6月30日

食糧事情はもっと悪くなっている。みんなが空腹に腹を鳴らせている。闇取引をする人達でさえ、自分用のものを手に入れるのに苦労している。村全体が立ち退かされ、人々はもう（警官詰め所に！）持ってくる勇気がない。警官達は身体検査され、私達もケボン［畑］仕事の後や薪を取りに行った後は同様だ。ひどいでしょ？もうこの数日間砂糖無しでいる。私でさえ、空腹に苦しんでいる。ひどく無気力でめまいがする。そうよ、それに７月１日、つまり明日から唐辛子も、油も、野菜ももらえなくなる。ひどいでしょ？肉ももう無いと思う。犠牲者がどんどん増えている。あなたの息子も暑さと餓えで悲惨な状態だ。カッシアン［なんて可哀相な］！闇取引がないことは、財布を見ても分かる、出ていく金よりも入ってくる金の方が多いからだ。今月はｆ５しか使わなかった。慎ましいでしょ？でも、それでもこうではない方が良かった、もう少し何かが私達のお腹に入っている方が。耐えられない！香辛料も、何も、何も無い。もう終わってくれなければ、それ以外にないわ！この忌まわしい情況にはどんな人でも耐えられない。そう、それに今日はまた水の問題までがあった。そうなると石鹸の無い女性達は粘土［版？］で自分を洗わなければならい。充分な米と香辛料の効いたおかずと塩さえあれば、おいしくお腹一杯になれるのに。あのぐちゃぐちゃ、・・・もう見たくもない、空腹で死にそうになったとしても。本当に気持ちの悪いものだ。明日は何としてでもヤップから砂糖がもらえることを祈ろう。そして、あなた達は今どうしているの？やっぱり、ぐちゃぐちゃばかり。外は実際に飢饉になりそうな模様だ。少しでもある食べ物は、あなた達の方に行くだろう。あなた達が優先よ。

エンゲルーブラウンス
1944年7月2日

マンディ［水浴］を一日３回か４回はしている。昨日は水難。時にはこれがあって、もうどうしていいか分からない。食べ物はなく、ここでの唯一の楽しみである水もなくなるのだ。

ファン・ドゥ・ワルークーラース
1944年7月3日

プランチャス［カッサバ］をもらい、カチャン・イジュー［小さな緑の豆］もまだいくらかあり、それで彼女たち［メアとソニャ］は‘クウェーーゾレス’（リソレス）を作る。こうして私達はまだよく一緒に楽しく食事している。昨日は肉があったし、今日は白砂糖カップ１杯約ｆ２，５０で買えた（闇市）。メアとソニャはそのために急いで走っていき、何でも手に入れるために待たなければならないが、それがなんとかなり、質素なものに慣れてしまった今、私達はそれが何であっても嬉しい。一月の間ココナッツオイルが全然なく、突然闇のオイルが入ってきたとき、一瓶をｆ９で買うことができた。値段は急上昇している。これをここに書いておけば、娘達も後になって見ることができるだろう。

エンゲルーブラウンス
1944年7月7日

もう森のシダを食べた。結構いける。丁度有り難いことにラド［ココナッツ粉をまぶした小麦粉あるいは米粉の団子］を少し、ピパ［棒状砂糖］と３カップのブスケ［腐った］カチャン・タナー［ピーナッツ］（１カップｆ１で！！）手に入れたところだ。いっぺんにｆ７，２５無くなった。あの砂糖はホッとする。１ｃｍ２の一片をコーヒーと共に。ついこの間、収容所市でｆ０，４０の棒石鹸を一人に３つ、１カップのカチャン・イジュー［小さな緑の豆］をｆ１，２０で、それに卵１個とJ.H.にココナッツ１つ＝ｆ８，１５。よく聞いてよ。それでも私は、食べ物で買えるものは買っておく。粉でさえももう不足している。また何か売るようにしよう、急激に無くなってあわてないように。この前の月はｆ６しか掛からなかった。楽しいゲームでしょ？まあそれでも、今や売るものはほとんど無い。

エルレー

1944年7月8日

この紙に全部書いてしまったらもうこれ以上続けられません。ノートは、もし売りに出ていたとしても一冊ｆ２，５０もします、高すぎるわ、それなら食べ物の方を買います。

エルレー

1944年7月12日

この頃私達はサゴ粉を使って自分たちでヌードルを作ります。結構うまく行って、とてもおいしいのよ。私達は将来にも簡素でおいしく食べられるでしょう。昔なら全然食べなかったであろうものの作り方を沢山習い、食べることを覚えました。肺や胃や内蔵はスープにするととてもおいしいし、その後香辛料の効いたおかずやサジュール［野菜（料理）］にします。もしそんなものをもらったら、ここではとても楽しみます。それをきれいにするようにしなければなりません、それが肝心です。私はアップリケをすることも習い、私の初めての敷物がもうすぐ完成します。その後には復活祭用の敷物を、やはりアップリケで作るつもりです。次の復活祭の時にはそれをあなたのテーブルに敷きましょうか？[...]

私の濃い色の肩掛けは売りに出しました。ｆ９０にはなると約束してくれました。それは空腹を避けるための、沢山の追加食料になることでしょう。パウリンのライデン織り毛布はｆ８０です。お金が入ったら、何かおいしいもので祝いましょう。しばらくは本当に飢える心配はないでしょう、全ての食事が倍になった方が良いとは思っていても。トランクには売れるものがまだ入っていて、必要とあればそうするでしょう。

エンゲルーブラウンス

1944年7月13日

１０日に、やれありがたいことにサッカ［砂糖］と白砂糖（ヤップの金で）を手に入れた。大した量ではないけれど、それでも・・・ありがたい、砂糖なのよ！！これでまたしばらくは何とかなる。それに昨日は今度はサッカの小さな板を一枚ｆ０，６５（ｆ０，９０のはずが）で買うことができ、テルース［直ぐに］４枚買った！これからは少しずつ砂糖を買い足していこう。私達は空腹のためにいつも頭痛がする。とにかく、今は米を２１カップ近く貯めたし、これで貯めるのはベツール［本当に］止めて、これからの分はみんな食べてしまうのだ。焼きそばは、ぐちゃぐちゃ［粥］と粉とプランチェスブラールン［カッサバ芋の葉］少々を入れて、とってもおいしく作れる！！丁度ココナッツと、大人用にコーヒー１杯分、大人一人１個の卵

の、お金を払う物資市があった。物が入ればもらえる。これでまた多少なんとかなる、ありがたい。日曜用に古いココナッツが残してあり、こんなに早く、もう一つ買えるとは知らなかったのだ。その他に関しては、いまだに飢餓状態だ！！カチャン・タナー［ピーナッツ］はもう１カップｆ１．７５、その後またｆ１．２５。私、これはおかしい、と思ったわ。でももし私の２枚の毛布の内の１枚をミップ・アーンデヴィール［ーファン・レーウン］を通じて売れたら、即座にカチャン［ピーナッツ］４カップと濃いケチャプ一瓶（ｆ７．５０で！！）を買うわ。だってもう油はもらえないんですもの！あれはちょっと破れた薄い毛布だから、ごまかせるかどうか問題だけど。ｆ４５か５０で売ると言ってある。彼はｆ４０と言った。ミップにｆ２で、つまりｆ３８が私達用だ。でも私はどうかなと思っている、古い毛布だからね（１９３０年に買ったのよ）！今や子供達は直接コブ袋の上に寝ている。ともかく、お腹に何か入っていた方が、ベッドにシーツがかかっているよりいいわよね、パパ？こうして私は経済状態を少しでも良くしようとしている。プアサ[60]が近づいているので（８月半ば）全てはひどく高く、また高くも売れる。みんなはぼろを着て歩いている。あの朝食用のテーブルクロスも売ってしまおう。全ては不必要な贅沢品だ！！これから私達のベラスを食べてしまって、それから時々カチャン・イジュー［小さな、緑の豆］やカチャン・タナー、砂糖やコーヒーをいくらか買い足そう。それらとあのケチャプで、何とかできることをしてみるわ！それでなかったら問題よ。あの現地人の女性達は金銭に埋もれている。この間また一人、（ワヨン夫人）が来て、ナイラントの所で蘭印のｆ１０００以上をちょいとオランダの金に両替した。おお、彼女はｆ３０００かｆ４０００持っていたのだけれど男性収容所に送ったのよ。まあともかく、私が何とかやっていけたらね。火曜日から火曜日までメタにｆ２で料理させている。１日平均６，７人の散髪客がいる（＝つまり約ｆ１）。しかし自分たちで全てを掃除したりしなければならないので、料理だけでは大した違いはない。火から少し遠ざかっていたいだけ。

エンゲル-ブラウンス

1944年7月20日

最愛の可愛い人！またもや１週間過ぎてしまった。やれやれ、２度と書くことができないかのようだった。嫌になる。いつも何かあるのだ。丁度今しがた、フレート・ファン・ダー・リンデンが私のタンゴ布の金を持ってきた。最初はきっちりｆ６０の儲けになるはずだった。しかしｆ６０－１０％＝ｆ５４以上にはならなかった。さて、それは２．１／２ｍで、私は約ｆ５．５０払ったものだ。ボレー！［まあまあだ］この間２５セントのピン（ヘマ［安物スーパー］の）を小さな店でｆ２．５０で売った。丁度煙草のお金ｆ１．８５プラス私の散髪代で金庫にはまたｆ５７０がある。まだバニャック・バラン［充分な物資］を売りに出していて、その

[60] イスラム教の断食時。

中にはあの朝食用テーブルクロス、タフタのドレス＋ハサミ、青い帽子、ハンクのコンビネーションスーツ等々がある。しかし、残念ながら今は闇商品はホンのちょっとも手に入らない。

エルレー

1944年7月20日

丁度１時間前に私の毛布のお金を受け取りました、ｆ８５です。１０％は販売料で、つまりｆ７６．５０手元に残ります。これでまたやっていけます。

エルレー

1944年7月24日

充分豆を購入したおかげで私達の食事はいくらかましになりました。まだお金があって良かったわ。今はコーヒーも充分にあります。それも大切なことなのよ。今では私も只のブラックコーヒーを砂糖を入れたり入れなかったりして飲んでいます。将来もこうして飲むでしょう。ミルクを欲しいと思うことは全くありません。ただ、砂糖、油脂、肉、卵、それにココアが私の欲しいものです。それから充分な食事。しかし、私達は料理の本からの食事を想像し、将来はそれを楽しむと自分自身に約束して自らを慰めています。‘人々’はあと数ヶ月だといっています。私達は今、米と、私が調理しているときに数十匹の太った芋虫を取り出した、プランチェスブラーデン［カッサバ芋の葉］とジャグン［トウモロコシ］のサジュール・ロデー［野菜スープの一種］を食べています。でも、おいしいのよ。

エンゲル-ブラウンス

1944年7月26日

私の２本目のバリカンが、つまりバネが壊れたのでちょっと直しに出した。残念ね、大勢の客がいたのに。多くのバリカンが壊れている。殆ど誰も散髪できない。いずれにしても、今はちょっとお休み。私の足のためにもいいわ。

エルレー
1944年7月27日

パウルも彼女の毛布をｆ７０で売ることができた。つまり、私達はまたしばらくは大丈夫。

エルレー
1944年8月5日

値段は飛ぶように上がっていきます。闇のカチャン［ピーナッツ］はもう１カップｆ２．５０もします。私は濃紺の絹パジャマズボンをｆ４０で売りました。これはｆ５以上はしなかったものなのに。だから、今ならピパ［砂糖棒］を買うことができます、有ればね。それは今ではもうｆ１０かｆ２５します。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月5日

他には何も特別なことはないわ。午前８時３０分粥（米がいくらか入ったどろどろで、砂糖抜き！！）；１０時薄いコーヒー（砂糖無し）；１時米と野菜（もし有れば：プランチェスブラールン［カッサバ芋の葉］）と、ほんの少しの挽肉。夜も同じ。午後４時にお茶。ごくたまに小バナナかパイナップル少々！！でもあの卵、最高だわ［病気のための追加食料］！だから砂糖は自分で何とかする、そのお金が無くてホンの少しのヤップ砂糖が終わったら、もう砂糖無し。悲しむべきでしょ？白砂糖は今やもう１カップｆ２．７０かｆ３．１０する！！

エンゲル-ブラウンス
1944年8月21日

昨日はひどかった！塩がもう無い（買い足すこともできなかった！）；砂糖無し；３日間野菜無し；ベラス［脱穀した米］も粉も少なすぎた。とこんな感じだ。ありがたいことに今日塩いくらかと砂糖をもらった。闇商品はこれっぽっちも入ってこず、闇取引の女性達のためだけだ。彼女たちはまだ良いものを食べている。まずい白砂糖１ｋｇがもうｆ１７．５０；細いピパ［砂糖棒］１本ｆ１．６０だ。

エルレー

1944年8月22日

私の最後の白い綿布でブラジャーを２つ裁ちました。無漂白の布がｆ２５近くもする今では高価な品物です。この白い綿布もそのくらいはするでしょうからね。ブラジャー１つがｆ７．５０に当たり、それをまだ自分で縫わなければならないんですから！！またサッカ［砂糖］を少々もらいました。それでなかったら砂糖不足は深刻です。私は砂糖不足のためだけで腕の筋肉が疲れて力が出ません。後になったらさぞおいしいものを食べて、そしてその食べ物に感謝することでしょう。あなた達も今同じ様な状況にいるのでしょうか。砂糖の国ジャワで砂糖不足に陥るなんて、ほとんど考えられもしないわ。さらに、こんなに少ない食料で、こんなに欠乏していて、それでもこんなにして生きていけるなんて不思議です。私達がいつもしっかりした布や下着を買っていて良かったわ。これがどれだけ長持ちするか、驚いてしまいます。いまやっと、叔母があんなに少ないお金でやっていけたのか分かりました。今では、私でもやっていけると思います。

エンゲル-ブラウンス

1944年8月31日

私達の１日分の配給米は１回の食事分にも足りない。そしてあの粉は一回の粥食にも全く足りなくて、例えばクリーム煮のとろみをつけたり、１杯のどろどろ粥や、パンケーキを作ったりといったその他の目的にも足りない。私達のカチャン・イジュー［小さな緑の豆］はほとんど終わり、茶色豆も同様！！テルラルー［おそろしくひどい］じゃない。

エルレー

1944年9月4日

またもや他の医師が登場して、その人が米が少ししか来ない情況を終わらせました。つまりもっと多くの米が来て、私達の家の秤は、昔３．１／２カップだったものが、今や５．１／４カップを指しています。さあ、随分な違いでしょ、まるで焼け石に水みたいよ！！食事が多くなると気分も良くなります。野菜は溢れるほど入ってきて、コーヒーや茶色豆も来ました。今度は砂糖と、カチャン・イジュー［小さな緑の豆］が来なくては。それにプランチェス［カッサバ芋］も沢山来て、１００グラム＝１食分につき５０セント払いました。ブスック［腐ったもの］も沢山あり、それは交換してもらえました。

エルレー

1944年9月13日

サゴ粉は終わってしまったと見えて、今や私達はプランチェス粉［カッサバ芋］の製造カス、あるいは不完全品かも知れないものを受け取っています。プランチェスは細切れにして日干しにし、その後押しつぶしてあるものなのです。さて私達がもらうのは、つぶしたものの一部、つまり小片や小枝プラス粉がいくらかなのです。量も少なくなっているので朝食と昼食両方には足りません。それに加えて、おいしいとはとてもいえない。さてそれでも私達はここを乗り越えるでしょう。またサッカ［砂糖］と砂糖を受け取りました。今日は一人３食分の野菜があり、これからまだプランチェスが来れば、明日はやっと充分な食事が食べられるでしょう。どのブロックから配り始めるか、まだ分かりませんが。その時には独身女性と戦争捕虜の妻達は追加食を買う機会が与えられます。肉の配給もまた私達のブロックに近づいていて、つまりこれから良い時期に入るのです！

エルレー

1944年9月14日

私の古いバタの布でサンダルを作り、数本のピンクのベルトで足首に結ぶようにしました。私の木靴はダメになってしまい、私は裸足で歩くのはいやなので。収容所は今日、乾燥唐辛子の入荷に沸きました。私はこの頃ではそれを茶さじ一杯一気に食べてしまうし、サンバル［唐辛子調味料］の瓶を、そのまま米も無しでなめる事さえできます。文字どおりいくら食べても足りません。

エルレー

1944年9月17日

一昨日は脂肪５食分と皮５食分一度に受け取りました。前者は小さなミルク缶１杯の脂肪ととてもおいしいカラカラ焼きベーコンになり、‘皮’は骨と沢山の肉から成っていて、舌鼓をうって食べました。昨日の夜は暗闇の中に座って、パウルと私はまるで犬のように骨をかじっていました。柔らかく煮た軟骨さえ私は食べてしまいます。食べられるものは何も残りません。

エンゲル-ブラウンス

1944年9月17日

今やぐちゃぐちゃ（はサゴ）粉ではなく、腐ったプランチェス［カッサバ］とジャグン［トウモロコシ］受け取り、私達３人分で小さな緑のコップ３杯だ。全く少なすぎるし、危険な品だ。[...]１２時に乾いた米（２カップ：つまり１日分の米がこれで終わり！！）をいくらかのレンペイェ［ピーナッツクッキー］と一緒に私の［肉の］皮（もう２回煮ている）に入れて煮た。そして今夜は自分たちで作った米粉、つまり予備のベラス［脱穀した米］から作ったもので、クウェー・タラム［小プディング］をつくる。今や私達の砂糖が終わり（とっても節約していた）、またひどいことになる。ありがたいことにロットからカップ５．３／４杯のベラスを追加にもらった。ええ、こうして私達は助けられている。しかし４００グラムの米が病院入院患者に行き、２００グラムが私達に来て、それでも病院ではまだ足りないので、フダン委員会［倉庫委員会］がどうしてこうなったかに関して会議をした。つまり、これでまた少なくなる可能性があるのだ。また、収容中、近々受け取ることのできる金銭の領収書に署名をさせられた（男性収容所でフウルスト［用意された］）。私は１９４４年６月まで［？］でｆ６１６．２０＋ｆ１６２．２０だ。パダン用に１日ｆ４．５０。ここは１日ｆ９、そしてスゲイペヌーはｆ？？（ｆ１２という意味）。

エルレー

1944年9月19日

私達の新しい‘粉’は粥にしてはほとんど食べられません。今朝‘袋の中のヤン’料理［粉を袋の中に入れて茹でたもの］にして食べましたが、たいしておいしくありません。今度は粉を混ぜて、それで明日の朝は粥を煮てみます。どうなることでしょう。私の手はもう二度ときれいにはならないような様相を呈しています。煙がしっかりこびりついて、髪まで赤茶けてきそうです。皮膚にも煙がついて石鹸では取れません。だから私達も赤茶けていて赤毛の髪になっています。私達が自由になったら、数十のジェルックで自分を磨き立て、そうすると浴室から出るときは確実に茶色が半分くらい落ちているでしょう！！私達の衣服にも同様の問題があります。ですから、それがどんな様相か、聞かないで下さい。

エンゲル-ブラウンス

1944年9月23日

ドールンマーレン夫人と、ファン・ハッセルト夫人と共に（この後者は滅茶苦茶な食べ方をする）追加食糧組になった。食事は‘フルット・ベサル’［ひどい状態］で、ほとんど半分になっている時なので、ラッキーだった。スキャンダラスだわ。今は午前に粥＋ぐちゃぐちゃ（そして新しい粉少々）、砂糖抜き。昼にはホンの少しの乾燥米とぐちゃぐちゃにした野菜にぐちゃぐちゃにした挽肉（ちょびっと！）。それからお皿が引かれて、またいくらかのお粥が例外的には乾燥米が入れられる。夜は‘ロントン’［小さく固めて（バナナの皮に包んで）蒸した米］、つまり盛大にぐちゃぐちゃの入った米だ。まずい、千回でも言う、まずい。これは量を増やすためだ。見るに耐えない。全てはぐちゃぐちゃだ。そのロントンは、サユール［野菜］のロントン付きだ。全くもう。私達（私は、）こんなくずより、少々少なめの乾燥米をもらっていた方がずっといい。しかし、この屑の影響で、私はもう食べられなくなっている。前には、乾燥米２食分は食べられたのよ、それなのに今はロントン半食分だ。私にはこの物体は食べられない。直ぐお腹一杯になってしまう。私達は１日米を、いわゆる３００グラム受け取ることになっている。収容所では２００グラム(J.H.は約１５０グラム)；しかしあの３００グラムはどこにも見あたらない。どこに行っているのだろう？？

エルレー

1944年9月25日

昨日は追加野菜として大きなケチムン［キュウリ］を２つもらいました。さて、それは大ご馳走でした。私達はそれにナシ・クーニン［ウコンの根で黄色く着色した米］と六つもの‘おかず’、つまりセルンデン［焼いたココナッツおろし］（ティースプーン２杯）、ケチムン１／５、プランチェスブラーレン［カッサバ芋の葉］をテーブルスプーン２杯、サンバル［辛味調味料］とプランチェスのパンケーキ（直径１０センチ）を食べました。全てはお人形用の量で、米は６歳の子供用としては充分というのが分かるでしょ。朝食は３歳［児］用で、昼食はまた６歳児には充分の量です。これで死ぬことはありませんが、それだけです。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月28日

今日初めて食事が変わった。午前中はジャグン粉粥［トウモロコシ粉から作る］に何も付けず（ひどいと思ったが食べた）。２杯もらうが、２杯目はいつも返していた。今度は子供達にあげよう。もうすぐ乾燥米で、今夜もだ。でも少しだけ！そして今夜は粥をいくらか追加に。私は追加にブイヨン（＝水）を、みんなに何も入らないどぶ水コーヒーをもらう。子供達は砂糖を食べてしまい、塩ももうすぐだ。愉快な事よね。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月30日

［収容所内病院で］子供達が快調でありがたい。本当に嬉しいことだ。ただヤン・ヘインはまた痩せた。今私は彼らに内緒で私の朝粥の半分をあげている。私はいましょっちゅう追加をもらうし、乾燥米もだ。追加がなかったら本当に飢えに苦しむ、だって夜の粥はなく、昼と夜の乾燥米だけだ。昨日は自分ではほとんど平らげられなくて、今度からは全てをもらっておいて、多い分は子供達にあげるつもりだ。誰にも言わないで。カップに入れて白い洗濯物と一緒にハンクに持たせる。[...]

バンザイ、今朝は塩、砂糖にサッカ［砂糖］が入った！すごい！！もう２日間一粒の砂糖も味わっていない。男達からの贈り物の車もきた。私達へのおごりは・・・修繕したおまる。おもしろいでしょ。ああそうだ、２８日にセンセーショナルな知らせ、それはヤップが来て言うには“カムー・プンニャ・ネグリ・ブランダ・キリム・ｆ２８，０００ブアト・ホランダー、ダン・ｆ２５００ブアト・オラング・イングリス”［あなた達自身のオランダがオランダ人にｆ２８，０００とイギリス人にｆ２５００送った］。そして、その“カムー・プンニャ”から、みんなオランダが解放されたと思っている。私達はそれぞれｆ１０もらう；お金はコック要塞の銀行にある。先ず見てからね。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年10月

今や何でも入ってくる。砂糖、煙草、バナナ焼き、コーヒー・[...]入ってくるものの質は悪い。私達の唯一の野菜は今やプランチェスブラーレン［カッサバ芋の葉］だ。１０日に１度カップ１杯の砂糖をもらう。私の所ではもう２日間砂糖無しだ。私達は単純に砂糖を取っておけな

い、ヤンチェも私も。毎度、また砂糖一匙舐めてしまう。調子が良くなるわ、また力が戻ってくるのが分かる。

あのぐちゃぐちゃ粉から私達は麺や煎餅などいろいろな愉快なものを作っている。挽いた豆と粉のパンも焼いている。

エルレー

1944年10月1日

またもや驚きがありました。２８日にオランダが私達一人につきｆ１０送ったという知らせが来たのです。それはコック要塞の銀行に預けられました。それではヤップがそれを食糧に変えるようにしなければ、私達にとってはあまり意味がありません。彼はいずれにせよ、私達の国、と言ったのです！それは、長い間なかったことでした。人々はこの知らせを直ぐにオランダが解放されたことと結びつけています。[...]

私達の最初の鍋がダメになりました。底に２つ穴が空いて、底の抜けた、持ち手のないマグカップや爪ブラシと一緒に男性収容所に送られます。しばらくしたら、また‘再び新しく’なって戻ってきます。私達は今ではオマルで料理していて、やはり持ち手が無くなっていますがとてもうまく料理できます。最初にしっかり沸騰させて、今や素晴らしい‘鍋’になりました。

エンゲル-ブラウンス

1944年10月7日

昨日、J.H.は米と粉を取りに行くとき、お腹がすいて生のままの米をつまみ食いしているということを聞いた。ひどいでしょ？！聞くに耐えないわよ！アニー・L［ロトマン-フックストラ］がそれを見つけ、彼はハンクから罰を受けた。彼はまたどんどん痩せている。どうしようもないわよ。５歳から７歳までの子供達が本当に被害を受けているのだ、追加食糧を受け取ることが全くないのだから。３歳までと８歳からはもらえるのに！こんな事が、私を心配にさせる。彼は本当に身なりを構わず、収容所内を放浪している。

エルレー

1944年10月13日

漏れていた鍋が男性収容所から戻ってきました。鉄片を打ちつけてありました。今度は鍋として使っていて、持ち手があったところが大きな穴になってしまったオマルを送ります。その穴もまた閉じ付けてもらえば、再び使うことができます。

エンゲル-ブラウンス

1944年10月15日

今やクラーチェ［オーレンロト］は突然私達のために料理するのを止めてしまった。彼女は下痢している。ニコリンが、この土曜と日曜に私達をヘルプしてくれた。さて、どうしよう。私達はまた自分たちでやることにした、料理するものはホンの少ししかないのだし、どうせ火を入れるまでの用意は全くすべて自分たちでしていたのだから。朝食用コーヒーぐちゃぐちゃのための湯を尼僧達のところで沸かして良いかどうか聞いてみよう。ええ、彼女たちは皆私と顔見知りよ（病院に５回居た）最近では、そして妙に優しい、つまり私にならね、だから私達ならいつでもあそこに頼めるのよ。ハ、ハ！そしたら１１時半にちょっと私が料理に行って（粥＋乾燥米＋野菜、または粥だけ）、６時にハンクか私がちょっとチャーハンかなんかを、それで出来上がりよ。大きな心配事は薪だ。私は今は自分で外に出られないし、子供達も行けないのでいくらか追加の木がもらえる。さらに私はまた１４日間病人用皮をもらえる、だから毎日ブイヨンがあり、細切れにした腱や筋を炒めている！！何とかなるわ。明日どうなるか、まあ見てみよう。ニコリンはすごく器用だ。私もとてもやる気がある。そうしたら、一匙のベラス（脱穀した米）も粉もかすめ取られないことは確かだわ、この餓えの時期にはそんなことがあっても不思議はないからね。これからは１日せいぜい２人か３人の散髪客を取るようにしよう。もう、全然やる気がしない。

エルレー

1944年10月18日

その週はその後は肉の週です。私達が内蔵を買う番に当たっているのです。もう胃を一切れ手に入れたし、昨日はなんだか分からない一切れ、おそらくは子宮です！！きれいに白い、軟らかな肉です。おいしいブイヨンにおいしい肉。私達は何でも食べます！私はまた肝臓一切れ手に入れ［メファン看護婦は彼女を衰弱者リストに入れた］、それを焼かせました。今回はとて

もおいしくて手づかみでがつがつ食べてしまいました。こんなに続けて肉を食べると、体にいいのが分かります。今日もまたです、とうのも私達は内臓５切れ分の権利があり、まだ２切れしかもらっていないからです。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月20日

１０月も終わりに近づいている。ああ、何て酷いことになるんだろう。私達は本当に飢えている。今のところまた４日間砂糖無し（ある時は１日ティースプーン１杯）で塩もほとんど無いと同じだ。私は乾燥ロムボック［唐辛子］をベラス［脱穀した米］と交換し、ペディス［辛味を付ける］が盛大にできるようになった。砂糖は緑カップ１杯ｆ１２する。ナイラントは何でも買い上げている。サゴ粉カップ１杯ｆ２にベラスｆ６。彼女はピパ［砂糖棒］も幾つか持っていた（１個ｆ３で、闇で仕入れた）。わかる、私はピパのためなら殺人もしかねなくなってきているわ。[...]時々私達はサゴ粉を２杯もらう、つまりヤン・ハインは無し。ガプレク粉［カッサバ芋粉］はもう無し。しかし米は少なくなり、恥知らずなほど少ない野菜（だいたい５日に１度）。だから畑仕事の人達は畑からプランチェス［カッサバ］を盗むのだ。全員がヤップによって前に呼び出され、もしこれがもう一度発見されたら、全員の配給量を半分にするという。あなた達も空腹でこんなにフラフラなの？

エルレー
1944年10月28日

奇妙な日々です。あのサッカ［砂糖］が収容所に流れるように入ってきました。今もう籠に３５杯、この前まで８個入れるのに苦労していたのに。私達も、丁度配給があったところで一人３００グラムｆ０．４５［あるいはｆ４５．－？］です。私達のバター缶は一杯で、私達みんなそこからつまみ食いしました。タイスは３枚を溶かし、明日の朝は砂糖入り粥を食べます、この一月間できなかった贅沢です。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月31日

私達はまだ空腹だ。人々ががっくりと衰弱していくのが分かる。元気が出るようなことも何もない。引きずるように生きて行くだけ。そしてとても貧乏になる。櫛も練り歯磨きももう無い。私達の毛布や枕カバーもお終いになりかけている。そして恐れで震えながら自分の持ち物を見る。全ては壊れてきて、石鹸もほとんど無い。哀れだ。この数日間にありがたいことにずっと沢山の砂糖などが入ってきた、つまりサッカ［砂糖］、石鹸がいくつか、少なすぎる塩だ。まだここに茶色豆が来なければ。これは皆、もう闇取引が無くなったらの話しだ（またもや見つかったのだ）。サッカはひどく沢山で、一人１５００グラムももらう。もう６００グラムもらい、残りはまだ来ていなくて、フダン係［倉庫係］は気持ちが悪くなるくらいつまみ食いしている。私は粉をカップ５杯ｆ１０．５０で買った。高いでしょ？そしてそれでも何も変わった感じがしない。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月4日

ほら、またサッカ［砂糖］４００グラム（濡れたのと乾いたの）をもらった。さあ後５００グラムよ。サッカの分配に、こんなに長くかかってのろのろするなんて恥ずべきだわ。その間にもネズミがおしっこをひっかけ、かじり、そしてフダン係［倉庫係］はメチャメチャにつまみ食いしている。彼女たちは仕事を終わらせられないのに、手伝いはいらないと言う。塩は今回は全く少ない。まだ入荷すると約束があったかしら？？恐い話しだ。私達はサッカの小片入りのコーヒーを山のように飲み（そしたら朝食は無し）、本当に楽しんでいる！！何も溶けない。粥と一緒の方が、節約できる。私の白砂糖（小カップ３杯）と９．１／２のサッカ板と取り替えさえした。その方がずっと沢山のことができる！！便利でしょ？茶色豆はまだ入ってこない。プランチェス［カッサバ］ももう入ってこない。バンザイ、...やっと（子供用）ココナッツがもらえる、つまり...明日はお祭り、つまり、ナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色く色付けた米］とサゴ粉クッキー、セルンデン（アンパス［くず］とココナッツとプランチェスブラーレンの［おろしたものを焼いたもの］、棒状エビ煎餅風（サゴ粉の）を幾つかと、もしかしたらもしかして挽肉だ。私達は今からもう味を楽しんでいる。昼には泥水コーヒー粥と生ぬるいココナッツミルクと、おまけとして米粉と小麦粉の小パンだ。お祭りでしょう？私達は今は何回も肉をもらっている、小さな肉片だけど。J.H.のホンの小さな肉片は生で細かく切り、それでホントにおいしい肉団子を作る。ここしばらくはいつもこれにしよう。コーヒーを２袋（１袋７５セントで）買い、ココナッツ＝８０セント。さらに、私達は一人７５ｃｃ、J.H.に

は５０ｃｃの油を？？週間に１度もらう。哀れなほど少ない。しかたがない。野菜はいまだに酷く少ない。米の追加は知事によって禁止され（！！）たが、４日に１度大人達には追加の粉だ。J.H.には無い。私達はあの砂糖（サッカ！！）に本当に喜んでいる！！

エルレー
1944年11月9日

私の誕生日［１１月７日］に茶色豆も入ってきて、私達はすでに一人２カップ受け取りました。これほど長く食べていなかった後なので、とてもおいしく感じます。今日はトラシ［魚あるいはエビからの抽出物］を買うことができました。今はとてもおいしいと思います。ブロック全体にこの匂いが漂い、皆楽しんでいます。今夜はこれをチャーハンに直ぐ入れ、舌鼓を打つでしょう。それにまた唐辛子も潤沢に供給されました。私はそれをテーブルスプーン１杯一度に食べてしまい、どれだけあっても足りません。将来はどうなることか。私はジャガイモに唐辛子やトラシを添えて食べることになるのかしら？それはその時のこととしましょう。あのヤップは食料供給に今やとても寛大になっています。これはどういう意味があるのでしょう？

エンゲル-ブラウンス
1944年11月13日

１１月１１日土曜日の聖マールテン祭の時以来、私達はまた自分たちで料理している。とっても楽しんでいるわ。もっと沢山食べて、味もいい。私達は夜調理する。真っ暗闇だけど、涼しいし、木炭が沢山あって、つまり木を節約できる。木は充分にあったことがない。哀れよ！午後に私が散髪しているとき、ハンクはちょっと何かを暖めたり焼いたりする。時には私がそれを１２時にする（できるだけやりたくない、大暑なのだから）。例えば今日は乾燥米を２回＋焼きそば２回（米１鍋＋焼きそば１鍋）。それにケチムン［きゅうり］とルジャックソース（トラシ［魚、あるいはエビの抽出物］、サッカ［砂糖］、塩、サンバル［辛子香辛料］、ジェルック・ニピス［ライム］に((昨日の))豆を平らに叩いたもの少々）を添えて。舌鼓を打った。私達はよく１時に堅く冷やしたコーヒーぐちゃぐちゃ（あるいはクウェー・タラム・ブラゼー、つまり米粉層［のプディング］を、そして夜は乾燥米の食事を作る。クラールチェが料理していたときは米が沢山盗られて過ぎていた。私達は自分たちの料理手際にとても満足している。[...]私達は今や大量の豆（茶色）を受け取り（子供は半分）、大人は９０グラムのトラシをｆ１．５０で買うことができた。ああ、なんておいしんでしょう！！一度に食べてしまえた

らいいのに！！日曜日は追加の小パンに舌鼓を打った！！ココナッツは残念ながらもう全然もらえない。それでいろいろできるのに。ああ、ああ、なんて暑いんでしょう。

エルレー
1944年11月25日

今夜はパウルと私が１－３時まで夜警番をしました。私達はぐちゃぐちゃ米にフゴンセンド［煎った］茶色豆ソースを数匙かけたエクストラのスナックを作りました。この収容所言葉はあなたには分からないでしょうね。ぐちゃぐちゃ米は挽いた米とサゴ粉の粥で、フゴンセンド豆は先ずハンマーで打って平たくし、ほとんど油を敷かない中華鍋で煎ったもので、それをゴンセンするというのです。そうするとカリカリになって、コーヒーミルで直接挽くことができます。そしたらそれでカチャンソース［ピーナッツソース］を作るのです。このフゴンセンの良いところは豆が１５分で食べられる柔らかさになることです。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月25日

私は昨日からまた１４日間病人用皮をもらうことになった。すごいでしょ！！！私、ホントに嬉しい。これは毎日私達３人にブイヨンカップ１杯と、焼いた皮があることを意味する。私はどうやらまだ衰弱者リストに載っているらしい。ニコリンチェがこれで１週間私達のために調理している、とてもおいしい。彼女は金はいらないと言う。さてどうしよう？自分たちで料理することをいつも考えているが、実際にはその可能性はない。リース・ホフケスの古いアングロ［コンロ］を借りることはできる。しかしあの暑さ、あの木のごたごたなどで、本当にやる気を無くしてしまう。どうしようもないと感じるのはひどく嫌なものよ。丁度J.H.の古いスーツをカップ８杯の米で売り飛ばした。私の茶色のスエード靴も物々交換に出そう。米とか、粉なんかと。最近は物々交換が飛ぶようだ［？］。

実はこれは禁止されているのだが、しかしみんなやっていて、だから私達もするのだ。一度でも充分に食べられたら、何と満足することだろう！！そしてロットのあの言葉！私をまだ覚えてる、パパ？まだ毎日忠実に５，６あるいは７つの新聞を午後４時から６時半まで切り抜いて。とてもベラト［大変］でしょ。[...]バンザイ、J.H.のスーツで買った粉の、最初の１カップが来た。一息付ける。多くの人達はもう砂糖もなく、豆もない。そう、豆はどんどん無くなり、砂糖はとても節約している。さて、私は夕べ、ちょっとアンスv.d.メール［-ヘリンハ］の所にいて、彼女の粉２つとコーヒーとを交換した。ハウス夫人ともロムボック［

唐辛子］と１／２カップのベラス［脱穀した米］とを交換した（私がロムボック）。何というかき集めでしょうね？さらにまたトラシをいくらか買うことができて、フリート（三つ子）から譲り受けることができた。私はこのまま食べてしまえるだろう。

エルレー

1944年12月3日

調理場理事の［A.］ドゥ・ブール［-クシン］夫人は今朝ヤップと一緒に市場に行って、幾つかの値段を控えてきました。鶏一羽ｆ１５，魚一匹ｆ２８，ピサン・セライ［バナナの一種］一シシル［房］ｆ１．４０。[...]さらに、商品はとても少なかったと言うことです。ということは、私達がこの中でこんなに手に入れているのはまだ良い方だということです。昨日はまたロムボック［唐辛子］をもらい、きれいな赤の乾燥したものです。私達は５人分もらって２人半で食べているのでいつも充分にあり、たっぷりだとさえ言えます。

エルレー

1944年12月6日

聖ニコラス祭がまた終わりました。私達はそれを追加の食糧で祝いました。フダン［在庫用倉庫］には収容所用の米が保存してあり、私達は全員そこから配給半分分を追加でもらいました。朝食にはいつものジュルックぐちゃぐちゃ［レモンジュース粥］を食べました。その前の日に、米＋茶色豆＋粉＋チェンゲ［小型の唐辛子］＋シナモンのパンを作らせました。スペキュラース［聖ニコラス祭に食べるシナモン味のクッキー］の味を思い描くことができました。それは５日の夜に２／３を食べ、１／３は６日のためにとっておくつもりだったのですが、５日１２時のコーヒーの時にひどく食べたくなって、もうその時１／３をコーヒーを飲みながら食べてしまいました。１時半に焼きそばを大盛りで。５時半に５カップ近くの米で焼き飯と大盛りのケチムン［きゅうり］。夜には骨を３人分もらい、それでブイヨンどろどろを作り、私達の２／３のパンをすっかり平らげました。さてこれで、やっと満足を感じています、しかし...それでも、もっと多かったら良かったのに。さて今日はまたもやあの骨のブイヨンを飲み、しばらくしたら緑ごはんといっしょに、全員かじるための大きな骨です。そうするとまるで自分が子犬になったように感じます。骨は本当に徹底的にかじられて、犬でも、これ以上かじるなんて事はできないでしょうから。

このようにして、ここでは全てが食べ物で、特に充分な食べ物かどうかで明け暮れます。そう、ここでの原始的な生活においてはそれが最重要ファクターなのですよ。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月6日

私達は１週間近く前から自分たちで料理している。ラ、ラ。J.H.は私のために男性収容所のアングロ［コンロ］を勝ち取った（ごくたまに一つ、入ってくる）。ヤヌシェはくじ運が強い。私達は狂喜している。今料理しているところで、ツングールス［コンロ群］の煙の外にいる。午前７：３０風呂、８時料理。朝食ができたら、米をかけて、ちょっと朝食をする。私達は空を飛ぶ鳥のように自由を感じ、今までよりも沢山食べたような気がする。妙なものね？

エンゲル-ブラウンス
1944年12月18日

そしてバンザイ。昨日、私は医師リストからＢ券[61]でカチャン・イジュー［小さな緑の豆］２カップをｆ３．５０で買うことができた。全くやったでしょ？これでやっとクリスマスと大晦日、正月用に予備ができるわ！！私達の豆は終わってしまった（カップ１杯の白はまだクリオ用）。それから私達はデデク［ぬか］をみんな食べている。私達の鵞鳥の餌だ！！脚気用に上澄み液を！それに、ふるいに掛けてフゴンセングト［焼いた］ぬかでパン、パンケーキを作る。今は私の硬直した脚のために、毎日もらえる。脚はまるで棒のようだ、特に膝が。だからよたよたと歩いている！（砂糖不足からくるのだ）油だけが入ってくる。コーヒーなどはまだ無い。私達はそれが欲しくてたまらない。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月26日

やっと昨日、大歓声の下にサッカ［砂糖］と・・・カチャン・タナー［ピーナッツ］が入り、それはその日の内に分配された！！素晴らしい！ヤップから歓声を上げるのを禁止された。そして今やホンの少しのコーヒーとトラシ［魚、あるいはエビの抽出物］が入ってきた。カチャン・タナーは一人ｆ２（緑のカップ１杯＝小さな缶１杯）、サッカは一人２枚ずつ（値段はまだ未定）、コーヒー小カップ１杯ｆ０．６０等々。まだこれから茶色豆がくる！石鹸（ひどい）が１本ｆ１。こんな風に続いていく。私達がまだお金があって、本当にありがたい！何も無くなった人がどれだけいることか！ああそうそう、プランチェス［カッサバ］１包みもｆ１．５０［ｆ４．５０と書かれているかもしれない］ひどいでしょ？ずっと気を付けて来たことを

[61] 脚注28参照。

後悔していないわ。子供達に、今でも、何でも買って上げられる！！丁度イヤリング（１５セントだった）をｆ７．５０で売った！絹一巻き＋スーツを市で粉５カップと、粉５カップ＋ベラス［脱穀した米］２杯と交換。あるいは、お金をもらう。このところは全くひどいかき集め生活だ。テルラルー［ひどい］だ。変なのはトトクス［純血西洋人］は骸骨のように痩せていて、インドネシア系は脂肪が付いて丸々している。ああ、私は涼しさに恋い焦がれている。

エルレー
1944年1月2日

［S.A.］ドゥ・レフト[-フリース]夫人と［その息子］ヴィムが私たちの所に配属されてきました。砂糖以外の在庫は一緒にしました。丁度また、ニッポン金で豆とそれに石鹸を取りに行かされました。私達はそうするとまた茶色豆１４カップ、石鹸５本分豊かになるのですが、ただ、それを取りに行く子供がいませんでした。そこに丁度アンドレが現れて、私が行く必要が無くなりました。明日用の野菜ももうあります、それはバナナの花です。これは細かく切ることができるので、いつも経済的です。私達はもう、バナナの皮のサンバル料理も食べています。それも結構おいしいです。手に入るものは何でも、できるものなら皮からヒゲまで全部呑み下します。プランチェス［カッサバ］の皮、ケチムン［きゅうり］の皮、ワルーやタルー［カボチャの一種］の皮、つまり、まあ全て、そして私達はそれを喜んで食べます、胃が一杯になりさえすれば。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月5日

私達は大丈夫。J.H.ひどく痩せている。この間私自身用に鶏の卵１個ｆ１．２０で（オウンリスクで）３つ、J.H.用に１つ買うことができ、そして・・・買った。卵ｆ４．８０．J.H.は２つ（１つはオムレツで）で、私達はマタサピ［目玉焼き］。ああ、なんて素敵！！２本の湿ったピパ［砂糖棒］もJ.H.に買うことができた。これは全て医者のリストからだ！彼らは私達をつまりまだ忘れていなかったのだ。ええ、ヤン・ヘインにはこれが必要だったわ。病人用の皮もとても貴重だ！！それで本当にいろいろなことができる。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年1月25日

収容所内では粉はまだ買えるかもしれないが、ココナツは無いか、あるいは恐らくｆ５かｆ１０する。ここにはココナッツはほとんど入ってこず、私はいつも気を付けて（もちろん大げさに気を付けているわけではないが）お金を使ってきているので、まだ１年弱はやって行けるだろう。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年1月25日

私達は今月は多少多めの砂糖と、それにバナナも回数多くもらった。全ては不安になるほど高い。小カップ１杯のカチャン・タナー［ピーナッツ］は今やｆ２する。ほら、こうして私はもっと狭く線を引いた紙に書く。[...]それに、私のお金も１年間に分けておく。大体はそれでももっと早くなくなってしまう。充分なお金が手元にあって何という幸運だろう。

エンゲル-ブラウンス
1945年1月28日

私達はまた神経質な時期に来ている。高い市があり、カチャン・タナー［ピーナッツ］（一人ｆ７．５０）、サッカ［砂糖］シロップ（１カップｆ１．９０）、J.H.卵など（鶏卵１個ｆ１．２０：５ｘ１．２０＝ｆ６）。こんな感じよ。ｆ１００を両替しなければならなかった。今や持っているのは破れたｆ１００が１枚、破れてないのが３枚と、銀貨がｆ３８。そして、それでも私はきちんと書きとめなければ行けない。飛ぶように最後まで使ってしまうのは簡単なことだ！！ベラス［脱穀した米］を６カップｆ１０で買った（出来心の買い物。後になったらまた１カップｆ５になるかもしれない、誰にも分からない）。J.H.の薄灰色のスーツを、３カップｆ２．５０の米、ｆ０．８０の粉、ｆ３のサッカのシロップ、そしてｆ２．５０分現金（全体から－１０％割引）で叩き売った。私は貧乏人風にやっていて、皿を豆や粉に換え、猫の餌入れをサッカ、カチャン［ピーナッツ］それに現金に換えたいのだ。少し前に、エランドの守護霊２人（フェッターとフリート）が来て、どうしてもドレスが買いたいという（つまり何かを外に売ったのだ）。ドレスを叩き売るべきか？これは滅多にない機会だ。まだとても良い綿の衣服を３枚持っている。やる？？私には分からない。私のDMC絹を一巻き、ベージュのを、店でヤップがｆ７．５０で買った。今度は黒いのをまた持っていった。こうして、掻き集めな

がらやっていく、それに追加のサッカをｆ１．２５とｆ１．５０で買った。今もうそれはｆ２とｆ２．５０している。

お金のない誰かが、このような市で買い、それの、例えば半分を倍の値段で売るのだ。値段はひどく開きがあり、ときには運の良いときもある（私は全くない、最後の取引を除いては）。そのために、気違いのような騒ぎだ。私はなるべく多くの食べ物を買い足したい、あなたもそれがいいと思うでしょ、違う？[...]おお可愛い人、早く済めばいいのに。私たちは３月４日（石は話す[62]）に希望を託している。そしてそれにしても、私はお金と衣類をなんてまだ良く保っていることか。私はいつもペラン［冷静に］してきたことを自分自身に感謝する。いまでも、自分の番が回ってきたときだけでなく、もっとエクストラにも買い足すことができる。後どれほどかかるのか、分かればいいんだけど。私たちは、だから、２月１７日までは、私たちの毎日の、ホンの少しの米や粉を貯めておく必要はない。何人のトトクス［純血西洋人］が、既に全く何もなくなっていることか。（贅沢をしてもきたのだ）衣服も、糸も現金も無い、等々。あたまを悩まさなければならないけれど、それでも私たちはやり抜くわ。考えても見て、J.H.と私の仲間が、一セントも無く暮らすなんて。こんな事が、例えばヘース・ヤンスンス［-アイデンス］には起こっているのだ。私は苦労して生活しているけれど、今それが報われているのだ。私のバラック勘定（バナナ、ジェルック［柑橘類］、キパス［扇子］、木靴など）は散髪代でカバーする（学費もそうだ）。[…]私たちは１週間に２回薪を取りに行かなければいけない、だから、私が２回行く、J.H.は行くことが許されず、私も許されていない。ハンクは畑仕事＋薪取り、１週間に１度だ。私たちは薪取りに行く度に１５セントもらえるけれど、［それでも？］ハンクを午後学校から呼び戻したりしない。昨日は本当にがっくり疲れて帰ったけれど、それでも私たちはアングロ［コンロ］の周りで、月光の中で焼き飯を食べ、私は本当にまた落ち着いた。

エンゲル-ブラウンス

1945年2月18日

カチャン［ピーナッツ］を一人ｆ１０買う番になった、一人カップ６杯で、私は昨日もＢ－券（病人リスト）で２カップｆ１．５０で買うことができたのだ。ラッキー、金銭は羽が生えたように飛んでいく。リー・ルセラール［-ボンテバル］から、半カップの塩をｆ２，５０で買い、黄色のガルボセーターをロース・ナイラントに彼女のために売った（ｆ１７．５０）。全てを買えることにまだ感謝している。

---

[62] C.F.Th.D. van der Vecht著、*De steenen spreken. De goddelijke boodschap der groote pyramide［石は話す。大ピラミッドの神託］* (Den Haag 1949) P. DavidsonとH. Aldersmithにより、*The Great Pyramid, its divine message*として出版される。この本は人気があり、ここから人々は将来の予言を読みとり、戦争の経過も予測しようとした。

エルレー

1945年2月18日

パウル［アメーバー性赤痢で病院に入院している］は卵をたくさん食べなければいけません。収容所内ではｆ２からｆ２．５０します。ヤップはそれをｆ２５で供給しています。つまりずいぶん高くなっているわけで、それを支払えるようにするために私たちの食料の一部を売らなければなりません。

エルレー

1945年2月20日

病人券でカチャン［ピーナッツ］２カップをもらい、煎ってもらいました。私はそれを食べるのが止められなくて、いま半分もう無くなってしまったのですが、それでも４時に膝ががっくり折れるようなことも、もうありません。私にはまるでオバト［薬］のようなものです！もう１４日以上少なすぎる米と肉しか入ってこず、それを補うようなものも何も無しです。それにも関わらず、私たちは今日はちゃんと食べました。昨日はプランチェス［カッサバ］の皮を尼僧達からもらい、その直ぐ後に、フダン［倉庫］でもう要らないプランチェスをもらったのです。その結果として、プランチェスと本物の肉のおいしいシチュー料理に豊富な皮、＋明日の分が残り＋明日用のパラミツ［酸っぱい果物］です。食事は大きな心配事ですが、それでも私達はこれまでの所‘充分’ありました。私達の茶色豆は無くなり、サッカ［砂糖］はほとんど終わりです。早急に補充されるといいのですが。

エルレー

1945年2月25日

日曜。ステイン・ドゥ・レフトはまた自分で料理するようになりました。それができるくらい回復したと感じているのです。明日はまだ私達と一緒で、その後はまた私達だけになります。

エンゲル-ブラウンス
1945年3月2日

私達はプランチェス［カッサバ］の屑とプランチェスをもらい、それからみんなから、使わない皮をもらい、さあ皆さん切りましょう。手間が掛かる、でもこれは食料の増加を意味する。ええ、皮、ゴミ箱から拾った葉っぱ、そう、廃棄物、この全部を、胃を満たすために食べる。ひどい話しだ！もう何日も私達の砂糖は終わっていて、今日も入ってこなかった。塩不足。‘ベラス’［脱穀した米］と粉の不足。果物はもう全くなく、少ない野菜、そして・・・今や肉も本当にたまにしか無くなった。フラフラしながら歩いている。死にそうに疲れている。全員が同じように機嫌が悪く力が出ない。私は今や毎日１／４カップの米を足すようにしている。J.H.は今８歳だが、１９３７年生まれなので、またもや週に２回の追加米がもらえない。３５年と３６年生まれはもらえるのだ。ありがたいことに医師の米がまた来るようになった。奇妙なことに、彼らは二人ともあんなに健康そうで、私達母親達は骸骨みたいになっている（トトクス［純血西洋人］！）。心配事のせいよ！私には本当に重荷だ！！

エンゲル-ブラウンス
1945年3月6日

夜は大変寒く、上掛けが足りなくて、そして日中はげっそりするほど暑い。時々水が流れなくなり、薪を取りに行くのは許されず、だから薪はハビス［終わり］だ。もうすぐ囲いに手を付け始めるだろう。

エルレー
1945年3月9日

苦労する日々です。幸い食べ物は充分です。昨日は子供達も充分あり、ツルディは彼女の食事を残したほどでした。少年達は頑張って、全て食べました。これは私達が、それを捨てようとする人達からあらゆる皮を頼んでもらってくることで達成していることです。今日もそのために充分ありました。明日用でさえ！私達は後になってもこんな皮を使うでしょうか？そして、あなた達も同じようにしているの？私達はそれぞれカップ１杯の砂糖を綿の種で稼ぎました[63]。これから、彼らに追加の一杯を上げましょう。

[63] 序文参照。

エルレー

1945年3月14日

丁度全てのバラン［荷物］の整理が終わったところで、裁縫道具と端布はトランクに一緒に入れました。これから私達はこれをなるべく静かに加工します、私は最初にちょっと自分用のブラジャーを作り直してみました、とても必要だったのです。ドレス１枚と石鹸３個はもう売ってしまい、直ぐにベラス［脱穀した米］を買い入れ、それをこれから直ぐにも食べてしまいます。一人１カップ近い焼き飯、約１カップのカチャン［ピーナッツ］＋クリピック［カッサバ芋、あるいは大豆を固めたテンペの薄切りを焼いたもの］＋少年達の畑からの野菜を思い浮かべてみて下さい。とてもおいしいのよ！！今や私は明日の野菜を待っています。２日間何もなかったのです。

エンゲル-ブラウンス

1945年3月21日

食事もとても悪い。私達はバナナの皮や古いプランチェス［カッサバ］の葉や、バジェム［ほうれん草］＋カンクン［チコリの一種］、古い茎をゴミ箱から拾っている！この間私達は少々余分に食べた！！！つまりそれはプランチェスの皮にバナナの皮をフツミスト［炒めた］もの！！なんてこった。ガプレク粉［カッサバ粉］をもらい、昨日はダブルの粉として見たこともないガラクタが来、それは大粒の干したプランチェス、ジャグン［とうもろこし］、虫などで、それが粉だったのだ。J.H.はそれで気分が悪くなった？ひどい話よ！ガプレクは美味しいけれど割高だ。もっと食べ物が少なくなる。これでは焼きそばも作れない！Ｂ券はもうもらえない。スダー［仕方ない］。ナイラント達［闇取引者達］の所では死ぬほど食べている、見られたものじゃない。さよならパパちゃん！！

エルレー

1945年3月25日

日曜で、雨模様の静かな日です。いまだに私たちは小カップの米とガプレク粉をサゴの代わりにもらっています。餓えの時期になっています。米を買い足そうとしてもうまくいきません。すでにカップ１杯でｆ７．５０もします。さあ、そんなには払えません。医師の券で私は追加のサッカ［砂糖］を大カップ１杯ｆ１．９０でもらいました。それを時々つまんでいて、とても気を付けて一回に小ティースプーン５杯ずつです。もう３日間私たちはパラミツを食べてい

て、ブロックＡ３はまたパラミツをもらったところです。これから私たちも４回目のものをもらうのでしょうか！！とにかく、それはお腹を満たします、テロン［なす］よりましです。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年4月１日

今やソニャも小さな畑を作った。彼女自身用の、１平方メートル以上のもので、小さなのをジェフケに。ウビ［サツマイモ］とプランチャエス［カッサバ］はもう芽が出ている。これが楽しみよりもより大きな悲しみを呼ぶことがないように、つまり余りしょっちゅう盗まれないように、祈ろう。私自身も、雨の夜の後に成長を見るのはとても楽しい。ここには私達が興味を持てるものなど他にはないのだ。ジェフケはもちろんもう、まだ植え付けも終わるか終わらない内に収穫のことを話している。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月5日

おお、私は今、空腹でお腹がグーグーいっている。ナイラントの所はまたぐったりするほど食べている。米は小カップ１杯もうｆ１２．５０だ。私はババト［牛の胃］一切れをｆ６でロースに売り、それに少し足して１食ｆ４の焼き飯を２食買った。昨日はそれを料理をする気にもならなかった、ウジ虫が一杯いたのだ。私たちは１日約１４０グラムの米を受け取る(J.H.は約９０グラム)。粉は１１０グラム(J.H.７５グラム？)。これで全部。畑の野菜はすばしこい畑仕事人やバビ［豚］や山羊に盗られる。プランチェスはもう見られない。

エルレー
1945年4月9日

昨日は幸い２日分の野菜を手に入れ、つまりこれで２日間｀充分に｀食べられます。タイスは昨日、空腹から来る脱力感で泣いていました。私は今、約ｆ３００の予備金を持っていて、これでは殆ど何も買えません。ベラス［脱穀した米］は今や１カップｆ１５して、しかも売ってもらえたらお恵みです。明日か何かに、野菜屑でも出ると良いと思っています。それはいつも歓迎すべき補充食です。少年達が畑で稼いでくるプランチェス［カッサバ］もね。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月13日

私は６カップのベラス［脱穀した米］をｆ４０で買う定期契約をした。ベラス１カップｆ１５して、定期契約だとｆ１２．５０なのだから、非常に希少価値がある。これから私はベラス２カップをサッカ［砂糖］６枚と交換し、もう３枚ｆ１５で買い足した。もっと米を手に入れるようにし、衣類売却を急ごう。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月17日

J.H.が戻ると、ハンキーはドロドロ粥などの料理を始め、私たちはそれをアングロ［コンロ］のそばで食べる。それからハンクは暖かなティム［湯煎にかけて炊いた米］を作り、それを私たちは熱い内に食べ、そして午後に私たちの午後の料理を終わりにする。このほうが、食べがいがあるかどうか見よう。このままではどうしようもない。例えば昨日は１時まで何も無し、それからコーヒー１杯と昼食として１／４カップのベラス［脱穀米］とカップ１杯のガプレク粉［カッサバ粉］だ。ひどいでしょ？バナナ無し、何も、何も入ってい来ない。[...]そして今は私のドレスがまだ売れていないし、ブッケからｆ３０を借りた、私のオランダの金に手を付けたくないからだ。あのドレスには少々時間が掛かる。ドキドキする。嫌なこった！ニコリンはあの赤白青の襟巻きをヴェーニングにそっと渡してｆ４０をもらおうとした、多分ｆ３０はもらえるだろうが、私にはｆ２５だという。私を喜ばせようとしているのか、それとも騙そうとしているのか。彼女に油を貸し、それが帰るの＋襟巻きをもう何日も待っている。おお、私のドレスが売れたらと本当に願っている。アニー・ドゥ・ク［ルース］が最初にそれをｆ１２５で欲しがった。残念ながら体に合わなかった。もうすこしでエランドがｆ１４０で買うところだった。しかし、ベラスは今やもう１カップｆ１７．５０だ。外ではヤップの金は価値を失い、金の価値も下がっていると人は言っている。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月1日

今日、白砂糖の配給半分（いつもの半分、とても小さな小さな缶で１０日分）と塩５日分をもらった。私は米カップ１杯と１．１／２の塩をフリースと交換した。塩にはなかなかありつけない（小さなガラス瓶）、特に今、全く砂糖がもらえないときには。ありがたいことに時々（

１０日毎に）倍のベラス［脱穀米］がある。ヤヌシェ［＝ヤン・ヘイン］は午後に休養を取らなくてはならず、病人用皮とジェルッキェ［柑橘類］をもらえるが、残念ながら昨日はＢ券のサッカ［砂糖］シロップが無かった。彼は忘れられたに違いない。嫌らしい。[...]彼女［ハンク］は１．１／２週間前から毎日２から３時間の砂運びに出ていて、土曜日に最初の粉４缶＋プランチェス［カッサバ］いくらかをもらってきた。よかったでしょ？私はＷＣ雑役で２缶もらった。そして私達の全ての追加粉は別にしておく。全ては５月５日のためだ。私達はこの食の日を、穴の空くほど見つめている。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月4日

ああそうだ、昨日は私のドレスもｆ１４０で売れた。バンザイ！！！何回かに分けての支払いだが、トン・ヴェーニングがウルスト［請け負う］ので安全だ。ウィル・ドゥ・ルーフェルスの素晴らしいドレスをトンはｆ２００で売った。私のはｆ４だったのだ。ハ、ハ！でも、それでも、ベラス［脱穀米］２カップは今またｆ３７．５０なのだ。白砂糖カップ１杯ｆ４０等々。

エルレー
1945年5月10日

最近は少しましなものを食べています、充分なベラス［脱穀米］はまだもらえないにしても。新鮮なラド［粉あるいは米を丸めてココナッツ粉をまぶした物］が入ってきましたートラシ［魚やエビの抽出物］ーそして今日はウダン・サイド［えび料理］で、とても多くの人達、そして私も、足や脚などの腫れが引くという幸いな結果となりました。私は時々サンバルの瓶からつまみ食いしています。

エルレー
1945年5月20日

聖霊降臨祭第一日。私達の贅沢な日々は終わりました。子供達の畑はヤップの命令で終了となり、そのため私達は１週間の間野菜が沢山あり、やっと充分な食事ができました。栄養失調性

浮腫[64]の全ての症状は私から消えました。さて、この日は私達の最初の貧弱日となる危険があったのですが・・・ヤップはガプレク粉［カッサバ粉］を入荷し、倍のベラス［脱穀米］と、昨日は２杯の血をもらいました。人々が加工できないものです。私達はそれを湯煎にして煮、今日はその半分をカラリと炒め、残りの半分でサンバル・ゴーレン［辛味料理］を作りました。結構いい味で、後で他のものと混ぜて、とてもおいしく作れることは確実です。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月21日

それでなかったら払いきれない、つまりピパ［砂糖棒］ｆ２０，サッカ［砂糖］ｆ１５だ。それでも私はラド［粉あるいは米を丸めてココナッツ粉をまぶした物］を８つ、丁度５つでｆ１だった時に買った（２つでｆ１ではなくて）。ヤン・ヘインはそれが大好きで、生のままかじってしまうのだ.[...]

聖霊降臨祭２日目にもかかわらず、散髪しなければならない、嫌だけれど、仕方がない。今日は良い日だ、つまりトラシ［魚やエビの抽出物］ボールを一つｆ１，２５（ハンク用）で、プランチェス［カッサバ］一包みｆ１．５０で、そしてニッポン金でサッカシロップを１００グラム買うことができ、ただ子供達だけは５０グラムで、私達は５０グラム６０セントで買い足すことができた。とにかく、またなにがしかの砂糖だ！ただ、私達は完璧に塩無しだ。悲しむべきね。そして私はもう塩１カップ追加でもらっていたのだ。フリースの袋から、あのベラス［脱穀米］１カップも単に持ってきた。それをもらおうと思ったがダメだったのだ。彼女は何百も借りがある。ふん、私はベラス定期契約なんぞ、二度としないわ。それでもティル・サルデマン[-ローデ]のところで粉１０カップをｆ３５で買い、毎日倍の粉（３日毎）をカップにもらい、これとハンクの報酬の粉（それに私の）を足すと、私達は毎日カップ１杯の追加の粉があることになる。ええ、大変な違いです事よ！！本当に満足。一昨日はプランチェス売買。昨日はパラミツのアチャー［酢漬け］を作った。それと全てのプランチェスを煮て、そして米カップ１杯も。私にはプランチェスを食べ終えることもできなくて、米は今朝の朝食だった！塩、サンバルとクルプク［えび煎餅］をいっしょ食べて、とても美味だった！聖霊降臨祭２日目はナシ・クーニング［ウコン汁で黄色に色付けた米］と、茶色豆と古い腸で作ったソーセージのレンダン［辛味の肉料理］もどき！！素敵！私達は満腹だった！！

[64] 脚注33参照。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年6月

私達は長い間煙草がなかったので、お茶の葉を吸っていた。収容所幹部は、多くの女性達は煙草を吸わなければ、絶対に耐えられないというので、これを生活必需品のリストに載せた。[...]煙草用の巻紙は、もちろんもうずっと無い。私は料理ノートのほとんどを、タバコを巻くために使ってしまった。紙は今や本当に貴重品で、ノートの紙１枚に３０セント払わなければならない。私はもう長いこと、ルースの聖書の紙を狙っていて、あれは、素敵に薄い紙なのだ。しかしルースは私に少しでも渡すのを拒絶した。もちろん彼女はたまたま煙草を吸わない人で、そうでなかったら煙草はあっても紙が無いというのはどういうことか、理解できるに決まっている。［...］

私達の収容所に蔓延するネズミ害に対する解決策も発見されている。私達が食べてしまうのだ。あるいはもっといいのは、捕まえたネズミを集めて、美味な煮込みを作り、病院の栄養失調性浮腫に病んで死にそうな人達用にするのだ。それは新鮮な肉で、彼女たちも実際元気になる。私達があの有名な‘蓋をかぶせた皿’が調理場から病院に運ばれていくのを見て、しょっちゅうよだれの出そうな思いでいるのを白状しなければならない。

エルレー
1945年7月17日

私達はいくらか多くの米をもらうようになりましたが、野菜はホンの一口分、肉は赤ちゃん用です。今度は胡椒、パラー［ナツメッグ］とトラシ［魚やエビの抽出物］が入荷しました。お財布には大した打撃になるでしょうが、生活し易くするものではあります。

# 仕事

## 収容所報告書

収容所内の仕事は雑役指導者の監督の下で行われた。それぞれのブロックで、住人数に比例した人数の雑役係を出した。栄養不足のために女性達の力が急速に衰え、多くの人達には仕事を要求することができなくなり、全ての仕事は力のある人達が請け負わなければならなくなった。熟考検討の結果、雑役に対し、いわゆる食料で支払う報酬を与えることになった。このようにして仕事に対するやる気を起こさせ、これは収容所の衛生状態を良くした。この魅力的な報酬にも関わらず、多くの女性達には自分たちの家事労働以外に他の仕事を負担するような体力が無くなったとき、雑役係のシステムに変えた、これはつまりいつも同じ人がその仕事をするのである。報酬はサゴ粉でしかなく、重労働の場合は、収容所全体の注文品の中から、全員に分けることのできないものが残った場合に、栄養価の高い食品が渡された。[...]全員に義務づけられた唯一の雑役は、多くとも１０日に１度、２時間の間、火災予防警備に回ることだった。

［義務づけられた雑役の例］

薪取り

バンキナンの被収容者達は、薪の在庫が無くなり、毎日全く需要に足りない量しか入荷しなくなった時、森から薪を取ってこなければならなくなった。[...]切った木の在庫も少しずつ終わっていき、女性達は自分たちで伐採し、小さく割らなければならなくなった。その上、伐採地域は、収容所からどんどん遠ざかっていった。この仕事はその時から多くの人々にとって、重すぎるものとなった。仕事に対する意欲はそれでも大きく、それは薪不足が深刻となり、薪取りの時には自分用の枯れ枝を集めてくることも許されていたからであった。[...]

食糧事情が悪くなるにつれ、多くの人々はこの仕事をするような体力はないと思うようになった。その時から、粉を支給することにし、取ってきた木によってその量を決めた。[...]1944年12月になって初めて、ニッポンは薪取り１回に１５セント払うようになった。[...]薪取りグループが帰ってきて、重い丸太や細い枝、枯れ枝がそれぞれ仕事をする女性の体力に合わせて引き渡されるときには、収容所全体が誇りを感じた。しかしよく見れば、この入場はその度に哀れな光景だった。痩せた女性達が破れた服を着、木についた煤で黒くなり、大きな荷物の重みに腰を曲げ、あるいは幹や枝を後ろに引きずり、疲れて暑く、それでもやり終えた成

果に満足した誇りの笑みを漏らしている。最後まで、彼女たちはこの重労働を完遂した。最終的には収容所司令官は、その必要性があることを完全に理解して、男性収容所に、週２回女性収容所用の薪を持ってくる許可を与えた。

## 日記抜粋

エンゲル-ブラウンス
1944年1月8日

昨日はロース［ナイラント］がティム［湯煎して煮た米］を料理してくれと言ってきた。午前６時にはもう浴室にいた（＝３時半）。真っ暗闇。６時半に[J.]マカレ[-デッカー]（パダンパンジャンのそばのキナケボン［キナ農園］から来た人）と一緒に火を起こし始めた。最初にドラム缶で粥を煮て、それから湯煎煮だ。午後２時に午後グループが来た。ええ、その日は、報酬はなかったけれど、子供達用に午前中粥を少々と、湯煎煮を沢山と、米を煮た水、塩少々、ウビ［サツマイモ］の丸焼き２つ、それに薪も少々手に入った。この餓えの時期には馬鹿にならない。しかし私は夕べはひどく疲れた。私の膝と足首はまた、大砲のように腫れている。嫌になるわね？

エンゲル-ブラウンス
1944年1月23日

１２時に（それに午後８時に）雑役があった（水槽＋洗面台の掃除）。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月18日

私は今、午前７時から９時まで料理している。その後コーヒーを飲んで、それから洗濯をする。食事の後で散髪。もうあまり楽しくもないのだけれど、それでも時には１日にｆ１になる。依頼は山のようにある。断ってしまうには惜しい。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月21日

ハンクは料理の手伝いをしてくれる人を探し[65]、どこにも居ず、最後にやっと、小娘と［A.M.］メイヤース夫人が、２５日から私達全員のために料理をしてくれることになった。この後者は思うに、要らないだろう。可愛くて、料理がとても上手で、とても落ち着いているが、ひどくきたなくて、あそこは常に蝿で一杯だ。あの小娘を予備要員にしておいて、これからちょっとM夫人を止めよう。私達で、みんなきれいに掃除したりするのだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月17日

私は一昨日と今日の朝散髪をした（ｆ１＝客10人）。まだ50人の客がリストに載っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月30日

午前早く、まだ私の左手で衣類を洗った[66]。その間にハンクがチラムス［マットレス］を片づけ、J.H.はオマルを空にする。その後コーヒー１杯飲んで子供達は顔を洗う。私はテンパット［（寝る）場所］の埃を取り、ハンキーは料理をする。そして私達は１時に食事する。その後洗濯物を取り込み、繕い、テンパットを掃く。ハンクはもう‘ちょっと’料理する。学校は５時から６時半まで。その時間になる前に、彼女は勉強をする。それからまだ次の日の食事のことを考える。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月30日

あなたの息子はグラピパ［砂糖棒］をナイラントのために５０セントか６５セントで売っていて、女性達に選んではいけない、等と言っている。家に帰って来て、さて、１０分間に１０のピパを１個５０セントで売ってきた。座って計算を始め、つまり１０ｘ５＝５０の後ろに０を

[65] エンゲル-ブラウンスは転んで、医師から横になっているようにと言われていたので、料理の手伝いを探していた。
[66] エンゲル-ブラウンスは右手の熱帯性浮腫が回復しかかっているところだった。

一つつけると＝５００セント。１ギルダー＝１００セント、だからｆ５僕は持っていて、それから勘定した！！彼はそれを楽しんでいた。そして・・・ご褒美としてハンクと彼（ハンクも自分で売ったのだ）にピパ。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月13日

私自身はガタガタしながらやっていて、１日中忙しく仕事があって嬉しいことで、全く時間が足りない。まだ午前中早くに洗濯をする。その後テンパッチャ［（寝る）場所］を雑巾掛けし、毛布を外へ。そしたらコーヒーを飲む。その後１人５セントで６人から７人の散髪の客（今はちょっと休憩）。それから１１時半に料理、１２時半に食べるため。どろどろ粥とコーヒー水。午後は野菜をきれいにする、等だ。４時にまたちょっと料理する。このほうが、つまり１日に２回暖かく調理した食事をする方が私達にはよい。おお、調理場は全くひどく煙っている。私自身の木はフランス・バッカーが切って、それを注意深く太陽に干す。すごく良く燃える。他の人の煙で完全に息が詰まる。そして暑い、ひどい話し！！その後、風呂に入って、食事。夜はしょっちゅう割れるような頭痛で死ぬほど疲れている。午後１１時半にベッドに行く前にシラメン［風呂に入る］。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月29日

さて２日後［５月２７日］にそれ［マラリア発作の子供二人］がいてベラト［重荷］になり、ｆ２で１週間私達のために料理してくれるメタ・ホーフフリートを見つけた。これでとても落ち着くわよ、私達の料理の方がおいしいと思うけど。でも彼女は信用できる（インドネシア系）し、喜んでやってくれるし、安い。私の散髪屋は大繁盛だ。こうして今日は９人、一昨日は１８人の客が来た（昨日は休み）。やってくる人達は引きも切らない。[...]時々、１週間、人に料理させてはどうかと思っている。そしたら散髪をする時間が増えるし、火や煙から逃れることもできるから、やった方がよいだろう。私はとてもラウー［人気がある］らしく、これは散髪の話しだが、みんな私の同業者に対する批判や意見を言って、もちろん私は直ぐにそんな話は止めさせる。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月29日

毎日人々は外でチャンコルン［掘り起こし］し、週に３回は外で薪取りだ。あの丸太運びはやる気が全くしない。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月6日

２日からまた自分で料理していて、つまり午前６時１５分にだ。その後洗濯して、午前９時に終わる。そしたらコーヒーで、その後、収容所の、あるいはその他の仕事。時には午後に何か少し暖めたりする。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月15日

それから、私達はヤップにいわれて畑（外）で働かなければならない。なぜなら、９月１日からは野菜などがもうもらえないのだ（肉もなく、米ももっと少なくなるなどどいうことだったと思う）。その時生きている人が・・・なんぞと。馬鹿馬鹿しい、この後ろの汚い小さな土地。先ず第一に乾期で、それからひどい土地で、それに豚や何かが、それを食べてしまう。おお、みんな、ムッソリーニ（ヤップ）はカンカンだ。今や決まったケボングループ［畑グループ］が丸一日働き、ご褒美として時々泳いでもよい（もうブペックト［見つかっている］。ノールや[M.]エラントたちが、内緒で村まで歩いていって、そこではピパ［砂糖棒］１個１０セントの値段で、テンテン［ピーナッツクッキー］１セント、ご飯料理２５セントなのだ！！）ふん、私はそんな偉業をあげる仲間には入っていないし、基本的にニッポンのためのこの仕事に反対で、そのために飢えるのだ！！

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年7月3日

昨日彼女たち［ソニャとメア］は一緒に木を取りに行き、そしたらヤップは突然全部収容所用に提出しろと言うのだ。メアはそれでも、一束持ってくることに成功した。それでなければ調

理をするのに充分な薪がない。それにとても重労働で、最初に木を伐採し、そしてその後持って帰ってくる。‘報酬’なしではなんにもならない。その上、全ては大急ぎだ。ソニャが時にどれだけの重荷を肩に背負ってくるか、信じられないほどで、メアも同様だ。神経を使う、重すぎる仕事だ。成長期の子供達にまで余りに多くを要求する。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月7日

ハンキーは時々薪取りに行くことができ、その時には水泳を楽しんでいる。そして私達のために枯れ枝をいくらか持ってきて、収容所用の木も持ってこなければならない。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月31日

今は自分たちで火の前に立たないので衣服もずっと汚れが少ない。石鹸の持ちがまた違う。私は１日４人か５人の散髪の客を取り、そのお金で料理をさせる代金（１週間ｆ２）とハンクの学校代を支払うことに決めたのだ[67]。私の脚は、もう火に耐えられない。さて悪夢のようだが、初日に４５人もの散髪申し込みがあったのだ。おぞましい！！夢にまで見た。今は午前に６人か７人をここで切り、午後には３人か４人をトイレのそばで、またお金が貯まるまでやろう。そしてその後は本当に１日４人か５人に抑えよう。ちょっと珍しいくらい、あの仕事が嫌になっている。バリカンがうまく動かないせいもある。全部手で刈るなんてできないことだ。それでも何かしなければいけない。今は２日に１度朝早く洗濯する。午前９時半から１２時までと午後５時から６時半まで散髪する。それ以外はテンパチェ［（寝る）場所］を整え、食事の下準備をする。今日は休みの日で、つまり日曜ということにするのだ。[...]メタは母親から他の人のために料理をしてはいけないといわれた。幸いにも他の人を探してくれ、それはクラールチェ・オーレンロスで、前にもう一度私達のために料理をしたことがある人だ。華々しくはないが、メタ［ホーフフリート］同様信頼の置ける手伝い人だ（簡素）。彼女がもうすぐ来る。

[67] 追加物資を得るために、収容されていた何人かの教師が、収容所内で現金、あるいは物資と引き替えに授業をしていた。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月9日

J.H.は学校をひどく簡単に考えている。薪を割り、飲み水を汲み、皿を洗うなどと。[...]私は少し気管支炎気味だ。今は午前７：３０頃まで寝ている。それから洗濯（１日おきに）。朝食。散髪（午前９：３０－１２：３０頃まで）、テンパチェ［（寝）場所］を片づけ、それから午後１：４５に、ハンクが学校から帰ったら食事をする。それまでの時間は長い。J.H.は時にはお腹がすいて眠ってしまう。食事の支度（きれいに洗う）、またＷＣの側で４：３０から６時頃まで散髪する。J.H.を風呂に入れて、私自身も入る。J.H.は４：３０から５時まで学校で、ハンキーは５：３０から６時まで英語だ。こうして毎日が、単調であるにも関わらず、飛ぶように過ぎていく。

エルレー
1944年9月23日

今日、料理は永遠に他の人に頼むという一大決定が下されました。それは一月ｆ２０の負担になりますが、それは何か他の方法で稼ぎ出さなければなりません。それで私は授業をすることにし、直ぐにｆ３の生徒が二人来て、もう何人かを得るようにしましょう。パウルもそうですが、彼女はもっと年かさの生徒がいいようです。私は１年生と２年生です。男の子達は薪割で稼ぐお金を今は貯金箱に入れていて、私達はｆ２０を稼ぎ出せるだろうと信じています。これはもう何時間も煙と暑さの中で吹いたりキパッセン［扇い］だりせず、私達のテンパット［（寝る）場所］で数時間授業をすればよいことを意味しますーきれいで落ち着いた仕事です。[...][C.]バーレンツ[-ベール]夫人とその娘が私達のために料理をしてくれ、完璧に信頼できる人達なので、少なくとも私達の分量全てを食べられるでしょう。

エルレー
1944年10月1日

明日から６人の生徒を２人ずつ３授業時間教え、つまりｆ１８稼ぐことになります。

ファン・アマイデン・ファン・ダウム-オール
1944年10月

私達は今や自分たちで薪を割らなければならない。収容所の裏の森はもう大部分が伐採され、そこに野菜畑が作られている。残念ながら私は畑で働けない、ヤンを一人にしておくことはできないからだ。朝には、木を切るために、そして畑を耕すために女性達の長い列が裏門を出ていく。薪割は今や大きな課題となった。もらえるのは丸太の一部で、それを何とか自分で小さく割らなければならない。

エルレー
1944年10月10日

私には今７人の生徒が居ます。つまり、私の学校もまあうまくいっています。私、まだお金持ちになれるかしら？収容所を出たらね、私は評判がいいですから。

エルレー
1944年10月13日

私の生徒達は増えています。今度また３人増えて、１０時から１２時と２時から４時に授業をしています。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月18日

１週間のテングー雑役［警備役］が終わったところで、粉を２缶稼いだ！！しかし今はちょっと休憩、ベラット［重荷］になりすぎたからだ。料理、洗濯、散髪、雑役等々。私は洗濯をしなければならないときには（１週間に３回する）また６：３０に起きている。そのために夜にはひどく疲れる。

エルレー

1945年1月2日

明日また私の学校が始まります。子供達はまた来たがっていて、もう何回も来るべきかどうか聞きに来ています。

エルレー

1945年1月12日

学校で、この月にはｆ４４稼ぎました。[...]私達はまだ毎月のヤップマネーを受け取っています。[68]畑仕事でさえも、１日１５セント支払われています！！クーリーの賃金は冷笑されています！それでも、それで子供達がバナナを買うことができれば私達には充分なのです。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース

1945年1月25日

メアは後数週間で１６歳になる。料理をし、働き、薪を取りに行き、勉強する。一日中。ソニャは週２回畑で仕事をし、その後木を持って帰ってくる、重い木、時には重すぎる。さてこの数週間は、一回１５セントもらうようになった。でも、ああ、彼女は最終的に稼いだお金で‘焼きそば’一皿を買うのをとても楽しみにしていて、メアは３回、ＷＣ掃除で粉を数カップもらったことがあった。この最後のは今は義務づけられてはいない。以前はココナッツをもらうこともあった。それが、私達が仕事を引き受ける動機になっていた。今はこの報酬はすでに廃止された。[...]

丁度今、収容所内に依頼のおふれが回った。綿あるいはパンヤの中から綿の種を探し出す仕事をしたい人はいないかと。種１キロにつき、砂糖５００グラム近い報酬が支払われる。これはニッポンからの要請だ。私達には時間がない。砂糖は重要な誘惑餌だが、仕事は非健康的そうだし、‘人々’はこれは何か戦争目的のものではないかと言っている。一体どうなることだろうか。しかし、大抵それでもヤップが勝つのだ。食糧報酬は魅力的すぎる。ソニャはこの週、午後の畑仕事の報酬としてとても小さなウビ［サツマイモ］を五つほどもらい、それを丸焼きにした後、この小さな特別食に私達はまたもや満足だった。

[68] 1944年４月１日の軍政への移行以来、日本人達は毎月の小遣い／衣類代を被収容者達に支払っていた。これは大人はｆ４．５０，子供はｆ２．２５だった。‘食糧および物資情況’の章、収容所報告書も参照のこと。

エルレー

1945年1月26日

今度はニッポンは私達に１キロの綿の種につき砂糖１カップでパンヤか綿の種を探させようとしています。彼らのために働くように誘惑されなかったことがありますか。私に言わせれば、この話しはお断りです。

エルレー

1945年2月25日

綿の種取りは今や雑役となり、それでもらう砂糖は収容所全体で分けることになりました。つまり、また新しい事態なのです。

エンゲル-ブラウンス

1945年3月2日

J.H.はワルナールのために薪割をして初めてお金を稼ぐ（１回１２．１／２セント）。おお、彼はもう頭の中で、そのお金で大量のものを買っている（お湯を何カップも、とか）。ハンクは最初の雑役（流し台）が終わったところで、私はもう１度ＷＣ雑役をしなければならない。そしたら、ありがたいことにまたいくらかの追加の粉だ。朝食すら食べられないことが多く、砂糖抜きのお茶だけですまさなければならず、気持ちが悪くなる。[...]この暑さには耐えられない。食物は無く、重労働、木材運びに、最新のものは、パンヤの種むきだ！これについてはまた後で。私は全収容所中５人だけの、徹底的な拒絶者の一人だった。あなたの頭を打ち抜くための綿火薬に違いないわ。［H.C.A.］ホレ[-ファン・エルプ]夫人は私の所に来て、私と全く同じ考えだ、ただ、幹部の一人としては戦争目的でない場合はしなければならないと。フン、なにをいっているの。私はこれ以上は言わないけれど、私の信条として拒否し、今やあの臆病者達が私に助言を求めてくる！ハ、ハ！しかし［G.A.］ボッセラール［知事］[69]がそれをダメにしてしまった。嫌な奴。あいつは強制作業か任意かと聞き、そして・・・ヤップは“そうだ、強制だ‘と言ったのだ。私達のＨＢ［幹部会長］は拒否した！！男達はその上、私達のためにそれをして、砂糖を私達に送ると言った。何というだらしのない！いいえ、そんなホンの少しの砂糖など無くてもやっていけるわ。しかし、おお、おお、なんとだらしない女達がここに

[69] ボッセラール氏は男性収容所の収容所長だった。

は居ることか。食物のためには何でもする、たとえそれが泥棒でも。男達は妻達にパンヤの種をきれいにする器械まで送った。

エンゲル-ブラウンス
1945年3月18日

昨夜はリース・ホフケスと１１時から１時まで防火警備だった。[...]残念ながら私はもう丸太は一切運べない。リー・ルセラー[-ボンテバル]とキティーは行った。ハンクは荷運びで（３点）[70]粉２缶稼いだ。薪取りは今や毎日１００人で行われる。これでヤップから１５セントと収容所から粉の報酬をもらえる。畑仕事（前に行った人はもう行くことはできない）はヤップからプランチェス［カッサバ］２００グラムだ。

エルレー
1945年3月25日

子供達は頑張っていて、可愛く、とても役に立ちます。彼らも食糧不足の影響を深刻に受けていて、［私は］薪割の仕事は全部断るようにといいました。彼らが粉を稼げる収容所雑役の方がずっと重要です。それは食物ですし、お金はあっても大したことはできないし、私にはまだ充分にあります。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月5日

ハンクは粉２缶の稼ぎのために箱担ぎを６週間（週に１度）した。週２回、１５０グラムのプランチェス［カッサバ］を稼ぐために畑で働く。

[70] それぞれの雑役には一定の点数が付けられていたようである。点数が高ければ高いほど、食糧品の形で支払われる‘給与’が多かった。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月17日

ハンキーは砂運び雑役をするようになる、つまり、最初は小さな、その後は大きな雑役（１日１．１／２時間）だ。これは毎週土曜日、最初はカップ２杯の、その後は４杯の粉を意味する。それからまだ私のＷＣ雑役と時々ゴミ袋雑役などがある。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月4日

その間にももう４日になってしまった。本当に忙しかった。特に散髪が。私は知事夫人（[E.M.J.]ボッセラール[-マーセン]フム！）を短く刈り上げ、重病人を病院で散髪したりした。１日約ｆ１．６０稼ぐ。これは実はベラト［重荷］だ。

エルレー
1945年5月10日

私達のために料理をしてくれていた女性達が断ってきました。これで私達はまた自分ですることになります。ツルースが朝、タイスが午後、そして私が夜です。これで私達の誰も多すぎる仕事をすることなく、もうすぐ来る最後の時まで続けていけることを願っています。いずれにしても、これで私達の食べ物が盗まれることはなく、それは日常茶飯事だったのです。悲しいことですが真実です。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月13日

ハンクはいつも忙しい。今週は彼女はゴミ（砂および洗い桶雑役）で［粉］６缶を稼いだ。それは５月19日のために取ってあるので、まだ私達はその恩恵にあずかっていない。昨日は煙草を少し買えた。木を取りに行く人達は今は２５セントにベラス［脱穀米］３０グラムと、最初の点に続く３点毎に粉２缶もらえる。木を取りに行くのはひどい重労働よ！畑仕事はプランチェス［カッサバ］１５０グラムとベラス３０グラムだ。とにかく、これでもなにかしかになる、ひどい苦労で稼いだとしても。

エンゲル-ブラウンス

1945年5月23日

ハンクはブカン・マイン［非常に］健康的で、よく働く、例えば朝には畑で、２時から３時は砂運び、そして５：３０から６：３０は学校だ。私は料理当番があり、つまり土曜日もだ（ハンクは畑に行く）。それ以外の日は彼女が料理し、楽しむ。丸１日中私達は何かしている、野菜を洗ったりなどもだ。

エルレー

1945年7月27日

私の息子、長男は、[71]今や毎日畑仕事に行き、それでかなり沢山稼いできます。私達は毎週粉８食分＋１／１．３カップのベラス［脱穀米］＋５ｘ２５０グラムのプランチェス［カッサバ］を追加にもらい、病院からの野菜屑や、時々煮終わった骨ももらい、そこからしっかりブイヨンを取ります。これからはもっと何度も行って、もっと沢山もらってくると言っています。その上、彼は１回仕事する毎に２５セントもらい、それは彼の貯金用です。

[71] これはパウラ・ブリンクホルストの３人の子の長男タイスのこと。エルレーはパウラが亡くなってからこの子供達の面倒を見ていた。

# 健康と医療情況

## 収容所報告書

ブーイ[72]での悲しむべき衛生状態の影響は、早々にも赤痢の蔓延となってあらわれ、多くの人達が死に至った。病院は一つのバラックの内部に作られた。小さなバラックがすぐ近くに建てられ、さらに診療所と死体安置場もあり、この最後のものは、以前の２つの収容所には欠けていたものであった。多くの太陽と水、衛生的なトイレは重要な改善点であった。しかし劣悪な食糧状況が被収容者達を衰弱させ、感染の脅威に耐えられなくしたようであった。廃棄物焼却施設も不備であったため、蝿がその有害な働きをすることになった。その死亡者数は男性収容所に確かに危惧を抱かせるものであった。女医と男性収容所幹部との間に誤解が生じ、[M.J.]ライオン医師は収容所医師を辞退せざるを得なくなり、収容所幹部会はオランダ人医師を要請せざるを得なかった。ライオン医師の仕事は、それに続いての彼女の病気のため[E.V.]クローウェ医師が代理することになった。[...]男性収容所との誤解の結果として、英国人の看護婦も病院を辞めていった。彼女たちの仕事はオランダ人の尼僧達によって引き継がれた。彼女たちはライオン医師が回復し、オランダ人医師の来るのを待ちながらその仕事を再開するまで数週間の間、優秀にその務めを果たした。ライオン医師は、言語問題のためオランダ人看護婦を採用することを望まず、再び英国人看護婦を連れ戻した。1944年３月に女医であるJ.[J.]エイントホーフェンがメダンから連れてこられ、その数週間後［1944年４月11日］にライオン医師の仕事を引き継いだ。彼女は病院職員を何人かのオランダ人を入れて増員した。女医と看護婦にとって、仕事は徐々に重くなっていった。食糧は減り、女性達の体力は減退し、その間にも病気に罹る人達は倍増していった。これに関連して、新しい女医は全ての看護婦と収容所内および病院内の手伝いの人達のためのよりよい食事を要求した。暫く検討した後、それは幹部会によって承認された。他の被収容者達もこれに賛成した。マラリアと赤痢の感染数は恐ろしいほどに増えていった。脚気、浮腫その他の、栄養失調性の戦時下症状は女性達を骸骨のように痩せさせ、あるいは奇形の人のように腫れさせた。収容期間中に目立ったことは蘭領インド系西洋女性たちは、体力の衰えが少なく、オランダ人の女性や子供達よりも伝染病に罹りにくかったことである。人々は病気恢復のためにできることは全てした。最後には、蛋白質不足を補うため、それを最も必要としている症状に対しては女医自身の監督の下に、ネズミが料理された。

[72] 1943年12月に女性と子供達はブーイからバンキナンに移送された。

病院は定員超過であったため、多くの病人はバラックに寝ていなければならなかった。こうした病人を看病し、彼らの家事をするためにミドリ十字サービスが設立された。バラック看護婦はこのために手一杯であった。この機関は緊急の場合用だった。
医薬品は日本人からはもうほとんど支給されなかった。幹部会は全ての医薬品を高額の値段を払って収容所内から買い上げた。男性収容所の薬剤師が、森で収集した薬草を使って、大変有益に医薬品を作り、女性収容所にも提供した。日本の軍看護士たちは、毎日なにがしかを女性収容所に持ってきた。日本人医師コクブは時々病院を訪れ、多くの病人達に同情の意を表した。その様な訪問の後にはまたいくらかの卵やジュルックス［柑橘類］が入ってきたが、それ以上のことは彼にもできないようであった。

遅すぎ、不十分な量で、時々コレラ、チフス、赤痢の注射液が持ち込まれた。数回は男性収容所の外科医[P.A.フィス]が、女医の要請により、女性収容所で手術をすることが許された。しかし英国人女性達を患者として診ていたライオン医師が、緊急手術をしなければならなくなり、ニッポンはそれ以降、女性収容所の全ての手術は彼女にやらせるようにと言った。ライオン医師はその後もう一度手術をした。[...]

日本人が充分な医薬品と食糧とを提供するのを怠ったために多くの命が失われ、また多くの身体的障害をもたらし、それは戦後にも多年に渡って影響を及ぼすことであろう。

## 日記抜粋

エンゲル-ブラウンス
1943年12月25日

リーは寝ている！！しっかりマラリアだ。１９年間病気になったことが無く、慣れていない。a.s.［大げさな態度］が多い。目眩がすると、悲鳴を上げて倒れる。おお、彼女はそれを何か、恐ろしいものだと思っている。私も彼女の次の日にもう熱っぽくなった。その日それでも料理をし、夜は直ぐにベッドに入った、３９．５。パチン！！翌朝には熱は無し。昨日の夜また３８．５。今朝から今までは熱は無し。しかし私の左脚は赤く腫れていて、全ての小さな染みは大きく膿んでしまった。階上から落ちたときの擦り傷は、直ぐに消毒液を塗ったのに・・・でも膿んでいる！！ホントに楽しいこと。ひどく落ち込んでいる。私の脚はなんて不幸をもたらすのだろう。‘ぶきっちょ’看護婦が居るのだ。明日はリーと一緒に医者に行かなければならない。全然行きたくない。人々は私の脚は、危険だと言っている。熱が無くなっただけでもうとても嬉しい（脚から来たもの、だと思う、幸いマラリアではない）。

エンゲルーブラウンス
1943年12月26日

おお、あの食べ物はひどい。そこに私達の可愛い子供が居る。皮をなめつくしている。一昨日はまた下痢だった。しかし昨日は少しましだった、ありがたいことに。私自身は５日間［トイレに？］行っていない、そして忌々しい私の両脚がある。左足は赤くて腫れている。座るところはない。歩き出せば、傷みで叫びだしそうになる！！もう少ししたら医者に行かなければならないだろう（５時）。おお、安静にしろと言う以外に言うことがあるだろうか。そしてここで‘安静’な場所を探してみてごらん。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月3日

今はひどい赤痢が流行っている。恐い。[A.]カーレ[-ヌエシュ]夫人＋年老いた英国人女性［E.ジョーンズ-スワン］が死亡し、さらにとてもひどい症状の人達が突然入院した。そして１月１日にひどい下痢があってごらん。死ぬほど驚いた。長く歩かなければいけないところにあるので、夜にトイレに座り続け、最後には死ぬほど疲れた。１０時に私のベッドに倒れ込み、それから又４回オマルを使った。水だった。ありがたいことに、その時止まりだした。やれ、あれは何と力が抜けることか。

エンゲルーブラウンス
1944年1月8日

ハンクは時々お腹の調子が悪く、また青白い顔をしていることがよくある。幸い下痢は全くない。もうずっと恐れていたのだ、どんなものが出てくるのか。考えてもみてごらん！私自身はもう２年間無い。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月18日

雨がよく降る、土砂降りではないが。病人が大量にいる。ブーイから持ってきた本物の赤痢が流行っていて、ひどい蔓延情況だ。この２日間ですでに７人の死者が出た。全ては本当に突然

起こる。ある晩、ヘース・ヤンセンス[-アイデンス]が気違いのように呻いた。私は気がおかしくなったかのように汗をかいた、なぜなら下痢がそこでは流行っているからだ。デン・デュルクの子供［クララ］（一人っ子）が死に、マレイケ・ヤンセンスは入院（そしてまだ大勢の人達が私達のバラックにいる）し、そしてまたヘースだ。腎臓疝痛だったようだ。彼女は夜中に入院し、しかし今もう帰ってきた。何もできないのだ。収容所から今や彼女には手伝いの人を送り、他のヤンセンたちからの援助もあり、また自分でも彼らの子供達に教えている。彼女も顔と足が腫れていて、尿からは何も発見されなかった。私も、だからそれかもしれない。今は顔はもう腫れていない。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月30日

また数人の死者が出た。全員赤痢。蝿の害がひどくなった。小さな弱い子供達や年老いた人達がそれにやられていく。ぞっとするようだ。[...]

ヤン・ヘインの上の歯（真ん中）が昨日抜けた（自分で引っ張った、強い子でしょ？）２本目も抜けそうだ。みにくい、こんな様子であなたに再会したくないわ。私は新しいのが生えてくるのを待っている。（またあのロットよ！）ハンクはすごくしっかりしている。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年1月末

私達は健康よ、蝿、南京虫、その他シラミ類にもかかわらず。この害虫に対して激しい闘いをしなければならない。私達が赤痢から逃れられていさえすれば。ここで蔓延していて、死者が出ている。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月1日

ほらね、丁度１時間医者の所で待った。前に便に血液と粘液が混じっていて、今はもう粘液だけだ。昨夜はエプソム塩で何も食べず、コンチキショウの今またイギリス塩で飲み物だけ。これでは持たない。ひどくお腹がすいている。子供達もひどくお腹をすかせ、昼に茹でたウビ［サツマイモ］を食べた。お腹一杯にならない。それ以外は気分は良くて、みんなも私がましに

なったように見えると言っている。リー・ルッセラー[-ボンテバル]も医者の所にいた。２度目のマラリア発作があったのだ。鉄分飲料はもう無く、彼女は砂糖、カチャン・タナー［ピーナッツ］それに卵を買い足すことができる（Ｂ券）。ものすごく多くのマラリア患者がいる。絶望的！おお、一体何時終わりが来るの。メイケ・ブルッカー突然死亡。昨日入院したばかり（腎臓？？虫を吐き出していたとか）。赤痢がこんなに蔓延しているので私は早く［医者に］行ったのだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月8日

この間にももう１週間が過ぎた。おお、なんて疲れる生活だろう。最近は死ぬほど疲れていて、一切何もやる気がせず、本当に死んだ方がましだと思う！！２月２日午前にまたエプソム塩を摂らなければならなかった。身繕いをして料理をして、それから薬を飲んだ。今度は私も卵５つと粉に砂糖のＢ券を医者からもらった。砂糖はもらえず、粉はやっと昨日、そして毎日卵１個だ。最初の数日は大丈夫だったが数日前にもう耐えられなくなった。あのひどく遠いトイレまでこんなにしょっちゅう行くのは無理だ。泣きたくなった。私の膝は硬いというよりカチカチだし。急いで[R.M.]フェルナックに、私のために１週間料理してくれる女の子を知らないか、と聞いた。そしてみてごらん、実際昨日から料理してもらっている。昼はひどく塩からく、夜はペディス［辛味］すぎる。まあとにかく、なんとかなるわ、もう嫌になりかかっているけれど。私自身はお腹がすかない！私の柔らかく茹でた卵だけがまるでバターのようになめらかに食べられる。私のトイレ行きが、初めて昨日止まった。しかし昨夜は３回だった。何か固形物を食べのだが、全てはまた水のようになってでてきた。血も粘液もない。知ってる、パパ、あのお粥（あの粘液もう見られない！！）では、本当にフラフラになる。みんなが私のことまたひどく痩せたと言い、それは本当だ。どんどん痩せていく。しかし、いつかまた太るだろう.[...]

日曜１２時にイギリス赤十字スタッフがオランダのに代わった、医師［ライオン］以外は。彼女はヤップがまだ残れと言ったのだ。最初は[R.A.F.]ハーゲンス医師が外科医のフィスと一緒に来るという話しがあった。しかしヤップは“男は収容所に入れない”と言った。おお、今はとても変な動きだ。看護婦から卵と砂糖と粉用のＢ券のために、クローウェ医師のところに行かないといけないと言われた。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月13日

私達ができるだけ静かに過ごす日曜日がまた来た。午後の６時だ。ヘンキー・カウペルの葬式が通ったところだ。何も知らなくて、ひどく驚いた。カッシアン［なんて可哀相］！ヘンキーにとっては一番よかった。その子は血液の病気で、ひどいビタミン不足だった。目はもう閉じて、小さな足もまた腫れ上がっていた。可哀相で見られなかった。フレート［カウペル-バッカー］自身、骨と皮だ。生きた骸骨。おお、おお、幾人かの人達は何て酷く大変な目にあっていることか。赤痢（と、すでに弱った心臓）の後、本当には恢復しなかった。カウペル家の人は妻があんなになってしまったのを見たら驚愕して動けないだろう。不思議ね、殆どの人は再び恢復するのに、あるタイプの人達は全くもう元気になれない。そして、これがいつまで続くのか。死者がとても沢山出ている。ついこの間メイケ・ブル［ッカー］がいなくなり、今度はヘンクで、またもう一人の子供が死の床にいる（父親は男性収容所）。ここの赤ん坊達がどんな様子か、見るに耐えない。本当に戦争犠牲者だ。当然与えられるべきものが与えられていない。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月21日

最愛のパパちゃん。ホントにもう、また私はこういう羽目に陥っている。テルラルー［ひどいこと］だ。一体全体どうしてこんな事になってしまったのか。昨日は日曜日だった。うまく雨だったので、少し遅く起きた。土曜の夜はパンを食べた。（最近はよくやる、尼僧達の所に持っていって、嫌な顔をされるけれど、炊く穴に入れる、薪と手間が節約できる！！それでこそ愛の尼僧というものだ！！！偽物臭い！）日曜日用はベッドでのパン＋コーヒーだ。ハンクはちょっと白豆を暖めて米を炊こうとしていて、私はいつものように上からJ.H.に鍋を渡した。身を起こそうとしてバランスを崩し、床になだれ落ちた。[F.M.]ステウプ[-リハム]、[A.]ドゥ・クルース[-ワルトマン]が側にいた。[A.M.]メイヤース夫人の所に、私がまたO.K.になるまで居た。それでも浴室とトイレに行った。しかし、午後になると一歩も動けなくなった。痛くて完全に寝ながら泣いていた。沢山の擦り傷以外にも、右膝と左足は全く使いものにならない。全体が熱を持っている。もうダメだった。濡らした湿布。看護婦が来て、夜は睡眠薬。今日は傷みが薄らいでありがたい。足はまだ、全く使えない。おお、おお、何と不幸に感じることか。私の化け物足を見てちょうだい。今や横になっているので、骨と皮だけだ。無惨だ。嫌になる。仕方がない、また何とかなる。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月25日

私の足はまた良くなった。２１，２２，２３日は私達のテンパチェ［（寝る）場所］に閉じこもっていた。おお、トイレにもマンディ室［浴室］にも行けないなんて、絶望的だ。どこからどこまでヘマだらけ。２１日にはものすごい痛みがあった。看護婦が冷湿布をしてくれた。ステウプ、ドゥ・クルース、リース・ホフケス、みんなちょっと話しをしに来た。足を吊っていた。今は、ありがたいことにピョコピョコとびっこを引いて歩き回っている。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年3月

多くの赤痢やマラリアが収容所内に蔓延している。もう又１０人が死んだ。蝿はここでは１０億も居る。伝染病が来なければ奇跡だ。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月2日

突然昨日の午後から、私の脚が腫れ、熱が出（３８度）、鼠蹊部が痣になった。これはみんな落ちたときの擦り傷から来ているのだ。急に膿み始めた。足の内出血は少し良くなり始めた（濡らした包帯）が、これは悪いものをみんな［体内に］引き上げてしまう。私は足を高く上げて寝ていなければならず、それでなかったら病院行きだ。素敵だこと！この嫌な、嫌な、嫌な、私の足め。泣きたくなる。おお、パパ、一日中この２平米の隅に引っ込んでいるなんて本当にひどいことだわ。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月10日

子供達は痩せるより先に太ってくる、特にハンキーは。彼女は腹がひどく膨らんでいる。それが私を本当に心配にさせる。私の脚はずっと良くなり、内出血だけはまだ痛いが今は毎日マッサージしている。それから、私は３日前に医者に行って、その結果が偉大なＢ券で、つまり卵５つ（１日１つ）、肉５切れ５ｘ５５セント（土曜と水曜だけ＝悪い、卵と代えてもよい）、

５０セントのカチャン・タナー［ピーナッツ］を２回、６４セントのカチャン・ケデレ［大豆］を２回、３５セントのサッカ［砂糖］１包みを意味する。全部でｆ５．８９。良く聞いてちょうだい。いずれにしても、これは安い値段なのだ！！！（今は卵１個２９セントする闇の値段より）。医者は、今もう２週間も経っているのに、私の脚は大丈夫というにはほど遠いと言う。ああそうだ、私は１日２回‘トニック’ももらう（シンガポールから来た）。とてもおいしいものだ。今は良くなってきている。ただ、ひどく感じやすい。暑さに耐えられない。[...]

昨日と今日、また２人の老人を埋葬した。少し前には３８歳の女性。[A.]ベウメル[-ワンーンデルス]もひどく容態が悪い。さあ、ちょっと横になろう。くたくただ。

エンゲル-ブラウンス

1944年3月17日

今また息詰まる、息詰まる暑さだ。日中はいつも熱っぽく、私はひどく‘ダウン’だ。足をぶつけ、内出血がまた腫れてきた。嫌になる。１１日には散髪をしようとしたのだが、そしたら急に指が膿んで腫れ上がった。脇の下と肘の下に赤い線が出て、腺が腫れている。全てがまた膿んでしまう。そして日中のあの熱。絶望的じゃないの。暖かなお湯に浸けて湿らせておく、それ以外に‘オバト’［薬］は無いのだ。みんなが私は痩せてひどい様子だという。自分ではそうは思わないのよ！ハンキーは太って脂肪が付いて丸い。しっかりした持久力、強く、やる気があり、思いやりがある。今は彼女は毎晩縄跳びをし、その後また風呂に入り、そして私達は台所の石炭でコーヒーを作る。ヤヌシェは歯が無くて、変な前髪をしているのでまだしばらくはみにくい。昨夜はベップ・プラウス[-ドゥ・フロート]、ティネ・ソルフドラーハー[-ブロムヘルト]等の所に座って、赤痢とマラリアの感染拡大について話していた。本当に恐ろしくなってきた。ティネ・Ｓは丁度彼女の２人目の子供を亡くしたところで、後一人しか居ないのだ。ひどいでしょ？夫はやっと来てよかった［あるいは来ることを許されなかった？］。彼女たちはJ.H.の腹具合はどうかと聞いた。とても良い、と言ったわ！それから風呂に入り、１２時半にはベッドに入って、そして・・・ママ、ウンチだ。しかも２回続けて。トイレは１／２ｋｍ離れているので、最初はオマルを使う。私がオマルを持って戻ってくると、またもや彼はそれを使う。私も便が柔らかい。その夜はJ.H.がまた悪くなるのではないかという恐れで眠れなかった。今日はJ.H.は粥を食べ、また大丈夫になった。[...]またもや２人の子供が亡くなり、また３人が匙を投げられた、ベウメル夫人などだ。ひどく恐ろしくなった。嫌になる。病人が山のよう。

エンゲル-ブラウンス

1944年3月30日

月曜日には４人の客を散髪し、その中には私自身の息子とファン・エスの２人の子供が入っていた。

そしてこれから暫く中止だ。私の薬指はひどくブスック［炎症している］。手の第一関節の所と、肘の内側に嫌な痣があり、全てはひどく腫れあがっている。おお、おお、究極の痛み。人々はこれを‘ひょう疽’という言葉で呼んでいる。骨の方にまで炎症が来ているらしい。[73]私には理解できない。診療所で毎日２回ソーダ浴（熱い）をしなければならない。
これをもう３日やっているが全く何にも良くならず、看護婦によればひどくなってきている。［...］

そして人々はどんどん死んでいく。今また尼僧が。医者が私の手や腕を切らなくてもよいように願っている。だってソーダ浴をする度に私は直ぐに気を失ってしまう。

エンゲル-ブラウンス

1944年4月14日

私の最愛のパパちゃん！もう１５日も何も書かなくて、その間中私は病院に入っていた‘変化をつけるため’に！！これでつまり３回目で、最後だといいのだけれど！！[74]おお、私は本当に家に帰りたい、ハンクが今や昨日の午後から病気で寝ているので尚更だ。高熱があり吐き気がする。ダリアみたいに赤い顔をして彼女は昨日私を見舞い、急に泣き始めた。もう何日も吐き気がしていた。彼女は私が帰ってくると思って、２５セントのバナナを３つ（イジュー［未成熟］）買った。カッシアン［可哀相に］！私は全くそのつもりで、オランダ人医師にも頼んであった。しかし、全然そうはならなかったのよ！それで私はバナナを持って帰らせ、自分で食べるように言った。彼女は私をもうたっぷり甘やかしている。時々卵やジェルッキェ［柑橘類］などを買ってくる。可愛い子だ。そして今や彼女は独りで寝ている。カッシアン。みんなとても良くしてくれるけれど、それでも母親には代えられないのだ。それにJ.H.は独りで歩き回って。嫌になる！ほんとにひどいわ！もう落ち着いていられない。ナイラント達は人に料理させ、今彼らは一緒に食べている。（J.H.は鶏肉＋ピーナッツと言っていた！！）。安心する。彼らの洗濯物も人がしていて、私達のも一緒に洗ってくれる。［C.］カプタイン夫人が時々テンパデェ［（寝）場所］を掃いてくれる。ええ、３０日に私は医者に行き、そして・・・入院（その時から４５分後に）。しばらく座って泣いていた。そうなるとは思ってもいなかったのだ

[73] 裸足で歩くことから来る小さな傷や感染が、貧弱な食糧やビタミン不足のために、通常は下肢か足の（深部に達する）熱帯性あるいは収容所性炎症となる。(Coëlho, 605, 823).
[74] 序文参照

！！数日間とかなんとか！！喉はまだOKではなく、指も悪い。２回指を湯に浸けるのを続け、７日に看護婦が、私は喉と指に関して‘スロー’だと言った。８日に切り開く予定で、私が全身麻酔をしたことがあるかどうかと。とにかく、８日には“さあ、それでは部分麻酔にしましょう”と言い、それでもクロウェ医師が私の心臓と肺を診察に来た。それから又待たされ、その後バラックの中の囲われた片隅に行かされた。私はひどく神経質になっていたが、外見はとても落ち着いていた。あなたのロッチェは哀れな犠牲者となっていたのよ。私の指はチューブで縛られ、これが膨らまされて、その後間隔を置いて注射を５回。私はライオン医師に顔を背けていていいかと聞いた。“もちろん”と彼女は言った。ゴムの管が私の薬指の周りに。注射、管を膨らませ、注射をちょっと待つ。こうして５回の注射まで、指は麻酔にかかろうとしない。そして最後に器機の音がして、そこにメスが通っていった。ええ、気を失いはしなかったけれど、それとあまり変わりはなかった。おお、あのライオン医師（彼女は私を結構気丈だと思ったようだ）は、全然違う人だった。可愛い！私は彼女に、こんな染みの付いた脚と今度は手にも何かあって、私に二度と会いたくないでしょうね、と言った。“おお”、と彼女は言った。“戦争が終わって半年、そして卵と野菜を沢山食べて、ミルクをたっぷり飲めばそんなの絶対消えてしまうわ”彼女には大いに感謝した、だって次の火曜日には彼女は辞めて、オランダ人医師に引き渡さなければならなかったからだ。[75]その時には私は丁度宿舎に帰っている頃だと思った。そして私は今でもまだここにいる！私はそこでまだしばらく横になっていなければならず、そしてこの私のベッドに戻ってきたときになって、痛みが始まったのだ。ひどい話しだ！氷のように冷たく、うたた寝しようとした。痛みに身体を曲げて！！そして私は今でもまだあの忌々しい指のためにここにいる。嫌になる！嫌になるの３乗だ。[...]

病院は殆ど満員だ（ここに２８人とそしてまだ感染病棟がある＝下痢）。ジフテリアは１人（エレン・ファン・ヘーケレン）、私の隣で、そして２人の消毒された患者だ。約１週間後にやっと私の喉は治った。さらに、彼らは傷や喉に敏感に反応する。マラリアは今は在宅にさせる。肺炎（結核）も随分多く来る。今は［T.F.J.M.］ファン・ミエルロー[-スメーツ]夫人の夫が数日間戻ってきていた。素敵な光景だった。小さな[N.]エークハウトもここに寝ている。彼女はもう１０日間も死と闘っている。少々のミルク＋水を彼女の口に流し込み、それは体内に留まっている。彼女は助かるかもしれない。本当に可哀相だ。ええ、私達は単にアタッペン［椰子の葉で葺いた屋根］（＋木材）のバラックに寝ている。ぎっしり並んで。こんなに病気の人達ばかりが周りにいるなんて、全然私向きではない。[J.C.W.]エルデリング[-デッペ]夫人（いつも心臓で）もまたここに寝ていた。ドゥ・クルース夫人もまだここにいて、脚（殆ど何も見られない）と、今や指にできものもできた。さらに[J.]ファン・バルト[-ムラー]が私の向かいに、やはり脚に赤い斑点ができている。熱はもう無く、殆ど終わりだ。彼女はそのまま休息している。沢山の子供達が可愛い顔や脚を腫れさせ、あるいは喉の痛みでここにいる。夜中にべそをかき、夜中に咳をする。嫌になる、私は家に帰りたい。中身の入ったオマルが・

[75] 序文参照。

・・何時間も側に置いてある。気分のいいこと。小さな洗面器で洗う。私に向いてるわよ！！！紀元０年の衛生観念！時には飲み物さえもないときがある。南京虫やアリのために寝られない。ひどい話しだ！何時間も、私はベッドの上で背筋を伸ばして座っている。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年4月15日

厄介な熱も出て［脚気に加え］、それは午後近くなって始まり、激しい咳と喉の痛み。昨夜は本当に気分が悪く、多分ひどい熱があったと思う、なぜなら私は何度も、冷たい白いシーツを敷いた、気持ちのよい清潔なベッドの幻想を見た。私の痛みのある脚の下にクッションを積み重ねて。隣には温かな紅茶とトーストの載った小テーブル。昔は病気であることが、実際にはどんなに楽しかったことか。ヤネケの下痢はまた止まった。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月16日

またもや日曜で、そしてまたもや病院での日曜日だ。家に帰ってよいかどうか、３回目の打診をしよう。私はこのままではいられない。昨日の朝は子供達はほとんど熱無しだった。彼らは魚も食べている。ナイラントの所はとてもいいのよ！彼らは大きなジェルクス（ニピス）［ライム］をプレゼントされもした。親切でしょ？でもハンキーは昨日の午後食べ物を吐き出し、また寒気がしている。また熱が出て、夜にまた下がった。これは看護婦によればマラリアの症状だ（特に最初に罹ったときには）。ヤン・ヘインは陽気に歌いながら積み木遊びをしていたが夜にはまた３９．３だ。これがインフルエンザの熱だとよいと思っている。彼はオバト［薬］を飲むのがひどく厄介だ。彼らは今はまだ粉をもらっている。ハンキーは医者に行かなければいけないと思う。もしマラリアだったら、大変なことよ。嫌になる。それは一度始まると、しょっちゅう戻ってくる。カッシアン［何て可哀相な］子供達でしょう。誰が彼らのオマルを、皿を洗うの？リー・ポストが昨日は洗ってくれた！誰が彼らにジェルック［柑橘類］を搾ってあげるの？こんな小さなことは、他の人に期待することはできない。おお、私は本当に彼らのもとに行きたい。私自身の気分はとてもいいのだ。

エンゲル-ブラウンス

1944年4月22日

またもや１週間が過ぎた。時間は飛ぶように過ぎていく。先に進もう。あの４月１６日の朝、オランダ人の医者をトイレの所で見た。ちょっと待って、と思った！！子供達のことを考えての家に帰るという私の依頼について、もう一度考えてくれないか、と聞いた。とにかく、彼女は見てみようと言い、また私の所にやってきた。私は手伝いの人を頼み、気を付ける、と約束した。特に指は休ませないと、などと。おお、何て嬉しかったことか［家に帰ってよいと言われて］！！急いで子供達、ナイラント（食物のため）、カピテインと[A.]ライケに手紙を送った。前もって蚊帳、オマルなどを家に送った。またまたパラミツと米で、私は最後に私の分の半分を[N.]クレルクス夫人にあげた。彼らは私が居なくなると寂しいといった。野菜はその後もっと少なくなり、もっと多くの病人が入った、肺病の患者が多い。ヘース・ヤンセンス[-アイデンス]はまた感染病棟にいる。エークハウトの子供は余り望みがない。あの病気三昧から出られるのはとてもいい気持ちだ。子供達のために沢山のことをして上げられる気がする。人々は私が健康そうに見えるという。指に関して大げさな話を聞かされた（結核の危険など）。午後２時に看護婦が迎えに来た。おお、ここは何て居心地いいんでしょう。少々騒々しくはあるけど。嬉しくて涙が出そう。そしてそこに彼らがいる、シーツも敷かないマットレスの上に、本当に熱のある顔をして。ドリーとリー・ポスト[-グスタフソン]が来た。キティーは家に帰した。ここは人でいっぱい過ぎた。子供達のための時間は殆ど無かった。病院に関してのお喋りを沢山し、彼女たちが出ていったときにはまた嬉しかった、彼女たちには感謝しなければいけないのだけれど。ドリーは２晩子供達の所で泊まり、ここはひどく騒がしいといっていた。ハンクは午後３時に４０．８度の発作を起こした。ヤン・ヘインは３９．８度。私達は夜にナイラントからどろどろ粥をもらった（粉は渡した、サッカ［砂糖］は彼女の！）、子供達は殆ど食べない。[...]彼らはあまり食べず、毎日４０．８度の発作がある、ヤン・ヘインはこの間４１度もあった。医者は１７日の午後に来た。私は７時まで待っていた。ハンクの脾臓ははっきりマラリアの症状を示していた。J.H.は陽性ではなく、医者は１８日に彼のためにまた来るといった（この私達の小屋に）。彼はその時４１度だったのだ。カッシアン［何て可哀相な］、あの小さな心臓はこんなにベラト［大変］だ。彼らを冷たい水で拭いてやり、最初の数日はオマルや皿などを持って行ったり来たりした。でも彼らはこんなに清々し、こんなに清潔に寝ている。J.H.の空腹感は先に戻ってきた。ハンクは１７日の午後にキニーネをもらい、J.H.は１８日の午後（ハンクは先ず、８，７，６錠、J.H.は先ず５錠、それから４錠、今は３錠、といった具合）。彼らはまだ力が出ず、人々は彼らがひどく青白いという。それも当然だろう。彼らは今では服を着て、時々外に行く。一日中屋内にいるなんて耐えられない。ひどく息苦しい。彼らは本当は夜や朝早くは外に出てはいけない。２度目の発作があまり早く来ないといいのだけれど。彼らはキニーネを１週間、そして鉄分を１週間もらった。B券はもうない。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月26日

子供達はまたキニーネ無し（１週間飲んだ）。昨日、二人とも血液検査のために医者に行ってきた。大変な落胆だ。昔はハンクはブラスタギ寄宿学校で一番高いときは８３あったのだ。今や二人とも５５もないのだ。悪いでしょ？でもマラリアの後はいつも悪いらしい、それでも５５はひどい数字よ！彼らは今はトニカムをもらえず（終わり）鉄分粉で、１週間後にはまた‘後キニーネ治療’になると思う。とにかく、私は彼らにできるだけ沢山のカチャン・イジュー［小さな緑の豆］、ジェルック［柑橘類］、砂糖にカチャン・タナー［ピーナッツ］をあげよう。でも、この４つのものを毎日一人ずつ、ホンの少し食べるとすれば、つまり、買わなければならないとすれば、それは一人１日ｆ１になる。しっかり聞いてね。私達にとっては、一月ｆ９０だ。

それで、脚気対策に充分だろうか？ひどいと思わない、パパ？それに、それが脚気かどうかはっきり分からない、でも腫れた脚、顔、胃、それに腹の人たちが大勢いる。恐ろしいでしょ？男性達も脚気患者が大量にいる。恐怖を覚えるわ。昨日は葬式２つ（クースカンプの子供とヤンセン）。それに恐くなるほど大勢の人達が墓に入りかけている、例えば[A.]アイフス[-ローセンダール]夫人、子供［？］、エークハウトの子、小さなレネマとアーレント、［ファン］ミエルロ夫人だ。彼らは全員死と闘っている。ヤニーｖｄエンデも重病だ。もう３回もマラリア。最後は４１．５。キニーネは吐き出し、今は飲みも食べもしない。子供達もあんなに腫れた足をしている。おお、おお、この全てが、私には恐怖だ。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月13日

そして午後に、ハンクの状態が悪くなってきた。嫌になる。また４０．５度。直ぐにキニーネ５錠もらった。彼女は２日と３日の午後にもう少し熱があり、４日は熱無し。カッシアン［可哀相に］、混ぜた焼き飯とえび煎餅とキチムン［きゅうり］、卵、カチャン［ピーナッツ］それに魚は無駄になった。彼女は４日か５日くらい、何も飲まず食わずだった。痩せはしないが、全く青ざめている。みんながそう言う。最初はひどい目眩。彼女はもうすぐまた医者に行く。血液はきっとひどいだろう。ヤン・ヘインは鉄分粉をもらって３週目で、血は６０だった。ハンクは下痢をして、鉄分粉を飲むと気持ちが悪くなる。カッシアン。ひどい。つまりこれで１週間を間に挟んで２回のマラリア発作だ。可哀相なハンク。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月29日

ハンクは３度目の、J.H.は２度目のマラリア発作を起こしたにもかかわらず、私達はまた良くなった。[...]

ここではまた赤痢患者が多い。病院は満杯だ。（ヨープ・サーイヤース、ヨープ・メーケル、コナイン、リート・ヤンセンスなど）。子供達は悲惨な情況だ。痩せこけて、ひどく虚ろだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月6日

私達の子供達は再びよくなった。またしっかり食欲がある。彼らは二人とも６月１日に医者に行ってきた。ヤン・ヘインは血液５５で、ハンクは６０。妙で、ハンクは真っ青だ。結果は、ヤヌシェは２週間の間毎日鉄分粉（黄色い）３包みで、ハンクは１週間の間毎日２包みの粉（黒い）。私はまた腫れてきて、自分でも膨らんできたような気がする（あの病気だ）。ビタミン不足、とまた言っている。さてさて！

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年6月6日

何とまた長い間が空いてしまったことか。私は書くことができなかったのだ。それは暗い疲れる数ヶ月だった。私が来る可能性があると薄々感じていたことが実際になった。その少し前に、私はメアに私が病気になったり、もっとひどいことになったりする可能性について、何やかやと話しておいた。それから私は赤痢の発作に罹ったのだ。ありがたいことに私は快復した。病気は重いものではなかった。私は生まれて初めて病院に入院した。小さなジェフとは別れをしなかった。私は３日間宿舎のバラックで病気していて、私と一緒にある道具［オマル］を使うことによって、ジェフが感染してしまうのではないかという恐れで夜の間ずっと不安だった。この戦争中の毎日、毎時間を考え直してみると、神経にとって何という持久力が要求されていることか。９日ほどして、私はまた‘家’に帰った。ジェフはきれいなキモノを着た私に感嘆し、とても喜んだ。私はまたもっと痩せてしまい、弱っていた。周辺情況は悪かった。闇取引がちょうど止まったところだった。体力を付けるためのものを何も買い足すことができず、

落ち込むというよりもっとひどく、それでも、今、３週間ほど休んだ後は、また軌道に乗ってきた。

エルレー
1944年6月14日

昨日と今日はプランチェス［カッサバ］の皮、あるいは実の青酸による中毒患者が２人出ました。一人は１２時間で死亡するに至りました。子供達は空腹のため、土に落ちているものもゴミ箱からも、何でも食べてしまうのです！！ヤップがこれで驚くでしょうか？

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年6月半ば

このバンキナンには［蚊の］害はない、幸いにも。夜も昼間と同じように落ち着いていられる、いくらかの例外はあるけれど。それでもマラリアが蔓延している。昨日はBB［内務省］にお勤めの人の夫人だった人が埋葬された、その夫はやはり北部から来た人だった。４日間位で、逝ってしまった。それは悲しげな葬式だった。最近はまた死亡者が目立つ。看護婦達の多くも赤痢に悩まされていて、この病気の人達を支え、養生させるようなミルクもない。私が寝ていた場所に来た小さな尼僧（イグナチナ）も、逝ってしまった。私の隣にいた女性は匙を投げられた。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月15日

私達にまたもやマラリアが襲ってきた、つまりハンクが一昨日寒気を感じながら学校から帰ってきた。その後４０．１度。そしてJ.H.は昨日始まった。氷のように冷たく、それがひどく長い。その後４０．５度。私達の［看護婦］ボネファース[76]には知らされず、彼女はずっと後になって知った。とにかく、彼は３回吐き戻し、それで薬は夜になってやっともらった。今、ハンクはまた薬７錠、ヤヌシェは５錠だ。ハンクは薬がひどく苦手だ。二人とも割れるような頭痛で、長く座っていると目眩がしてくる。とにかく、一番ひどい時期は過ぎた。彼らは幸いまた少し食べ始めた。

[76] 看護婦のボニファシア・ペーテルス。

エルレー

1944年6月18日

昨日はまた葬式でした。今度はマラリア・トロピカ＋テルチアナ[77]です。３日間でお終いでした。それは[K.L.]フィッサー[-クルク]夫人です。彼女は、もう自分で自分のことはできる大きな娘を２人残していきました。もちろん、面倒を見る後見人が指名されました。まだ数人が死の床にいます。最近はまた厳しい状況です。

エンゲル-ブラウンス

1944年6月19日

昨日はクルース・フィッサーが埋葬され、それはつまり門まで見たのだけれど。そこから棺は・・・牛車に乗せられた！！今日は[C.J.J.]ステムベルフ先生が埋葬され、こうしてまだ３人が死の床にいる。ひどい時期だ。

エルレー

1944年7月1日

一昨日は収容所にとって悲痛な日でした。死者２人。一人はとても悲劇的です。私達は今よくプランチェス［カッサバ］の葉を食べます。その間には時に実がついていて、それは強い青酸の毒を持っています。子供達は食べられるものを探して（空腹！）ごみ箱をあさり、そうするとこんな事故が起こるのです。今回は３歳になるオランダ人の子供でした。１０時半にそれは起こり、午後５時には死亡しました。恐ろしいことでしょ、そしてそうなってもオバト［薬］は無く、胃洗浄をする器具もないのです。６リットルの水を彼女に飲ませ、毒を薄めて吐き出させようとしました。彼女はそれに激しく抵抗して痙攣を起こしてしまいました。通常は助かるのですが、私達は彼女を助けることはできませんでした。彼女は健康のかたまりみたいな子でした。もう一人の死者は看護婦でした。看護婦の中にも死者が大勢出ています。今月は記録的な埋葬数で、９回もありました。

[77] マラリアの２つの形。マラリア・トロピカは時宜を得た治療をしないと死に至ることがある。(R. Mills 著、 *Doctor's Diary and memoirs. Pond's Party, F Force, Thai-Birma Railway.* (Broadmeadow 出版、1994)、ｐ25).

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年7月3日

私はまた元気になった。１週間くらい前にまた悪くなったのだ。病気［赤痢］がまた軽く戻ってきたが、衰弱したままだったので本当にフラフラになり、どこかに５分と立っていられなくて横にならずにはいられず、数十メートル歩くのもやっとの状態だった。その時私は子供達に、私はなるべくベッドで休息するようにすること、それから私達は物持ちではないけれど、私は何か追加のものを１日２回食べるようにしなければならないのだ、と話した。これまでの間ずっと私は米粥を２皿追加として食べ、手に入れば卵も食べた。子供達はその時私の面倒をとてもよく見てくれ、自分たちの卵を私にゆずってくれた（今は断食の時期なので、一月間に１個）。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月5日

我らがヤン・ハインチェはまたもや自宅軟禁だ、つまり・・・昨日、４回目のマラリア発作があったのだ。ハンクに遅れをとりたくないのだと思うわ。この２，３日すでにだるそうで、時々熱っぽかった。潤んだ目をして青ざめている。カッシアン［何て可哀相な］、本当に痩せてしまった。嫌になる、肋骨が浮き出している。それでも背はたっぷり伸びている。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月7日

女性全員が尿の病気に罹っている。例えばアニーはパンツにすぐ漏らしてしまう、夜もだ。ハンクもこの間そうで、びっくりして目が覚めた。ここにいる女性は誰も尿意を抑えきれない。絶望的だ。おそらくは筋力不足で、筋肉を全く制御できない。私もトイレにたどり着くのがやっとだ。急にひどく行きたくなってごらん。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月9日

今日は[E.W.]レインスト[-レード]夫人と[G.]ボス[-ハーフィンハ]夫人が亡くなった。後者はまだ若いが、心臓の衰弱と全身消耗のためだ。こんな人達がまだ他にもいる。カッシアン［可哀相に］！そして多くの人達が死の床にいる。

エルレー
1944年7月12日

男性収容所で、ここでも彼らの所にもよくあるビタミンＢ欠乏症に対するオバト［薬］が作られました。それは精錬されたデデク［糠］です。男達が自分たちで米を精米し、糠を注意深く取り出してふるいで漉したりしたのです。それは実に素晴らしいものです。足や脚がしぼんでいくのが目に見えるようです。[...]この数週間は傷をよくした時期でした、３カ所です。それぞれの足にと、肘にです。左足は再び良くなり、右足も１週間より長引くことはあまり無いでしょうが、肘はまだ全然治りません。傷の治りが悪いのは、全体的な兆候です。昔は奥深い熱帯性の炎症だったのですが、今は肌の表面の傷から膿が沢山出てきます。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月13日

最愛のパパちゃん。この数日間にまた多くのことが起こった。ハンクは月曜日の午後学校から帰って５回目のマラリア発作。彼女はまたもやキニーネ治療中で、私は一昨日J.H.と医者に行った。血は６０を割っていて、つまりまた鉄分粉（黄色の粉）治療だ。おお、彼はひどくお腹をすかせている。彼が痩せてきているという話しをすると、医者はＢ券をくれ、それは２カップのカチャン・イジュー［小さな緑の豆］を意味する（１カップｆ１．２０、闇だとｆ２）。これの方が長持ちするわ、卵よりも、と医者は言った。それはそうだ。ハンクのためにも、何かもらえるといいのだけれど。チョバ［やってみよう］！医者は彼らがこの調子でずっと行くと思っている！楽しい予想だこと！J.H.は風邪も引いた。私自身はまた嫌な脚が始まった。すねの上に赤い斑点ができて、それに打ちつけた擦り傷、それが膿むのだ。絶望的じゃない？！それに吐き気がするほどの頭痛だ！！

エンゲル-ブラウンス
1944年7月26日

[J.P.]ナイセン[-ヴォルテル]夫人の後で[M.H.C.]フーマンス[-デッペ]夫人が亡くなった（心臓）。そしてすでに大勢が同じようになっている。誰も少しの抵抗力もなく、そのために赤痢患者が多い。

エルレー
1944年8月5日

前の水曜日、私は突然具合が悪くなり、トイレにまで辿り着けずに、表戸の後ろで子供用オマルにしゃがみ込みました。そして２分以内にオマル２つをいっぱいにし、ひどい気分でした。気を失うかと思うほどでした。少し支えられながら私はまた自分のテンパチェ［（寝）場所］に這い上がり、ベッドに倒れ込みました。それからまだ１時間はひどい目眩がして頭を持ち上げることもできませんでした。砂糖入りの米を食べました。少ししてからもう一度、それからもう一度、そして夜になってやっと落ち着きました。翌日にはペディス［辛い］料理をおいしく食べ、今はまた全く大丈夫です。私の腕のことで医者に行ってきました、炎症がひどくなりすぎたからです。オバト［薬］をもらいました、ビタミンＢだと思いますが、彼らはひどく秘密めかしています。そうでないとみんながそれを欲しがるからです。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月5日

イレーンチェの誕生日で、明日は誰？そしたら私達はまた‘互角’よ。二人とももう３５。あなたが言うのが聞こえるようだわ。“女性としては年寄りだが、男性としては若き青年だ。”お待ちなさいな、とっちめてあげる！前もって私達三人から熱烈な誕生日のキスをいっぱい送っておくわ。もちろんロッチェはまた何か特別のことがあって、パパちゃんの誕生日は残念ながらまたもや水泡に帰するのだ。私は・・・４回目の入院をしている。自分でもなんだか分からない内に入っていた。７月２８日金曜の夜、浴室から震えながらでてきた。ベッドの中でも、ケープ、靴下、純毛の毛布等々があるにもかかわらず暖まらない。とにかく、翌日の朝６時に食事の支度をしたがひどく気分が悪く、トイレに走らなければならなかったりした。とにかく、急いで料理を終え、早く早く風呂を浴び、気持ちの良いベッドの幻想を見た。その間にも私の膝は腫れて動かなくなった。訳が分からなかった。自分の場所に帰ってからやっと見ると

、腫れて、赤くなっていた。あの赤い染みが広がっていた。熱が出てきた。看護婦が来て、マラリアだと思った。私のもう一方の脚でも始まり、赤い線が鼠蹊部に走り、そこで腫れあがっていた。全体的にひどくなっていて、医者が土曜の午後に私の所に来た。湿らせて、足を上げ、オマルをベッドの中に（さてさて、ギシギシした野戦用ベッド上でね、確かに！！）等。一番変なのは私の頭だ！！頭痛のために目が見えなくなった。カプタインも言った。“おお、マラリアね”。吐き気がしていた。とにかく、夜には少し良くなり、日曜の朝にはちょっと起きてみた。リーがコーヒーを飲みに来て、幸い一人で、結構楽しかった。コーヒー用ココナッツミルクが少しあった。しかし午後になってものすごく気分が悪くなった。あの高熱が下がらなかった。看護婦はもう３回来て、医者もまた午前中に来た（しかも日曜だというのに！）、その時はまだ熱が全然なかったときだ。私は熱のことで看護婦に知らせに行かせなければならなかった。医者はまだ寝ていたので、彼女は取り合えず私にキニーネをくれた。その後のことは私には分からない。熱は全然下がらず、ひどく高かった。頭痛のために目が見えず、それから身体全体が硬直する感じがした。腹、腕、脚、等々、そして気を失った。ドゥ・クルース夫人、カプタイン、それにアニー・ロトマン[-フックストラ]がそばに来た。その後、看護婦、医者、メファン夫人。とにかく、短く言えば、彼らは私を担架に乗せ、担架共々下に運んだ。状況を知っていたら、これはものすごい芸術作品よ！！近所の人達全員が協力したようだ。今になってやっと、彼らが私を調理場などを通って運んでいったことが分かった、みんなが知っていて、ひどく驚いていた。短く言えば、その夕方と夜中は本当に悪い状態だった。湿った布に包まれ、３時間か４時間おき（夜中も）に、ストレプトシル[78]を投与され、そのおかげで耳が聞こえず、吐き気がした。月曜日にはずっとましな気分になったが、食事はまだできなかった。ああ、そうだ、私の友達のステウプがここで看護婦になったところだ。彼女は私の身体を洗ってくれ、今は一カ所を除いて（右膝のところ）、全部の赤い線や染みが消えた。私が歩けるようになる前に、全部が、全く消えていなければならない。あの小さな傷もほとんど良くなってきた。全くなんて脚だろう！あなたが見たら驚くわ。しかたない、あなたの状態だって分かったもんじゃないわ！！それから、看護婦はキニーネ錠剤の残りをそっと持ち去った、私はマラリアではなかったらしい。よかったわよ。その間にもJ.H.は３０日に５回目のマラリア発作になった。幸い熱はそれほど高くなく、早急に手当した。私は三日三晩ストレプトシル（１８錠）を飲んだ。とても珍しい、高い治療だ。卵を食べてはいけなかった。今はそれが終わり、毎日ゆで卵をもらう。その日で一番おいしいとき。[...]

子供達はドゥ・クルースのところでものすごくいい待遇、１日３回食べている。彼らのところにはスムピット［ひもで閉じる袋］いっぱいの米があるようだ。“白い米の粥‘とヤン・ヘインは言った。ドゥ・クルースは人に料理をさせていて、私達の子供達の分も一緒にやってくれる。素晴らしいでしょ？私が持っていないような、沢山のエクストラをもらっている。ドゥ・クルース夫人はJ.H.を特に可愛がっている。夜には彼と一緒にどろどろ粥を食べ、午

[78] 液状の消炎剤。

後にはお昼寝をさせる。私は絶対に心配をしてはいけなくて、早くここを出ようなどと考えてはいけないのだそうだ。それでも私は帰りたい。後は膝に小さな染みがあるだけだ。私はここで[J.C.W.]エルデリング[-デッペ]夫人の隣に寝ている。心臓病の患者で、危ないところだった。しかし、彼女は時にとても陽気になる。[...]

重病人の人はここには他にいない。赤痢病棟にはいる。アガテ看護婦は死に、アイフス夫人はまあまあだ。ここには[H.M.]ファン・エス[-ニーブール]夫人、[H.H.]ボテル、ウィル・ドゥ・ルーヴァー[-ファン・ウィリヘン]（結核）、スネイダース、ファン・バルト家の母親（フィス医師による、胸の小さな手術を受けなければならない）、[J.A.]スリンハ[-プラウス]夫人等々が居る。フィス医師がここに来た。嫌な奴！そうよ、医者は（私のことを）この患者は赤い線と高熱で入院した、と言った。ああ、しかし、エルデリング夫人と私のことは、彼は知らない、男性収容所に夫が居ないからだ！！あの怪物め！私達は重要ではない付け足しなのだ。彼はただ歩き回っただけよ、日本人がその後について（薬の量を計りに来た）。さようなら、愛しい人、また明日。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月8日

[E.C.]フンヘル[-カプタイン]夫人は[J.]コルク[-マッキンク]夫人に神の言葉を告げ、それにおばあちゃんは答えた。そのあとハンス・コルクが来て、普通におばあちゃんと話していて・・・突然ハンスの顔が硬直するのが見え、彼女は震えながら看護婦を呼んだ。コルクのおばあちゃんは逝ってしまった。何て早く逝ったのか。ひどい。その夜遅く、ドゥ・コック要塞から来たフローテス([J.T.]センデン)氏の母親もまた亡くなった。

ちょうど医者が来たところ。私の脚はほとんどもうよい。右膝に硬いところが一つだけ。私が少し歩いていいかと聞くと、彼女は後ろを向いて、“このご婦人には少々気を付けなければいけない、聞き分けがないからね。”などと言った。言葉を変えれば、彼女は私がまた、早く動き始めすぎるのを心配しているのだ。おお、でも、可愛い人、ここにまだ長くいなければならないと思ったら！！見るも無惨。周りがみんな病人で、ほんとにひどく息苦しくなる。夜やこの２日間息をするのに苦労しているヨー・エルデリング。吐き戻す人達など。全てに嫌気が差している。おお、最愛のパパちゃん、私をこの惨状から救ってちょうだいな。

エルレー

1944年8月11日

私の肘はやっと包帯が取れました。湿疹は完全に治ってはいません、まだ時々ひどく痒くなりますから。そのためまだ１週間はピロティック（錠剤）をもらい、過マンガン[79]は手元に常備していなければなりません。でも、腕を巻いていた布きれが取れて清々しています。今度は私の足が治れば、私はまた包帯無しになれます。

エンゲル-ブラウンス

1944年8月12日

まだ、もうちょっとベッドからのお喋り。昨日の午後は、ベンチまで［歩いて］行って戻ることが許された。おいしい空気を吸って、そして今朝はまたさらに歩いた。私の脚はとても良い具合だ。首の腺が腫れていて、喉の痛みがあり、今はうがいをしている。でも、大丈夫。完璧な気分だし、ずいぶん肉も付いてきた。休息とたっぷりの食事ですぐにまた良くなる。今後のためにも安心だ。収容所内ではもちろんすぐまた痩せてしまうが、それでもすぐにまた太ることができるのだ。早く、大体２日か３日後には家に戻れるといいと思っている。ええ、楽しみよ！[...]

アン・ユングストは１週間看護助手をしている。面白いでしょ？フレー・ブーケンカンプが看護婦になったりして。イギリス人とオランダ人の混合職員！！この病院は何とくちゃくちゃなことか。ネズミ、蟻、蝿等。たっぷり居る！！

エンゲル-ブラウンス

1944年8月14日

最愛のパパちゃん。バンザイ、バンザイ、明日は家に帰れる！！！ホントにホントに嬉しい。でも・・・全く何もしてはいけない。絶対安静で、なるべく外に座っている。私の膝の痛みが完璧に無くなったら初めて、少しずつ仕事を始めてもよい。[...]病院は満杯だ。ヘティー・ファン・ドングン[-パイパー]もここにいる。腎臓か何かだ。ひどく大げさにしている。それから何人かの重病人が居て、それは[E.]ラウエンダイク（心臓）。そしてヨー・エルデリングで、もう４日くらい死にかかっているように見える。ここはもう我慢できない！！あの、吐き出し、吐き戻し、この息苦しさ。死人みたいに見える！！そしてやっとの事で［ファン］バルト夫

[79] 水溶性の塩の一種で殺菌作用がある。(Coëlho p601)

人は明日手術だ。またもや灌注、注射等々の全過程だ。１時に彼女が帰ってくると、止血のために何リットルもの塩水で洗浄だ。それにはフィスが外科医として、ハーヘンスと[J.Ch.]スフロダーが助手としてやっていた。３人のヤップがついて、看護婦大勢、私達の医者。彼女は高いベッドに寝ている。おお嫌だ、本当に神経質になってしまう。ハーヘンスは残念ながらもうあちら側に行ってしまい、私は彼に手を振った。彼はやっと“君も病気？？”とだけ言え、私は“ほとんど恢復！”と言った。他には彼は“マレー語を喋らなくてはいけない！”と言った。[...]幸いファン・バルト夫人は良好だ。ヨーはまた呻いていて、少し吐いている。震えが来る。これからしっかりたっぷり食べよう。カプがたっぷりの肉や野菜をくれた。今回は幸いウビブラーレン［サツマイモ］にスベリヒユが少しあった。つまり、パラミツは幸い無し。私は大量の米を食べる！！医者も言っていた。“食べられるものは何でも食べなさい！”

エルレー

1944年8月28日

人々はみんなひどく神経質になっています。収容所内の健康状態は、大勢の半病人や、多くの力つきた女性達が居るにも関わらず、まあ良いと言えます。半分目くらになった人や、歩けない人、自分のために料理したり洗ったりする力が全くなくなった人などがいます。本当の病人というのは赤痢やマラリア患者のことです。医師が調査すれば驚くべき数字が出ることでしょう。

エンゲル-ブラウンス

1944年9月9日

３人の女性が医者から見放され、それはアイフス夫人（民宿アイフス[80]）、ヨー・エルデリング、それにラウエンダイク夫人だ。カッシアン［何て可哀相］。

[80] 日本軍占領下で、パダンのヒリゴー３番地にあったアイフス民宿は憲兵隊が使っていた。L. Lanzing著, *Kura! De noorderzon boven de gordel van Sumatra* (Bergen 2000) p 195。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月15日

私はまた医者に呼ばれた。先ず最初にちょっと言うけれど、ボネファース看護婦が一昨日知らせに来て、私は１４日間肉の皮をもらい（只で）、時々ジェルック・ニピス［ライム］も手に入る（購入）。つまり私は患者リストに入っているのだ（新しい規則）。これは太るためだ。こんな規則があることも知らなかった。でも、運がいいのよ！[...]そしてそれでも、特別なタイプの人達はまだ太っている。しかし、特定のカテゴリーの人達は、痩せこけている。太陽を浴びて日焼けしているけれど、見るも無惨に痩せていて、そのために風邪などを引きやすく、それには医者も細心の注意を払っている。そして、このカテゴリーに、残念ながら私も入ってしまったのだ。[...]この頃私は、ひどくせき込むようになった。一番ひどいのは午後６時にあり、その後、この２日間は全く硬直してしまい、それがひどく長く続く。おお、これは、身体が過労状態で、それが私の神経を参らせているという問題なのだ。あの痙攣はいずれにしても嫌なものだ。あんなに長く続くのだ。しゃくに障るのは、毎日熱が出て、つまり朝早くはないのだが、１２時近くなると３７．３、３７．８で夜は３８．７だ。咳の発作の後ではひどく息苦しく、疲れる。それ以外は大丈夫。正直に言えば、この頃は少し意気消沈していて、肺炎や結核が死ぬほど恐い、ええ、笑わないでね、最近は本当に病気に罹りやすいのだもの。医者は私を診察し、“さて、あなたも太ってる内には入らないわね！！”と言い、私は直ぐそれに答えて“おお、お医者さん、こんな人達は本当に大勢居るわよ”と、“お腹がすいてるのよ！”という代わりに言った。仕方がない！空腹もみんなそうなのだ！ええ、これは気管支炎だったわ。“咳をしてごらん”と彼女は言った。私は直ぐにして（内部ではいつもピーピーいっている）それで・・・硬直した。このために私は石灰をもらった（これはとても貴重なのだ！）。それ以外は咳止め飲み薬で、とても、とても気を付けなければいけない、そうでなかったら入院だ。ええ、隙間風に気を付けて。ハ、ハ（ここでは、風が吹けば、吹き付ける風のまっただ中で寝るのだ！）仕方がない。私は本当にダウンよ、パパ！

エンゲル-ブラウンス
1944年9月17日

ヨー・エルデリングが今夜死んだ。昨日はピッチェとヨッシェ・ドゥ・ヨング（３．１／２歳と２歳）の二人の子供が大急ぎで病院に運ばれた。ピットは痙攣を起こし、その夜死んだ。ヨッシェは少し良くなってきているようだ。またプランチェス［カッサバ］中毒ではないかと疑っている。この粉では本当にひどい空腹感で、みんなはプランチェスの皮であらゆるものを料理し、子供達はゴミ箱をあさっている。カッシアン［可哀相］な[A.]ドゥ・ヨング[-

メイス]夫人。何て悲惨なことでしょう。アイフス夫人は何時逝くか分からない。死者３人、これはいいというにはほど遠い。

エルレー

1944年9月17日

今日は悲しい日です、３人死亡、１人の子供は痙攣を起こしながら、何が原因かはもう分からない中毒症状の高い熱をだして。そして２人の婦人は、２人ともこの情況の犠牲者です。

エルレー

1944年9月22日

昨日から、私達のために料理をさせています、１週間ｆ５です。二人とも休息が必要なのです。栄養失調の影響が出てきていて、私達はすぐ震えを起こし、すぐに疲労してしまいます。これでうまく行ったら、もう１週間頼みます。私達はちょっと計測してみました。肘上の腕周り２１ｃｍ、胸囲８２，ウェスト７６，腰回り９２，そして私はまだ痩せ続けています、とてもゆっくりですが、分かります。私の腿にはへこみができ、私の顔はといえば、美しいとはとてもいえず、眼鏡は鼻からずり落ちてきます。パウルも私と似たり寄ったりです。彼女は見分けがつかないほど変わってしまいました。また死者が出ました。アイフス婦人－私達と同年代－赤痢。これはまたニュースが入るという意味で、それを待ち望んでいます。[81]

ファン・ドゥ・ワル-クーラース

1944年9月22日

私はこの期間中、また軽い赤痢の発作を起こした。また１０日間ほど伝染病棟でもっと空腹に苦しみ、それでより健康になったとは言えない。しかしありがたいことに、私はそれでもまた恢復し、それからは恒常的食糧欠乏に耐えながら生きている。

[81] 葬式は男性収容所への、あるいはそこからの知らせをやりとりする数少ない機会を提供した。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月23日

１７日の日曜日４０度。これは皆、夜だ。そして頭痛！！気が狂いそうだ。夜中の１１時半まで騒音。１８日にまた医者が来て、重い気管支炎と診断した。ここは隙間風が吹きすぎだし、私がまだトイレ方向に行ったと聞いた（オマルがない。私達のオマルは男性収容所に修理に出ている、と彼女に言った！！）しで、入院するのが最も良いと思う、という。しかし、私が本当に自宅に居続けたいというのを知っているので、もしベラト［重荷］になりすぎるようなら、そして恢復しないようならボネファースに言うことを約束させられた。その夜は何とかなった！！（３７．６）翌日急いでちょっと風呂を浴びた（隙間風の多いテンパット［（寝）場所］で洗うよりも良いのだ）。夜には３８で右胸に強烈な痛み。咳が出て、呼吸もほとんどできず、その勇気もなく、痛みに縮こまっていた。つまり２１日は医者に行った。そこに行くと、彼女は先ずもう、ボネファースが私を彼女のところまで歩かせたというので怒っていた。とにかく、私は骨と皮だけだとか、今度は賢明に病院に入院してははどうかとか言った。そのあまりなことに、内緒で泣いた。つまり、わたしは硬直化のために石灰、ジェルッキェ（ニピス）［ライム］、肉の皮、咳止め飲み薬をもらっていたのだ。私はもちろん、頑固なことはしたくない、などと言い、それで午後４時３０分にそこに行ったのだ。今はヘティー・ファン・ドングンと[V.]スペンディング嬢の隣に寝ている。おお、始めは本当に不幸せに感じた。短すぎるマットレス、湿った毛布、小さな子供用オマルなど。おお嫌だ！その夜はほとんど眠らなかった！咳にまた咳だ。その度に咳止め飲み薬と睡眠薬をもらった。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年10月

ヤンと私は猿疱瘡になった。ひどく厄介なもので、毎日午後燃やされる。ヤンはこのために醜い大きな傷が首にできた。私はそれが腕下にある。乾かしておかなければいけないのだけれど、不可能で、一日中クーリーのように仕事をしていて、それ相応の汗をかくのだから。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月15日

最愛の可愛い人。もう８日間が過ぎ、もう８日間家にいる。子供達と一緒でこれが一番いい、力が出ない感じは続いているけれど。病院に入院する度にもっと疲れてくる感じがする。嫌に

なる。うまく行っている。ただ今日はまた少し硬直した。仕方がない。[...]ハンクは２日間熱があった（３９度）、インフルエンザだ。一昨日の夜J.H.が吐き戻し、悲惨なほど高い熱が出た。最初に吐き戻したとき、蚊帳から走り出てきて“やっとオマルにたどり着いた”と言い、それ以上は何も言わず、私は彼の頭の横に器を置いた。カッシアン［可哀相に］！！それから一晩中彼の側に座って見守った。プランチェス［カッサバ］中毒かと思った！本当に恐ろしかった。次の日も熱があり（それほど高くはない）、ひどい様相だった。顔が腫れたりして。幸いよく食べた。今はまた良くなった。ただまだ青白く、あまり太ってもいない。

エルレー

1944年10月18日

時間は飛ぶように過ぎていきますが、それでも充分な速さではありません。私の足は３ヶ月経った今も治っていません。傷口は直径１／２ｃｍしかないのですが、閉じようとしません。今やまたもや炎症を起こし、傷から数センチ離れたところも青くて腫れています。楽しいお約束で、今やこれをいつも湿った身体荒い用布で冷やしておかなければなりません。[...]上腕の３カ所の傷は広がってきて、一つの大きな傷に結びついてしまうでしょう。これもまた楽しい予想であることよ。

エンゲル-ブラウンス

1944年10月31日

１０月最後の日が来て、１１月もすぐそこだ。厳しすぎる！！私達は大丈夫、ハンクの８回目のマラリア発作が２７日と２８日にあったけれど。一晩中私達は起きていた。彼女はまたキニーネとプラスモキネ[82]を飲んでいる。カッシアン［何て可哀相］、それでしょっちゅう気分が悪い。彼女は息苦しさを訴え、息を付けず、ずっと汗をかき続けている（雨が降っているようだ）。これを後で医者に言おう。彼女は本当にひどい様子だ！

[82] 抗生物質の一種。

エルレー
1944年11月4日

またもや新しい厄介者、私の右手の人差し指が膿んできた。小さな痒みを掻いて皮膚を傷め、その後プランチェス［カッサバ］の皮を剥き、そしてその上トイレのドアで擦った。今や指はしっかり腫れて、同じく‘しっかり’痛み、赤い筋が入っている。今や私は腕を布で吊らなければならず、私はもちろんそれがひどく厄介だと感じている。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年11月9日

私はまた病気だった。お腹があまりもう良くならないのだ。もしこれがまだ長く続いたら、どうして良いか分からない。メアが病気になった、傷が膿んだ。最初は私が治療した。しかし、メアは相手が私だとひどく痛がり、診療所に送らなければならなかった、医者に一度相談したかったこともあるのだけれど。

エルレー
1944年11月17日

私の腕は、もう２日間包帯無しです。私の足も良くなってきているようです、今はヨードチンキを付けて、保護用の包帯をしています。まだ私の人指し指だけが抵抗しています。しかし、今日はまたしばらく振りに指を使うことができ、それだけで素晴らしいことです。収容所中、チフス、コレラ、赤痢の種痘が６回に分けて行われました。私達は１回分の量全部を受けるには体調が充分ではないので、それぞれの種類を２回に分けて注射するのです。この半量でさえも具合が悪くなる人がいます。私自身は問題有りません。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月25日

おお、おお、私達は何て忙しいんでしょう。１日に１分と座っていられる時間もないのに、それでも私はまた捕まってしまった。私の足はまた赤く、腫れあがり、脚には赤い斑点がある。変でしょ？足は血管がひどく脈打ち、私はただただ死ぬほど疲れている！！そして、空腹！！

ひどい。子供達は大丈夫。私達は３人とも鼻水を出している。J.H.は医者に行ってきたところ、血液はやっと５０。あまり多くないでしょ？彼はカナリアみたいに黄色い顔をしている。私達は本当にお腹か空いている！

エンゲル-ブラウンス
1944年11月25日

また葬式が３つ有った([J.W.]ライフ[-ゴッシオー]夫人など)

エルレー
1944年12月8日

１２月７日の８時頃に[M.H.C.]スペルティー[-クンダース]夫人が亡くなりました。もうすぐ私達は彼女を埋葬します。私はこの収容所でまだ誰かを埋葬しなければならないとは思いませんでした。今はその時が来て、私もちょっと墓地が見たいし、外も少し見たいです。こんな出来事から楽しみを見いだすなんて嫌なことだけれど、しかし現実にそうなのです。男の子２人は男性収容所に行き、ミーシェはここに残ります。葬式と共にそのまま次の収容所に行かなければならないかも知れないので、全てはもう荷造りされています。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月9日

J.H.は昨日４０度の熱が出て、汗まみれ、マラリアだ。看護婦が夜中にも医者のところに行き、すぐにキニーネをもらった。とにかく、今朝はまた、彼は陽気に薪を割っていた。今日もまたキニーネ５つなど。彼の血液はもうすぐ５０を割ってしまうだろう。[...]死者が沢山出ている、例えば昨日スペルティー夫人が夜遅く葬られた。今また尼［エマニュエル尼僧］が死に、人々は男性収容所の４５歳の男もだといっている。本当に恐ろしくなってきた。

エルレー

1945年1月12日

大晦日以来私は腎盂炎持ちになりました。１週間経ってから私は医者に知らせ、今は追加のジェルック［柑橘類］をもらっています。オバト［薬］は無く、つまり私がもらえる可能性はありません。熱も無く、洗い流すために、今や１日３リットルの水を飲まなければなりません。

エルレー

1945年1月21日

パウルを水曜日［1945年１月17日あるいは19日］に病院に運ばなければなりませんでした。彼女はもう数日間具合が悪く、トイレによく行っていました。私達が医者に見せたときーちょうど間に合ってー彼女は血と粘液を少し出し、すぐに病棟に運ばれました。しかし、それで良かったのです、なぜならその夜、彼女はもらった緩下剤のおかげで２０回以上オマルを使ったのですから。私達がもう何ヶ月もオマルを鍋として使っているので、今は私達にはオマルがないことを知っていたら、彼女が病院にいることを私が喜ぶ気持ちが分かるでしょう。アメーバ性赤痢は昔から有る病気で、時々また発生するのですが、でも今度は深刻です。幸い彼女は熱はありません。それ以外は全て大丈夫です。私の腎盂炎はまたもう終わり、それでも私はまだ今週中はサンバル［辛味香辛料］を食べることは許されません。私は食事毎に数滴使ってその禁止を破っていますが、香辛料が少なすぎて食事に味がないからです。

エンゲル-ブラウンス

1945年1月28日

J.H.と医者に行ってきた。私は虫治療のため。J.H.はひどく悪くなったと言われ、今や彼は内緒で１週間にたっぷり１／２カップのベラス［脱穀した米］をもらう（８歳と９歳の子供用）。さらにＢ券で、つまりｆ１．２０の卵を５つ買えるのだ。私の２枚目の卵券は放棄した。それで卵４つ（３つ私、１つJ.H.）買うことができた。私達はつまりまだ病人リストに載っているのだ。こうして私はまた４日間病人用皮までもらえるのだ。もしかしたらJ.H.ももうすぐまた、もらえるかもしれない。

エルレー

1945年2月2日

パウルはひどくゆっくり快方に向かっています。これがまだ数ヶ月は掛かるだろうということが私には分かります、なぜなら２０日近くも経った今、まだ便に粘液が混じっているからです。彼女の足、腹、顔は少し腫れ上がり、これはビタミン不足、特にＢです、なぜならデデク［糠］がこれに効くからです。

エンゲル-ブラウンス

1945年2月18日

私達のハンクは約１．１／２週間前、大きなマンディバック［風呂場の水槽］雑役で、錆びた鉄の掻き取り器の上に飛び乗った。足の裏に傷を負い、足が腫れて熱が出た。今はもう熱が無くなって久しいが、足は腫れ続けている。困ったことだ。彼女は歩いてはいけないので、私は保母さんまでやっている（オマルを空にしたりして）。こうしていつも何かある。彼女は家の仕事を少ししている。さらに、いろいろなことがあった。ここや男性収容所で毎日のように誰かが亡くなり、まだ大勢が死の淵にいる。こうして前の日曜日にはリーチェ・ルセラーを亡くした（１９４５年２月１１日）。ひどいことでしょ？[C.A.]バルト[-ウェーセンドルプ]、[J.H.]ビケル[-ブロック]と私はリーに墓地に一緒に行きたいと申し出た。［父親の］ルセラーはリートの最後の日々にここに居た。彼は痩せていたが健康そうだ。葬式はひどかった。私はリーの隣に歩き、石になったようだった。泣くことさえもうできなかった！リーチェを見た。初めて見る死者。彼女は美しかったが痩せていた。私達は腐った薬ヤップに当たり、そのため、誰も一緒に行ってはならなかった。牛車に棺を乗せる前に、牛が草を食べ終わるのを待たなければならなかった（！！）。整列するスカリラ［兵補］たちの叫び声や笑い声などが聞こえた。そのヤップはルセラーに対して、“アア、チダ・アパ！”［どうということはない］（あなたの子供が死んだことは）と言った。ならず者、ごろつきめ！！それでキトとリーは牛車に乗せられた棺の後について二人だけで門を出ていった。私達は彼らをコーヒーで迎えた。

エルレー

1945年2月18日

いまだにパウルは良くなりません。ゆっくり悪くなっています。戦況は改善し、終わりが近くなってきているのに、深く悲しいことです。彼女はほとんど何も食べず、それでもよく吐き戻

すのです。尿道炎まで起こして、ひどく腫れています。便にもまだ膿や血や粘液が混じっています。彼女は座るにも疲れすぎています。子供達はもちろん私と一緒にいます。彼らは本当におとなしく、しっかりしています。私は彼らに、お母さんは重い病気なのだ、と話し、彼らはそれがどういうことなのか、分かっています。

エルレー

1945年2月28日

水曜日の２時、メファン看護婦が、パウルが危篤状態だと知らせてきました。それを私は直ぐに子供達に伝えました。彼らはもちろんひどく悲しみーそして事態をとても良く理解しました。彼らは母親を訪ねてよいことになり、一人ずつで、それはパウル自身が容態がどれほどの重体なのかを分かっていないからなのです。

エルレー

1945年3月2日

また悪くなった［パウルが］。私は今度は３人の子供達と一緒に行ってきました。子供達はそれをよく理解し、賞賛すべき態度でした。子供達が出ていった後、彼らの将来について話し合いました。パウル自身が、彼らのことを心配している、といってその話しを始めたのです。最初の頃は是非あなたと一緒にいたいと言いました。彼女はまだ逝ってしまう用意はできていませんーまだです。私は彼女を慰め、勇気づけました。子供達の遠い将来の世話を私は引き受けました。パウルは、その時が来たら、私に子供達をオランダに連れていって欲しいという望みを話しましたーそしてそれも私にはやる用意があります。この全てが遺書に書き記され、私は彼らを安全にあなたに届け、あるいはもしあなたも居なくなった時には、私自身で舵を取れるようにしたのです。

エルレー

1945年3月3日

パウルの容態は急速に進んでいますー昨夜すでに終わりだろうと思われました。しかし、今朝も彼女はまだ意識がありました。今朝は３人の子供達がまた少し彼女を訪れ、その時まだ彼女に遺言書に署名させる機会を得ました。それは本当にひどく難しいことでした。私は子供達を

タイスに引き渡すときが来るまで、面倒を見ます。もし彼も居なくなったら、両方の２人の姉妹が、私と一緒に彼らの身の振り方を決めるまで、私の元に引き取ります。パウルは私に彼らをオランダに連れていき、あちらで教育をするように望んでいました。私は全面的にその用意があります。

エルレー

1945年3月7日

パウルはどんどん長く眠るようになっていますー私達が来たときだけ目を覚まします。どんどん弱ってもいき、痛みもひどくなっています。子供達はしっかりしていますが、それでも行くときと帰ってきたときには小さな顔が硬くなっています。毎朝、私は悲しいニュースを予想しています。昨日の朝私達が行ったときには、彼女はひどい痛みの中にいました。最初、私は子供達を外に出しておいたのですが、それでも彼らは母親のうめき声を聞いてしまいました。それがちょっと収まったとき、子供達は彼女にちょっと挨拶し、もしパウルが彼らを呼ばなかったら、これが子供達が彼女を見る最後になることでしょう。私がそう言ったとき、タイスは心の底から、‘よかった’といい、それでも、もし彼女が私達を呼んだら全身全霊で、彼女のところに行く用意はあるのです。今朝は私達は中には行きませんでした。昨夜２時に彼女はモルヒネ注射を受け、今は全く意識を失っているのです。しかし今はもう３時で、私はその知らせをまだ受けていません。もし彼女がこれで意識を失ったままだとすれば、彼女は多くの苦しみや痛みから逃れられるでしょう。[...]今日の午後はファン・エス夫人の葬式でした。パウルと同じ病気ですが、しかし、少し早くに終わったのです。

エルレー

1945年3月9日

今もまだパウルは生きています、意識を失ってはいますが。昨晩彼女はまたモルヒネ注射を受けました。彼女はだから痛みを感じないでいます、でもそれは心臓を支えてはいるのです。人間はなんて持久力のあるものなのでしょう。

エルレー

1945年3月10日

昨日５時には、パウルはまだ私を見、言うことが分かりましたが、彼女の頭を動かす力はもうありませんでした。彼女は私にただ“ええ”と返事をしただけでした。朝にはまだ彼女は“支払いができない”と心配していました。それについては私は彼女を安心させることができ、彼女が私を理解したことを期待しています。私は‘我らが父’と、Iのヨハネの３章１－３を彼女のために唱しました。彼女の顔はすぐに安らかになりました。昨夜彼女はまたモルヒネを受け、完全に意識を失っていした。今日の午後ーつまり1945年３月１０日５時３０分にーパウルは亡くなり、彼女は意識を取り戻さなかったので安らかに眠りにつきました。私がそれを子供達に告げたとき、彼らは全ての心の準備にも関わらず、それでもショックでした。子供達が泣き終わって落ち着いてきたとき、風呂に入りに行きました。それから私達は食事をし、その後おいしいパンケーキを焼きました。それは沢山あり、おいしかったので、彼らは慰められてベッドに行きました。彼らはまだこんなに若いのに、とても自制心があってしっかりしています。

エルレー

1945年3月11日

１時に私達は彼女を埋葬しました。棺は[H.C.A.]ホレ[-ファン・エルプ]、[J.E.]ハルムセン[-ファン・デン・アッカー]、[E.H.J.]v.d.ベルグ[-ウィップキング]、ブレストー全員マコン［フリーメーソン団員］ーコル・カル、スハウトマーカー、[J.]ナイダム[-ニーフェーン]と[J.]ファン・スヘンデル[-デルシャント]の婦人方によって運ばれました。[E.]フンガー[-カプタイン]夫人がIヨハネの４章７番を読み、祈り、‘我らが父’で終わりました。青少年団が聖歌２３番を歌い、その後、祝福が宣言されました。それから棺をトラックまで運び、積みました。私達４人と、スタイン・ドゥ・レフト[-フリース]、[H.C.]ファン・ムールケルケン[-フーガン]とフンガーが同乗を許されました。墓の前では聖歌の２３番、Iのヨハネの３章、１－３、そして‘我らが父’の祈りが捧げられました。その後、私達は棺に花を投げ、穴が塞がれ、墓の盛り土が終わるまで待たなければなりませんでした。それから私達はその上に別の花を捧げ、そして出ていきました。車はまだ待っていて、私達を送り返しました。２時に私達はまた家に帰ってきました。

エルレー

1945年3月12日

終わりました。私達はパウルを墓地まで運び、あの苦しみにも終わりが来たのです。私は今や２人の息子と１人の娘を得て、彼らと共に、これからとても多くの楽しみを持つことでしょう。彼らはしっかりした態度でした－大人のように自制し、それでも彼らはやっと１１歳と１２歳なのです。でも私は死ぬほど疲れて、学校を再開する前にまだ２，３日は‘休養’を取ります。この休養の内容は、余ったバラン［荷物］の整理と梱包、パウルの古いドレスから何枚かのズボンやドレスをツルースのために裁ってやることで成り立っています。彼らのお金を作るために、なにがしかのものを売ること。最近はお金のかかったことでした。少ししたら脾臓を炒めて、病院から余ったクッキーを、感染除去のため焼き上げます。

エルレー

1945年3月14日

私は私の妖精のような４８キロの体重のことを書いてなかったと思います。ほっそりしてるわよ、でも悪いことは何もないわ。

エンゲル-ブラウンス

1945年3月18日

さらに、ファン・エス夫人と［P.C.］ブリンクホルスト[-フロース]夫人が亡くなった。オルガ・フェルレイス（クリーハー）は死の床にいる。[E.M.J.]ボッセラール[-マーセン]は生き延びる、年老いた婦人のようだ。[J.]ドゥ・ワールト[-フォーフト]夫人は気が狂っている。終わりは早急に来なければならない、情況は悲惨なものになっているからだ。男達も栄養不足などで束になって死んでいる。例えばコルデンホフは、３５歳で大きく、がっちりした男だったのに６０kg痩せた。これにはぎょっとする！

エンゲル-ブラウンス
1945年3月21日

今のところ可愛い息子が病気で、今朝吐き戻し、下痢をした。今はぐっすりと眠り頭痛がある。またマラリアになりそうなのだろうか？？彼は熱っぽい。違うといいのだけれど。彼の健康はまた悪化している。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年4月始め

私は今また病院に寝ていると書く。またもや赤痢だ。まるで泥棒のように私を襲ってくる。４月１日は復活祭（１９４５）で、私はこれの最初の部分を書いている。復活祭の数日後に私はまたもや子供達と別れを告げなければならなかった。いったい私はどうなってしまったのだろう、２，３ヶ月毎に何かおかしくなる。これはしょっちゅうまたぶり返す、バクテリア性赤痢だと思う。私は医者と話しをしようとし、彼女に何やかやと質問しようとした。成功しなかった。何と言ったらよいのだろう。この収容所では、あなたは番号でしかない、名前でしかないのだ。あなたは入院し、そしてどうなるか待たないといけない。確かに原始的な治療法で、休息と、ひどい時には暖かな湯たんぽが、まだ多くの病を治してはいる、少なくとも、短期的にあるいは長期的に。しかし、逝ってしまう人もいる、幾度も。長引く症状、重い症状。この人達を助けるようなものは無いと言っていい。私の隣、半メートル足らずの距離には若い娘が寝ている。戦争が早急に終わらなければ助からない。食物を体内に維持できない。まだ別の病気にもなっていると思う。これを毎日毎晩見ているとひどく気分が落ち込む。収容所内に母親は居ない。何かを希求しているが何も与えられない。ホンの少しの果物ジュースも、何も無い。あの子には本当に同情してしまう。このようにして、ここではすでに大勢が蝕まれて逝った。この憂鬱な話しをもう止めにしよう。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月5日

最愛のパパちゃん。紙を節約するために、あなたと沢山お話しすることはできなくなった。でも、私は今こんなに落ち込んでいる。私達の皇太子は昨日突然病棟に入院し、これは急性バクテリア性赤痢だった。おお、私はいつもあの病棟が恐くて、そしてそこに今ヤヌスが居る。無感覚になって、そして私は彼を見舞えない。おお、愛する人、私は本当に恐い。こうした子供

の身体を強くするようなものが何も無い。砂糖も、何も。私達はホンの少しのグラ・サッカ［砂糖］、ひどい代物、を一月分としてもらうだけだ。白砂糖は無い。粉、報酬のプランチェス［カッサバ］、全ては少なくなっている。彼らは私達を静かに飢え死にさせようとしている。復活祭（４月１日と２日）にはおいしく沢山食べた。２日とも、２カップのベラス［脱穀米］が追加にあり、焼いたものいくらかと、そして朝食！！J.H.は１回余分にトイレに行き、私もだった（沢山食べたため）。彼はその時もう痙攣があったのだが何も言わなかった。食べたかったが、それが余りおいしくない訳が分からなかった。何も言わなかった。４月３日の夜、早くベッドに入っていいかと聞いた。夜中に、彼は２回、そっとトイレに行った。私は彼を叱り、これは昼間しなさいと説教した。その時彼は吐き戻し、熱くなった。私は後悔した。朝には彼はもう何もできなかった。１日中高い熱が続き、オマルに出るものはどんどん悪くなった。ジェルック［柑橘類］でさえ出てきてしまった。痛みで、彼の腹には触ることもできなかった。私は彼を注意深く洗った。おお、この子がどんな様子だったことか。多くの人達は、彼がこの頃具合が悪く見えると言った。おかしなことに、私達はそうは思っていなかった。しかし、医者がここに来るはずだったが、彼のオマルを見て、もう充分だった。即座に入院。４月５日、彼にとっては何でも、どうでもよかった［日記には５月４日と読めるが、それでは話が合わない］。カッシアン［何て可哀相］。昨夜は彼には悪い夜だった。１４回オマルを使う。昨日、[N.]デイヴィース嬢はただ、“エクセレント・チャイルド［優秀な子供］”だと言った。まだ熱がある。フレー・ブーケンカンプは夜勤で、彼はひどく病気だと思った！誰も病棟には行ってはならず、だから私も彼を見舞えない。これには耐えられない。彼は寝ているかオマルに座るか以外のことはしていない！質問には礼儀正しく答えるが、それだけだ。おお、何て悲惨なんでしょう、パパ。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月6日

まだ少し愛息の報告をしよう。昨日午後は彼が寝ていたのでやっと午後の５時に身体を洗い（３時３０分の代わりに）、そのため看護婦とは話さなかった。あらゆるチャンネルから何かを知るようにしている。彼の側には行ってはならず、彼を見舞えず、後ろからそっと彼の衣類を持っていくことさえ許されない。厳しいわよね？今朝ブーケンカンプのところに行ってきた！、彼女は後半の夜勤をしたのだ。彼女は、彼は前半とても落ち着かなかったと言った。吐き、オマルを使った。後半にはもう少しよく眠った。飲むだけで、全く精気がない。今朝は[B.]マック・ダフ[-ノースコート]が、彼にとって“バッド・ナイト”だった、と言い、前から、公式に話しを通して彼の衣類を持ってくる気はないかと聞いた。それだけだ。私はそれで、今し方ここに来る途中で医者にしがみつき、ありがたいことに彼女は親切に答えて言った。“これは

極端に性悪の赤痢よ！、血や粘液が沢山出て、彼はひどく、ひどく気力がない、飲むことさえこちらから勧めなければならない、沢山眠り、オマルはとてもひどいけれど、一つの希望は熱が下がっていることよ。”私はまだ、彼の体質をどう思うか、と聞いた（デイヴィスは、それが良い、と言ったのだ）、それには彼女は余り答えなかった。しかし彼女は私に全てを話してくれると約束した（私に頼まれて！）。おお、愛しい人、こんな事が起こると予想したことがある？！私達のヤン・ヘインチェに生命の危険があるなんて。私はヨス・フェルフーフと診療所で話しながら、ちょっと内緒で彼の顔を見、彼は私を見た。何もせず、何も言わず、それでヨスは、“今日は、ヤン・ヘイン”などと言った。彼は何も言わなかった。おお、何てひどいことでしょう、何もできずに、私は卵を手放せない鶏のように歩き回っている。ハンクと私は本当に妙な気分だ！舵の無い船。全ての規律が外れてしまった。彼のお喋りが恋しい！！さようなら可愛い人。

ファン・ドゥ・ワルークーラース
1945年4月8日

私は３回目にここに居て、外を見ることのできる唯一の窓の側にいる。そして夕方近く、私は私達の男の子が遠くの谷にいるのを見た。誰かが、“君、あそこにお母さんが居るよ”と言った。彼が私を見て、何と嬉しかったことか。彼は手を振り、投げキッスをして、彼の良く通る声で、私がもう彼のプレゼントを作ったか、と聞いた（彼がそう聞いたのだと推測した）。私は彼に、彼のカップ用の丸い蓋を遠くから見せた、私がチカル［竹のマット］で作り、彼の名前を刺繍したものだ。そして今日はこれを消毒させてメアに持たせよう。

エンゲルーブラウンス
1945年4月9日

最愛の、最愛のパパちゃん。私が体験したのは悲惨な３日間だ。この気持ち分かる、愛する人？私達の皇太子はまだ危険を脱していないけど、それでも今はまた、彼をあなたのところに連れ戻せるという確かな感じがする。おお、愛する人、この日々は書き表せない、私には大変なことが要求されたわパパちゃん、でも、あの全ての興奮やお芝居で目の前が暗くなることがちょっちゅうあったとしても、あなたは私を誇りに思ってくれると信じているわ。

それではいくわよ、４月７日から始めよう。最初にちょっと、４月５日から４月６日にかけての夜、ブーケンカンプ夫人が１２時にそっと私を呼びつけた。私はこんなに驚いたことはかつて無い。ものすごかった。彼女は私に、J.H.が重病だということを知らなければいけ

ない、と言い、彼のためにもう１枚の毛布を借りてくることが（ルセラーから）できないかと聞き、私はそれを真夜中に借りてきた。私は、もし彼が私を見たら、彼にとって良い影響があるだろうと思った。彼は痛みに転げ回り、精気無く、オマルに行ったり来たりし、沢山吐き戻していた。悲惨の一言だ。テムプレク［小オイルランプ］で、彼女は彼に私を見せた。ランプを私の顔の側に持ってきて私は芝居をし、それからランプを彼の顔に持っていき、彼女は言った。ママに投げキッスしなさい、そして彼はフラフラとその動きをした。おお、私は本当に驚愕した。死が彼の小さな顔に現れていた。フレーは彼にとても優しい。しかし看護婦は昼間２回、夜２回交代し、ほとんどのイギリス人は一言もオランダ語を話さない。

６日から７日にかけては、夜中に、私は何度も行き来した。７日には彼がひどく悪くなったようで、恐れられている［L.E.］メファム[-
カミンス]夫人が午後５時に、J.H.の容態がひどく悪いと知らせに来た。彼は吐き戻し続け、腹は膨らんで、何も体内に維持できなかった。その時塩水の皮下注射を４回し、１６から２０の浣腸をした。私はドアの所に立って彼と話して良いという許可を医者から得た。彼はひどくはっきりしていた。毛布を蹴飛ばして、“マミー、僕、脚に注射されたけど泣かなかったよ、でも吐き戻したの”と言った。私は彼に、良く言うことを聞いて、吐き戻さないようにして、しっかり飲みなさい、と言った。彼はひどくぐったりしていた。そしてそれでも、“看護婦さんが、明日かあさってには外で遊んでいいって言ったよ”と言った。ステウプ夫人が彼に何が一番欲しいか、と聞くと“外遊び”と言った。そして、その命は見捨てられた。メファム夫人は私と腕を組んで歩き（いつもはひどく厳しいのに！）ベツール［確実に］もう終わりになる、と言った。希望を持っても無駄だと。彼女は液体注射を彼女のポケットに入れて歩いている、等と。丸１日中ひどい来客。みんな私に優しくしてくれたけれど、それは私に完全にめまいを起こさせた。私達が食事をしていると、関心を持った人達が次々と来る。ボネファース尼僧は彼を洗礼しようとまで言った。フランクとアン・ロトマン[-フックストラ]と外に座り、そこで私達はフンガー夫人に彼を洗礼してくれるように頼むことに決めた。それはすぐに行われた。フンガー夫人、メファム夫人、それに私で教会評議会の人達は無し。夜９時に、私達は彼の小さなベッドの側に座った。私には、あなたもその方が喜ぶだろうということが分かっていた。J.H.は私達に、神様に彼を早く治してくれるように頼んでくれ、と言った。そして彼はそのまま、“うん、マミー”と言いながら眠り込んだ。私は崩れ落ちそうだったが、それでもこれをしたことで気持ちは落ち着いていた。フンガー夫人、フランク、アニーとハンキーとで、我らが皇太子ちゃんの福祉のために祈った。[R.M.J.]ウォーカー夫人はコーヒーを急に送ってくれたりした。おお、何という夜だろう。そして・・・少し良い方向に行く兆しが見えた。フレー・ブーケンカンプとフィスガーは私に全てを説明してくれ、ひどく満足していた、彼の脈は下がり、長く眠り、吐き戻さず、一度自分でオマルまで行って座り、おならを沢山して、オマルの中も、ホンの少し形になってきた。おお、私は本当に嬉しかった。あの注射がよかったのだ。彼はその夜、3300ccのコーヒー、3300ccのジェルック・ニピス［ライム］に150ccのミルクを体

内に保った。ええ、砂糖をコップから掻き取りもしたわ。彼は看護婦達に迷惑を掛けるのを恐れていて、全て自分でしたがった。カッシアン［何て可哀相］。彼女たちは彼のことを奇跡的な男の子、可愛い子だと言っている。彼は泣き言一つ言わなかった。今日、私はデイヴィス嬢から、彼女が看護婦だとしても、彼、この立派な子にこんなに痛い注射をするのは胸が張り裂けそうだった、聞いた。彼は一切泣き言を言わず、その話しさえもしない。エプソム塩（毎日受けるが）もそのまま受け取っている。

とにかく、その日曜の朝、私が風呂に行くと、メファンがしがみついてきて、“おお、今になって彼が助かると思わないようにね、彼は毎時間痩せていっている！”と言った。おお、私はまた泣きそうだった。私の全ての勇気はまた飛んで無くなった！！私はまたフィスガーとブーケンカンプのところに行き、彼女たちは私を安心させ、そしてそれから医者に行き、彼女は彼が少し良くなったと言った。彼の腹はまだ硬い！トニー・ナイラントは卵を二つ、只で送ってよこした（闇で入れた）。４月８日日曜の午後、彼はティースプーンに数杯の卵をもらい、看護婦（メファン）がそれを薄めるのを忘れて、そのためにまた全てが出てきてしまい、またもや脱水症状になった。彼にもう卵は飲まないようにしなさいと言った（看護婦はそれを押し込もうとしたが、それは本当に重すぎたのだ）。２つ目の卵はビッシュ夫人が今日、乾燥クッキーに使い、私達の白砂糖の残りとサゴ粉も入れた（クウェー・パンガン［網焼きクッキー］）。これは彼に明日あげるのだ！！

夜はマック・ダフ（夜の前半）で、彼は１１時まで眠り、それからオマルを使い、少し戻した。彼女は彼がずっと活動的になったと言った。彼はまた医者とメファンから注射をされた。おお、あの恐ろしさ、メファンが終わると言って私を呼びに来るのではないかと一睡もできなかった。ありがたいことに、その時（日曜夜）以来、吐き戻しが止まった！！彼はずっと活動的になり、月曜朝には自分の本を読みたがった。彼は木曜日には家に帰ると宣言した（リー・ルッセラーがその日は誕生日だと後で気が付いた）。私に、看護婦に外の囲いの側で寝てもいいか聞いてくれ、と言ったりした。ハーレイ嬢は昨日の朝、“彼はずっと良くなって、医者もとても満足しています”と私に言った。私は医者と話し、彼女は“確実に良くなっているが、まだ危険はある”と言った。私には充分だった、内心歓声を上げていた！！自分自身を抑えなければならなかった。ただ、揺り戻しに気を付けなければ！

エンゲル-ブラウンス
1945年4月11日

我らの男の子はこの急性発作の生命の危険から逃れた。おお、愛しい人、私はダンスをして飛び跳ねそうよ。おお、私達の皇太子ちゃんを守ることができて、私は本当に感謝している、本当に感謝。今はどんどん良くなっている。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月13日

私達の息子は病院の外に座っていて、まるで王子として、病気など知らないかのようだ。痩せてはいるけれど、でも、それでも見たところは大したことはない。私はだから、外で彼と話しはしても良いが、しかしまだ触ってはいけない。彼は粥ばかりを食べさせられ、乾いたご飯を欲しがっている。[...]男性収容所で赤痢の爆発的流行。もう５日間続けて死者が出た。今日は男性と年寄りの女性が死んだ。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月18日

最愛のパパちゃん！私達の皇太子が来る前に、ちょっと短く書くわ。突然彼が帰ってくることになり、私達は首を長くして待っている。彼はまだ上にいなければならず、裏ごしした野菜を食べさせたりする。ぼう然としそうだ。バラックはひどく満員だ。でも、これは素敵よ！！彼はただ、とてもひどく痩せている。脚や腕に注射の跡の大きな黒い瘤。彼が、何か追加食糧、例えば病人用皮などをもらえるといいのだけれど。彼は今この時、硬炊きの米を噛みしめていて、彼の皿を空にしないといけない！！変でしょ？ヤヌシェらしくない。私達のすぐ下で[J.C.]トラウファット[-ダニエルス]夫人が亡くなったところだ、ファーダーと同じように、数分間で逝ってしまった。悲惨だ。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年4月末

私は５週間近くここに寝ている。言うべきほどの改善は見られない。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年6月

私はすでに長い間病気だ。いつも熱があり、夜は咳が出て寝られない。そしたら私は起きあがって座り、煙草を吸う、変ね、煙草を吸うと咳は出ないのだ。

エルレー

1945年6月19日

[*.*]に、ステイン・ドゥ・レフトは赤痢で病院に入りました。彼女は最初腎盂炎に罹り、かなり重病で、そして今やこれにも罹ってしまったのです。同日に私達は彼女を私の下に引っ越しさせ、彼女の世話を、私が完全に見られるようにしました。彼女は少し良くなってきているので、彼女を生きてバラックを出させてやれる望みが出てきました。私は最初はそれに大きな疑問を抱いていました。彼女は担架に乗って運ばれて来ました。パウルは［その時には］まだ生き生きして速く歩いていました。私自身は脚気に罹り、足も脚も太股まで太くなっていました。私の腹はまだ幸いにもそれほどではありませんが、しかし今やそんな感じがします。私は夕食をみな次から次へと食べてしまい、今は満腹で膨れ上がった気分です。[...]

今や多くの疲れ切った年寄りや若い女性達のために休養所が作られました。その人数はとても多く、その休養所は１４日以内に倍にしなければなりませんでした。そこではその人達の世話を完全にし、彼らの子供は健康な友人達が預かります。

エルレー

1945年7月1日

あの夜警が私には決定的でした。重い風邪、ひどく疲れ、その時医者に行き、彼女は大層な気管支炎を見つけ、私を真っ直ぐベッドに送り込みました。そしてもう１週間になるのですが、大した恢復は見られていません。私の喉はひどいと言うよりまだひどく、痛みがひどくてペディス［辛味料理］を食べる勇気も出ない、これは私にとっては大変なことです。古い扁桃腺炎の時の場所が全て白くなって膿を持っています。咳は幸い余り多くありませんが、きれいな咳でもありません。私達はここで、衰弱と痩せこけているため、あらゆる病気の淵に立たされています。多くの肺炎や気管支炎の症状がまた増加し、そこに栄養不良性浮腫と脚気です。医者からネズミを捕まえるようにと言う指令が来て、その肉は今死の崖淵に立っている人達の生命を救うために使われるのです。彼女は自分自身を実験台にして、その結果が良かったのです。さて、あの可愛い動物達はここにはたっぷり居ます。今のこれが最後の重荷でしょうか？次第に多くの若い女性が、自分自身の面倒を見ることができず休養所に送られています。

ファーベル夫人は腰まで腫れ上がり、水分は肌の水ぶくれを通じて外に出てきます。見るだに可哀相です。彼女は３０を過ぎたばかりです。私も今は彼女の所にいけません。そして彼女は多くの人達の一人に過ぎないのです。ジャワでは一体どうしているの？

エルレー

1945年7月17日

私自身は、再び‘良好’。気管支炎は終わりました。次はまだ脚気で、それが終わればまた快調になります。私はほとんど塩無しで食べていて、とても少ししか飲まず、デデク［糠］を摂っています。結構良く効きます。私の腹は再び普通になり、脚や足ももうすぐです。ただまだ信じられないほどの疲労感があります。

ファン・ドゥ・ワルークーラース

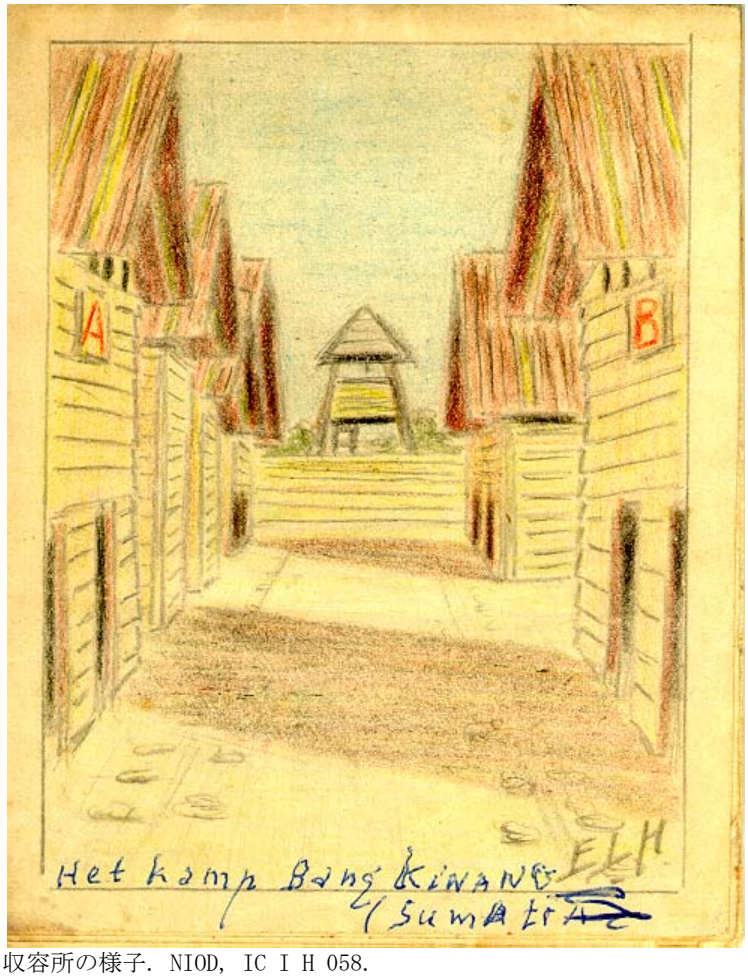
1945年8月19日[83]

私は悲しみをもう乗り越えられなかった。１０週間以上バナナもなく、ジェルック［柑橘類］も無く、３週間に一度カップ一杯くらいの、２本の肉の付いていない骨から取ったブイヨンに、粉、ブラス［ベラス？］、それに大体はパラミツとプランチェス［カッサバ］の葉。私の脚気に対抗するものを、どこから摂ったらいいの。私がやっと家に帰ってから、３０錠のビタミンＢをｆ１００で買った。私がこれをまだ支払えて、そしてこれをまだ持っている人がいて本当にありがたいことだ。それが私の身体を良い方向に進める良い衝撃となった。子供達は私をどんなに良く面倒見てくれたことか。２ヶ月半後に私はまた彼らの所に来た。しかし、どんな様子だったことか。あの乾燥脚気が私の身体を駆けめぐる。私の手や手のひらにどれだけ痛みがあったことか、苦しんだと言ってよいだろう。５週間以上、ほとんど眠れなかった。

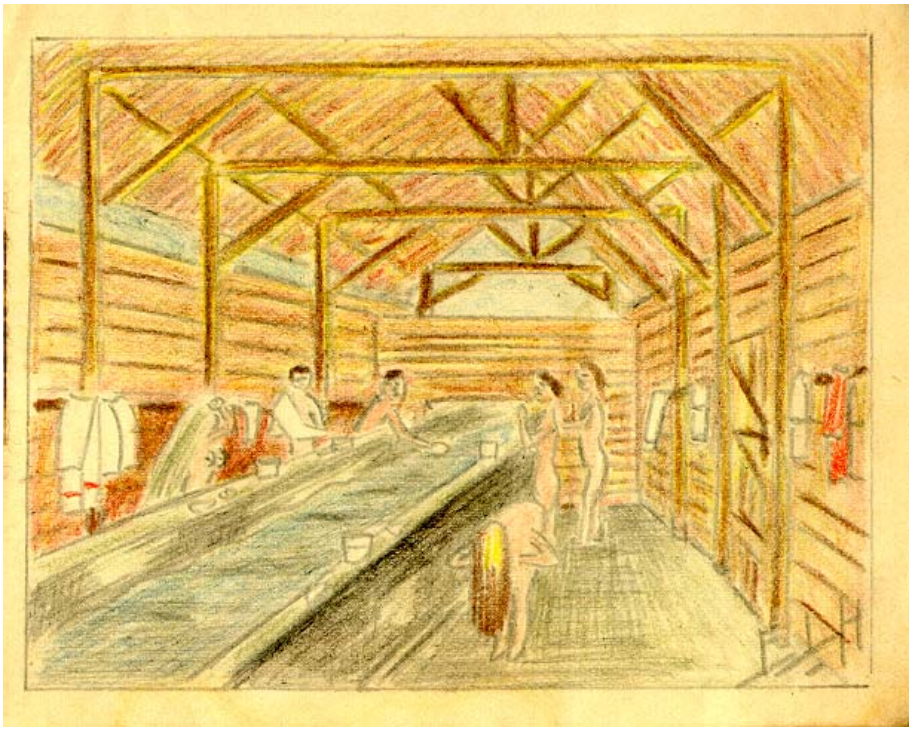
[83] 8月19日に書かれたが、それは最後の数ヶ月を振り返ったもの。

N
Sumut
Riau
SUMATRA
Muara Takus
Maninjau lake
Bukittinggi
Padangpanjang
Batusangkar
Singkarak lake
Sawahlunto
Solok
Tabing Airport
PADANG
Kep. Mentawai
P. SIBERUT
Painan
Jambi
P. SIBURU
P. SIPORA
P.PAGAI UTARA
Bengkulu
P. PAGAI SELATAN
INDIAN SEA

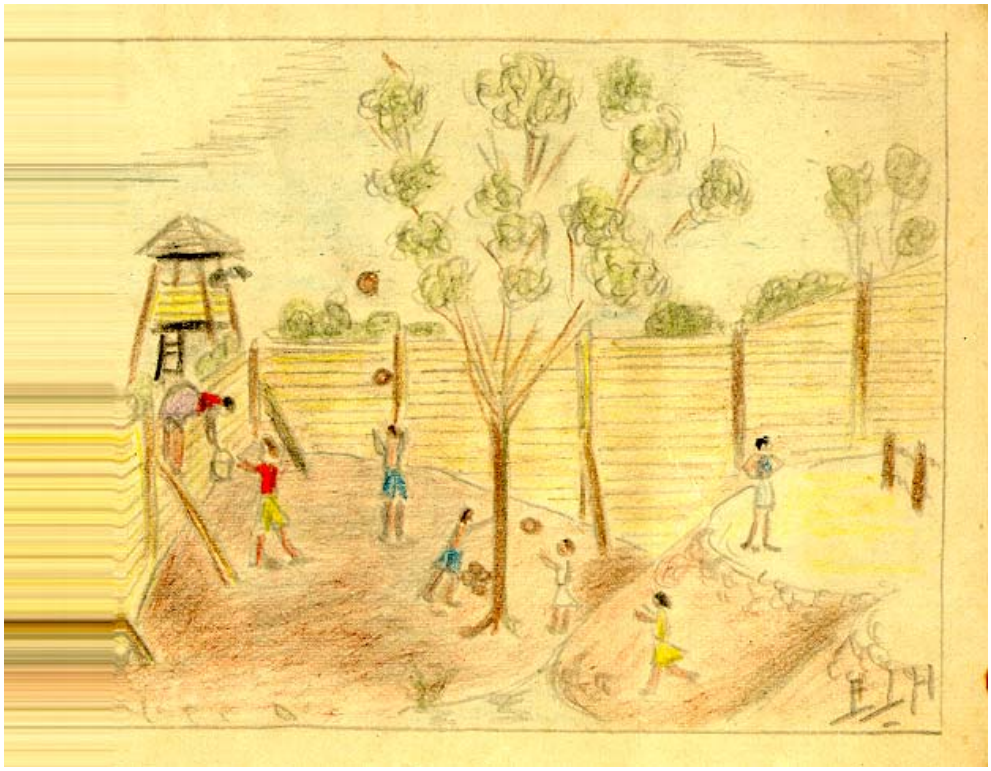
スマトラ西海岸、州都



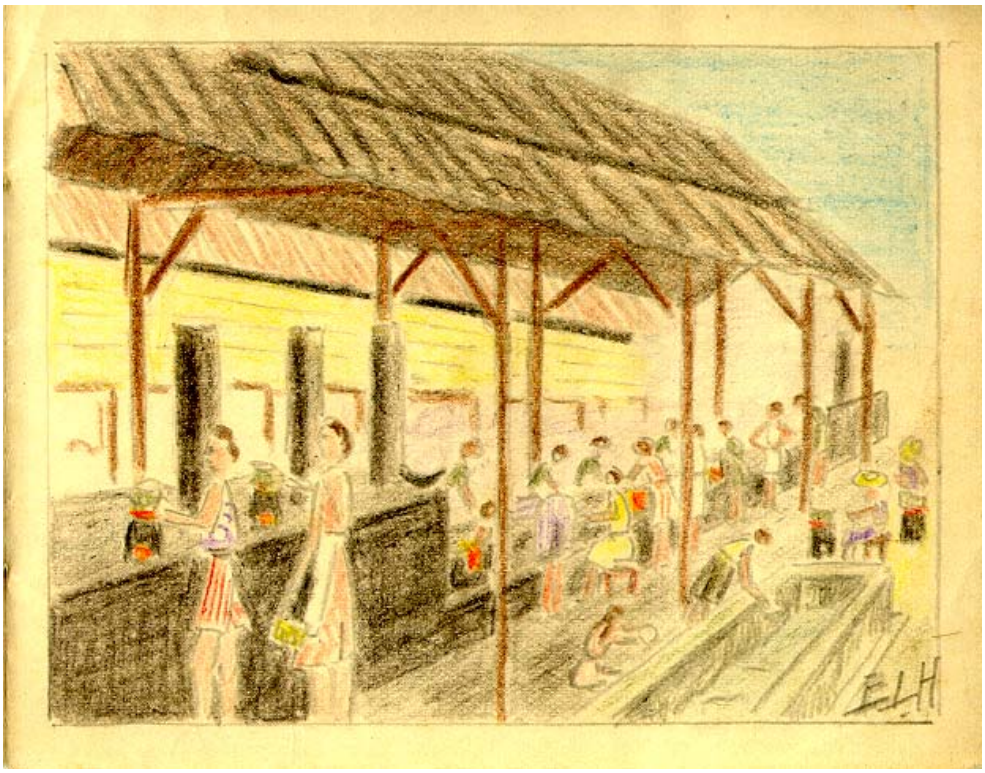
収容所の様子. NIOD, IC I H 058.



浴場. NIOD, IC I, H 058.



囲いを越えて、食糧を秘密に持ち込む. NIOD, IC I, H 058



調理場. NIOD, IC I, H 058

# 教育、娯楽と宗教

## 収容所報告書

### 教育

バンキナンでは、教育をしなければならないという命令が来た。教材を申請したが何も支給されなかった。ほとんど何も持ってくることはできなかったため、本やノートは収容所内で集められ、後には高額で買い上げられた。子供達に教育を施すことは贅沢な趣味となった。食糧状況が悪くなるにつれて、個人教育に対しても支払いをしなければならなくなり、最初は金銭で、後には品物で支払った。多くの人達はそのために、当時すでに品薄になっていた食糧を犠牲にした。多くの子供達は午後に畑仕事をし、そこで得た報酬のプランチェス［カッサバ］を授業料として手渡した。このような状況下としては、達した教育レベルは概して満足のいくものといえた。MULO［中学教育］を終えた者はさらに商業通信、速記などを修得する機会が与えられ、試験も行われた。学校の校舎を建てると約束されたが、建てられなかった。教育は多くの場合、屋外の囲いのつくる日陰で行われた。幼い子供達のためには幼稚園教育があった。子供達の世話の他にも仕事を持っていた女性達にとっては良き助けとなった。

### 娯楽

バンキナンでは講演会やパーティー、集会などを開くことも事前に日本側に申請をしておけば許可された。最も簡素な素材で、結構な成果を上げることができた。若者達のためにも、本の少なさを少しでも補おうと、お話の夜や講演会が催された。収容所内の本についても、金銭を稼ぐ対象となり、貸し出された。重要な本は文学の夜べの題材となった。[...]

バンキナンでは大きな砂地でスポーツが行われた。しかしそれは体操と、ボールがあるときにはサッカーに限られた。外で仕事をした後にはスンゲイ［川］で泳ぐことが許された。最後の時期にはしかしこれも禁じられた。

## 日記抜粋

エンゲル-ブラウンス
1944年1月3日

大晦日の夜にウィル・ドゥ・R［ルーフェル-ファン・ウィリヘン］、イェニー、アニー・ドゥ・クル［ース］、アニー・ライケ（私達の部署のブロックリーダー！）、ハニー・R［ラウテル］、ティル・サルデマン[-ローデ]、ルック・スフローダー[-ワインストック]、ティネケ・アーレント[-フェルディンハ]、それにエリー・ケルナー[-イェスペン]と一緒に火を囲んで焼き飯を食べた。その後コーヒーにココナッツミルク、そして紅茶にクローブ、レモン、砂糖などでビショップワイン風にした。月は１／４に欠けていた。それは美しい夜だった。落ち着いて、心地よく全てが進んだ。[...]J.H.は空腹のために時にぐずぐずした。明日は雨でなかったら彼は１２時１５分に学校に行かなければならない。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月14日

あなたに書く時間もほとんど無い。私達は大丈夫。ヤン・ヘインはイライラするような不器用な時期だ。みんな彼のことをすごい可愛い少年だといい、実際きれいな男の子だが、皿洗いや薪割は彼の得意とするところではない。彼のパパチャンみたいな器用さ？？私がまだからかうことが出きるのが分かるでしょ。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月18日

昨日はリー・ポスト[-グスタフソン]のところに行ってきた、彼女は誕生日だった。彼女に私のドレスをあげた。[C.A.]バルト[-ウェーセンドルプ]、[W].ビッケル[-ブロック]、[A.H.]スハウストラ[-ファン・レー]、［M.W.C.］アーンデヴィール[-ファン・レーウェン],[J.J.C.]リトマン[-ファン・ウェール]、そして[J.M.]バッカー[-ファン・フリット]＋ブーレ夫人が居た。私達は雨が降ったので外から中に入り、ひどく暗く、息苦しい中で座っていなければならなかった。アンクとハンクが鍋に湯を沸かした（ひどく遅くに始めた。リーが何をするにも遅いように）。みんなにウビ［サツマイモ］のコロッケ１個。

ハンクと私は交代で料理している。他の日は彼女は学校に行く。昨夜J.H.はオマルの横におしっこをした。チラム［マットレス］、チカル［竹のマット］、パジャマそれにテクレクス［木の履き物］［が濡れた］。雨が降っていた。私は絶望的だった！！

エンゲル-ブラウンス
1944年1月23日

私達はこうして本当の日曜日をした！！昨夜はハンクと私は土曜の夜をした、つまり私達は生米とカチャン・イジュウ［小さな緑の豆］（挽いたもの）とウビー［サツマイモ］２つ（卸したもの）で、パン（大きなの）を作った、他の人が終わった後の火に次々と乗せて。これで薪が節約できるし、結構うまくいった。それからカチャン・イジューの団子に玉葱ソース掛け（パンにのせて）、固茹で卵プラス、ラブー［カボチャ］のケチムンに、シロップ（サッカ［砂糖］の）。舌鼓を打った。夜はハンクと私で米を炊き、ジャム（卸したワルー［カボチャ］、サッカ、シナモン、それにジェルック・ニピス［ライム］）、おいしいコーヒーを淹れ、（そして飲み干し）自分たちにモヤシ入りオムレツを奢った。全ては暗い中でだった。とても楽しかったが、しかし結構疲れた、このようなやり方だと決して終わらない気がするからだ。ハンクも楽しんだ。[...]そして今や今朝は私達のご褒美、つまりやっと９時半に起きてコーヒーとパンを少しベッドで。本当に楽しんで、家の思い出を話していた。それはパパ、そしてまたパパだった。[...]

修道女（尼僧）がJ.H.のことを、“あら奥さん、彼は少し早めに帰ってもいいですよ、計算はすらすらできてますから”なんて言っていた。良い考えでしょ？ハンクの学校は滅茶苦茶だ。［C.］カムスマ先生はウスノロ。料理などで時間が無いことばかり。残念、でも仕方がない。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年2月4日

子供達は今朝は特別に愛らしく、優しかった。メアからは銀のスプーンをもらい、ソニャからはカレンダー、小さなジェフからは不在のパパに敬意を表して、身に付ける赤いハート。私達は一緒にお菓子付きコーヒーを飲んだ。隣人達も親切だった。バルチェからは２つの‘ブボン

グト[84]’（収容所言葉）砂糖棒、そして[E.H.]ドゥ・ケイゼル夫人からも感じの良い小プレゼントをもらった。今日は子供達がおいしく料理する。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年2月18日

メア、私達の長女は今日１５歳になった！私は何とかしてやろうと努力し、メアが夜になって言った、“彼女［メア］はこんなに沢山もらえて、これが前の夜には、私達が彼女にあげるものは何も無いだろうと思っていたのに”という言葉が、彼女の誕生日がそれでも何とかなったと言うことを証言している。私は彼女にヘロ銀［メッキの銀器］の食器セットをあげた。私達が持っているのは汚い市場スプーン４本くらいなので、これは素晴らしいプレゼントだ。そして彼女はこれをこの時期の思い出にとっておける。ソニャは彼女のために、夜、おいしい食事を作った。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月18日

最愛のパパちゃん。そして今や、あなたの息子は７歳になった！！私達の末っ子が７歳。あなた、何て私達は歳取ったんでしょう！今のところ、あなたには彼を見分けられないわ。彼は本当に醜い。１５日に２本目の前歯が抜けた。代わりの歯が早く生えてくるのを心から願っている。昨日は何という日だったことか、パパ！！そう簡単には忘れられない。私は小パイナップル（ｆ０．５０で）、バナナ２束、卵４つ、グラ・アーレン［椰子砂糖］二つ、パパイヤ１／２（小さいの５０セント、コビー・バルトが持ってきた）そして・・・鶏１羽（ｆ５で、全部食べた）、小さなネズミジャガイモ３０個（ｆ１．５０で）をグリンピース（カチャン・イジュー［小さな緑の豆］！！）と一緒に食べた。[R.M.]フェルナックが鶏を焼き、夜にはナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］とレムペジェ［ピーナッツクッキー］、卵焼き、セルンデン［ココナツの実を卸して焼いたもの］それにコロッケを作った。ペチェル［辛味ソースの野菜料理］をイーチェ・デッカー（私達の隣人）からもらった。全ては本当に充分あった！彼はバナナとジェルック［柑橘類］もコビーとフレートからもらい、[A.]ドゥ・クルース[-ワルトマン]夫人からは本物のバターと砂糖の乗ったパン３つ、リーからはプランチェス粉プディング［カッサバ粉の］をもらった。早くから私達は焼きバナナとリング・クッキーでコーヒーを飲んでいた。それからハンクと私は[A.M.]メイヤース夫人（この下［に住んでいる］

[84] ブボングド、あるいはブボムドは人々が貴重に思うことを表す言葉だった。（Lanzing著、*kura*、p348）

）に手伝ってもらって急いでオンゴルオンゴル［粉のクッキー］５０，クレポン玉［茶色の椰子砂糖を餡にした、緑色の米粉団子］（４０）、そして４０のコロッケ（茶色豆で）を作った。ハンクはココナッツミルクコーヒーを薬缶いっぱい作り、ジャガイモを少々茹でた。ヘンク・N.、ハイス、ヤープ・R［リトマン］とロビー［ルセラー］（学校に行かなければいけない子）が来るはずだった。飲み物は柑橘ジュースと白砂糖だった。１０時半に彼らが来て、１２時にリー（あのひどく厄介な子供達と一緒に）、ドリー、ドゥ・Kr.夫人、コビー、フレート、そしてナイラント夫人が来た。ここは超満員だった。あのポスト家の嫌な子供達も来た。大勢の人達にコロッケ（できるのが遅れた）とオンゴルをいくらか送った。リー・ルセラー[-ボンテバル]とネル・ファン・ダイクは彼女たちの息子達が間違って知らせたため来なかった。私は午後は自由になりたかった。

ファン・アマイデン・ファン・ダウム-オール
1944年3月

ヤネケは最近扱いが難しくなってきた。私の後をどこまでも付いて来て、あらゆる挑戦的な旅を一人でする、浴室やWCにまでも行き、それはずいぶん遠くにあるのだ。料理をしているときは彼女をひもで柱に繋いでおかなければならない、調理場はあの煙や熱い灰で彼女には危険すぎるのだ。お喋りも沢山するようになり、私に沢山お話をしてくれる。フウ、ちょっと止めるわ、蝿が邪魔をする。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年3月2日

そして、こうして時間は過ぎていく。メアとソニャは大丈夫そうだ。この年齢の娘達は母親よりも柔軟性がある。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月17日

学校はうまく行っている［J.H.の］、でも知っていることを忘れないようにするだけで、学校は一日おきだ。ハンキーは馬鹿になっている。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月26日

他には彼[J.H.]はいつも最高。時々学校が大嫌いになるが、いつも行きたがり、計算問題をしている。ハンクの学校は３日前から始まった。彼らをこれからまだMULO［中学］に入学できるようにしようと努力している。宿題沢山。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月30日

元気を持ち続けるのは本当に難しい。でも子供達がまだこんなにうまく行っていて、とても感謝している。J.H.は本当に背が伸びて太ってもいなくなった。ハンサムな男の子になるだろう。歯が早く生えることを願っている。彼はみんなにとても可愛がられている。よく手伝いもする。それでもハンクより難しい。彼はあの急にきまじめになる傾向がある。突然スプーンやフォークや茶碗を粘土で磨き始めたりする。分かるでしょ。そして、また学校では満点を６つ取り、尼僧が“ダメ、もっと練習しなさい”といっても、頑固に先に行こうとする。時には聞き分けのない日もある。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月14日

彼らは午後に競技会があった。J.H.はウビ［サツマイモ］に噛み付かなくてはならなかった（水の中で）が歯が生え替わっているためにできなかった。１本の歯はぐんぐん生えてきている。２本目はまだ出てきていない！ヤン・ヘインは悲しんでいる、競技会の前にもう賞品を選んでいたのだ。死ぬほど笑ってしまう。ハンクも外に木を取りに行き（私達はほとんどもらえない）、泳いだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月23日

ハンクは計算問題をした。あの試験は大変だ。彼女は昔の私のように神経質だ。火曜日は語学で水曜日が算数。本物みたい！！そして彼女は免状をもらう、つまり我らの知事から試験をさ

せる権利を与えられたメルキアデ尼僧からだ。そのあと、カムスマ先生がHBS［中・高一環学校］に行く準備をしてくれる。これは物理、植物および動物学、などの科目から成っている。いいでしょ？数人の子供達はK.先生から試験を受ける許可をもらえなかった。ハンクはもちろんキニーネのせいで、少しだるそうだ。明日は終わることを願っている。数日前に計算問題を受け取り、ハンクのことだから・・・終わってしまうまで休めない。随分間違いがあった（後になって、全て間違えていたことが分かった、ひどく難しい）。カムスマ先生はハンクに２日間何もしないようにしようと提案した。そして、今また始まった。４枚の紙で試験に向かっている。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月26日

ハンキーは昨日と今日、MULOの試験をした。土曜日に結果が分かる。語学（分解、時制、中間詞に作文）はうまく行ったが、彼女がずっとよくできるはずの計算は、ひどく難しかった。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月30日

昨夜のハンクの試験結果はどっちつかずだった。私は砂糖、卵、バナナ用ちり紙券を用意していた。残念ながら彼女は語学６点計算５点で落とされた。カッシアン［可哀相に］！彼女は泣き出してしまった。イート・ドゥ・ヨングも同じだ。二人ともマラリア患者。カッシアン。沢山落ちた人たちがいるが、ハンクは（イートも）通知表は８や７なので、カムスマ先生のところでこのまま勉強し続ける。２ヶ月後に最初のMULOが初めてオープンになり、みんなまた試験をする。そしたら彼女はまた受けられる。マラリアが彼女にとっては決定的だったのだ。特に計算はとても得意だったのに。アッケル計算［応用問題］をハンクの病気の時に練習した。彼女はそれを男性修道院MULO以来、やったことがなかった。そのためとても神経質になり、２つの計算は終えられなかった。ええ、分かるでしょ、これは私にとってもがっかりだった、ハンクの前では自制していたけれど。仕方ない！

エンゲル-ブラウンス
1944年5月13日

５日は楽しかった。その日は人に料理させた。オンゴル［粉クッキー］、パンケーキ、パン数切れ、そして素晴らしい焼き飯を食べた。午後にはベッドで楽しくパンとコーヒー。ハンキーはネル・ファン・ダイクの首飾りをｆ２．５０でアデー・ナイラントに売り、そのお金で、売店で取っても素敵な鍋つかみとハンケチを買った。それはｆ２．７５で、２５セントは内緒で私の財布から出した。可愛いでしょ？本当に素敵だった！！子供達は時にはナイラントの闇バラン［品物］を売り歩き、ピパ［棒砂糖］をプレゼントされる。大いに誇っている！５日の午前中、リー、ドリー、フレート・バッカー、コビー・リトマンが来た。コーヒーとオンゴル［粉のクッキー］があった。１時半にパンケーキを食べた。そして午後にはハンクの具合がひどく悪くなり始めた。[...]

あなたの息子を大人しくさせるのは難しい。彼らは本当に‘ベレト’［困った］ことを互いに教えあう。私はそれに対抗するので大変だ。彼には父親が必要よ！！またひどく蘭領インド人風に喋る。長くなり、細くなっている。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月23日

こうして、私達の娘は今や１３歳になった！！午前中に５人の娘達が訪ねてきた、それはアンク、イェット・テーンスマ、イト、ミミ、ティネケ・ドゥ・クルース、キティー、それにコリー・ベウケンカンプだ。私は彼女たちにパンとバナナ、ピーナッツバターにいくらかの砂糖を出してやることができた。さらにそれぞれにコーヒー２杯、塩味クッキーとオンゴル［粉のクッキー］数枚。コビー・リトマンがさらに卵を持ってきて、カルラ・Ｍ［マセット-ブーカース］が小さな本を持ってきた。テンパチェ［（寝る）場所］は超満員だった。娘達は愉快なゲームをし、私は彼女たちを追い出さなければならなかった、私達はそれからまだ食事をして３時には学校に行かなければならなかったからだ。まだドリーが来て、アネケ・ジャケット、ロトマンなどもだ。私の寝場所を離れられない、どんどん人が来た。コリー・レムストが私達のために料理した。夜はとてもおいしい焼き飯、ケチムン［キュウリ］などはなかったけれど。苦労して（闇取引停止）パパイヤとちょっと腐ったバナナを手に入れた。彼女はたっぷり甘やかされた。ピパ［砂糖棒］を４つも！！夜はリーとアンキー・ポスト。コーヒー、パン、クッキーそれに・・・タペ［発酵させた米］。すごくいい！！！おいしい！！やっと１時にベッドに入った。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月29日

ヤヌシェは今日から追加授業を２回、１回１５セントでトーマス夫人から受ける。彼女は弱っていて自分で料理も洗濯もできず、是非こうして稼ぎたいのだ。J.H.が最初の生徒だ。その他４日間は尼僧のところに行く。とてもセナン［満足］している。ハンクはまた学校に行き始めた。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月6日

ここにもう少し収容所風言い方。“すげえじゃない”“あのくそ”“バレーバツー”（歌うように）、“・・・買いたい人どこ？”（歌うように）、“穴ぼこ空けて上げる”、歌いながらのゲームが沢山ある、J.H.に一度歌詞を言わせてみよう（ヤップの歌もある。ひどく愉快！それに“屋根の上の鳩”に関しても。）それに彼らがケンケンやビー玉遊びをするのを見せてあげたい。夕食の後、ハンクとヤン・ヘインは大抵一緒にケンケンをし、私は隅に座って何かを読んでいる。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年6月半ば

小さなジェフは、今私の隣に座っている。私はこのノートに彼のことを書かなさすぎた。でも彼は私の側にいるとすぐに私の気を引こうとする。あの小さな口は止まってはいない。彼は今いつも切れないテーブルナイフ、彼のおもちゃを持っている。彼はそれで木片を切り、砂に線を引いて、あまり美しくない歌をうたいながら。“うじうじしすぎよ、すぐ怒りすぎよ”が彼の最も愛用する表現だ。今週彼は私に、例えば、こう言った。“パパは戦争の中にいて喜ばなくちゃね、今は外できれいな木や草が見れるんだもん。”

ファン・ドングン夫人が書き、1944年６月３０日に歌われた歌の詞。

いち、に、そしてニッポン兵士にお辞儀をしなくちゃ
腰まで曲げてね
それでないと旦那様はご立腹

そして彼はあなたを殴る、いち、に、
そしてお辞儀をしなくちゃ
だけどそれは私達には意味がない、
心の中では私達は
我らの女王にしかお辞儀しない

エンゲル-ブラウンス
1944年7月2日

また日曜が来て、私達は本当に日曜をするのだ！！寝坊する、いい気持ち！ハンキーはそれから、ほぼ１１時から１時まで料理する。彼女はそれを楽しみ、私はすくない休みの日を楽しむ。それでも、私は料理を手放したくはない。丸１日中何かやっていないと、ぐずぐず考えすぎてします。そして私は暑さに耐えられないので、馬鹿馬鹿しく早い、まだ涼しいときに料理し、その後で洗い場から朝日の昇るのを楽しむ（気持ちの良い冷たい風呂の後で！）

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年7月3日

メアはいい成績で、この騒がしさ、不安定さ、そして仕事の合間に、MULOの２学年に進級した。彼女はよく勉強していて、物覚えがよい。私は彼女を誇りにできる。今は２人とも１４日間の休暇で、ほっとする。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月5日

学校はまあまあだ。ハンクは今のところあまり良くない。暑さのためにぐったりしている。ヤン・ヘインはまた良く読むようになり、トーマス夫人のおかげだ（彼の２回の追加授業！）。こんな可愛い子に上げたいものも上げられないなんて。カッシアン［可哀相］！

エンゲル-ブラウンス
1944年7月7日

ヘンクはまた英語の授業から泣いて帰ってきたところだ。その通り、モル尼僧の授業は馬鹿げている。ものすごく難しすぎる表現で、この収容所で習うことではない。彼女は２と１だった。ハ、ハ！仕方がない、多くの人達もそうなのだ。他の英語の先生を探そう。[...]今夜は［C.H.N.］ザイルストラ[-アカーハウス]と[M.A.H.]ファン・ドングン[-パイパー][85]の夕べに行く。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月9日

ハンクは金曜日にまた泣きながら英語の授業から帰ってきて成績は１だった。彼女はもう辞めた方がよい、とモル尼僧は言った。結構よ。馬鹿馬鹿しいひどい授業なんだから。借りた本を使って週２回、自分で彼女に教えるようにしてみよう。

エルレー
1944年7月12日

昨日はタイスの誕生日でした。彼はこれで１２歳になり、pv（ボーイスカウト）に入ることができます。彼はこれをとても楽しみにしています。私達はとてもおいしく食べました。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月5日

ハンキーはまた落ちた。６，５だったので追試験をすることができた。これを内緒でやったが、今度は3-5だったようで、つまり今度は本格的に落ちた。彼女は第７学年をもう一度やらなければならない。私にとっても痛いことよ。嫌だこと！

[85] この二人の女性は収容所で文学の夕べやキャバレットの公演をしていた。M.H. den Ouden-Hille著, *Ik wou dat ik een vlinder was. Mijn jeugd op Sumatra van Fort de Kock tot Bangkinang* (Franeker 1983)、 p 111-112.

エルレー
1944年8月5日

イレーネ王女の日をボーイスカウトの旗パレードで祝い、私達はナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］ココナッツ無し、なぜならもう終わってしまったから、それに茶色豆のレンダン［辛味の肉料理］これもココナッツ無し、を食べました。[...]

彼らは今度進級しました。タイスは６年生、双子は５年生です。タイスはカムスマ先生の所に、他の２人はエニー・ドゥ・フィッサー・スミッツです。私自身は暇つぶしにフランス語のレッスンを取り、２７年経っているにもかかわらず、私は随分まだ覚えているようです。大したものでしょ？

エンゲル-ブラウンス
1944年8月6日

最愛の、最愛の誕生日のヨビャ。やはり３５歳。私達３人から熱いキスをいっぱいよ！あなたは私のベッド脇の花の中にいる！！！もしあなたがこれを見たら笑うでしょうね。今あなたは何をしているのかしら。エクストラの煙草？？私は調理場のロットから、小さな小さなおいしい肉切れをエクストラにもらった。昨夜はイレーンチェの記念にナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］をもらった。とは言っても冷たい黄色の米に小さな肉団子２つだ。舌鼓を打ったわよ！今朝は子供達が葉っぱとクッキーが少し（初めてこれを作らせた、ビースフーブル夫人に感謝！）と肉、ピーナッツバター、パイナップルゼリーの乗った３枚のとてもおいしいパンの入ったものを持ってきた！！聞こえてる？！！ヨー・エルデリング[-デッペ]と一緒に分けた。１０時のコーヒーの時に本当に内緒で楽しんだ。そして１２時に、ハンクはまた内緒でコーヒーとココナッツミルクを持ってきた。これもヨーと私で舌鼓を打った。さあ、これぞあなたの誕生日でしょう、違う？そしてそれは日曜日でもあったのだ！ミニチュアのピサンイジュー［未成熟のバナナ］をヤップからもらったところ。悪くないでしょ？

エンゲル-ブラウンス
1944年8月8日

ドゥ・クルース夫人はいつも夜遅く、J.H.と一緒に遠くから［病院に居る私に］ちょっと挨拶をしに来る。昨日も彼女はハンキーが[M.]ブレーマー先生の授業を受けている、と叫んでいた。これが全体的にはどうなっているのか、私には分からない。ハンクは７年生をもう一度しな

ければならず、もちろんひどいことだと思っている。彼女はいつも良くできていたし、この落ち込みは最近のものだ。彼女は全てを正確に覚えている、例えば歴史や地理などだ。今はブレーマーとか言う先生（優秀な先生でなくちゃ！）が、MULOの教科の補習をする！もうすぐまた、これについてはもっと聞くことになるだろう。ヤヌシェはよくやっていて、今日も学校に向かっていった。

エルレー
1944年8月11日

昨日はパウルの誕生日－４８歳。私達はおいしい食事でそれを祝いました。朝はコーヒーどろどろとココナッツミルクソース、昼は焼きそばたっぷりで、夜はナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］、４カップはすぐに食べ、２カップはベッドに入るすぐ前用です。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月12日

ハンキーはキニーネ日の最初（７個！）に学校に行かなければならず、吐き気があって目眩がし、学校初日の後で泣き出した。ブレーマー先生はひどくまじめに始めた、それは、測量法、代数、自然史などで、午前中２．１／２時間もだ。月にｆ２だったと思う。私は今では、髪を切る代わりにもっと子供達の勉強に手を貸すつもりだ。J.H.は昨日また１００％では無く、今度の月曜日にまたトーマス夫人のところに行く。学校ではもう尼僧の所にいる。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月21日

ハンキーは学校でひどく忙しい。１０時半から１２時半までブレーマー先生。カムスマ先生の所は午後３時から５時そして５時半からブレーマー先生の所で英語の補習。そしてまだ宿題がある。これにはもう支援することもできない。彼女は代数は大好きだ！一人で授業を受けているようなもので、最初のMULO（あんな大人数のクラスで、尼は病気で）の時より、早く進むだろう。

エルレー

1944年8月28日

私達の子供達はいつもお腹を空かせていますが、それでも外見は素晴らしいです。痩せては全然いなし、全く健康です。ただ、砂糖不足と退屈のため、少しぐずぐずします。子供達に取ってさえ、これは長すぎるのです。彼らは父親と、今やお話の中でだけ知っていて彼らを支えている、普通の生活を強烈に求めています。

エンゲル-ブラウンス

1944年8月31日

ウィルヘルミナ［オランダ女王］の、この亡命生活での３回目の誕生日。第一回目の誕生日の演説が、私達を解放するという話しだったのに、ひどいでしょ。[...]私達はみなオレンジ色のものを身に付けていて、でも実際には私にはどうでもよかったのよ、分かる。私は本当に冷徹になった。[...]ハンキーは代数と測量学を楽しんでいて、とてもうまく行っている。全て正解の時が多くなってきている。彼女はカムスマの所を辞めた。ベラト［重荷］になり過ぎた。私はカムスマと話したが、彼女は私がブレーマー先生の授業の方がよいと思っていると誤解した。それなら、スダー［もうそれでよい］！残念だけど、どうしようもない。ハンキーは英語もすごく好きだ。今は週１回、他の４人と一緒にザイルストラ夫人の語学授業に行っている。そこでは散文と韻文を習う。特定の諺、前置詞などなど。彼女の本当に弱いところだ。

エルレー

1944年9月25日

ほらね、私の欲しかった４人の生徒の内３人はもう来て、そして多分明日には４人目も来るでしょう。私達が稼がねばならないｆ２０［１週間料理をさせるため］のうち、もう私はｆ１２出せることになります。一度軌道に乗ってしまえば、私はこれで結構稼ぐし、これは料理よりもずっと疲れが少ないことです。ただ、紙不足が深刻です。紙が無くて、どうやって彼らに読み書きを教えたらいいのか、分かりません。書いたことを、その度に消していくのでは汚くなってしまうし、きりがなく、消しゴムも無くなります。私のフランス語の授業のノートは雑誌クオータリーの余白に書いていて、後には試験の紙の空いたところに書かなければならなくなるでしょう。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月28日

２１日はアンキー・ポストの誕生日で、子供達はパンケーキ４つ持って行ってきた。クウェー・タラム［米粉、ココナッツミルク、椰子砂糖のプディング］をいくらかと粉クッキーをもらった。私は夜にコロッケ２つもらった！！（これって、大したモンでしょ？！！）昨日はアニー・ドゥ・クルースの誕生日だった。ナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］の大パーティーで、午前中はコーヒーをよばれた。ロース・ナイラントはアニーに闇で買ったマラガ［ポートワイン］をあげた（私達は留め金＋小さなカレンダー！）。昨日の夜は、きちんと盛装してダンスをした（とハンキーは言った）。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年10月

ヤネケは今や食事で困らせることは決して無くなり、全ての皿も鍋もきれいに舐めて、それからとても無邪気に“ママ、これでみんな終わりなの？”と聞く。彼女は今やお喋りをしまくり、夜寝る前には知っている歌をみんな歌いまくる。この間は新しい歌を習ってきた。それはこんな歌だ。“ハ、ルース、ワイヌ、ワイヌ、ベッド”。１行だが、これを際限なく繰り返す。さてそして、ヤンは彼女がうまく言えない言葉は全て“ワイヌ、ワイヌ”と言ってしまうので、どの歌を彼女が実際に唱っているのか私には見当が付かない。それがある日、きちんとした発音で、“リッシェ、私のお人形さん、一緒にベッドに行きましょう”と歌うまで。こうしてあの“ワイヌ、ワイヌ”が何なのか、やっと分かった。彼女は“私達は収容所の子供。毎日毎日どろどろ粥”という歌もよく歌っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月15日

ハンクは木を切りに行っている。あの勉強浸けの中ではよい気晴らしだ。彼女は疲れてしまう（頭が）。ブレーマー先生は私を呼び、“ハンクはとても熱心できちんとしている”（ティネカなどと違って）と言った。彼らは実際のMULO１年生よりも先に進んでいて、これは後になってハンクの学校で、良い結果をとなって現れるだろう。ただ、彼女は（他の人達も同様だが）教材がないので幾つかの教科が勉強できない。もし彼女が７年生になったら、ブレーマー先生によれば、MULOの証明はすぐにももらえるだろう。彼女は今、先ず休暇にしてやりたいが、し

かし終わりが１０月末か１１月になると、最初の勉強が何もならなくなるので、もったいない。もし私達がクリスマスにもここにいたら、その時期に休暇にする。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月20日

J.H.は痩せて、黄色っぽい。熱心そのものだ。恐いくらいだ。九九には飛びついている！！２０の段、２５の段、３５の段も全部知っている。素晴らしい。彼はもう止まらない！！トーマス夫人は計算に関してはそのままやらせておく、つまり、彼の九九熱のことだ。言葉の読み書きもどんどんやっている。彼はもうすぐ３年生になるだろう。私達は何時彼の熱心さがしぼんでしまうかと心配していたのだが、いまだに続いている。彼は日に１時間、彼女から授業を受けている。

エルレー
1944年11月9日

私の誕生日からもう２日が過ぎました。それは忙しい日でした。私達の通りではもう一人、女の子も誕生日でした。パウリンは彼女のドレスを作るためのペチコートを彼らにあげました。それで２つ作ることができました。彼らはそのことでとても感謝していて、そのために私の誕生日に突然、それまでずっと取って置いたブルーバンド宣伝用のナプキンリングをくれました。さあ、これはこのような日々では、素晴らしいプレゼントです。パウルからはチュール編みの敷物、タイスからは絵、アンドレからは針山、ツルースからは小カレンダーをもらいました。石鹸１個とパン１切れが他のプレゼントです。ああそうだ、まだ、本の栞と素敵な記念の花を、一つおいた隣のマド・エイセンベルゲル[-ファン・ワイク]からもらいました。ナプキンリングはドンルーからです。私の学校は、誕生日のご馳走作りを手伝えるように、休みにしました。朝のそれは、普通のどろどろに白砂糖とジェルック［柑橘類］。午後は米のどろどろと緑野菜。ここまでは、ですからとても普通で、単に量が少し多く、そして夜は５カップの米にカレーと３ミックルの粉のヌードルでした。つまりこれは王侯の食事でしたが、その準備に大変な時間が掛かり、そのために私達は午前中いっぱいかかりました。１２時半に最初のコヒーの客が来ました。コーヒーとココナッツミルク。これは後になっても私はきっと飲むでしょう。結構おいしいです。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年11月9日

明日はまた11月１０日だ。１７年［結婚している］！ついこの間のような気がする。私達がお互いをもっとよく理解していなくて残念だわ。私達は一緒にすることが少なすぎる。[...]私達のテンパト［（寝）場所］の上に、私の背の方の白いシーツの上に、あなたと私の肖像画が一緒に掛けてある、“ランプを持った女性［ナイチンゲール］”の話しを背景にして。これは徐々に私のとてもお気に入りになった。その下には小さな赤いハートが掛けてある。こんなハートがここで流行ったことがあり、その時は服の上から掛けたものだった。さて、ソニャが今日の午後、森に木を取りに行くので、花か葉を持ってきてくれるように頼もう。そしたら幾らかをこのシーツの上にも掛けて、明日は私もあなたの誕生日をする事ができる。あなたのことを考えるだろう。神よ、あなたが戻ってきますように。[...]

ソニャは機嫌が悪い。私は娘達が喧嘩をしないようにできるだけの事をしている。ソニャは私に対して言葉が悪いという以上のものだった、気にしないようにはしているが。いやいや、子供達は何という事を親に言うものか。明日は彼らと共に、‘心地よく’（おお可哀相）記念日をしたかったのに。それも一部は無くなってしまった。私は全てにがっかりしている。明日はジェフについて、ここに少し書こう。子供達が私に辛い思いをさせたとしても、それでも、彼らのことをここに書こう、それでないと、話しが暗くなる。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年11月11日

あなたに最愛の息子の話をするはずだった。彼も全てに手伝いをしなければならない、小さな仕事をし、調理場、火炊き場に全てを運んだり、運んできたりする。彼は私に何でも聞く、ネズミはどこから来たのか、それに私が、神が創ったのだと答えると、彼は、それでは何故神はネズミに私達を苦しめさせるのか、何故それを殺してしまわないのか、と聞いた。それから彼はあなたのために祈り、１２事項のためにも祈らなければいけないか、と聞いた。まさか、本当？彼は活発な男の子で、強い日差しの中で学校に行くのは義務感だけでやっている。だから彼はそれがそんなに嫌いなのだ。ヤップは屋根付きの開放納屋を作って日中は子供達が遊べるようにし、幼稚園もそこで出来るようなものを作れないのだろうか。彼らのためのものは何も無いのだ。ジェフケの積み木箱もパダンに置いてきてしまい、私達はまた、お父さんが今この近くに居ればいいのに、と言っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月14日

ちょっと学校に関して。J.H.は素晴らしい子であり続けている。もうとても面白い応用問題（例えば、あれやこれを１個・・・セントで買い、ｆ２．５０で払うと、等）や総計計算（縦列に並んだ数字）をしている。彼は今や読むのも好きで、オランダの旗に関する詩を書き写して歌っている。素敵でしょ？ハンクは義務感で読んでいるが、しかし彼女は小休暇が欲しいのだ。私もそれは理解できる。代数はこの前９．１／２だった。結構うまく行っている、一生懸命やらないといけないけれど。さようなら、愛する人！

エルレー
1944年12月3日

今、私達は１２月５日のために既に粉を取っておき、それでパンとヌードルを作るのです。沢山の食事が、この頃はパーティー道具になっています。その他のことはしません。収容所でセント・ニコラスの物語をし、数人の収容所セント・ニコラスさえ用意するようです。大したものになるでしょう。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月8日

それでも、私達はとっても素敵なセント［ニコラス］デーを過ごした。朝食は乾いた米。昼はパンで（その半分しか食べなかった！）そして夜は晩餐だ！！そのメニューは。ブイヨンスープに、焼いたプランチェス［カッサバ］パン、バポー（茹でたプランチェスの詰め物）、ナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］と１１のマットジャム（種類）、コラック［蒸した果物］とコーヒー＋ココナッツミルク。取って置いたココナツはもう少しで悪くなるところだった。ハンクは気違いのように料理していた。楽しんだ。しかし、おお、おお、J.H.でさえ彼の米の半分も食べられず、なぜだか分からなかった。床は心地よく緑で覆い、私達はそこで、あなたと一緒に座っていた！！ハンクはそれぞれの皿に別の絵を描いていた。ナシ・クーニングは、つぶした豆、ペチェルソース［辛い（ピーナッツ）ソース］、セルンデン［ココナッツを卸して焼いたもの］、茶色豆のコロッケ、豆と肉と病人用皮のレンダン、肉団子、ケチムン［キュウリ］、プランチェスの炒め物、剥き豆と皮の炒め物。見事な眺めだった。そして料理の半分くらいでもう食べられなくなったJ.H.の顔、まだ米の半分はおひつに残っていた

のに（１人１カップ）。おお、私達がJ.H.をからかったこと。私自身も子供達の半分の量をほとんど食べきれなかった！！翌日にも、まだそれで完璧な昼食ができた、米はちょっと傷み始めていたけれど！！

エンゲル-ブラウンス
1944年12月9日

１２月６日の私達の朝食は残ったパンだった。豪華でしょ？いつもはホンの少しのどろどろだけなのに！こうして私達はまた粉と米を節約する。それでも夜にはまだセント・ニコラスとピット［セント・ニコラスの従者］がちょっと歩き回った。J.H.はこの秘密をもう知っていた。ああそうだ、私達はベッドでコーヒーを飲み、靴の中からプレゼントを出した。私はハンクから小カレンダーをもらった（手製の！）。J.H.はおもちゃのブイ、コマ、トランプに夢中。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月18日

私は毎日曜日にちょっと教会に行く。

エルレー
1944年12月24日

明日はクリスマスで、収容所で過ごす３回目です。こうなるとは思ってもいませんでした。みんな今度はちょっとしたものにしようとしています。私達はシダを木の棒の周りに付けて、クリスマスツリーを作りました。それをココナツの殻に砂と石を入れたものに立てました。クリスマスの飾りは貼りつける紙人形、銀紙、色ボタンです。全体としてはなかなかのものです。ゴムの実で小オイルランプを作り、ランプから盗ったオイルを入れました！！もちろんとてもおいしいものを食べます。レモンどろどろ、スープ５人分、パン、５カップものナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］それにまだ・・・プラムどろどろ。私達はまだプラムの缶詰を一缶取ってあり、それを静かに開けるのです。子供達がお話の会に行っている間に私はそれを料理するつもり、そしたら、完璧なサプライズです。さあ、私は３人とも出ていって、缶を開ける瞬間を楽しみにしています。

エンゲル-ブラウンス

1944年12月26日

ハンクは上等上等。休暇の後で成績表をもらう。私はメルキアデ尼僧と、ハンクにMULOの入学資格を取らせるためにやっている。彼女（尼僧）はハンクに夢中だ。ブレーマーが私達をここまで来させ、カムスマの所からは出た。チョバ［試してごらん］！J.H.は３年生の成績表をもらい（１２月）、つまりこれから後半が始まる。成績は期待したほどではなかったが、それでも良いものだった。主な科目は７（言語と計算）は取れる。私が頼んで、わざと低くしてもらった。だから、彼はもうすぐ確実に３年生後半にはいる。まだこれから８歳になるのだ。嬉しいでしょ？[...]モンセニュール＋神父の[H.A.M.]レイヘルスベルグが昨日の朝来た。２４日（私達にとって偉大な日よ、パパ！）はベッドで紅茶と小さなロントンパン［米の蒸しパン］。その後ハンクは料理、私はテンパト［（寝）場所］を用意し、J.H.はあちこち走り回っていた。彼は今やアングロ［コンロ］に火を起こし、とても大きくなった気分だ！！！少しでもおいしく食べようと思ったら、する事が山のようにある。米（乾いた）＋焼きそば（乾いた！）で昼食をした。ものすごくおいしくて沢山！！お茶にどろどろ＋バナナ１本＋１／２パパイヤ（未成熟！）で、夜はライステーブル［品数の多いご馳走料理］だ！！米３カップに８マチャムス［種類］の炒め物（バナナ焼き、レンペジェ［ピーナッツクッキー］、カチャン・イジュー［小さな緑の豆］団子、病人用皮の辛味料理、ケチムン［キュウリ］、棒状えび煎餅、もやしにプランチェス［カッサバ］葉のセルンデン［ココナッツを卸して焼いたもの］）。全くの偶然にちょうどプランチェスとケチムンをもらったところだった。ちょうど良かった。雨が降っていた。７時半にやっと準備でき、私が風呂から帰ると、ハンクは素敵なテーブルセッティング（トランクから出して）をしていた。J.H.と私にプレゼント。とても楽しい。とてもおいしく食べたが・・・私達はまた食べきれなかった。私達は大食漢ではないようだ。ハンクが一番よく食べた。すごくおいしかった。私達はすぐにWC方向により頻繁に。２５日は寝坊をして、ベッドでパンケーキ（実は２４日用だったもの）。１１時にカップのブイヨンスープにロントン［（バナナの葉で）包み、蒸した米］一皿＋取って置いたココナッツのココナッツミルクと残しておいた米。ハンクは料理し、私はここを掃除した。昼食・・・米とクリオ[86]。おいしい！お茶にはバポー（プランチェス３つ＋ロントンとカチャン・イジュー［小さな緑の豆］の煮物）、夜には私達の籠の蓋いっぱいの、中身を挟んだサンドイッチ。子供教会＋聖家族シーン（ハンクも一緒にやらなければならなかった）のあと、外で食事し、少し先のろうそくの側に座っていた[C.]カプテイン夫人からろうそくを１本もらった。そこら中に、クリスマスツリーがあり、大きなパーティーだった。とても素敵だ。曇っていたにもかかわらず、月明かりがあった。今朝はまた寝坊をし、紅茶とパンをベッドで、一緒に楽しく、私達の新婚の時のことを沢山お喋りした。１１時にブイヨンを少し、昼食は大きなクウェー・タラム［米粉、ココナッ

[86] 注29参照。

ツミルク、椰子砂糖のプディング］（私達はそれぞれ２包みのサッカ［砂糖］をもらった＝買った）で、小さいのはお茶の時間用。アンパス-ココナッツ＋砂糖を添えて、今夜は素晴らしい灯りを借りて、焼き飯と８種類の料理を外で食べる。ミーテルス（一昨日のキチムン）、ウビ［サツマイモ］の葉と茎の辛味料理、病人用皮の辛味料理、焼きバナナにセルンデン［ココナッツを卸して焼いたもの］。おいしい！！ブイヨン１カップを添えて。病人用皮には脂肪が付いている、だからウンツン［幸運］だ。風呂に行こう。あらゆる悲惨な事実にも関わらず、雰囲気は良い。さようならお婿さん！！

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年12月27日

クリスマスもほとんど終わりだ。子供達はクリスマス劇に行った。そしてちょっと、暗くなる前に、私はあなたのことを考えよう。おお、この２日間はいつもあなたのことを思いだしていた。娘達はクリスマスツリーを‘建設’した。とても素敵だ。その下には、今年はあなたへのプレゼントも置いてある。このノートのカバーだ。メアとソニャも私から彼女たちの名を装飾文字で入れた本カバーをもらった。私達のクリスマスツリーの足元にはあなたの３枚の写真が立ててあり、前夜に３０分間、（禁じられている）私の最後のろうそくを燃やしたとき、あなたは私達の真ん中に居た。月はもう空にかかり、澄んだ空で１０００に一度の夜になると言われていた。あなたがスマトラに居たら、あなたも私と同じようにこの夜を見ている、噂によれば、あなたはそれほど遠くには居ないということだから。私は明日、この事をまた書き続けよう、でも私はこの日々を、あなたに何も言わず、何も書かずに終わらせたくない。それは良い日々だった。平和の匂いをかいだかしら？そうだと良いのだけれど。昨年と比べると、私達は今年は何かしようとした。ココナッツと２カップの茶色豆を取って置き、というのも、私達はもう何週間もこれまでにないほど貧乏なのだ。それでもニッポンはこの日のために気の大きな所を見せ、クリスマスの朝に食糧を持ってきた。カチャン・タナー［ピーナッツ］、コーヒー、茶砂糖。何という喜び。雰囲気は高揚し、人々は・・・止めた、書いてはダメよ‘幸い’。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年1月

また１年が過ぎた。後どのくらいかかるの？クリスマスと大晦日はもちろんひどかった。私は早くにベッドに行った。他の人達はそれでも祝っていた。多くの人達はクリスマスツリーをなんとかかんとかでっち上げた。

エルレー

1945年1月2日

ほら、１９４５年が始まりました。みんなは楽観的な雰囲気です。大晦日は特別の食事においしい食べ物でしっかり祝いました。私達はニッポン時間の１２時まで起きていて、これは私達が遅くとも１０時３０分には寝ていることを思えば、大変なことなのです。

エンゲル-ブラウンス

1945年1月5日

ハンクは今、午後にMULOの入学免状を取るために（試験無しで！）ダイムフィネ尼僧の７年生のクラスに行っていて、８日にもまたMULO方向に行く。ブレーマー先生がこれを勧めてくれたのだ。J.H.も８日にまた始める。[...]それから、大晦日は先ず米に３種のものをろうそくの灯りで食べ、コヒーをその後で飲んで、J.H.と祝った。いわゆる屋外キャバレットがあった。休憩時間にアニー・ドゥ・クルースが焼き飯をｆ２．５０で、バルト夫人がコーヒーを、売った。クルースたちは馬鹿みたいだ。多くの人達のためにも料理している。ドゥ・クルース夫人の肩に掛かってくる。午後１１時３０分に私達は全員、借りたテーブルに１８人のカジュー・アロエル[87]と共に座っていた。最初は米とおいしい３種類の料理（茶色豆ソーセージ、肉が少し入ったレンダンと何種類かの野菜）。その後コーヒーとパン（マスタードソースもどきとピーナッツバター少々）。テーブルには小ろうそく。全てはとても快適に進んだ。私達はろうそくの火を点けてよく、ニッポン時間で１時半に１２時のサインが示される事になっていた！やっと２時半にベッドへ。ドゥ・クルース家４人、ポスト家２人、バルト家４人、ブロム家１人、アーンデウィル家１人（最初はやらないと言って、そして、でもやる。知ってるでしょ、そのためには何もしない、何も出さない、それでも一緒に食べる人）、ルセラー家２人、ビッケルとエンゲル家２人。［F.］ヴェルクホーフェン[-
ドゥ・フリース]は入院中でスハウストラ家は一緒にしなかった。私はひどく気が乗らなかったけれど、それでもまあ、うまく行った。

[87] エンゲル-ブラウンス同様に戦前紅茶会社カジュー・アロに住んでいた被収容者達。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年1月25日

ジェフケはどんどん大きくなっていく。彼が一年生になるのももうすぐだ。残念、何て残念、彼があなたをこの期間中ずっと見られないなんて。彼は神は正しくないと思っている。ヤップたちはちっとも死んでいかない。彼はこれについて結構哲学的に考えられる。[...]子供達の想像力を刺激するようなものがない、絵本さえもない。古い新聞も、何も無い。[...]可哀相な子、彼も全てを見られない。彼の最も幼い時期には家で本当に何でもあったのに。ソニャとメアは、昔、積み木で素晴らしい宮殿を作ったではないか。三輪車、庭、鶏数羽、水泳、散歩、カチャン［ピーナッツ］の袋を持って水辺に座る。何て気持ちの良いことか。今はこの全てがない。無味乾燥な、暑い、日陰のない収容所だ。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年2月4日

時は過ぎていく。昨日私は誕生日だった。また誕生日。[...]私達は昨日お祝いにしっかり食べ、その前にパパを思い出し、そしてもちろん将来家に帰ることを考えた。私達はタペを作り、何人かの知人にご馳走した。メアとソニャはひどく一生懸命仕事した。丸一日中働き、おまけに私のためにプディングまで作った。良い子供達で本当に感謝する。

そしてそれでもソニャは昨日私を本当に悲しませた。彼女は私に“あばずれ”といったのだ。どうしてそんなことが出来るのか。それ以上は言えない。私は“その鍋はメアのよ”と言い、そこには水のような粥がスプーン１杯くらいあっただけなのだ。昨日はそれで彼女らは争い、彼女に聞かれて、私がその時、その鍋は誰のものか決めたのだ。本当にひどいことだ！私は彼女を数回叩いたが、彼女はこれには大きすぎる。私はこのひどさに泣きたかった。これがどんなにひどいことか、何時になったら彼女には分かるだろうか。[...]彼女の性格は強欲でも負けず嫌いでもない、それとはほど遠いのに。彼女は、私にとても優しく、よくやってくれることがとても多い。私はこれを、あなたが彼らがどのようであったかを知るために書いておく。きれい事ではない。

エンゲル-ブラウンス

1945年2月18日

単純に、書く時間がない。しかし、今、私はパパちゃんと話さなければならない。今やあなたには８歳の息子が居る。大きい子でしょ？！全てのことにもかかわらず、［昨日は］見事な日になった。率直に言って（爆発しちゃう！）。午前８．３０に、ベッドでコヒー１杯と砂糖を摂ってから起床。片づけをして食べてから急いでコル［リキマフ］の所へ。１０時に小さなパンで朝食。１１時にはヘンク、ヤーピーとハンシェがここに来た。急いでコーヒーを飲み、クウェー・タラム［米粉、ココナッツミルク、椰子砂糖のプディング］＋米のタペと、パンの小片。そして１２時に大人達。リー・ルセラー＋キティー、コビー・リトマン、マセッチェたち、リー・ポスト。ドゥ・クルースは彼女の料理のため、来られなかった（クルースから、彼はパンケーキ３枚もらった！！カチャン［ピーナッツ］無し！！）さらに、小ナイフ、スプーン、オンデバル［トリュフ］をロブ［ルセラー］から、パンケーキ（マライケから）、トランプ（ヘンクから）、ゴムの種、ベラス［脱穀米］＋粉、パンをもらった、素敵でしょ？やっと２時に客が去り、その時ちょっとつまみ食い。最初にまだボネファースなどが何か送ってきた（ニコリンも来ていた）。３時にコルが作った、私達のとてもおいしいライステーブルを食した。つまり、ご飯の半分も食べられず、夜もライステーブルだった（茶色豆コロッケ、茶色豆団子、レンペジェ［ピーナッツクッキー］、えび煎餅、デンデン［乾燥させ味付けした］肉、サテ［串焼き肉］＋カチャンソース［ピーナッツソース］！！！）、カチャン［ピーナッツ］、ガプレク粉［カッサバ粉］に茶色豆を包んだリソレ。おお、本当においしかった。でも、私達は紀元０年の食事者よ、なぜなら、私達のパンはやっと今日になって食べられるのだから。パン２つは[D.I.E.F.]ファン・デル・ヒルストが焼き（私達の粉）、２つの小さなパンはニコリンが焼いた。パン半分は人に出す用。午後にはまだ（子供達が怒ったことに）ロトマン、ファン・デル・ウェルフ、ブリンクマンもちょっと、バルト、クノッテンベルト、アーンデウィール（ただ中華鍋を借りに）などが来た。私はもう耐えられず、すぐに３８度になった。夜には借りた小ろうそくの灯りで食べ、コルがまた、タペどろどろ［発酵した米の］を上に掛けたパンケーキを作った。素敵でしょ？[...]

［非常に少ない食糧にも関わらず］それでもJ.H.は成長している。ただ、彼はまたカチャンを私達から盗み、この前はポケットに突っ込んだ手に持っていた。誕生日にもらった車を送り返して罰した。本当にひどいことだと思う。盗みに嘘！！おお嫌だ！

エンゲル-ブラウンス
1945年3月2日

ハンクは学校のことを思うとひどく泣きそうになる。その心配までまだある。彼女の学校を辞めさせた方が良いのかどうかいつも迷う。そしたらこれまでの授業料は無駄になり、彼女はベツールベツール［絶対確実に］留年する、測量学と代数はやり続ける、というのが彼女自身の望みだったにもかかわらず。私は彼女のために何でもしたのだ！彼女は他のことは何もする必要がなかった。全ては私がした。しかし、彼女はまたこんな力の出ない時期にいる。急がなくては。幸いにもJ.H.は賢い、彼は素晴らしく進んでいる！！これには、ありがたいことに心配はない。ハンクは今や学校を辞めることを押し通そうとしていて、私はたとえもう充分だと思っていても、諦めたくない。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月5日

ハンクはうまく行っている、ありがたいこと。月曜日まで休暇で、料理をしても良い。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年4月8日

今日は復活祭の後の日曜日だ。モンセニヨールで神父の[B.A.J.]デルクスンはミサをあげることができ、私は長い間行かなかった聖体拝領に出席してきた。私達はみんなであなたが無事に戻ってくることを祈った、私はここで、子供達は外の広場で。私はこの数年ずっと、聖体拝領に出席できなかったのだ。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月13日

彼女［リー・ルセラー］は昨日誕生日だった。カジュ・アロ全体がちょっとそこでガプレクパン［乾燥カッサバの］とコーヒーを飲んだ。それから私はアニー［ロトマン］とフランクの不細工パーティーに行かなければならなかった（パイスープ、パイ、米とマチャム-

マチャム［ありとあらゆるもの］、パンケーキとゼリーにコーヒー）。これがあのホンのちょっと食糧からできている！！さようなら、可愛い人。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月17日

日曜夜にはハンクの洗礼があるはずだった。雨のため、それは昨日の夜になった（１６／４！）。ドゥ・ブラウンの子供達もだ。ベップ・フンガー[-カプタイン]の礼拝、美しかった。明日はこの出来事をロトマン家の人達とニタ・フランク[-ルマン]（彼女が言い出した）と一緒に渓谷での食事をして祝う。ニタがウルスト［手配］する。[...]今日からハンキーは午前中の学校が無くなった。彼女の脳は軟化し、ブレーマーは彼女の神経に障る。私は闘いを諦めた。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月18日

今夜は午後７．３０に渓谷の代わりにここテンパト［（寝）場所］で洗礼記念会食をした。J.H.もだから一緒だが、彼はまだなんでも一緒に食べられるわけではない。[88]

エルレー
1945年4月29日

今日はミカドの誕生日です！！そのために、私達は明日の、ユリアナ王女の誕生日を倍のベラス［脱穀米］で祝い、明日はおいしく食べます。あのヤップはまたトラシ［魚あるいはえびの抽出物］を８０グラムｆ３．５０で持ってきました。ええ、私達はとても喜んでいます。それから彼は白い‘小玉葱’を持ってきて、それも同様に喜んでいます。食事は今日既にずいぶんおいしくなり、そのためにはとても必要なものなのです。人々はいつも私に、とても親切そうに、とても顔色が悪いと言います。

[88] ちょうどこの日、エンゲル-ブラウンスはヤン・ヘインが病院から退院すると告げられた。彼は1945年4月4日以来赤痢のために入院していた。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月1日

ニタ・フランクは［４月18日、洗礼会食に］アニー・ロトマンの手伝いで見事に料理した。マカロニ（焼きそば）、それから焼き飯（葉を混ぜて）に詰め物をしたテロン［茄子］、焼いたパラミツと唐辛子料理、粉団子にパンケーキとコーヒーどろどろがデザートだ。この全てをランプの灯りの下で。とても楽しかった。J.H.が戻ってきて最初の夜だった。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月11日

昨夜は５月１０日の記念に教会に行った。私達の国はもう５年間抑圧されている。今は本当に解放されていることを願っている！そして、私たちの番はいつ？

エンゲル-ブラウンス
1945年5月13日

５日の続き。ベッドの中で、私はそれでもプレゼントをもらった、白粉＋羽根、J.H.から裁縫用指かぶせ（自分のお金で！）、［刺繍した？］会計帳などだ。それはコーヒー＋パンケーキで祝った。その時ルース叔母さん＋キットが私達のテントにもぐり込んできて、ココナッツの殻＋花＋コーヒー少し、塩、胡椒を持ってきた。私達は死ぬほど笑った、彼女たちが私達の土人村をまた這い出していったときも！それから隣人のフランクが白いハンケチのプレゼントを持ってチカル［竹のマット］の下をくぐってきた。そのための私達はやっと９：３０になって起きた。先ず食事、コル先生の所へ、それから私は風呂に行かなければならなかった。私達のココナッツは２回ブスック［腐った］。

とにかく、１１時にパンを少し食べ、コヒーと砂糖＋ココナッツミルク！！！おいしい。１２時にバルト、[G.J.]ホルスト・ペレカーン［-スツールマン］、ドゥ・クルース、[W.]ホフケス、v.d.ウェルフ、ロトマン、[J.]アスペルスラッフ[-クネフテン]、ワリナール、フランク、デッカー、ファン・アルフェン、［A.］ライケ、メイヤース、ルース、ニュウケルク、ナイラント、カプタイン等が来たり、何か送ってきたりした。コーヒーとパンの小片を差し出した。私達は２：３０に食事。おお、それは膨大な量だった！！暖かな白い米５カップ、焼きそば（美味）と１５種類のおかず＋ココナッツ。午後にまだコビーとマセッチェが来た。アーンデウィルは余りに忙しく、ポストは、ええっと、私の知らせが遅く、朝早くだったので、カ

ンに障ったようだった。仕方がない！午後にはすこしパンを食べ、夜にはライステーブルの後半を食べ、それでも少なくとも米カップ２杯、焼きそばにセルンデン［ココナッツを卸して焼いたもの］は残っていて、だから私達は５月６日日曜日にも食べ、ハンキーは午後になってから料理すれば良かった（焼きそばと米少し）。私達はもう空腹感はなかった。夜には病院の皿洗い水槽の側で、星空の下で砂糖入りコーヒーを飲んだ。その日の終わり。

エルレー
1945年5月23日

ツルースとドレの日は巨大なクウェー・タラム［米粉、ココナッツミルク、椰子砂糖のプディング］と砂糖入りコーヒーで始まりました。１０時半にパンと米のパイ、トラシラグ［魚あるいはえびの抽出物］入り、１２時半にはこれをお客様ともう一度繰り返し、その少し前にブイヨンスープ１カップ。１時半に乾いた米と焼きそば、４時に米のパイ、６時にその残り＋甘いコーヒーどろどろ。７時半にその日一番の食事で、ナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］と数え切れないほどのおかず。コル・リキマフがそれを私達のために作ってくれ、パイとレンペジェ［ピーナッツクッキー］を希望する以外は彼女の想像力に任せました。もし天気がこのまま良ければ、外でチカル［竹のマット］の上で食べます。明日のためにも、まだ余っています。この日は彼らはお腹を空かせないし、明日もきっと空かせません。これだけでもう誕生日プレゼントになります。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年6月

ヤネケはすごい勢いで成長していて、幸い私には彼女のことで心配はほとんど無い。ただ、彼女は自分が木靴を持っていない事をひどいことだと思っていて、私達の通りに置いてある木靴をそこら当たりから取ってくる。これにももうみんな慣れてしまって、誰かが木靴を失うとすぐに大きな声で、“ヤンチェ、私の木靴を返して”と叫ぶのが聞こえる。ヤンはその時には至福の顔をして大きすぎる木靴を履き、どこかで見せびらかしながら歩いているからだ。それを返さなければならなくなると、彼女は激怒し、感情の高揚で蹴り、そこら中わめき散らす。腕白め。

# 収容所の雰囲気

エンゲル-ブラウンス
1943年12月25日

第一クリスマス。落胆、大いに落胆。私達は婚約したのよ愛する人。１４年前の昨日、おお、パパ、何て素敵な時だったことか。貴重な時。そして今は？もしあなたがここにいる私達を見たら！！悲惨。

エンゲル-ブラウンス
1943年12月26日

第二クリスマス。クリスマス感覚は全くなくなった、幸いよ！私達は
７人で、この小さな場所に固まっている。ヤヌシェは惨めさと空腹で寝ている。ロブ［ルセラー］もぐずぐずしている。リー［ルセラー］はちょっと横になり、私達は野菜をきれいにしている（昨日はなかった。今はメロンの一種＝１個）。今朝は又雨だった。[...]フレー・ベエウケンカンプの所で少し座って話し、それから又巣に帰る。しかし寝られなかった。２時になり、それから恐い夢を見て、また起きた。嫌になる、何という夜だろう。子供の泣き声、おしっこ等。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月3日

その間にも、もう1944年だ。愛する人、この年が私達を早急に一緒にしてくれますように。早くても早過ぎることはない。この地獄を出る。また一人の男が側にいる！全ての女性の顔とはおさらば！！

エンゲル-ブラウンス

1944年1月8日

最愛のお祭り好きのあなた！！丸１４年前！何という日でしょう！！今日、この日を忘れていないわね、パパちゃん？当時は何という輝かしい日々だったことか。パーティーに継ぐパーティ。その当時大したことではないと言っていたおいしい食事を、今では幻覚にまで見る。結婚１４年！！何という時間でしょう、愛しい人！！私達は年老いた山羊になっちゃう。教会のことその後の社交クラブのこと、覚えている。それから急いでアメリカンホテルへ。ああ、何という贅沢だったことか。あの時、この事を予想していたら、“気が狂ってる”と言っただろう。そして今や、あの村に私は居る。現地人の口論や厄介事の中にいる。[...]１．１／２平米に住み、自分の身体の中心線を軸にして向きを変える。幸い、私達はOKだ。私のパパちゃんも？今一体どこにいるの？戦争情況はどう？この生活を進めて行くには相当な気力がいる。ありがたいことに私達の２人の健康な子供達が私を支えてくれる。その彼らのために、私は今全ての事をしている！！ヤヌシェはまた、食糧不足にも関わらず立派になっている。お腹が空いている時には、惨めな気分になるときもあるが。猛烈に日に焼けて、彼の大きなお腹もまた出てきた。おお、２人の健康な太った子がいて、本当にありがたい。ええ、愛しい人、以前のあなたは正しかった。か細い子よりも太った子。[...]２年前にあなたは私を家に帰した。まだ覚えてる？！２月まで居ればよかった[89]。もうすぐ私達の皇太子はもう７歳になる。彼の５歳の誕生日も、あなたは見そこなっている。

エンゲル-ブラウンス

1944年1月14日

またもや記念すべき日！！１４年前、私達はアイマウデン［オランダの港町］を出た。おお、パパ、何て贅沢な時だったことか。あの旅！！！取り戻したい。この嫌らしい生活め！！何という失われた日々。もったいない、もったいない時間。私達が海を越えていくとき、デッキの手すりにもたれて、お互いに“私達、これで良かったのかしらね？！”と言っていたのが目に見える。そしてここに、私達は何マイルも離れている。[...]

８日から日常に戻った。単調に、あくせくし、起き、ベッドに行く、等。いいえ、滅多にない単調な生活。正常な生活というのはまだ存在しているの？愛する可愛い人、私達は補うことがどれだけ沢山あることか。おお、私は最初にあなたの胸で泣き尽くすまで、何もしないわ。楽しい未来予想でしょ？！

[89] ここから、エンゲル-ブラウンスは1942年始めに、当時招集されてパダンに駐屯していた彼女の夫を訪問したことが分かる。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月18日

私達は１４年前、もうサザンプトンを出て、船旅を楽しんでいた。何と夢のよう！！！あの時が帰ってくることがあるのかしら。“おお、来るとも”あなたが自信を持って言う声が聞こえる！！変ね、私はまだ完全にあなたの楽観主義に染まっている。この年月の間に刷り込まれてしまったようね。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月20日

ほらね、また２日が過ぎた。今は夜、あるいは夜になるところで（私達はニッポン時間で生活している）子供達はまだちょっと風呂に入る。私は割れるような頭痛がする。ここの空気もひどく汚い。今のところまだ毎日毛雨だが、乾期はもうそこまで来ているだろう！ここでは永遠の疲れを感じる。特に外の空気は。夜は騒音でひどい眠り方だ。これには慣れられない。おお、家の落ち着きをどれだけ貴重に感じることか。家、家庭、何という響きだろう！！ここでは聞きも感じもしない、時々私は自分たちが再び家庭に戻るときが来るかどうか疑ってしまう。あなたはどう思う？あなたはどこにいるの？私はこの生活に本当に、本当に疲れている。私達の両親達はどうしているかしら？この全てがこんなに遠くにあるなんて、変な感じね。私達は大丈夫。ハンクはまた食欲が出て、J.H.は永遠に食べていられる。私の脚は夜ひどいが、それ以外はなんともない。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月13日

おお、お願い、神に掛けて、私達をまた正常な生活に、一緒にさせてちょうだい。あの女性達、私は大ッ嫌いで、こんなに人嫌いになってしまう！誰のところにも行きたくない。毎晩自分に強制して行っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月25日

ここでは全て順調。ただ、この待っているのが時にベラト［重荷］過ぎる！！！平和は二度と来ないの？？連合軍は一体どこにいるの？？こんちき・・・さっさといらっしゃい！！J.H.の足は治ってきている！それ以外は彼は万全。[...]ハンクは最高でよく働く。変だけれど、彼女は私をすぐにイライラさせる。３人ともまだ鼻水が出て、咳も出る。あのイライラは多分私のせいだろう。おお、最後には本当にいろいろなことが耐えられなくなる。どうしようもない。一日中あくせくし、気晴らしは何一つ無い。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月2日

ええ、私には２人の素晴らしい子供達が居るわ、この‘私の’を聞いてちょうだい。彼らはあなたのでもあるわよ！私は最近夢ばかり見て、特にあなたの夢を見る！これは昔は全くなかったことだ。夢を見たことがなかった。今や戦争や騒然とした情況ばかりだ。あなたは誰か灰色の制服（開襟シャツにゲートルをつけ、警官みたいな）を着た人と一緒に来た。あなたは恐いくらい痩せていて大きな銃創があり、蓋がしてあった。あなたは永遠に傷が付き、そのために、不幸せな気分だった。他の女性達は自分の夫の所に走っていく勇気がなかった。ええ、私は直ぐにしたが、その結果、半ばで止めざるを得なかった。あなたはそれほど衰弱して痩せていたから。おお、あなた、そしてその場面を忘れることが出来ない。何て嫌な世界でしょう。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年3月2日

私は昨日は調子が悪く、すると本当に、本当に疲れてしまう。[...]イェフケはこの生活に対して、ほとんど毎晩落ち着きを無くすことで反応している。そして朝一番に、この生活のために私は目を覚ましてしまう。私達の向かいに寝ている３人の赤ん坊が、空気を汚している。嫌になる、時には全てを嫌悪してしまう。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月26日

最愛のパパちゃん、また日曜日になり、またもや息苦しいほど暑い。後どれだけ、私達はこれを我慢しなければいけないのだろう？私はもうダメ、もう気力がない。あなたに書いてから、もう９日が過ぎた。時間は飛ぶように去っていく。もうすぐ４月！そして何も起きなかったら、私はもう何も信じない。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年4月14日

この日記を一度読み返してみた。数年前にもう、もう我慢できないなどと言っているのが馬鹿馬鹿しく思える。もし私がその時、それからどんなことが起こるのか知っていたら、どんなことになっていたか！[...]日記を頻繁に書けなくて残念だ、脚気の初期になり、出来るだけ休息しなければならなくなって、やっとまた書くことが出来る。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年6月半ば

[...]それでは私はまた新しいお話を作る、それはパパが“イェフケおいで、散歩に行こう、そして中華料理店に行くよ”と言うのだ。これが本当になることがあるかしら？もうほとんど想像することもできない。その時には全てをもっと楽しめると良いと思っている。そしたら私は、楽しく生活するためのあらゆるものにもっとお金を使うだろう。簡単にコーヒーや何かを作るために電気台所用品を買うだろう。毎週土曜日は特別の日にする。どこかにおいしいものを食べに行って素敵な場所に行く、子供達と一緒にもっと楽しみ、特にあなたと一緒に楽しむ。これはまた砂上の楼閣になるかしら？

エルレー
1944年6月25日

実のところ何もニュースは無いのですが、私は退屈していて、あなたと紙を通じて話しをするのは楽しいのです。昨夜は欧州の戦争が終わったという素晴らしいニュースがありました。私

達はこのような知らせにも、もう興奮しません。とても信じたいのですが、その勇気がないのです。もし、ここの門が開いて、私達がその知らせを公式に聞き、私達が自由になればその方がずっと重要でしょう。私達は食糧の増減だけにしか関心がないほど、鈍くなってしまったのです。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月5日

やれ、これも長く辛抱は出来ない。あなたはどう、パパちゃん。私は本当に強烈にあなたに会いたい。あなたをどんなにか甘やかしてしまうだろう！！あなたも私を甘やかす？？まだ何年も一緒に楽しく過ごしましょうね？私は女性であるもの全てに吐き気がする。おお、この暑さは殺人的だ。

エルレー
1944年7月20日

夜こうして座っていると、将来について考え込んでしまいます。快適な部屋と台所を空想し、そこで最高においしい料理を作ります。それは楽しい過ごし方で、時間も短く感じられます。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月21日

最愛のパパちゃん！私があなたと話したのが、もう１週間も前のことだなんて信じられないわ。時間は飛ぶように過ぎる！そして何というもったいない時間か。美しい３年間を捨て去った！！！［収容所内病院から］家に帰って６日目だ。最近はひどく‘ダウン’だ。あの入院騒ぎのせいに違いない。良い情報ばかりだが、どこにもそれが感じられない。

エルレー

1944年8月22日

またもや１週間、いいえ、１１日が、何も起こることなく過ぎていきました。つまらないものよ、特に欧州からの知らせがとても良くて、近々終わりがくるのを期待できるのに。最後の荷が最も重いという諺は本当です。そしてそれに、いつもまたこれが最後の荷かどうか疑ってしまうのです！！実際、これはまだ２週間でも、２ヶ月でも、２年でもかかり得るのです。

エルレー

1944年9月4日

私はまたレシピーを書き写していました。[...]退屈するといつも私はそのノートを広げてみます。私達は今や胃、肺、腸を食べるこことを学びました。味は結構良くて、素晴らしいブイヨンが取れます。オランダでも手に入るのか、高いかどうかは後になって調べてみましょう。あなた達もこんなものを食べ物としてもらっているのかしら。私達はお互いに多くのことを学べるでしょう、なぜならあなた達はまた他の可能性を発見しているでしょうから。今や私は、あなた達は蘭領インドに居たいだろうと思っています、ウィムには幹部養成校が待っていますし、でも私は出来るだけ早くオランダに帰りたいです。将来は一体どうなるでしょう？私は時に好奇心ではち切れそうになり、あらゆる計画を立て、将来のために全部の階や家を組立て、台所用品を買い入れ、それは時には１人用であり、時には５人用です。これから１年続くようなことはないでしょうから。

エルレー

1944年9月7日

私は今、レシピー書きがもうすぐ終わるところです。台所の内装などについてのあらゆるメモを書き入れました。私の家の内装用買い物リストもあります！これからまだ最初の買い物リストを作ります。こうして、私は将来の計画で自分自身をなだめています。もう丸二日これで楽しくつぶれ、それが目的でもあるのです。後になって、何が役に立つかは、その時に分かるでしょう。もしあなた達が一緒にオランダに行くことが出来るとすれば、私の想像力も小さなものです。そしたら私達は愉快に全てを一緒に決めることでしょう。買い物も、二人で行った方が楽しいわ！！私達の馴染みの古い店は、まだ同じ所にあるでしょうか、それとも存在するか

しら？私達が普通の生活に戻ったら見たい物が多すぎるでしょうね。実は私達の今の経験は、後になって‘孫達’に気分よく話して聞かせる強烈な冒険なのでしょうか。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年9月22日

数日前、プアサ［断食月］の終わりに、火災未遂があった。囲いの側の森が燃え、強い風が吹いていた。バラックの一つはもう避難し、午後一杯はそれにかかり切りで、それは夜になって幸い雨が降るまで続いた。何を避難させなければならないか、何が避難させられるのか。不安は続く。それでもいつか平和が来るだろう。そしたら私はまた自分の部屋を持ち、背を伸ばして何かできることをとてもありがたく思うだろう、この小屋ではいつも身をかがめて這い回らなければならないのだから。

エルレー
1944年9月23日

私は最初、紙不足のためにもうあまり沢山あなたに書かないようにするつもりだったのだけれど、今また６枚の紙をきれいに消して、また書き続けることが出来るようになりました。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月28日

また４日が過ぎた。おお、この生活の終わりをどんなに望んでいることか！！この生活を憎むわ。憎んでる！！

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年10月

もう長いこと書かなかった。人生はヴィム無しでそのまま続いている[90]。私は私の将来の計画を全て御破算にしなければならなかった。ムアラに帰ることはもちろんもう無い。私達３人のための家はもう無い。今や私は全く新しい将来像を設計し、それを夜ベッドの中で楽しんでいる・・・。ジャワに帰る。どこかに離れを借りて、私はまた学校で教える。ヤンチェはその頃になれば、きっともう学校に、例えば幼稚園か何かにいけるだろう。私の家族の所にもぐり込むのは止めよう。でも妹達と同じ街がいい。ヴィムの衣類で残った物は私の所に届けられた。夜は私は彼の青いパジャマの上着を着て寝ている。彼の財布も受け取り、そこには私がいつか彼に送ったヤネケの金髪の巻き毛がまだ入っていた。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月7日

ああそうだ、まだ話すことがある。自分のことを歳取って疲れ切っていると思っていた。そしたら、ここではみんなが私にお世辞を言って、きれいな髪、お人形のような顔（ハ、ハ）と言う。とにかく、それは私を気まぐれに、ホンのちょっと元気づける。あなたが私をこのまま受け入れてくれるように願っているわ。さようなら愛する人。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月31日

最新のニッポン新聞には欧州のことは何も書いてない。フォルモサ［台湾］の上に３ｘ１０００の飛行機。日本上空と周辺にも、人や機材をつぎ込んでいる。それについては、ここでは聞きも、感じもせず、憂鬱になる。みんなひどく‘ダウン’、抱いていたクリスマス幻想が消えてしまいそうだったりして。私は１９４４年末には平和が来ると思うし、そう願っているが、それでもそれは、私達がその時もうここを出ていることを意味はしない。無理だ。そして、こうして私達はよたよた進んでいき、貴重な時間が飛び去っていく。

[90] 彼女の夫、ヴィレム F.（ヴィム）ファン・アメイデン・ファン・ダウムは1944年５月17日にバンキナンの男性収容所で亡くなった。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年11月11日

メアとソニャは昨日、どんなに気持ち良くあなたと自転車を漕ぎ、ゲームをし、ありとあらゆる事をしたかをしたかを思いだし、私達３人とも、この期間は失われた時間だと言う意見だった。この収容所は何の慰めもない。月夜が少し美しさを見せているだけだ。[...]
私達は後になったらこの埋め合わせをする、もっといいことをする計画を立てている。今は将来に望みを繋いでいる。そして、まただが、もしお金があれば、もっと多くのことにお金を使うだろう。私達はあなたのために、おいしい物を作る。私達はあなたを甘やかせて、この年月の埋め合わせをする、だってあなたも昨日［結婚記念日？］は私達のこと、全てのことを長く、沢山考えてくれたでしょうから。あなた、本当にそうした？私の大事な人、もう止めるわ。後どれだけ、私はこのノートに書かなければならないの？フィリピン上陸。早く行きますように、そして何があろうとも、ただ、あなたが帰ってきますように！キスと愛をあなたに！

エンゲル-ブラウンス
1944年11月13日

もうあまり沢山お喋りできない。私の最後のノートがもうすぐ終わる。抑え付けるような暑さで頭痛がする。それ以外は、私達は大丈夫。J.H.と私は痩せ気味。何を食べても（今は砂糖！！）、私達はもっと骨っぽくなっていく。おお、私の尾骨！！座ることが出来ない。仕方がない、そんな人は大勢いるのだ、私達が健康でさえあれば！！ただ、J.H.の大きな飢えた目が悲惨な感じだ。ハンクはオランダの繁栄を体現し続けている！

エンゲル-ブラウンス
1944年11月17日

最愛のパパちゃん。おお、私は本当に不幸を感じていて、本当に悲しいわ、パパ。今朝は、どろどろの皿を落とし、それからコーヒーをちょっと暖めようとして、鍋ごと火の中に転んだ。足を火傷しただけ。仕方がない！ただ、ウーシェ・ダフィースの火が消えかけて、それをまた起こすのに必死で吹き付けなければならなかった。身体が硬直したが、点けるだろうと思った。あの女達は私が転んだとき、悲鳴を上げ、ウースは火のことで喚き立てた。カルラ・マセット[-ブーカース]は、私が彼女の体温計を１日長く借りすぎたというので怒っていた。どこにも料理をするテンパト［場所］が無い。ところで、私達は３人ともまた調子を崩している。ハン

クは腹の痙攣（あのどろどろのせい？）、J.H.は８回目のマラリア。彼の熱は３８度だけだったので、またインフルエンザかと思った。看護婦が彼を医者に連れていき、そして・・・腫れあがった脾臓。彼はキニーネ錠剤を持って帰ってきた。私はと言えばアニーと一緒に午前１－３時までした防火番の後、身体中が寒かかった。一昨日、嵐の日に、夜、料理をした。完璧にまた悪くなった。熱が出て、子供達と一緒にベッドに入った。気分の悪い夜、翌朝それでも洗いにいった、気晴らしだと思った！失敗。吐き戻し、その日はベッドで過ごす。割れるような頭痛！！昨夜はまたずっと良くなった。私達はニコリンのところに行き・・・彼女が私達をまた［料理の面で］助けてくれる。ありがたい。騒動で、劣等感に悩まされていた。どんな小さな事にも耐えられない。

エルレー

1944年11月17日

私のレシピーはどんどん完璧な物になっていきます。後になっても今私が考えているほどの料理熱があったなら、私の所にお客に来ていいわよ。そしたら、料理は、ガスで調理する理想的な楽しみだわ。煙と湿った木、汚い床、床の上での作業などを考えてみて下さい。震えるほど嫌だ。あなたはどうしてる？私達は互いに話すことがどれだけ多いことでしょう。そしてまた、あなた達はまだ健康で、生きているの？これについても私は時には考えます。でも、悲しい情況を考えたくはありません。ウィムとピムが生き延びることが出来たなら、あなた達もみんな、パウルと私のように、この難しい時期を生き抜く健康と強さを持っているのです。

エンゲル-ブラウンス

1944年11月25日

私は夜に愛着を持ち、毎日の始まりには本当に気が重い！おお、一体何時解放されるの？？毎日あくせくし、そこら中で争いに次ぐ争い！

エルレー

1944年12月26日

クリスマスの祝いが終わり、そしてそれは華々しい物でした。[...]収容所の雰囲気は驚くほど高揚しました。みんなそのために何かをし、みんなが生き生きした表情で、祝いにふさわしい

表情で互いに挨拶します。このようなことは初めてです。そして話しをするときにはいつも、私達もここをもうすぐ出ていくことです！！！

エンゲル-ブラウンス
1945年1月5日

この間にも、私はもう千回も素晴らしい新年を祈り、私達が出来るだけ早くまた互いのことを考え、触れ合うことが出来ることを願っている！！これっていい響きでしょ？おお、愛しい人、私は本当にあなたが恋しい。ここの生活には本当に疲れて嫌になっている。家庭での心地よい落ち着き、充分な食事など。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年1月25日

正月に何か書きたかった。そうは出来なかった。仕事でとても忙しく、余った時間は子供達と一緒に過ごさないわけには行かなかった。今、一月後には、全てが前のようになった。この収容所の団体生活が毎日毎晩常に提供するあらゆる困難があるにしても、全ては普通に進んで行く。

エンゲル-ブラウンス
1945年3月1日

私の最愛のパパちゃん！！おお、私達が一緒だったらいいのに。私はあなたと一緒に気持ちよく抱き合ってベッドにいる瞬間をどんどん理想化している。もう何も心配しなくていい。何ていい気持ち。

エンゲル-ブラウンス
1945年3月18日

地獄のような騒音、丸一日中、慣れることなど出来ない。家で、家で、あるいは４人で静かなところに。おお、私はあなたが本当に恋しい。あなたも私が恋しい？ヤン・ヘインはまたものすごいパパ！熱だ。ハンクはそれがいつものこと。

エルレー
1945年3月25日

パウルが居なくてとても寂しいです。他の人とパウルみたいな関係を持つ、それは出来ないことです。だからそこらの全ての人との表面的なお喋りに終わってしまいます。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年4月8日

私は神経過敏だ。この群衆との争いに耐えられない、３年経った今でもそれは私の神経に障るのだと思う。とにかく、自分でもはっきりは分からない。沢山ここに書いて、全てを説明し、絵を描きたい。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年4月末

神よ、平和を与え給え！あなた達と住む小さな家、あまり暑くない家をどれだけ切望していることか。少し涼しい気候の中で、あなたが、そして私や子供達も、もっと日曜日を楽しめることを本当に願ってる。そうしたら私達は一緒に朝食を食べたい、楽しく。そして私に電気調理器があったら、先ず何かおいしい物を暖めて、卵を、昔みたいにではなくて、例えばトマトと一緒に焼いたり、それとオムレツにしたりしたい。今は土から穫れる物を本当に価値ある物と思う、そして２人の可愛い娘達とあなたに生き写しの小さな良い息子。あなたのために、ずっと沢山のおいしいものを作る、あるいは作らせる、小さなサラダとか。夜も一緒に楽しく過ごせるだろう。そしたら一緒にどこかに出かけることもできる。私はもう、あまり細かく計算し

たくない。私達がもうあまり若くないとしても、まだお互いに充分に楽しめる、もう追い立てられることもなく、私はこの暑さに疲れることもなく。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月11日

またもや１週間が過ぎ、私達はまたOKで、１年歳をとった！！私は２日間ベッドで露営した。６日から７日にかけての夜、そして７日は本当に具合が悪かった。吐き戻し、下痢、おお、どうしていいのか分からなかった。塩一粒の話さえ聞いていられなかった。全てはまた出てきた。スダー・ラ［ああ、どうしようもない］、そしてまた終わった。５日に油っぽい物を食べ過ぎたのか？おお、そして夜にWCに行かなくてはならず、雨で、嵐で、木靴が泥に埋まって動かず、真っ暗で目の前の手も見えない。そしたらどんなに不幸に感じることか。私は本当に全てに疲れている。どんなことにも気力もやる気もない。お願い、終わりよ早く来て。

エルレー
1945年7月17日

私の料理の本は、徐々に完成してきていて、後にとても役に立つことでしょう。私の所に一度食べにいらっしゃい！！特にインドネシア料理は私のお得意です。一度でも血を食べたことがありますか？さあ、私は今や、ほとんど経費を掛けずに素晴らしく健康的な、おいしいパンのおかずを作ることが出来ます。私達はここでとても多くのことを学びました。あなたが他のことを発見しているといいのですが、そしたら私達は互いに学びあうことが出来ます。

エルレー
1945年7月27日

私達は全員、死の淵に生きています。壊血病まであって、これが全て、こんなに果物や野菜の豊富な、そんなことは考えられもしない国にあってのことなのです。ヤップはそれをただ、私達に渡そうとせず、それはもう犯罪です。戦争が終わったら、きっと思い知らせてやるべきです。彼はそれぞれの地区は、自給しなければならないというシステムでやっています、それは彼には運搬の面倒が無くて良いでしょうが、そのためにある地区では全く物が無く、他の地区では余ってしまうのです。そして私達がその犠牲者なのです。

# 互いの関係と性意識

エンゲル-ブラウンス
1943年12月22日

あの７人用に料理するのはベラット［重荷］過ぎる。私はまた別にしたい。私には娘一人しか居ないから。リー［ルセラー］にｆ５０借りて、別のテンパト［（寝る）場所］を探そう。[...]私達はみんなイライラしている。[...]最初に別のテンパトを探し、その後で何とかしよう。キットとリットは気に入らない。もう何もしない。嫌だ、私は一人でやりたい。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月3日

２７日の午前中は、引っ越しが出来るまで、また１１時まで荷物の中で待っていた。[H.C.A.]ホレ[-ファン・エルプ]夫人がトランクを取りに来て、私達はその後に続いた。彼女はここにドサッと置き、それはどうやら間違えたテンパト［（寝る）場所］だったようで、そこに［C.]カプタイン夫人が来て私の荷物をまた廊下に放り出した。それでは他の人の邪魔になるし、ルセラーは私を追い出したかった。泣きべそをかきそうだった！！！［F.M.］ステウプ[-リハム]夫人、私達の全体ブロックリーダーは病院で仕事していた。私は１人用の場所をもらい、私の隣人（グレイス・ファン・デル・ポル）は、出ていかなければならないのに出ていかなかった。ホレはステウプを探しにいった。全ては何時間もかかった。カプタイン夫人は私に謝ったが、私には今でもあばずれ女だ。やっとホレ、[T.E.L.]ハネドゥース[-ハルフヒデ]とステウプが来てファン・デル・ポルの荷物を調べ、移動した。[...]

妙なことにルセラー達にはもう全然惹かれない。私達は、夜にあちこちをマンピーレン［訪問］する。[...]ネル・ファン・ダイクは来るときがよくあって、ちょうどコヒーの時に来たところ。１月１日に来て、コーヒーとココナッツミルクをもらった。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月8日

日曜日に寝坊してから、リー・ポスト[-グスタフソン]の所へ。ココナッツミルク入りコヒーと粥（！）を食べた。リーはこの頃よく訪ねてくる。ここは居心地がよいと言う。私は彼女の所

には全然行かない、あの子供達が居るからだ。さらにここには大勢のマラリア患者が居る。今日は凍るように寒く、騒がしくて寝られなかった。いつもぐずぐず泣く子供達が２人いる。忌々しい。そんな母親が理解できるかしら（インドネシア系）。おお、あのインドネシア系のがらくた、見たくもない。私は全てに辟易していて、近々、なるべく早くここから出たい。あなたは？

エンゲル-ブラウンス
1944年2月13日

この田舎生活は殺人的だ。自分のことでも嫌になっているのに、周りはあの汚い現地人達。動物の繁殖場だ。３人の年寄りのおばあちゃん達（７６、７８と７９）は、おしっこもうんこも身体を洗うのも食事も、みんな２平米の中でする。そして小さな子供達も同様！ナイラントの所ではこの間も、彼らの木の籠の下には南京虫の巣全体が有るのに、籠は一度も動かしもしないのだ！！おお、パパちゃん、何という生活だろう。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月10日

幹部達は居なくなった。今や戦争捕虜の夫人達も幹部会に入ろうとしていて([F.]ファーンドラハー[-エブス])、私達がひどくないがしろにされているからだ。他の人達は男性収容所からいつもサッカ［砂糖］、カチャン・イジュー［小さな緑の豆］、金銭などをもらう。私達には何も無い。昨日の夜、私はフレート・カウパー[-バッカー]の所に座っていた。彼女と彼女の夫は全てに対して私達同様に気を揉んでいる。彼女はだから夫が居なくなってとても喜んでいた。家族で収容、聞くのも嫌だ！！！あなたには全然向かない。彼女は一銭もなく、ひどく痩せている。収容所金庫が空なので全く追加がもらえない（A券無し）。B券＝買わなければ行けない！周りに夫はチダ・アダ［居ない］。息子を失ったところ。とにかく、ここは健康的情況にはほど遠い。滅茶苦茶だ。若者＋娘事件。今もう、ゴム製品の売り買い（家族収容のため）など。私達はきちんと隔てられたテンパチェ［（寝る）場所］で何と嬉しいことか。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月17日

ヤップの警備が来ると言われている事実にも係わらず、またもやどこもかしこも闇取引をしている！！カッシアン［可哀相］な貧乏人達！！大変な混乱状況をきたしている。物干し場からハンケチを盗んで囲いの向こうにｆ６からｆ７で売る。ピム・ホレでさえやっている！私の鍋の蓋とバターの缶が無くなった、ソデット［ひしゃく］、小型ナイフ、ハンケチ等もだ。恥知らずだ。みんながカラスの取り合いみたいにお互いから盗っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月14日

英国人看護婦達はストライキ、医師[J.J.エイントホーフェン]は彼らに気を使わなさすぎる。そしてオランダ人看護婦（それはフチャムプールト［混ざっている］）は食事をもらえない（自分の家でできる！）、イギリス人たちは肉や卵をもらえるのに（私達はそれさえもない）。オランダ人達もストライキをしたがっている。結構なことだ事！[M.J.]ライオン医師にして欲しいわよ。[91]

エンゲル-ブラウンス
1944年4月22日

私達のために２日に１度、クラールチェ［オーレンロト］が洗濯をしてくれている。月曜日には私はまた自分で始める。始めはファン・ウィールが３日間私達のために料理をしていた。お喋りのうるさい女で、私がきちんと全てを揃えて持っていっても、世話が焼けると言って私をののしる。ナイラントも彼女はののしるが、ナイラントはののしり返す。私にはそれは出来ない。ファン・ウィールはそういう意味で言っているのではないのかもしれないが、全てを抱え込み過ぎてひどく機嫌が悪い。しかし、彼女は横柄なあばずれだ。私は本当に質素に食べていたのに、彼女はほとんど人の言うことを聞かず、全て別のやり方までする、私は温かいお湯ももらえないのに。３日目にカプタイン夫人がティネ・レムストを紹介してくれた。ファン・ウィールは私を投げだし、どうなっているのか、聞きにさえ来なかった（ナイラントの所にも聞きに来たそうだ、でもね、彼女は卵や魚やバナナなど、出す物が沢山ある、彼女のために料理

[91] 序文参照。

するのはずっと楽しい、私は何も持っていない、玉葱などさえ無い）。今や私には大変優しい手伝いが居る。彼女は“他にはありませんか？”と聞く。全く違う響きだ。！！

エンゲル-ブラウンス
1944年4月23日

私達は今日の午後、楽しく小さな書類用トランクから品物を出していた。私がハンクに保険について説明しているとそこにリー・ポストがまたやってきた。昨日は３人の子供達を連れて、そして今度は娘達と。[...]おお、リーとはちょっと楽しくお喋りが出来る（ハルム抜きで、まだ覚えてる？）。私達は互いに助言が欲しいような、例えば財務問題などについて、様々なことを話した。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月30日

昨日遅く風呂場に（夜中の１２時半）３人の若い女が洗面台の上に横になり、互いに重なって警官に何かささやいていた。おお嫌だ！！

エンゲル-ブラウンス
1944年5月15日

一人は吐き気がするような警官との関係で悪名高い。一日中めかし込んで、爪にマニュキアをし、顔を塗って収容所を歩きまわる。[...]みんながトトク闇取引人のことを恥だと言っている。闇取引は不可欠だ、無かったら私達は死んでしまう。今、この時期は[M.]エラントが警官に数枚のｆ１０００を約束して、小さな闇取引人を押さえ込むために取引停止させているのだと思う。みんなが闇取引をしようとしている。[...]

私は夜イェット・テーンスマと、私達の隣でツングール［コンロ］の前に座ってバナナの花を料理し（私達がもらえる中の、少なくともこれは野菜だ！！）＋コーヒーを作っていた。楽しくお喋りした。昨日の夜はカルラ［マセット・ブーカース］とリー・デン・ホント[-ロライヌン]が私の所でコーヒーを飲んだ。外で、借りたベンチに座って。彼らのコンシー［互助グループ］も解散した。カルラは［E.S.］バイフット[-

フォキン・ドゥ・グラーヴ]とホレだ。リットは[H.C.]ファン・ムールケルクン[-フーハン]の所で寄食している。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月29日

みんな大エゴイストだ。おお、パパ、この間、ナイラントはババト（＝牛の胃、雑役でもらう）をルセラーから卵８個で譲り受けた。リート・ファン・ウィースが料理して、最高のクリオ[92]とケチムン［キュウリ］などを食べた。ちょうど子供達は具合が悪く、バナナしか食べられなかった。私は収容所から汚い小さなバナナを５セントで買うことが出来、半分ずつ分け与えた。ナイラントは皿にたっぷり２杯食べ終わり、いかにも大きな未成熟バナナを食べながら、私達と立ち話をしていた。私は泣きたくなった。彼らには思いやりなど全くないのだ。嫌になる！[...]

カジュー・アローの男達は一度たりとも私達に何かを送ってきたことがない。一度も。これは傷付くわよ！他の人達はいつも週に１度は何かをもらう、例えばカチャン［ピーナッツ］とか、テンテン［ピーナッツクッキー］などを。カルラは太って、夫に対する文句ばかり言っている！絶望的だ。私は一度でもあなたからの手紙を受け取ってみたい。嬉しくて飛び上がってしまうだろう。

エルレー
1944年6月１日

‘私達の’子供達は、今やとても助けになります。ドレとツルースはやっと１１歳になり、タイスは数週間後に１２になります。ドレが最も勤勉です。彼は私達の薪を全部割り、他の人の分も割ってお金を稼いでいます。タイスは皿洗いをし、薪割もします。ツルースは洗濯の手伝いをし、ベッドを整えたりしています。

[92] 脚注29参照。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月6日

今や憎しみと妬みと全ての理不尽さが収容所内にある。例えば、ヤップから、幹部達は何回も追加物資を、例えばパイナップルなどをもらっている。ブロックリーダーも同様だ。ベウケンカンプは病院で働いているので、追加の米、野菜などを彼女の子供達と、それにスホーフ夫人の分までも、もらえる。彼女は週４日しか、そこで仕事はしておらず、料理は他の人がしてやっているのに！！その反対に、小さな子供達を持った母親達はひどい飢えに苦しんでいる。子供の分はどんどん減らされる。J.H.は、１日に小さな忌々しいカップ１杯のベラス［脱穀米］をもらう。私達は、それより少し多い。私はこの間イェティーにベラス１カップをあげることが出来た。彼女は食糧が何も無く、闇取引人達も何も持っていなかった。彼女はその時、私にｆ１払うと言って聞かなかった（返すことは、彼女には絶対出来ない）。ロトマン＋パンキーは、夜、食べ物がなかった。彼らは朝食もなく（どろどろがない！）、１２時にある物全て食べてしまった。この全体が、可哀相でしょ。そして、それでも多くの人達はあの澱粉のせいで膨らんだように太っている。[...]エラントはナイラントをまた邪魔している。エラントは闇商品を入れることが出来なくて、それはロースが警官を焚き付けているからだと言っている。エラントは男性収容所との手紙を扱っていて、ナイラントには突然手紙が来なくなった。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年6月半ば

また日曜の朝だ。娘達が料理をし、仕事をする。彼女たちはしっかりしている、そのために時には、私が仕事をする必要がないと言って、他の人達の不興を買う。[...]洗濯も娘達は自分でする。[...]さて、私がまだ石鹸を持っているので、それが時にはまた、抑えて言えばがめついと言えるような反応を引き起こす。こうして、私はまあ、自分の人生を生きていく。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月19日

嫌な思いをみんな吐き出してしまおう。ちゃんと分かってね、嫉妬じゃないのよパパ、そうじゃなくて子供達の事を心配している・・・そのためなのよ。最近では闇取引き人達が畑で激しく仕事をしていて、彼らはカンブット［編んだ籠］いっぱいの砂糖、ピパ［砂糖棒］、バナナ、ナシ・ラメス［ご飯料理］、焼きバナナなどを持って帰ってくる、仕事の後にいわゆる泳ぎ

ができたから、と言って！！ノール、ロース・アーレント、フレーチェ・ドゥ・クルースでさえ、陰謀に加担している。ステウプはそれに取り込まれて、そのために砂糖やピパをもらっている（ラウターなどから、全員大嫌いだと言っていたくせに、吐き気がする！！）おお嫌だ！私にとってはベラト［あんまり］になったところだった。ナイラントは何でも持って帰ってくる。母親は自分の番を待てず、ｆ１．５０のご飯料理一包み、直ぐにがつがつ食べてしまった。ヘンキーはバナナ（軟らかく、腐りかけていた）を捨てようとし、ハンキーはそれを受けとめて、それを２人でおいしそうに食べてしまった。ひどいでしょ？！！私は彼らにそれを止めさせたかったが、できなかった。あの全てのおいしい物、肉団子、玉葱、卵などがそこら中に有って、彼らは見ているだけなのだ！！！

ハンクは何も言わないけれど、J.H.に取っては時にベラトになる。カッシアン［残念］彼らは本当にお腹を空かせている。私も同じで、彼らに沢山の物をゆずっている。[...]その時男性収容所からの小包が届いた。パンキー・ロトマンは可愛い小鍋を、カプタイン夫人はココヤシの殻のティーポット等をもらった。J.H.は私の膝に乗り、“おお、ママちゃん、僕たちは一体いつになったら何かもらえるの！”と言った。ママの涙がそれに続いた。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月28日

その間にも、窃盗陰謀があった。[A.]アウルマン[-ヘーネン]夫人がｆ２０００分の宝石を、[F.]マイドマン[-シーム・ヨング・ニオ]がｆ６００分の銀貨を、ピン・スハープ[-スニュウローブン]が、ブレスレットを売って得た、彼女の最後のお金ｆ１３５を失った。全てはもちろん村に持って行かれ、追跡することもできない。悪者はどこ？そして、あなたも分かるでしょ、この傾向は広まりつつある！！

エンゲル-ブラウンス
1944年6月30日

何が私をそんなに傷つけるか分かる、パパ、それは：あなたの仕事仲間の誰一人として私達のことを一度たりとも考えようとしないこと。小さなベンチでもスプーン１本でも良いのに。いいや、リー［ポスト］などによれば、食物は手に入れることはできないということだが、それでも彼女の子供達やルセラーの子供達からはしょっちゅう“砂糖、粉、豆、テンテン［ピーナッツクッキー］をもらった”などと聞かされている。私は何も言わないけれど、覚えているのよ！！！これは本当に傷付くわ、パパ。J.H.の小さな斧でさえ直してもらえない、なぜなら・

・・そしてたっぷりの言い訳、資材がない、とか何とか。でもハンシェは充分にもらっている・・・。いや、するとアニー・ロトマン[-フックストラ]が、彼女は私の友人という訳ではないが、彼女の最後の数ギルダーでまだコーヒーをくれたりするのだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月7日

そしてブロックＣで第４回目の盗難があった、ブルーナ[-オリー]夫人のｆ４００だ。[...]これはこうなると腕の良い窃盗団で、まだ何も見つかっていない。私達全員の家宅捜索があった。おかしくてお腹が痛くなるほどだ（素人のやり方）。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月13日

私はこれ以外にはあまり人に会わない。他の人達のために料理をして、やはり苦労しているディッキー・テーンスマ[-ゼーハース・ドゥ・ベイ]と時々会う。彼女は好きだ。我々のカジュー・アロー仲間とはほとんど会わない。

エルレー
1944年8月11日

収容所の波乱。私達は収容生活をオランダ人の軍医と共に始めたのですが、ヤップたちが彼らを連れ去った後、シンガポールから逃れてきたイギリス人医師ライオンと、彼女のスタッフ、イギリス人看護婦達がその代わりに入りました。支配欲の強い、気難しい小人で、いつも貴婦人風とは言えません。私達は彼女を２年間、ほとんど我慢しました。争いになると、彼女はいつも辞めると言って脅しました。このバンキナンでは遂に爆発し、彼女は彼女のスタッフとともに辞めました。[93]全くのストライキで、きっと大きな影響を及ぼすことでしょう。彼女からは一度も働くことを許されなかった私達のオランダ人看護婦達が、その時代わりに入り、ヤップがコック要塞の刑務所から[J. J.]エイントホーフェン教授とフィスハー看護婦を手品のように連れ出して来ました。そして、この方がずっと良いのです。今や私達は医師と話しをすることができ、彼女も私達の話を聞く時間を作り、それは前には決してなかったことなのです。エ

[93] これは1944年2月に起こった事。

イントホーフェン教授は何年も蘭領東インドで仕事をしていて、東インドの病気や薬のことも分かっています。今は前よりもずっと良くなりました。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月31日

この間にも、人々は互いに激しく物を盗りあっている。残念ながら私自身の赤ちゃん用スプーンも失くなった。さらに、彼らは私の最後の玉葱数個（＋皮）＋釘袋、乾拭き雑巾、それに緑の小マグカップも盗っていった。ひどい荒れよう！！とにかく、これ以上何も気にしないようにしよう。そんなことをしても何にもならない。私達はこれまでにも沢山の物を失ってきているのだ。ただ、ここでの持ち物は本当に少なく、何が無くても困るのだ。だから、今はもう玉葱１個も無く、少ししたら胡椒なども無くなるだろう。食事にどうやって味付けしたらよいのか！！病院のロットは毎日粥や御飯を私達に分けてくれる。それはこんな風にするのだ。午後６時にハンクが私達の最も大きい皿（鍋）を持ってロット先生のところに行き、その水を後ろに置いてもよいかと聞く（火の後ろの方に）。実際にはその皿は空で、ロットは時期を見計らってそれにどろどろ米粥か、御飯を入れる。時には皿いっぱいに、また時には少なめに。いっぱいの御飯を見た時の私達の顔ったら！！その周りでダンスしてしまう！！だってこの素晴らしい贈り物がなかったら、私達は朝食を摂ることもできないのだ。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年9月22日

私は［赤十字］カードの隅にジェフケの顔を描かせようとした、このような長い不在の後、あなたに息子を見せて喜ばせようと思ったのだ。しかしここの婦人方がまたそれに反対した。皮肉に苦々しく、私は時に“私達はニッポンだけに捕らえられているわけではない。”と言う。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月30日

ここ［収容所内病院］でこの他に私を訪れる人といったらクノッツ［クノッテンベルツ］とアニー・ロトマンだけだ。メタも食糧不足で痩せた。カッシアン［可哀相に］。彼らはとても優しい。そしてアニーはいつも私にパンケーキを持ってくる。自分がどんなにお腹が空いていて

も。私は彼女に持ってくるなと言い、ハンキーにもだ、今は、２日前から私は充分にもらっているから尚更だ。しかし、今日はまた‘ロントン［（バナナの皮で包み）蒸した米］の日’だ（今では２日に一度：米のロントン！）。ぞっとする。ブイヨンはもう全く出ない。ヘティーは確かに見たこともないほどの利己主義者だ。あれほどの追加物資がありながら私達に何かくれたことは一度としてない（例えば、たまには魚粉、セルンデン［炒めたココナッツ粒］などを）。それでも彼女は私の貧しい辛味料理を一緒に食べるのだ！！ハンクは粉クッキーも彼女にあげようとした。それは止めさせた。あの利己主義者達なんかどうにでもなれだ。いいや、それならアニー・Lの方が良い、私の好みではないけれど。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月6日

今はとても厳しい病院規則があり、看護婦の中にはそれを適用するのを楽しんでいる人達が居る、例えば[A.T.]サービスと[W.]クラーイエンブリンク[-ラムスター]だ。全ての訪問者を追い返し、私達の子供達がちょっと外の塀の前に立っていると、動物のように追い払う。そして楽しんでいる！！！私達は静かにしていなければならない、午後９時以降も。私は夜１時まで起きている。サービスはミス[V.]スペディングに対して、“あら、あなたもこの規則は知ってるわね、今やっとオランダ人達は導入したけれど、私達のライオン医師の時はもうとっくにこうだったのよ！！”と言った。ひどく憎々しげに！！おお、人々は互いにひどく傷つけあっている。だから私はこんなに家に帰りたい。家では一度もこんな事に悩まされなかった、つまりこの全てのお喋り！！私には耐えられない。食べられるだけ食べている。あなたも一度見てちょうだい！！さようなら愛しい人、また家でね！！

エンゲル-ブラウンス
1944年10月15日

この間リー・ポストにアングロ［コンロ］を借りようとしたら、彼女は３つ持っているのだが、“そうね、一つは人に貸してあって、もう一つは？？？で３つ目は新品のまま家に持って帰りたいの。”と言った。つまり、ロットは自分の手で暖めて料理するわけだ。私のアングロは盗まれた（私が病院にいる間に）。あなたの昔からの隣人は役に立つこと！！私はお腹が煮えくり返りそうだった。私達の仕事仲間からは決して、決して何もしてもらえない！嫌だ、みんな滅茶苦茶だ。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月20日

私の料理は短期間で終わった。私の脚は直ぐまた腫れてきて、それでもこれはサゴ粉中毒かも知れない（その中にはパンヤなども入っている）。多くの人達は足が腫れている。それは痛んで熱を持つ。ニコリンはアーレントの子供達が居なくなったら私のために料理してくれる用意はあり、それは、１，２週間後くらいで、私は緊急援助を頼もうと思った。そしたら今やまたクラールチェが来て、最後まで私のために料理するという。どうなるか見てみよう。イェット・ファン・ベールサム、私達の髪をしょっちゅうチェックしてくれる人は只で私のために料理してくれると言う。つまり、援助は充分にある。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月31日

そして今度はあの分厚い脂ぎった我らが知事の手紙で、その中で彼は私達のホレ（HB［幹部会］の中で最もいい人）を罵倒している。彼は食物配分を変えるようにと書いている。子供達はもっとあれやこれやもらい、私達は少なくなる。彼はヤップから、私達の収容所の監督もするという、いわゆる権限をもらったのだ。ふん、彼らは私達戦争捕虜夫人のために、結構沢山のことをしてくれましたよ、全く何も無し。そしてあの男性収容所のひどい情況を一度は終わらせてみて欲しいわ！！おお、おお、あのBB［内務省］ときたら！！！みんなグルになっている。私が望む唯一のことは、戦争が終わったらみんなごちゃ混ぜになることだ。あの嫌な男と‘一緒に’あるいは‘その下で’には、決してもう居たくない。仕方がない、先ずは私のパパちゃんを私達の元に取り戻さなければ。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年11月9日

おお神よ、私はここの全ての‘トラブル’を書き留めることはできない。私は他の人達の不正や不正直をひどいことだと思った。私の身体が丈夫だったら、一度や二度は追求していっただろう。私はここでは４人分の衝撃を受けとめなければならない。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月14日

情況はどんどん息苦しくなる。盗難につぐ盗難！ここでは砂糖が、そこでは米が、あそこでは服が。エラントのところでは現金と宝石が幾らか入った数個のバックが。空のバックがどこかで発見された。はっきりどうだったのかはまだ分からない。エリー・ケルナー[-イェプセン]も愛する男のお金を失った。汚れ物を入れた洗濯桶の中身がみな盗られた。実にひどい、恐いようだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月7日

ニコリンはお金を受け取らない。彼女には靴か何かをあげよう。彼女が私達のためにしばらくは料理し続けてくれることを願おう。彼女はアーレンの子供達をもう無くした。彼女は料理がとてもうまいの、分かる！そうでなかったら何か他の方法を自分で見つけなければならない。昼食にすでに茶色豆の煮物＋ペディス-トラシ［辛味の魚、あるいはえびの抽出物］をニコリンからもらった。彼女は私達の昼食があまりに簡素（米+プランチェスブラーレン［カッサバの葉］＋粉の煮たもの）だという。彼女は本当に優しい。他には誰も心配してくれる人が居ないから、それが本当に嬉しいのだ。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年1月25日

何時になったらまた‘自分たちの屋根’の下に住めるのか。３年間、ずっと睡眠不足。腐り子供達（収容所言葉）が背後にいる。４歳を越えた男の子が、夜の１１時半に花瓶［おまる］に座りたがらない。泣き、足を踏みならし、脅し、そして少し静かになる。暫くするとベッドかチカル［竹マット］を濡らし、これが毎晩のことだ。朝、まだ暗いうちにまたもっと幼い弟がめそめそする。おお嫌だ！何という暮らしだろう。私の隣にはインドネシア系が朝早くから鍋や器をガタガタさせる。何と無教養な人達の間にいることか。時には私が自分らしい生活をしようと努力し、そしてまだ私が経済的に独立していて重労働をする必要が無く、そしてまた私には２人のしっかりした娘達がいるというので、この全てがある種の人達の嫉妬心を呼び、私達をそして子供達を侮辱しようとする。私達がかけ離れているから、これは他の人達と比べると確かにそうなのだが、だから私はそれらを気にしない。それでも、すると人々はあなたにか

こつけて私を侮辱しようとする。このような事に、ここでは耐えなければならないのだ。[J.H.M.]ブログ［大佐補］が当時あなたをパダンに移動させたことも、ここでは話の種になっている。[94]そこから彼らが、あなたは人間として、そして軍人として傷つけることなどできないのだと遂には理解することを願っている。私は彼らにその様に答えておいた。

[94] 序文参照。

# 収容所外との接触

## 収容所報告書

この面では日本人達は非常に配慮に欠け、全ての国際法を踏みにじった。[...]

全ての機会を捉えて、口頭でも書面でも、書式を要請した。幹部会は繰り返し要求を続けた。やっと1944年にバンキナンで、10歳以上の人全員に、英語またはマレー語でスマトラの外に住んでいる人に書く書式が配給された。最大50語であった。その少し後になってやっと、同じようなやり方でスマトラ内に居住している人達に手紙を送ることが許された。しかし、受取人は紙不足のために返事を書くことはできないであろうという通達があった。かなり後になって、２回目の、外国あるいは国内通信用の書式が配られた。男性収容所との書面のやりとりが許可されたのはこの時だけだった。

女性の知恵と、オランダ人に協力的であり続けた何人かの警官の助けにより、収容中のほとんど全期間において、男性収容所との頻繁な手紙交換が可能となっていた。[...]
バンキナン収容所から警官警備が無くなってからは、頻繁な秘密郵便のやりとりは無くなった。数回だけ、スカリラ［兵補］の誰かが、手紙を秘密で持ち込むことができた。しかしこの人物は収容所の郵便送達を託すだけの充分な信用はおけない、と判断された。これが、いわゆるジャイロサービスを停止する理由でもあった。このサービスは帳簿上で、収容所間の金銭出納を可能にする物だった。ニッポンが仲介する公式な現金輸送は、1945年に初めて、そしてたった２回許可されたのみだった。

ニッポンの最も恐れたのは被収容者たちとインドネシア人達との接触だった。後者に対しては、ブランダ［オランダ人］は彼らの敵である、と教え込んだ。インドネシアの若者達は西洋人の搾取の話しで毒されていた。彼らは連合軍を揶揄する歌を習い、インドネシア・メルデカ［自由インドネシア］の像を賛美した。それにも係わらず、日本占領下の民衆は貧困さを増していった。彼らはあらゆる機会を捉えて被収容者達と取引をしたがっていた。こうして、闇取引が成立した。これは通常は警官が仲介して行われたが、直接の取引が行われることもあった。衣類、黄金や宝飾品が食糧と交換されたり、高い値段で売られたりした。可能な限りの方法で、ニッポンは闇取引を阻止しようとした。おそらくは、彼らの支配に対する陰謀が企てられるのを恐れてもいたのであろう。さらに、闇取引は彼らの、被収容者を長時間掛けて飢えさせるという最初からの計画にそぐわない物であった。なぜなら、ニッポンへの、資材を自分たちで買いたいという、あるいは食糧を購入するという再三の申し入れは決して受け入れられなかったのであるから。兵隊だけが内緒で買い入れたが、それは彼らに興味のある品物だけ

であった。闇取引が発覚すると、関係したインドネシア人は暴行を受けたが、それでもこれを止めさせることはできなかった。

## 日記抜粋

エンゲル-ブラウンス
1943年12月26日

私は泣きそうだった。しかしその時・・・あなたの５月１８日付の２番目の葉書が来た。それはずいぶん前の物だったが、それでもあなたの署名をまた見られて嬉しかった。つまり、ウィムはまだあなたと一緒にいるのね。私はコビー［リトマン-ファン・ウェール］とは全然付き合わない。あなたの生きている印にとても喜んだ、もちろんそれは多くを語らないけれど。子供達もあなたの挨拶を受けてとても幸せだ。これはブーイの時と同じ郵便だ。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月3日

あなたはどのように新年を迎えたの？病気じゃない？もう自由になった？闘っているの、それとも捕らえられているの？私達はここでは本当に嫌になるくらい何も、何も知らない。多分あなた達も同じだろう。私達はここではそれでもまだ男達との連絡があり、盛んに闇取引が行われて警官との接触などもある。ちょうど今日、三回目の手紙が来た。男達はまたもやひどく楽観的だったに違いない。ドイツに対して最後通牒を出し、その結果としてクリスマス（２３日と２４日）にベルリンをじゅうたん爆撃した、などと言うのを聞いた。何も残っていないらしい。さらに、ペーター［ユーゴスラビア王？］がまたユーゴスラビア入りしたなど。これは本当なの？ドイツは手強いわよ！おお恐い。そして日本の前の、日本攻撃の布石となる島が、突然アメリカに占領されたという話し。おお、神よ、この野獣のような生活に終わりは決してこないの？

エンゲル-ブラウンス
1944年1月8日

馬鹿みたいに闇取引が盛んだ。鴨の卵１個５０セント、カチャン・イジュー［小さな緑の豆］１カップｆ０．９５，ベラス［脱穀米］１カップｆ１。恥知らず！現地人側からは闇取引人の所に闇金銭が流れ込んでいる（前には決して収容所に何も払わなかった人達、例えば[J.H.]レンツェに！）。彼らは中国の黄金を売っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月18日

今や１０日の全ての興奮したニュースは、また静まった。１０日夜、急いでちょっと、誕生日のネル・ファン・ダイクの所に行った。もう少しで忘れるところだった。その時、私達は外の月明かりの中で座っていたのだが、バラックEから、とても大仰に騒ぐ声がした。手紙に素晴らしいニュースが書いてあったのだ。それは：ロシアがポーランドから２０ｋｍの、４本の鉄道線路の交わる所まで迫った。ベルリンは破壊しつくされた。ドイツは降伏したであろう。スイスが我々の側についた。バルカンで抵抗勢力が立ち上がり、街が燃えている。ヤップは２人の知事（[G.A.]ボッセラール修士＋[G.]ファン・ブラーケル修士）、２人の副知事（[K.H.]ドゥ・ブール修士＋[A.]フェルフーフ司法修士）と２人の書記官（ホルマン＋？）をパカンバルーに連れていき、彼らを尋問して、我々がどのようにヤップを迎えたか、サルタンの扱いは、と聞き、そして・・・ヤップは“欧州ではドイツが苦戦していて、もしこの国が負けたら、一度アメリカと話しをしたい。”と言ったそうだ。ふん、これは私は信じないわよ。この話しが本当なら、ドイツ野郎は、とっくの昔に降参しているはずだ。しかし、ヤップはそんなことは決して言わないと私は思う。しかし、何人かの人達は、例えばドゥ・ブールなどは、これが絶対に書いてあった、と断言している。全てはもう踊り狂っている。ふん、私は興奮できないわね、あの愚鈍女-男達。ええ、そして・・・第１番に、彼らは素晴らしいやり方で迎えられたのだ！！それは寝るときは本当のベッドで、ビールを飲み、卵を食べ、等々。大変重要でございますこと、コンチク。何て下らない奴ら、吐き気がする！！

ファン・ブラーケルとボッセラールは１日長く留まらされた。とにかく、男達は全員、３月か４月に終わると思っている。まだ信じてはいないけど、それが本当であることを渾身で祈っている。おお、この生活にはとても耐えられない。[...]

この追加の購入市にもかかわらず、まだ信じられないくらい闇取引が盛んだ。巧妙！人々は宝石や万年筆入れ、衣服、紳士服、布などを売る。砂糖は１ｋｇｆ３，５０、クウェー・ウィパン［クッキーの一種］１袋（２５枚入り）ｆ２，５０、鶏の卵１個３５セント、囲い

を越えて飛び交う物のすごさといったら（行ったり来たり）。バナナなどもだ。可哀相なJ.H.、私達の向かいには、最も有名な闇取引のナイラント家族が住んでおり、何でも満足げに食べている。そして私達は見るだけだ。あの警官達はひどく図々しく、好き勝手にやっている。不思議はない！彼らといちゃいちゃし、くすくす笑いなどをしている。吐き気がする、本当に吐き気がする！！唾を吐き掛けてやりたい。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月23日

闇取引は、ヤップが厳しく禁止したにもかかわらず、まだ高潮だ。何でも売られている。衣類、宝石など。今朝、ティル・サルデマン[-ロード]がスンゲイ［川］に落ちて、３．１／２ｋｇのフラ・アレン［椰子砂糖］と９つの卵を壊した（司令官から見えているところで）。こうして、彼らは今もう、鴨の卵１個５０セント、カチャン・タナー［ピーナッツ］１カップ７５セントで売っている。ナイラントは私にもっと安くくれる。

人には言わない。[...]おお、昨日、ナイラントは素敵なピサン・イジュー［未成熟バナナ］を５セントで、それにパパイヤを仕入れた。それからまた、バナナの皮に包んだあらゆるおいしい物を（焼いた物）。おお、私達はここでよだれが出そうだ。カッシアン［残念］、でも彼女もそんなものは自分用としてもほとんど手に入らない、ほとんど入ってこないのだ。彼女はバナナを幾らか、私達のために持ってきたが、警官がもう少しでブペクト［見つかる］所で、＋アデーだ。アデーは急いで全てをゴミの山の下に隠し、警官は残りを森に投げ捨てた。ある夜、ティル・Ｓとも、どこに、どうやって闇商品を隠しておくか、という話しをしていた（見張り小屋の外、穴の中、そして夜の運び屋がｆ１．５０で、１，２，３および４の場所に物を運んでくる）。素晴らしい。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年1月末

さて、私は先ず大きく、印象深い出来事について書かなければならない。数週間この収容所で過ごしたとき、大体正月頃に、私はあなたがコック要塞の憲兵隊に捕らえられていると聞いた。私が衝撃を受けたのはわかるでしょう、ひどいという以上の物だ。このとても長かった昨年中、何も聞かされなくて、時には最悪の情況におびえていた、なぜならあなたは、あなたの権利である戦争捕虜の立場で彼らに捕らえられていたのではないのだから。そして私は、これからしばらくはあなたから何かを聞くという希望を全て捨てた。そして今（大体１月４日頃）洗

濯場にいたとき、北から葉書が（数枚）来たという話を聞いた。私は中には入らなかった。メアが無表情で私にその話しをしに来たが、私は彼女に、暫く外にいるように、と答えた。奇跡は起こった。誰かがファン・ドゥ・ワル夫人、と呼んだ。これはもしかしたらイネの葉書かもしれない、と思いつつ見ると、心底安堵したことに、そこにはあなたの署名があった。ええ、丸一年の後、あなたが生きていて健康だという知らせを手にしたのだ。さあ、私はこの知らせを全く、全然予期しておらず、これを期待する勇気さえなかったのだ。私はとても落ち込んだ気分だった。でも今は、私にはあなたが歩兵大尉として署名した葉書がある、これはあなたが今、戦争捕虜として正式な立場を持ったという印だ。良かった！今度は私があなたに、この知らせを受け取ったことを伝えられたらよいのに。[...]

私達は、今ではニュースも知らされる。男達は新聞を受け取れるのだ。パダンでの、結構大きな地震、そして非常に大きなアルゼンチンの地震の事を聞いた。欧州の戦争は全ての前線で激しい戦いになっている。ロシア人はポーランドの地で戦っている。ポーランドとロシアの間の諍い、そんなことまである、本当だとしたらだけれど。。平和がまた来るだろうか？この近くにはまた大きな収容所が建てられた。これはスマトラを犠牲にする防衛戦を意味している、日本が、他の前線では負け込んでいるとしても。私はそれを恐れている、ドイツはがう降伏しているとしても、いつになったら私達の、あなたと私の家に帰ることができるのだろうか？

エンゲル-ブラウンス
1944年1月26日

またもや３日が過ぎた。１月末。２月はもうすぐそこだ。時間はどこに行ってしまったの！！気味が悪くなる。この間にも警官は全く図々しくなり、彼らはもう、例えば、彼らは私達を見張っているのではなく、彼らの司令官を見張っているのだ、などといっている。男性収容所からは雨のように手紙が来て、またもや華々しいニュースが収容所内を渡っていく。私は何も尋ねない、その内聞かされるだろう。公式には我々のブロック・リーダーから発表があり、それはロシアはポーランドに２００ｋｍ入った、それはブレスルールティーか？[95]ロンドンをドイツ野郎が訪れた、ローマ上空に飛行機が２００機、そして今またフォルモサ［台湾］が爆撃されたと聞いた。マーシャル諸島はヤップの爆撃を受けた、シンガポールは取り込まれた。とにかく、残りはまた後で聞くことになるだろう。雰囲気はまた高揚している。先ず見てみなくては！[...]

おお、パパ、闇取引は最高潮だ。ピコルス［携帯棒］いっぱいのカチャン・タナー［ピーナッツ］が囲いを越えてくる。１０００個のグラ・アレン［椰子砂糖］、卵（今や４５セ

[95] 多分これはブレスラウのことであろう。

ント）、ジェルクス（ニピス［ライム］１個５セント）、ラド[卸しココナッツをまぶした、粉あるいは米の団子]、砂糖（緑カップ１杯１ギルダー１５セント、１カップ５０セントの玉葱、粉（サゴ）１カップ３０セントなど（テンテン［ピーナッツクッキー］一かけ１２セント）。

エンゲル-ブラウンス
1944年1月30日

おお、私は本当にホームシックだ。真っ青な空に時々風が吹く。本当のプラパットの天気！！こんな嫌な生活は地獄に堕ちろだ！！あらゆる噂に気が狂いそうになる。手紙は流れるように入ってきて、男達はどんな気違いのようなことでも書いてくる。闇取引は最高潮。ものすごい。一昨日の夜１時から３時まで薪の番をしたとき、幾つかの経験をした。最初にティル・サルデマンが煙草を持って私の所に来た。しかし警官が来て、我々に煙草を提供した。ナイラントがそこに来て一緒に座り、沢山の話しをした（彼女がどうやって闇取引人になったかなど）。そこに警官が走ってきた。彼女は“サッカ［砂糖］”と叫んだ。少し後でその男は袋にいっぱいのグラ・サッカを持ってきた。私達に煙草をくれ、現金３５ギルダーでシーツを２枚買って、注文を取ってから立ち去った。彼女は別の男からバナナをもらい、私達にも一つくれた。３時には彼らはバラン［荷物］を受け取るために３の場所に居なければならなかった。彼女は夜にだけ生きている。今はまた寝ているのだ。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年1月30日

それはまるで夢のよう、本当に非現実的だった。ウィムと私は一晩中話しをすることができた。[96]彼は憲兵隊の所にいたときの悲惨な話しをした。彼らは拷問されたのだ！私達があの時聞いた叫び声は、その犠牲者のものだったのだ。フリットは気が狂ってしまった。私達の技術者は殺された。

[96] この部分は、1943年12月13日から14日にかけての、ブーイからバンキナンへ移送時の事を書いている。その夜行列車の旅を、ファン・アメイデンは、やはりブーイに収容されていた彼女の夫と供に過ごすことができた。序文も参照のこと。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月1日

まだ沢山の贈り物や手紙が男性収容所から来続けている。闇取引最高潮。しかし、私もそれで利益を得ている。大豆調味料を一瓶手に入れるようにしよう。少なすぎる油と塩の代わりになる。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年2月4日

あなたに一通も手紙を送れないのが悲しい。今や私が正月にあなたからの葉書を受け取ったので、あなたより私の方が、恵まれている気がする。[...]昨日の夜ウールマンスから親切な手紙が来て、今朝メアは彼女の名前が書かれたキパス［扇子］をもらった。本当に親切だ！

エンゲル-ブラウンス
1944年2月8日

宝石が飛び交っている。[M.]エラントはヤップの金色の１０円紙幣を外で干していた、ちょっとｆ９００が水に落ちたのだ。おお、ここではｆ１５００やｆ１１００のダイヤモンドが何事もないように売り買いされている。そして今や現地人が、私達が昔払ったお金で旦那様をしている。彼らはポンチェス金を山のように持っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月13日

お金の亡者達はひどい。宝石販売は今は停止。ヤップが邪魔をし、中国人は全てを安く買いたたく。私は腕輪＋指輪を戻してもらった。ルクスの石鹸一個ｆ３。小さな瓶（ちっぽけな）の香水ｆ１２．５０。オーデコロン４７１１（小さい）ｆ１７．５０、とまあこんな具合だ。歯ブラシｆ５、トブラルコが１メートルｆ８。バック等などが売り買いされている。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月13日

ちょうどリー・ポスト[-グスタフソン]がリーシェとここに居たところで、私はパン＋紅茶を出した。リーシェは脂肪太りしている。ハルムはあらゆる古い、破れた服の中にサッカ［砂糖］、カチャン［ピーナッツ］等を送ってくることがあるらしい。今や、私達はトラシ［魚あるいはえびの抽出物］を食べなければならないと［R.A.F.］ハーヘンス［医師］は言い、ハルムはトラシプディング／蛋白質を送ってくる！！昔は避けて通ったものだ。今はすぐに食べてしまう。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年3月

ウィムはあらゆる病気をみんな持っている、下痢、マラリア、それに脚気だ。彼は私達のためにお金を稼ごうと最大の努力をしている、可哀相な愛しい人。私はもう何度も私達のことは心配しなくても良い、と書いているのに。お金はないけど、心配もないのだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月10日

男性収容所から手紙が２回来て、みんな家族収容を信じている。今月私達は出発する。私達は別々だ。家族の人達は互いに誰と行くか選べる。知事がそれを吟味し、知恵を絞ることになる。さて、全てはどうなることか、起こってみなければ分からない。ヤップ達は本当に私達をここの異教徒達に託すのを恐がっているのだろうか？パダンなんかでは、私達は自分たちの食糧を探すことができた。ここではとんでもないことだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月17日

新しい女医がメダンから来た。年取った婦人と看護婦だ。[97]食糧不足から闇取引を奨励したというのでコック要塞の刑務所に２ヶ月、メダンの刑務所に３ヶ月入れられていた、それだけが理由だったのだろうか？私には想像できない。いずれにしても、[M.J.]ライオン医師は彼女に３週間の絶対安静を言い渡し、そして少し運動だ（刑務所にいた）。彼女は疲労困憊いしている。ここの食事はメダンよりましだという。あちらでは闇取引の罰として３日間薪がもらえなかった。クーリーの家で、住居はここより良い。いろいろまた話しが食い違っているので、わたしは一度その医者と直接話してみたい。ブラスタギとシアンタルにもやはり収容所があると言う。他の人達はまたそれは違うという。彼女がメダンを発つとき、死者は５人しか居なかった。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月17日

男性収容所からの最新の手紙にはまた何も特別なことは書いてなかった。ただ、彼ら（既婚者達）は１２家族で互助会を作らなければならない。ひどく奇妙な組み合わせができる。男達は仲良くできるが女達はできない。おお、もし私達がそこに居なければならないとしてら、どんなにひどい気持ちになっただろう。それでもあなたが私の側に居ることを切望する。最初は全員パダンに、と言われた。最新のはまた、ここで家族統合、私達もここに留まる。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月26日

ジェッティー・テーンスマ[-ゼーヘルス・ドゥ・ベイ]とは時には話しをし、この間はあのメダンからの看護婦とも話した。さて、彼らはここと比べればメダンはずっと良かったという。それぞれの分団に中央炊事場がある。朝は水かココナッツミルク粥。１２時にはウビ［サツマイモ］一皿か御飯に肉（あるいは魚）２切れ、それにサユール［野菜（料理）］（あるいは時には焼き飯）。午後はスープ（豆か野菜）。そしてバンジャク［沢山の］闇物資。自分たちのテラス。塀の代わりに鉄条網。地域住民をとても良く懐柔している。家具や食物を鉄条網越しに投げてよこす。雰囲気もずっと良い。ここではみんなくたくたで悲観的だ。メダン人がみなプ

[97] これはJ.J.エイントホーヘン医師とフィスヘル看護婦のこと。脚注8も参照。

ルブラヤンに引っ越したからだ。シアンタルの人達はブラスタギに行き、今や３００人一緒にメダンへ。３０日間の薪差し止めの理由は、反ニッポンのデモで、ヤップがある婦人を叩きのめし、他の婦人（７年間の罰を受けた）がそのヤップに襲いかかったからだ。そのヤップは、確実に５人の婦人が彼に襲いかかった、と言った、つまり・・・医師と看護婦も捕らえられた（彼らは争いを防ごうとしたのだ）。メダン刑務所の３ヶ月は悲惨だったがコック要塞の２ヶ月はましだった。今はここに居る。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月14日

沢山のバラン［物資］が入ってきて、ものすごく高い、例えばカチャン・イジュー［小さな緑の豆］１カップｆ１．６０、ココヤシ油１カップｆ２、未成熟バナナ１つ２５セント、カチャン・タナー［ピーナッツ］１カップ８０セントなど、ココナツは一つ１．５０。あの人達は気違いだ。カップ１杯のコーヒーは、最初７０セントだったが闇取引人達はｆ１にしようと話し合っている。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月23日

この間にも男性収容所から手紙がどんどん来る。あそこも戯言ばかり言う人達だとみえる。嫌になる！彼らは女性達をいつも追いつめる。家族収容がある、そしてまた無し、そしてまた、絶対にある。そしたらそれはパカンバルーから７ｋｍのところ、それから又バンキナンで家族収容。家はもう見たと。男達が最初に行き、パディ［米］も搗かなければならず、なぜなら、・・・搗き器をもう見たから。私達はここに留まる、いや、私達はまた男性収容所へ、いや、そしたら我々の知事が我々の独り者の女性達を家族者達の側に置くだろう。それから又、別の家があり、もう見たことがある、それからまた、バラックを２つに分ける、等など。それからヤップの高官が、４月２０日から３０日の間に最終決定をしに来、そしてまた、ここの警官の仕事は５月１日で終わりと言われているという！！

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年4月30日

４月２１日金曜日に[E.]ファン・デル・ヘイデ先生が深刻な顔で私の所に来て、私と話しをしなければならない、と言った。そして私は、全く無邪気に、最初にトイレに行かなければ、と言った。すると彼女は私を面罵するように、急がなければいけない、私の夫が私を呼んでいるから、と言った。すぐに私はそれが何を意味するかを理解し、切りくずの人形のようにへたり込んだ、この収容所で受けるこのような知らせは、あまり良いことを意味しないからだ。とにかく、先生は危ういところで私を椅子に座らせることができ、私は彼女にすがりついて、“私はあちらに行かなければいけないの、先生？どうして彼は私を呼んでいるの？私はあちらに行かなければいけないの？”と言い続けた。私は驚愕のために馬鹿みたいに喋り続けた。もちろん、ブロック全体が大騒ぎになった。自分の足で立っていることもできないほどだったので、レニーとヨヨーに支えられて自分の場所に戻ったとき、廊下は既に関心を持った人達でいっぱいだった。ネルは素晴らしい緑のドレスを持って私を待っていた、ビーンは木靴を持ってきた、私はもう長いこと裸足で歩いていたからだ、そしてヤネケはもう素晴らしい刺繍の付いたスーツを着て、完全に用意ができていた。こうする間にも私はまた少し気を取り直し、全ての同情する顔を見て、却って気がしっかりしてきた。

私は落ち着いて着替えを始め、煙草が欲しいと言うと３方向から同時に差し出され、その時プロンク夫人が走ってきて、私一人で行くなどということはできないから、彼女が一緒に行って良いかどうか聞くという。ヤップの事務所での大騒ぎと話しの後、それでもやっと彼女は一緒に行って良いことになった。野菜用の車が無いので、私達は歩いて行かなければならなかった。プロンキェ［トニー・プロンク、女の子］はヤンを抱いていた。私は付き添いのヤップの横をよろよろ歩き、彼の自転車のサドルに掴まっていた、まだ足の震えが止まらなかったのだ。その間にも、私の頭の中はすごい勢いで回転していた。一方では、それほどひどくないことを願い続け、また他方では、自分が未亡人になった姿を見ていた。私はもしかしたら、遅すぎるかもしれない、ウィムはもう死んでいるかもしれない・・・。

その間にも、この歩きは私にとってとても新鮮なものだった。またこうして、森の中の道を通るのは、何という、言い表せないほどの喜びだろう。この気持ちの良い緑の涼と静寂の中。途中で私達は一度休憩を許され、ヤップはヤンのために花を摘んだ。プロンキェ堂々と藪の中に消えて、盛大におしっこをした。そしてそれから、私達の、男性収容所への入場が始まった。

私達を迎えたエディーが、すぐに私にウィムについては安心していいと言った。そして私達はウィムのベッド脇に座り、残念なことに彼はちょうど痛みの発作中だった。その時分かったのは、この訪問は医師が計画したもので、彼らは私に、突然呼ばれても驚かないようにという手紙を書いていたのだ。この手紙はまだ私の所に届いていなかった。だから、あの全て

の驚きと衝撃は何でもなかったのだ。実際、私の訪問はちょっと無駄になったと言って良く、ウィムは痛みが激しすぎて話すこともできず、私もじっと見つめる男達に囲まれて居心地が悪かった。だから私はエディーと少し喋り、とてもおいしい御飯と沢山の肉片の入ったスープをもらった。ヤネケも石像のようになって座っていて、彼女のパパにキスさえしようとしなかった。

私達の帰り道はいずれにしてもとても楽しく、ただ私達はひどく疲れて、最後にはプロンキェはヤネケをヤップの腕に押し付けて、彼女が彼の自転車に乗った。私は彼のびっくり仰天した顔を見て、お腹を抱えて笑ってしまった。こうして私達はしずしずとまた我らの親愛なる収容所に入っていった。このような女性の訪問は病人を元気づけるものらしい。

彼ら、あの男達はでも、ひどく無気力だ。一日中テンパチェ［（寝）場所］に座ってボーっとしている。私がヤップと一緒に歩いて行くと、彼らはすぐに立ち上がって気をつけをする。ひどく妙な気がした。私達の収容所ではヤップにお辞儀は全くしない。時々それでガタガタすることはあるけれど、でも私達はそれでもお辞儀はしないのだ。私達の収容所の方がずっと清潔で、ずっと活動的だが、そう、私達は全員自分たちで料理をし、世話をしなければならない子供達が居て、あの男達は中央炊事場があり、それ以外は自由時間が有り余っているように私には思える。私達が戻ると、もちろん嵐のような質問が来た。私は男達の手紙を沢山持ってきて、それを大満足の顔で分配した。神よ有り難う、ウィムは何ともなかった、彼らはただ彼を喜ばせるために私を呼んだのだ。

エンゲル-ブラウンス

1944年5月13日

さてそれで、ここではひどい食糧不足で、収容所全体がこんなに闇取引をしていて、値段はとても払えないほどになる。つまり警官が馬鹿みたいに沢山取るのだ。闇取引人（特に小規模のは）はもうあまり儲けもない（１シシル［房］ｆ１のバナナ以外は）。彼らは気違いみたいに売り歩いている。ええ、お金は無くなるわ。カチャン［ピーナッツ］１カップ６５セント。ピパ［砂糖棒］５５セント。カチャン・イジュー［小さな緑の豆］１カップｆ１．４０。ジャグン［トウモロコシ］１カップ６５セント。卵５５セント。ケチムン［キュウリ］５０、７５、ｆ１。ウビ［サツマイモ］一切れ５５セント。私達は一度８０セントのプランチェス［カッサバ芋］とカチャン・イジュー少しとプランチェスの葉を野菜として食べた。とてもおいしい。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月15日

この間にも月曜日になり、最初にニュースの続きをしよう、それは：ニッポン新聞は連合軍がサバンを攻撃（あるいは占領？）したことを認めた。このニュースはまだ確認しなければ。さらに：イギリスはサバンに、アメリカはニューギニアに入り、コタラジャは炎上している。そしてさらにパレンバンが燃えている、パンカランブランダンが爆撃された、メダンの戦争捕虜は立ち退かされた（いわゆる、パカンバルに居るはずの人達）等沢山の話し。パダン空港は破壊された、アネイ峡谷のダウフェルスベルグは吹っ飛び、インダルンも同様、等。またまた良いお話し！！！もう何も私を感動させない。先ずそれが起こったのを見てからだ。例えば、‘バンカーポイント’を目標にサバンを占領し、それ以上はスマトラで何もしない、ということもあり得るのだ。しかしそう、もちろん彼らは背後も固めなければならず、つまりそれはコタラジャを意味する。最初にまずニュースを読もう。これは男達が翻訳したN［ニッポン］新聞のニュースだ。欧州のニュースも沢山ある。ドイツ野郎も今は風前の灯火だろうと思う。ニッポンはボルシェビズムが今度は連合軍相手に立ち上がると宣言している。そしてまた、これ以上興奮させるため、一昨日、制服を着て白い星、あるいは布を肩に付けた白人の男達が車に乗ってここを通り、パカンバル方面に向かって行ったのを見たという。さてさて、これはまた一体なんでしょう？？ベツール［実際］にスマトラ周辺で何かが起こっている！何も知らないなんて、何て悲惨なんでしょう。今はもう５月半ばだ。全ての希望は今また８月に向けられている。男性収容所でもそう宣言している。さあ、そしたら良い方だと思う。私は１２月だと予測している。それ以外はまあまあだ。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年5月17日

今朝、先生［ファン・デル・ヘイデ］がニコニコして私の所に来た。“あなた幸運よ”と、彼女はすでに遠くから叫んだ、“あなたはまた男性収容所に行っていいのよ”。私は行った。大喜びで。もっときれいな、借りたドレスを着て、内緒の手紙を沢山持って。ヤンも一緒に行ってよく、今度は森林管理人の夫人に抱かれて。これが、約束の、２度目のウィムへの訪問だった。男性収容所では私を迎えるエディーはおらず、知り合いは誰一人居なかった。ある見慣れない医師が私を迎え、短く直截に、ウィムの容態は絶望的で、死の床にあると私に伝えた。彼のベッド脇に座り、ウィムは意識がなかった。口角からは乾いた血の跡がすじを引いていた。エディーが来て、森林管理人が来て、彼らは私を取り囲むぼやけた人物達だった。私が帰らなければならなくなったとき、私はウィムを腕に抱きしめた。私は多分泣いていただろうと思う

。彼は目覚め、私を抱きしめ、“泣かないで、子猫ちゃん、僕はまだまだ死なないよ”と言った。

私達は収容所に戻った。“今、ウィムは死にかけている”と私は思った。私達は二度とムアラに戻ることはないのだ。それでも私はまだパパが本当に死んでしまうとは信じられなかった。彼は自分でそういったではないか。ブロックは盛大に私を迎えたが、私は全員のそばを通り過ぎて、自分の小屋に隠れた。彼らは森林管理人の夫人から聞くだろう。私は誰とも会いたくなかった。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年5月18日

今日ウィムが埋葬された。1944年５月１７日、日本時間９時２０分にバンキナン強制収容所で死去。

エディーからの手紙、1944年５月１７日付：

親愛なるアット、

残念ながら、僕はここに、ウィムがあなたが出ていった４時間後、９時２０分に安らかに息を引き取ったことをお知らせしなければなりません。僕は最期の時まで彼の側にいて、彼はあれから数回飲み物を欲しがりました。最後の２時間はウィムはもう意識が無く、こうして彼は安らかに永眠しました。僕たちは彼を運んでいって僕たちの部屋Ｄ１の隣の薬部屋に安置したところです。医師と２人の看護士が彼を洗いました。明日の午後４時に葬儀が行われます。

３時少し前に私達は、私達の収容所と男性収容所の間にある小墓地に行った。誰が私と一緒に行ったのだろう？思い出すこともできない、ルースとアニーだったと思う、ヤネケは後に残していった。私達が門を出ていくとき、私達の闇取引警官ジミーが私の所に来て、私のための特別に森で取ってきた野生の花束と蔦の葉の巻いたものをくれた。優しいジミー・・・。私は彼と握手をし、お礼を言った。途中で借りた木靴のベルトが切れ、それからは私は裸足でよろよろ歩いて行った。墓地では２人のクーリーがまだ墓穴を掘っていた。ウィムはもうそこに居て、棺は可哀相に土の上に置かれていた。数人の男達と牧師までも居た。あのおかしなエディーったら。私は牧師なんかいらない。

クーリー達は仕事を終え、そのうちの一人が枯れた枝を掴んでそれを、あざけるような態度で掘り出した土の山の上に突き刺した。そして彼らはクスクス笑いをしながら歩き去った。猛烈な怒りが私を襲い、私は墓に飛びついてその枝を引き抜き、それをクーリー達の後ろ

姿に向かって投げつけた。神よ、私は彼らをそのまま殺してやりたかった、あの言うに言えない卑怯な人間のくずめ。死者に向かって、閉じ込められた女性達に向かって、無力な男達に向かってあんな事をするのだ、神に見放された卑怯者め。墓の周りの一団はなすすべもなく立っていた。私は付き添いのヤップを見つめた、挑戦的に・・・。彼は何も言わず、しかし男達に始めるように合図した・・・。

それからまだ牧師がぐずぐず言った。彼は私が泣かずに、石像のように立っていた事に反感を持った。私は彼が、‘このかたくなな女性’の心を和らげるようにと神に祈るのを聞いた。私がかたくな？いいえ牧師さん、あなたは私が大嫌いなのよ、５年前、突然私の家におしかけて来たとき、食事に招待しなかったことをまだ根に持っているのよ。
私は身をかがめ、ウィムの墓の土を手にいっぱい取った。そして私達は帰っていった。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月23日

最愛の隣人さん！[98]この頃は神経を落ち着かせることができない。多くのことが、あり過ぎる、あり過ぎだ！あなたは、バラックEのリッチェ・ルセラーとバラックAの[B.J.]ポッペ夫人に依れば、ここの側を通っていった。何故なのだ。そんなことがあるだろうか。私には現実感が沸かない。いつもあなたはあんなに遠くにいると思っていて、そして今や、それでもこんなに近くにいる！！本当だろうか？？そして私が塀の側にいなかったことで、自分を撃ち殺したい気分だ。塀の場所を関心のある人達にゆずって、私は一度も見に行かなかった。そして今や、やはりビルマ-男達が通っていった、今度はパパちゃんも居たかもしれないわね？

最初の日はアンボン人などだった。夜中にも激しく車が通り続けた。２日目はオランダの男達！！！！[99]、そしてみんな塀によじ登り、突然板が外れたりなんだりして、私達は罰を受けた。野生動物みたいにヤップは収容所を走り回った。全ての鍋を火から投げ落とし、全ての火を消して、私達を屋内に追い込んだ。おお、そしたらすぐに取り乱す。ひどい。叫び、わめく女性達、静かに対処したり、そこに立ち続けたりする代わりに。私は髪を切っていた。ヤップは銃の台じりで私を小突いたが、私は彼を真っ直ぐ静かに見つめること以外はしなかった。彼は先に進んでいった。卑怯者！悪者！３日目＝昨日は私達が塀によじ登らなければ、門を開け、鉄条網の内側で見て良い、と約束された。こうして私は何台もの車が通り過ぎるのを見たが、誰も知った顔を見分けることはできなかった。コビーと私は、それでもウィムを見たような気がして、私はそれにウィム・スフロートもだ。つまり５月２２日の輸送の、最後から４番目くらいの車の、前の方の真ん中辺り、頭のかぶりものを脱いだ。おお、あなた達はなん

[98] この日記後半参照。
[99] 序文参照。

とひどい様子だったことか。ヒゲ、ヒゲ無し、頭を丸めて様々なかぶりものをかぶって、海軍のさえあった。青白い顔が沢山。嫌だ事！もちろん旅の疲れで死にそうなほどだったのだろう。そうして私はナイラントから、警官がパダンに結婚式をしに行き、パーティーの真っ最中に警備係に呼び出され、８０人の警官達とともにエマ港に、あなた達を下船させに行ったと聞いた。彼は、まるでニシンの詰め物みたいに船底に、と言った。一台の車から、彼らはバタビアから来た、と言った。おお、私はもう何も理解できない、何も。あなた達はどこから来て、メダン人はどこなの？私達が見たところ、オーストラリア人も混ざっていたみたいだ。スマトラの人はみんなここに居るの？あなた達は本当にビルマに行っていたの？ジャワに運ばれたの？本当に知りたい！！！ヤン・ヘインはどこにも見あたらなかった。突然彼は走ってきて、“ママ、彼らはパパを見たよ”と言い、そしてそれから彼は突然泣き出した！！！ハンクと私は直ぐに一緒にやり始めた、それまで本当によく抑えていたのだが。リーチェに依れば、あなたは目だし帽を斜めに頭に載せて、日に焼けて健康そう、太っているようにさえ見えた。さらにもみあげ２つ。おお、愛しい人、私には実感がない、そしてそれを考えでもしたら、私は本当に落ち着かなくなる。あなたが、遠く離れているのではなく、こんなに近くにいるという観念。考えられない。

つまりあなたは５月２１日、あなたの娘の１３歳のお誕生日の次の日に、通りすぎて行ったことになる。人々は何人もの男達を見分けたと言明している。スティン・ドゥ・ブロックは彼女自身の夫を見た。素敵でしょ？さらにファン・ポッペ、ユングスト、レイエンデッカー、エルデリングなどが見つけられた。昨日、彼らはまたあなたを見たと思った、リー・デン・ホント[-ロライヌン]だ、しかし人々はそれはアンドリッセンだったと言っている。あなた達は私達のことをどう思った？この全てを、知っていた？そしてこの間にも、私達はもう半年ここに居る！！今日は私達が塀に登ったら銃を撃つ、そして門は閉まったままだ。しかし、バラン［荷物］以外のものは通らなかった。明日はまた輸送だ、と言っている。話しはもうまた、私達がジャワに行くことになっている（そこが、いわゆる、自由になって、彼らはここで戦うから）。さてさて！あなた達はパカンバルの前約７kmの所の、これと同じような収容所に居て、鉄道敷設をさせられる。[100]ほらね、私の署名をしたところ、そして私達はこれをあなた達の所に送るようにやってみるわ。うまく行くかしら？？あなた達からも何か知らせがあることを燃える思いで願っている。そして、こうしてこの数日は、本当に騒然と、忙しく過ぎていった

[100] 1943年3月に、約220キロメートルの長さのパカンバルとムアラ間の鉄道建設が始まった。最初は日本人はこの仕事にロウムシャだけを投入していたが、1944年5月から、戦争捕虜もこの鉄道敷設強制労働をさせられた。そこでは非常に悪い状況の中で激しい仕事が行われた。日本降伏の日に鉄道は完成した。この建設で、約17,000人のロームシャと700人近い戦争捕虜が命を失った。 (De Jong, 第 11巻 b) p 709-712。

エンゲル-ブラウンス
1944年5月29日

聖霊降臨祭の日、５月２８日に、私は初めて外に出た。その時は年寄りなどは花を摘んで良く（！！）ブンガ［花］のカードを付けていなければいけない。アニー・ドゥ・クルース、ロースなど、みんな内緒で一緒に行った。素足で、私達は泳ぐ池に走っていった。おお、それは神の恵みだ。私は本当に自由と泳ぎを楽しんだ。指が痺れて、身体の芯まで冷たくなった。それを楽しみ、全く別人になったよう、つまり私がそれほど冷たくなったときに。腫れあがった気分はさっと消えた。真っ青になって私はここに入ってきた（寒さのために）と人は言った。次の日まで、私は気持ちよく内側が冷たかった！何という感覚だろう。夜は１０時に（子供達と一緒に）バッタリと寝てしまった。私達、アニー・ドゥ・クルースと私は木に登って、そこから飛び込んだ。あなたの年寄りちゃんが一番ブラニ［勇気］があった。次の日曜日にも絶対やろう！！

エンゲル-ブラウンス
1944年6月6日

そしてこの間にも、もうすぐ６月半ばになる。時は飛ぶように過ぎていく。ちょうどさっき、また戦争捕虜を乗せた車が通り過ぎていった。まだ３０００人が通っていくともう既に言われている。どうやってそのニュースを知ったの？？？・・・。私には分からない。この地域は何て人々が集まってきていることか。食物はどこから持ってくるのだろう？人々は塀から棒で叩き落とされた（ヤップに）。ブロックAとBでは婦人達が落ち着き払って頭を屋根から突き出した。多くは見られなかったが、それでもこの男達はましな様子であった。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月15日

さて、情況が緊迫してくることは、喜ぶべきだが、しかし私は今、ニッポン-パダン新聞の公式な素晴らしいニュースが読み上げられるまで、信じていなかった。これは男達が墓地で女達に手紙にして渡すことができたのだ。ヘティー・ファン・ドングン[-パイパー]が、これをブロックごとに読み上げに来た（我々の知事はその新聞を読めるが、口外してはならない）。６月６日ノルマンディー侵攻。パラシュート部隊上陸！そしていわゆる最初の掃討。その後またカーンに表れた。これは２５ｋｍ内陸に入っている。だから・・・早く進んでいる。セーヌ川上で

連合軍の軍艦が炎上。私達は今や、連合軍が華々しく圧倒することを願っている。ダウンケルクンとカレーが爆撃された。ローマは戦いを止めた。連合軍は物資をなんとか供給しなければいけない。ロシアについては長いこと何も無い。さらに、連合軍はマノクワリの上のハウトフィンク湾中の小島を占領した。おお、早く行くだろうか。それから先週、ブロメンステインを含む４人の男が私達に米を持ってきた（それは彼らが搗いた！）。彼は、ハンクに依ればとても良い様子で、彼はハンクを太ったと言った！！昨日はプラウス、フェルドカンプにバッカー（フレートの）が来た。彼らは米を持って外に居なければならず、女達はちょっと門の所で見られるだけだった。フレートはもう少しで遅れるところだった。それから、ブレストが病院助手として来た。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年6月半ば

‘戦争捕虜’が、私が病院にいるときに通り過ぎた。何と神経症的な！何という雰囲気！どのように書いたらよいだろう。ソニャはパパが車の前方に箱の上に乗っているのを見た。メアがその時ちょうど居なかったのが本当に残念だ。それは本当だろうか？信じなくては。ソニャは断固としてあなただったと言っているのよ、愛する人。彼女は一瞬も疑わなかった。[101]どのようにして全てのつじつまが合うというのだろう。ビルマからの人達も居たのだろうか？あなた達は今この近くにいるの？これは考えられることなのだろうか？そして今、全く何の手紙も来ないのだろうか？このような別離は何と悲惨なことか。私達はこれをくぐり抜けられるだろうか？一緒に？

エルレー
1944年6月18日

今日は日曜日。午後には散歩に行っても良いのです。１００人の婦人達が裏門を出て飲料水の給水溝に添って行って帰る散歩ができます。私達はその時籠を持っていき、食べられるシダや薪を探します。

[101] それでもこれはほとんどあり得ないことで、それは、ファン・ドゥ・ワル家の父親は1944年6月末にはファン・ワールヴァイク号に乗船していたからである。この船はベラワンからパダンに向かう途中、6月25日に連合軍に魚雷攻撃された。序文参照。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月25日

アネケが、村人は普通のアメリカ製綿布３．１／２メートルにｆ８５も払う、と言った。一人用のシーツはｆ７５。さあ、分かるでしょ、私はまだシーツが２枚ある。しかし、１枚はすぐになくなる。そしたら、チラム［マットレス］の上に直接寝るのだ。もう、大勢の人達はそうしている。そのｆ７５で食べ物があった方がよい。

薪取りの人達も内緒で、あちらこちらに隠れて待っている村人の所に行く。彼らはどんな小さな服にも夢中で、そのためには大金を出す。何てひっくり返った世界だろう。彼らはひとの服をはぎ取りそうな勢いだ。スカートに隠して、婦人達はピパ［砂糖棒］やバナナ等を持って帰ってくる。死刑執行人みたいに図太い。みんな自分の胃のことしか考えていない！！この間は入るのが遅すぎた人達がブペクト［見つかった］。何人かは神経質になってカンブット［編んだ籠］を森に投げ捨てた。あのヤップは、馬鹿じゃない、見張り小屋にいて、これをみな見ていた。殴りつけ、１／２の食糧などと脅した。しかし、全てはそのまま続けられ、警官とのいちゃいちゃや警官を通じての闇取引もだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月2日

ヘーレン［夫人］は一昨日彼女の子供を埋葬し、そこでまた男達（墓掘りの）に会った。妙に聞こえるが、これが唯一の男達との直接接触なのだ。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月5日

もう‘大量の’闇取引は全然できない！闇取引人達の自分たち用だけだ。そしてそれは辛い見物よ！[...]J.H.は見つめてばかりいて、時には空腹で床に伸びていて、そしてこんなに１週間ずっと砂糖無しなんて悲惨だ！！本当にひどくフラフラになる！いつもいつも、私は、自分で闇取引をしようかと思うのだが、でもあの警官との、嫌なのに仲良くしなければならない事を思うと、またむかついてくる。そのためには夜中にベッドを出ていかなければならず、それにあのヤップはひどく監視をしているのだ。慣れた闇取引人達は最高に巧妙だ。あのブラニ［勇気のある］女性達には脱帽だ、彼女たちはブーイの男達［収容されている男達］より抜け目無く、勇敢だわよ！

エルレー
1944年7月27日

昨日の夜はまた年老いた盲目の女性の葬式でした。すると男性達も墓地に墓掘りに来ます。その男性達が、サイパンは完全に我々の手に落ちたこと、日本の船団はほとんど壊滅したこと、それに日本の内閣交代の知らせをくれました。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月5日

[J.]コルク[-マッキンク]おばあちゃんの容態は良くない［エンゲル-ブラウンス夫人は病室で彼女の隣に寝ていた］、でも、その気力ももうないのだ。コルクおじいちゃんは昨日来ることができた、とても健康そうだった。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月8日

とにかく、知らせが実際にそれほど華々しいものなら、これも早々に終わるに違いない。昨日はまた葬式があり、男達からの華々しいしニュースが入ってきた。それは：ヒトラーは逃げ出し、支配権をグベルスに渡した。英雄的だ事！短く言えば、ドイツめの民衆はグベルスを頼らなければならず、彼らの持っている最後の手段を使い出すだろう。ガス？？？だとしたら悲惨なことになるだろう。しかし、連合軍とロシアは大々的な成功を収めないといけない。ロシアはもうレンベルグ、コーニングベルゲン、そしてメメルにいる。悪くないわ。太平洋ではまた幾つかの小島が連合軍の手に。さらにまた、盛大な話しが沢山、つまり私達がレンガトのケボン［農園］に行くというのだ。さらにある日本の高官が我々の知事、警察などと、解放になった時のことなどを話し合ったという。これは本当かしら？？？

エンゲル-ブラウンス
1944年8月21日

さらに今日は沢山の葉書がタイから来た、ニケからだ。私には何も無い。ヤップに依れば、これはニケからの２度目の葉書だという。私達はこれを最初のものとして受け取ったのだ。そこ

に書いていることはまた何と馬鹿馬鹿しいことか。タイからの印刷された葉書の内容は：雨は少なくなり、いい天気で、砂糖、マーガリン、煙草、ミルクなどをヤップ当局からもらう。あなたは健康に（あるいは病気で）仕事をしている。家から電報とか手紙が来ている！！などだ。私達はこの戦争の早期終了を願っている。まるで本当みたい！今日はちょうどヤーピー・リトマンの誕生日でコビーはウィムからカードをもらった。そこには、他の事と共に、“ヘンク・エンゲルは他の収容所に！”とあった。さてさて、あなたは今どこに居るの？ネル・ファン・ダイクもカードを受け取り、ルイはオランダから４通の手紙を受け取ったと書いていて、ニュースも書いている。４３年１２月のだけど、とにかく。ヤップはなんだかんだと撒き散らしている。ロンドン、オーストラリア、英領インドなどからさえも何通かの手紙が来た。

エルレー

1944年8月22日

驚いたことに何人かの婦人方は赤十字社を通じてビルマに居る夫から、そしてオランダからさえも手紙を受け取りました。また、何通かの手紙から、ビルマの男性達はオランダからの手紙は受け取っているけれど、妻達からは何も聞いていないことが分かりました。ヤップたちはジャワとの間の手紙交換をしてくれないものでしょうか。あなたからも、私は何も聞いていないし、私自身も一度もあなたに何か書くことができませんでした。とにかく、この埋め合わせは後になってからすることにしましょう。

エルレー

1944年8月28日

もう一月の間、手紙に関しては男性収容所との全ての連絡が途絶えています。葬式が唯一の接触場所ですが、この１４日間は誰も死んでいないのです！！ヤップは男性から妻への食料品は届けています。

エルレー

1944年9月７日

今日は突然書く機会が与えられました、ヤップがこれをいつかは送ってくれるのかどうかはもちろん分かりません。私はあなたにも書きました。

M.J.ミンダーマン-エルレー夫人、スタッションヴェフ１９，チマヒ-ジャワ

［英語で］私と［パウリン］ブリンクホルストは元気です。私は体重が１２．５キロ減りました。傷がなかなか治りません。お金と衣類は充分です。食べ物は充分ではありません。あなたからの手紙を一度も受け取っていません。２ヶ月以内に、私は４７歳になります。楽観的でいてね、沢山の愛と勇気を。姉妹のエルレーより。

手紙は活字体で書かなければいけなかったのですが、署名は普通にできました。あなたがいつか受け取ることを願っています。夫がここ［男性収容所］に居ない人達は全員、手紙を書くことができました。

エンゲル-ブラウンス

1944年9月9日

最愛のパパちゃん、ほらね、やっとの事で昨日９月８日‘公式に’（フム！）書くことが許された！！ほらみてごらん。今日はブロックＤとＥを片づけるだろう。私達側の人達の中から、特別の言論統制委員会！はいはい、半端じゃないわ。薄い葉書に、私は次のように書いた（ヨスに依れば、階級は書かなくても良い！）：

H.K.エンゲルP.O.W.［戦争捕虜］1246番、P.O.W.収容所ムルメイン、ビルマ

［英語で］パパちゃん、ハンキー、ヤンヘイン、ママ結構元気。子供達は最高！あなたに会いたくてたまらない。あなたのムルメインからのカードを２通受け取った。リトマンはちょうどタイからのカードを受け取り、ヘンクは他の収容所、と書いてあった。私達は１９４２年４月に家を離れ、ヤンヘインはちょうど７．１／２だ。終わりがくるのを、そしてあなたも近くに来るのを願っている。あなたも気を付けてね。愛とキスを、ハンキー、ヤンヘイン、C.M.エンゲル-ブラウンスより。

家を離れて、の所には最初“私達はもう２．１／２年収容されている”と書いた。これはいけないと言われた。仕方がない。あなたには“あなたも”が分かるかしら？私達はあなた達がタルックに居るのではないかと想像している。もう少しで、自転車に乗ってこれをあなた達に届けましょうかとヤップに申し出るとことだった。[...]

１週間前の水曜日、ハンクは水泳のために外で仕事をしに行き、休憩時間にJ.H.を連れていった。彼は砂を運び、そして・・・とても気持ちよく泳いだ。お祭りだ。初めて、J.H.は屋外に出たのだ！！興奮し、沢山の木を(J.H.は重い丸太！)持って、彼らは帰ってきた。それ以外は毎日同じ事の繰り返しだ。[...]

手紙も闇物資も入ってこない。私達が何かを聞く方法は葬式を通じてだ。冷酷に響くが、しかし事実なのだ。今度［G.］ホルザフェル氏が亡くなり、ここから５人の女性達がそこに行った。すると数通の個人的な手紙（例えばボッセラール＝知事夫人宛て）プラス公的な手紙（我々のHB［幹部会］宛て）が内密に男達から女達の手に押し付けられる。私達は歓声を上げたり、ダンスしたりなぞしてはいけない、スパイが居るからだ。我々は今は大体誰だか分かっている。もう葬式の場所に行けなくなったりしたら残念なことだ。[...]ああそうだ、１週間くらい前、カムスマ母とドゥ・ヴェールトが、重病で寝ていたカムスマ父の所に行く事を許された。彼は今は少し良くなった。その時にも、公式なニュースが夜遅くここで読み上げられた。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月12日

バンキナン。私達は４４年９月12日に２番目の葉書を書いてよくなり、私はこれをオランダに、J.ブラウンス技師、レウワルダーヴェフ１４、アムステルダム-ノールト宛てに書いた。

［英語で］
親愛なる皆様、
ハンキー、ヤンヘイン、ロティーまあまあ元気。１９４２年４月に家を離れる。ヘンクは１９４１年１２月に発った。１９４２年に彼のビルマ葉書を２通受け取った。彼に早く会えるよう願っている。ヤンヘイン７．１／２。子供達は何とか学校に通っている。私達は沢山仕事をしている。あなた達に会うこと、平和と食物（オランダ？）を切望している。
将来を信じて、
愛とキスを。

エルレー
1944年9月13日

私はもう１通、オランダに書くことができ、ヨハンに、大体あなたへのと同じ内容で書きました。ヤップは優しいでしょ、今、ほとんどもう必要なくなってから手紙を書くことを許すなんて。これで被収容者に家族との交信をさせるという義務を果たしたことになるのです。聞き分けのよい子達です事！！

エンゲル-ブラウンス
1944年9月17日

今では新しい規則が、幹部会承知の上で、できたらしい。３人の男達が、それはスホーフ、ファン・デル・エング、そしてホーセンスだが、森で仕事をしている時、秘密の水泳場を見つけ、そこで迅速に手紙の交換ができるという。[M.J.]ホーセンス[-コメリン]夫人がそのために指名された。［P.A.］ファン・デル・エング夫人も自分の夫と手紙交換をした。こうして私達はニュースを聞くことができるだろう。しかし、昨日また邪魔が入った。[B.L.J.]モルペイはフランス・バッカーに彼女のためのウィパン［クッキーの１種］１包みを持ってこさせ、それが捕まったのだ。モルペイはバンキナンに連行され、収容所は罰として１週間薪取り禁止で、畑仕事も無し。つまり・・・ニュースはストップ。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年9月22日

私達はまた葉書を‘戦争捕虜’に送った。オランダのおじいちゃんにも１通書き、その知らせを他の人達みんなに伝えてくれるように頼んだ。しかし、私は何も届かないだろうと思う。あなたが実際に近くにいるとしたら、夫であるあなたが、こんなに長い間には少なくとも何か私達のことを知る小さな機会があるに違いない。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月23日

[A.]アイフス[-ローセンダール]夫人が昨日埋葬された。またもやあらゆる非公式なニュース＋手紙が一定の人達のために出回っていて、それは例えば：カナダ人上陸準備が整った、ベルギーとフランスは解放された。コブレンツで戦い、マジノー戦線を巡って、東インドへ圧力をかけるのは、フィリピンを爆撃することから始めてそれから私達の港だろうと予想している。日本で国内反乱。飢饉もだ。とにかく、男達は後３，４週間だと予想している。彼らはもう自分たちの仕事分担を決め、私達を守ってくれるという。おお、みんな何というたわごとだろう。愛しい人、もう少し読もう！本当に暑い！

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1944年10月

私達はまた気違いのように闇取引をしている。ジミーを含む数人の警官達は全く私たちの側に付いている。少し前の夜はまた大変な騒ぎだった。レオニーとルースが闇物資を受け取るために塀に登っていて、その時誰か大馬鹿の警官が、その企みには関係していなかったと見えて、不審に思い、いきなり銃を撃ち始めた。弾の一つはレとルースのちょうど真ん中を抜けていった。彼らは塀から転がり下り、必死に隠れ場所を探した。見張りが来て、収容所を探し回った。彼らは男性収容所の男達が内部に侵入したと思ったようだった。そしてジミーは、実は見張り番にはなっていなくて、闇取引の１団に入っていたのだが、出て行かれなくなってしまった。後になって私達はお腹が痛くなるほど笑った、なぜならジミーは女性達の間に、素晴らしい部屋着にくるまって隠れていたからだ。彼は幸い発見されなかった。

エルレー
1944年10月1日

今朝ほぼ１時頃、つまり私のこの前の１文の後で、多くの死者の悲しむべきニュースが載った戦争捕虜からの手紙が来ました。どうやら事故か爆撃があったらしいのですが、どうして死者が出てしまったのか、もちろん私達にははっきりした事は分かりません。[102]タイス［ブリンクホルスト］は幸い無事でした“かすり傷一つ無く”、でも彼の葉書にも３人の死者が書かれていました。これが収容所をいかに打ちのめしたか、全く知らせを受け取らなかった人達がいかに不安に駆られたか、想像できるでしょう。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月2日

最愛なるパパちゃん、これは数行、あまり嬉しくない文章になる。ああ、ああ、私達がこれにまだ耐えなければいけないなんて本当に大変だ。私達には何がなんだか分からない。次のようなことが起こったのだ。昨日（朝食の後）ドーレンマーレンの子供達が窓（板を取り外した）から“葉書が来たよ”と叫びに来た。私達はみな、緊張して身を起こして待っていた。その時恐れていた落雷が下った。ハンキーも、パパから何か聞けるという希望を抱いて事務所に駆けていった。そこには確かに葉書が来ていたが、それは約５０枚の、３３人の死を告げるものだ

[102] 序文参照。

ったらしい。この通知は大衝撃だったに違いない。関係する女性達は悲鳴を上げ始めたり、身体が硬直したり、また数人は陽気に受けとめた、信じようとしないのだ。葉書には名前が書かれ、ほとんどみな、書いたのも、死者もメダンの人達で、それは例えば：ドゥ・ブロック・ファン・スヘルティンハ、ラウター、ヨングカンプ、v.d.コルク（大尉）、デン・ダルク（彼女は既に一人っ子を失っていた）などだ。ハンキーが来て、[L.M.]ハーレイ看護婦は彼女がひどく神経質になっているのを見てちょっと中に入れた。この私の所に来てから彼女は泣き出し、“私はパパがその中にいるのではないかと思って本当に恐かったけど、でも幸い違ったわ！”と言った。私達は２人とも暫くホッとしてしゃくりをあげていた。おお、収容所は死んだように静まり返っていた。恐い。私達は打ちのめされていた。この病院では一人の女性（インドネシア系-ブラウワー・ファン・ゴンズンバッフ）が夫を失った。彼女はとてもしっかりしている。おお、私だったら打ちひしがれてしまうだろう。悲惨だ。ヤン・エルデリングも死んだようだ。まだもっとカードが来るのだろうか？私達は皆ひどい恐怖の中にいる。パカンバルで爆撃か何かがあって、そこで輸送の一団か、仕事のグループか、または収容所の一部が破壊されたに違いない、というのも、[H.J.A.]トローステンブルグ［ドゥ・ブラウン］医師はカードに小さな爆弾を描き、スヘンカンはＰＢという文字を書いているからだ。その中には医者が沢山居た、たとえばブッケ医師、パウトにスメーツだ。それからリー・ウィンタースは知らない人、ファーレトン中尉からカードを受け取り、そこには“ユップ、ヤコブス、ホフケスとリッツマ・ファン・エックは大丈夫！”と書いてあった。その様なカードをヨーピーJ.も、また別の人から受け取っている。ほとんどの葉書は次のような内容だった（アーンデウィール宛てのものなど）：“［英語で］かすり傷一つ無く無事でした。持ち物は全て無くしましたが、日本の兵士がそれを置き換えています。”そして死者の名前だ。つまり、本当に何かあったのだ。あなた達はだから、もっと遠くに居るに違いない。

エルレー

1944年10月28日

それから知事から手紙が来て、その中にはヤップが撤退したときの食糧供給について等が書かれていました。彼はそれが近々起こると思っているようです。さあ、そこで約束されているのは実際素晴らしいものです。最初の頃は私達が食べられる量以上のものが来るでしょう、私達は少量の食事になれてしまっていますから。想像して御覧なさい、一人一日５００グラムの米と２００グラムの野菜、百グラムの肉、充分な油、塩、ラド［卸しココナッツをまぶした粉あるいは米の団子］、さあ、お始め下さいな。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年11月9日

日曜の朝に約２７人の死亡の知らせが入ってきてから、もう既に何週間にもなろうとしている。北からの手紙が来ているというニュースは風のように収容所を渡っていった。‘被害関係者’は探し出され、事務所に呼ばれ、幹部から知らせを受けた。悲劇的ではないか。あの半分気を失った女性達が出てきたのはまるで死者の部屋のようだった。私は同情した。本当にひどい。[...]何人かの人達には怪我が伝えられ、その人達はその後で外にだされ、彼らがどのような状態を避けられたのか、うまく理解できていなかった。それでも、私よりは、その様な状態にうまく耐えることのできる人達が居る。私だったら、それ以上やっていけないだろう。その様なことがこれからも起こりませんように。２、３日後にはまた食べ物や飲み物の話しになった。それは今は、多くの、全部の人達が、ここでの大きな心配事や、困難、仕事や食糧不足で感覚が鈍くなっているのだ。こうして時が過ぎていく。もう一度、あなたからカードを受け取ることができて本当に感謝している。あなたは今でもまだ私達からの知らせを何も受け取っていないのだろうか。それでも私は今は、私の、そして子供達のカードとあなたのカードが行き違いになったのだろうと思っている。あなたは今どこにいるの？[...]最初の印象では、あなたは私に、マラッカかどこかに行ったと知らせようとしたのだと思った、なぜならあなたは“返事は‘マラヤ’収容所へ”と書いていたからだ。人々はあなたがここの近くにいるのだと、ずっと思い続け、信じ続け、知っていると思っていたのに。[...]

あなたは今どこにいるの。数日前に私はここの男達が、あなたはこの近くを輸送された後７月頃に、襲撃されて海難にあったと予想される、あるいは知っていると言うのを聞いた。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月25日

ちょうど昨日、戦争捕虜達がオランダ北部から受け取り、こちらに転送してきた手紙が入ってきた、例えばミップ・アーンデウィール、[-ファン・レウウェン]、ティル、ヘース・ヤンセンス[-アイデンス]などが受け取った。ミップは激しく‘ダウン’になっていて、それはそこに：我々は避難した、２．５キロ痩せた、妹はまだ食糧が充分にあるドイツで仕事をしているなどと書かれていたからだ。いったい誰がそんなことを書くのか、それにミップも大馬鹿だ、あんなに落ち込むなんて。それはみんなの、そして夫の生きている印ではないか！！あなた達だって、おもしろおかしく暮らしたりはしていないだろう。ティルの両親は私達がどこにいるのか知らず、ヘースの両親は私達が捕らえられていることを知らなかったと書いている。やっと戦

争捕虜からクリスマスの挨拶が来て、初めて知ったのだ。あなた達もそれを書くことができたの？私はあなたの生きている印を待ちわびている！！

エンゲル-ブラウンス
1944年12月9日

今朝は大量の手紙やカードが入ってきた、それはオランダから、ジャワから、南アフリカから、ロンドンからさえも（Ｂ？［名前を線で消してある］はそこで良い職に就いていた！！！）、それにタイからだ。私達には残念ながらまだ何も来ない。私達はそれを待ちこがれている。例えばフランク夫人はタイの義理兄からもらい、彼女の夫はここに居る。どうして私達は未だに一度もないの？メート・クノットとリット・デン・ホント[-ロライヌン]もタイから、ヘーレ、ドゥ・ヨングなどもだ。彼らのジャワの両親からは、多くが１９４４年８月の、オランダからは１９４２年のだった。タイのカードは１９４４年１月（レニ・ミハエリスはジャワから）何時になったら私達に来るの？カプタインもジャワからとオランダから。不公平でしょ？

エンゲル-ブラウンス
1944年12月18日

一昨日は[R.A.F.]ハーヘンス［医師］と[P.A.]フィス医師が来て、ジャック・ポッペとファン・ブルドルの若い方を手術した。彼らは妻達と一緒に食事することができ、大量の食糧を持ってきた！ブルナ［-オリー］などにもだ。あの人達は何て運がいいんでしょうね？[...]それから、男性収容所との手紙交信はエラント（２人の若い守護妖精を従えて、塀の所に陣取っている）によって、それにあるスカリラ［兵補］によって再開された。ケルマーは書いている：彼らは戦争捕虜と接触がある、パカンバル周辺の９つの収容所に５から６０００人が居る。あなたもそこに居るの？それから、１３日には手紙が来た・・・私達のパパちゃんから、４４年５月１９日の日付で、つまり最近のものだ！タイからということで、１８日にはあなたがここを通っていくのを見たという話なのに。さてさて！！オランダから手紙が５通！！素晴らしい！コピーもまたカードを１枚（リー・デン・ホントなども）、そこには今度は“ヘンクは僕と一緒に居る！”と書かれている。あなたはどこかに行っていたの？もしかしたらジャワ経由で？あなた達はここにいるの？数日後にまたN-男達［？］から手紙が来て、オランダからの手紙が添えられていた！！大感激。１９４４年１１月の、中には１２月のカードまで（日付はなかった）。男達は“女性収容所バンキナン”という宛名を書いている。あなたは何も知らない。だから私達は、１４日にダブルのお祝いをした。

エンゲル-ブラウンス
1944年12月26日

その時１２時に男性収容所に贈り物を送って良いことになり（２３日に発表）、それはやっと夜遅くに出ていった。大量の贈り物がここには来た。幸運者達！！サッカ［砂糖］、豆、カチャン・タナー［ピーナッツ］、トラシ［魚またはえびの抽出物］、油などだ。私たちには、［男性の］ドゥ・クルース、ポストなどは決して何も送ってこない。いいえ、私達はホンのちっぽけなトラシを４つ（１個ｆ１．２５＝ｆ５）自分たちで買った（テン・ボスはこれに埋もれている！！）。あの男達は何て私達のためになることでしょうね。

エンゲル-ブラウンス
1945年1月5日

昨日、雲の上のとても高いところに飛行機の音を聞いた。そして約３枚のパンフレットを庭に落としていった。ヤップがすぐに来た。罵声をあげ、叫び立て、木の伐採は無し、そしてすぐにスカリラ［兵補］の一団を外から入れた（３枚見つけてから）。これには考えさせられる！！みなはもう、パンフレットにはイギリスとオランダの旗が描かれており、そこに何が書かれているか分かったらすぐに、スカリラが私達に教えてくれるだろう、と言っている。これは初めての、私達の初めての友軍存在の印だろうか？（７番目の空からの予測！）。おお、彼らがまた来ますように、たとえそれはあなた達用であったとしても。

エンゲル-ブラウンス
1945年4月18日

メダンの男達からの葉書も来て、一月前のものに違いなく、パカンバルからだ。[F.M.]ステウプ[-リハム]夫人だけがタイからのカードをもらった。さてさて！ホフケス、ウィンタース、ヤコブスンは無し、その時怪我をしていたのだ。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年4月18日

この私にとって暗い日々の後で、今朝、あなたから葉書が届いた。神よ、何てありがたいこと。私はまた３週間少々寝込んでいて、ホームシックと落ち込みに耐えられなくなりそうなとき、私はまたあなたが前に一度言った言葉を思い出した。“じゃあ君はその時僕のことを考えなかったの？”そうして私は想像の中であなたと一緒だった。[...]あなたの文章から、あなた達の情況が楽しいものでないことは分かるし、感じられる、でもあなたはまだ元気なのだ。可愛い子供達、私のためにどんなに喜んでくれたことか、そして自分たちのためにも。床の上にベッドがあり、それはとても薄いマットレスで、角の小さなカバンの上に、あなたの写真とカードを立ててある。今日まではあなたはマラッカ（マラヤ）にいるものとばかり思っていたが、今はあなたの収容所はやはりこの近所にあるようだ。これは本当だろうか？

エルレー
1945年4月21日

男性収容所では赤痢が蔓延しています。１４日間に２０人以上の死者です。名前の発表さえすぐには行われず、誰も葬式に行くことを許されません。これも収容所の雰囲気を高揚させるものではありません。[...]

１８日水曜日、私達はまたパパタイスのカードを受け取りました。彼は元気で、私達からの知らせは受け取ったことが無く、もちろんパウルのことも何も知りません。他のカードの祝いの言葉から、３月始めの物に違いないと思われます。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月4日

それから私達は全く何もニュースを聞かない、手紙が発見されたことと、赤痢の危険のため全くだれも埋葬場所に行くことを許されないからだ。毎日男達は死んでいく、少し前には１日３、４人も。ひどい！

エンゲル-ブラウンス

1945年5月21日

ほとんど出来事はない、また盛大に闇取引が行われているだけだ。ナイラント、フレース、リーベンステイン、などなど、夜はすごい騒音だ。彼らはどんどん図々しくなる。ナイラント夫人は私の最後の布を欲しがった。私はトニーの卵に対する苦情を言い、隠れたところでその噂をされた［？］。全てはo.k.。私の布はロースが外に持っていき、私はｆ１７５－ｆ１０＝ｆ１６５を受け取り、３つほどのサッカ［砂糖］、ピパ［砂糖棒］５本、レンダン［辛味の肉料理］少々ももらった。ピパ１本は１９日に前渡しされた。私達はそれをどんなにおいしく食べたことか。とろけるように甘い。ナイラントの所では、あらゆる物を死ぬほど食べている。

# 戦況の知らせと噂

## 収容所報告書

バンキナンでは男性達があらゆる方法で日本人からニッポン新聞を手に入れようとし、それに成功していた。するとその翻訳が女性収容所にも送られた。この報道は偏ったものではあったが、ラジオを失ったとき［伝道建物群からブーイに越した時、序文参照］ほどには情報から遠ざけられた気分にはならずにすんだ。

故意に女性達は世界の出来事を知らされなかった。日本は女性達に、日本が勝利者の側に居ると信じさせようとしたのだ。

## 日記抜粋

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年2月4日

ニュースが来た！イタリアで戦い、ロシアでも。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月8日

今や私達はコック要塞方向に行こうとしているという話しで、それは１８日の前、なぜならここで何かが起こるはずで、（ハ、ハ！）すると食糧供給が難しくなるからだという。それでもモルック諸島は危ないようだ。それでもやっとローマの下方で、レニングラードなどで戦いが行われている。嫌になる、全く嫌になる。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月13日

ヤップはヘティ・ファン・ドングン[-パイパー]に、私達はそれでもここを出ていかなければならないのだと仄めかしているらしい。何故、どこに？？？まだ分からない！！あのヤップが自分で６月か７月には終わるとホンの少し漏らしたのだそうだ。私達は引き渡されるのか？私達は自由地域に行くのだろうか？コック要塞に行くのか？私達の将来には何が待ち受けているの？おお、考えるだけで大変なことだ。そして‘もう私には耐えられない’！という気分なのに。ウィニーとちょっと喋ったが、彼女はまた去年の予言の話しをし、もう一度３月末か４月始めに私達が解放され、その後戦争捕虜だという。ヨープ・メケルの星占いでは３月２８日だと言っている。私達は以前には１９４３年だと思っていたが、今では１９４４年にしている。おお、私には本当に元気付けが必要だ。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月18日

とんでもない噂が飛び交っている！！私達がここを出ていくのはベツール［実際］確かだとか。この情況も継続することは無理だろう。現金や黄金を追い求めて。全てが売られている！！（香水、石鹸、布、黄金など）[...]今では家族収容の噂があり、未婚女性のリストを出せと言われている。あのヤップが自分で言ったのだ、それは“ジュンパ・エン・チャンプル、ラキラキ・ダン・ペレンプアン”［引っ越しして混合にする、男と女と一緒に］！しかし、私達はどうなるの？？！すると人々は家族収容はパダンで、あるいは・・・パカンバルでと言う。私達はメダンかコック要塞へ。そこでは我々戦争捕虜の妻達の面倒を素晴らしく良く見てくれるという。向こうの収容所の男達はとても生き生きしている。この国を秩序正しく引き渡せ、というアメリカの要求に添うために、男達は現地人達が反抗しないように元の仕事に戻される、ということまで考えられている。ニッポン新聞には：２４００の飛行機がビルマ上空に、１２００機がペナン上空にいる、と書かれていたようだ。欧州ではそこら中で活発な戦い、など。つまり、このJ. 東方は大変活動的だ。先ず起こることを見なくては！この全ての知らせも、私にはまだ何の意味もない！先ずこの目で見る！！しかし、今はどんどんうまくいっているに違いない。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月21日

最新ニュースは：またもやドイツが降伏した。６週間後には私達は解放される。少し前には：やっぱりここかパダンで家族収容。私達はどこか別の所に行く。あのお喋りはひどい。突然一昨日ものすごい悲鳴、なぜなら・・・‘和平調印された’。そして、こうして私達は生きていく、私達の神経が破裂するまで。

エンゲル-ブラウンス
1944年2月25日

家族収容の噂が続いている。３日前にはまた急に、“ビルマの男達は解放された！”という知らせ。ふん、そしたらまた今度このような知らせを聞いたら、全く何も信じられない。嫌になる！！私はいつもはほとんど何も聞かない。噂では：マラッカは血の海、ペナンが爆撃された、クラに上陸。この全てがあの小新聞に載っていたそうだ。それでも私達はまだ、待っていなければならない。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年3月2日

収容所の専門家によればドイツは１月始めに降伏した。私は信じない。それでも可能性はある。私達は今月半ばにまた引っ越しをして、パダンに戻り、家々に収容されるだろうともいう。みんながそれを信じていて、私達が常に闘っている南京虫に追い出されるのは本当だとしても、私はそんなに早く引っ越しになるとは信じていない。彼らは私達をこのスマトラの中心部に隠しておいて、海岸を自由に使えるようにするだろうと思う。どうなるか見てみよう。

エンゲル-ブラウンス
1944年3月10日

ちょうどドリーがちょっと私の所に来た。あちらの人々は最新の政治ニュースは素晴らしいと思っている。昨日は何枚にもおよぶ政治ニュースが（ニッポン新聞から）全てのブロックで読み上げられたのだ。もちろんこれは連合軍側の読み方で説明するのだ。この太平洋では日本は

やはり繁栄しているというにはほど遠い情況らしい。例えば：日本は、太平洋の、たった幾つかの地域を、最後まで守るだろう。さらに、必要とあれば民間人がともに闘う。みな力の限り協力し、楽しみは少なく、食事も同様、より激しく働く、などなど（LBD［航空保護局］の拡大）。マリアナ諸島に２０．０００人のアメリカ人が上陸し、ヤップ達（２０００人！）が死ぬまで闘った（英雄的！）。おお、ファクファクには数人の西洋人しかおらず（全ては異教徒！）、そしてその小さな場所が今や連合軍の手中に入った（それは大きな場所よ）。今月は戦いの最高点だった。極限の力比べ。瓶の口に迫っている。さらに欧州では、チャーチルは気がおかしいと。彼は、イタリア戦場の３００のドイツ部隊をみて、思ったよりドイツが強いと思ったと。ドニェプルはまだ戦いが続いている。しかしロシアとポーランドの境界線は既に引かれた。フィンランドはロシアと条約を交わしたとか・・・しかしそれは違う！（しかしそうよ）。ロンドンは激しい爆撃を受けた。トルコはアメリカに石油譲歩をした。アルゼンチンとポルトガル：病的な枢軸国大臣は反枢軸国大臣に取って代わられた！！ドイツ国民達は、都市は爆撃されるので田舎に疎開した、等。ビルマには西アジアの軍隊が到着し、もう既に居る英領インド-イギリス軍と同様に囲い込まれるだろう。つまり、戦いが行われている。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月14日

４月９日は終わった、何も起こらなかった。私はもう何も信じない。家族収容は行われるに違いない。ファン・ミールロによれば、彼らは小住宅を建てている。我々の知事は、我々独り者の女性も家族のそばに住んで良いかどうか聞いてくれるという。独り者の男は別の場所。今日、小住宅への男達の最初の輸送があるだろう（仕上げをするため）。私達と男性収容所の間にある。青シャツ（あるいはオド-ロノ：＝笑いヤップ）が、次の２０日頃、コック要塞からヤップ高官が来て、何が起こるか言うだろうという。先ず見てみなくては。仮定：これから２ヶ月後に家族収容になり、それから約３ヶ月その情況で、すると今年はまた終わってしまう。おお、愛しい人、私には終わりが見えない。

エンゲル-ブラウンス
1944年4月23日

そして今度はニュースを少し：病院から出てきたドゥ・ケイザー夫人は私に言った。“ビルマの男達はニューギニアに輸送され、その途中で魚雷攻撃にあった！”ある人はトーキョーがこれを言いふらし、すぐにBBC（チャーチル）が“彼らは全員無事にニューギニアに到着した！”

と言った。それからまた８００人が行方不明と聞き、あるいはあなた達は戦いができるように準備中などと。何人かの女性は絶望に駆られている。でも、私はその手には乗らないわよ、つまり、まだ確かには分からないときにはくよくよせず、あなたは元気でどこかに居ると固く信じているわ。一緒に闘うこと以外には考えていないでしょ、ね、パパ？！でも、私はあなたを取り戻す、私には分かっている、私には感じられる。[...]イタリアに関してはニッポン新聞ちゃんは、もう長いこと沈黙が続いている。欧州に関しても今はそうだ。ヒトラーとムッソリーニは逃げ出した。オデッサは最後のロシアの街としてロシアの手に入った。あのドイツ野郎はルーマニアとハンガリーを盾に使っている。これとあなた達に関する知らせは１月１日の物で、つまり古い物だ。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月6日

この前のニッポン新聞ちゃんのニュースは大変良かった。イタリアではドイツ野郎は連合軍の大軍に抗しきれない。欧州に関してはそれ以外は沈黙だ。ホランディアは私達の物らしい。メラウケとマノクワリが爆撃された。フィリピンより東の沢山の島が私達の物になった。東ジャワ＋スラバヤが爆撃された。北ビルマで彼らはパラシュート部隊を捕らえた、等。すべては彼らがあらゆるところで（ビルマ、タイ、など）戦っていることを示している。今、最新の収容所の噂は３０００人の戦争捕虜のことで、戦争捕虜ではない人の家族収容はやっぱりあると予想されている。もっとバラックを建てているの？そうに違いない。ああ、そうだ、それにチラチャプが爆撃されたか、あるいは上陸があった。ツルース・ウィンタースは塀の向こうから手紙を受け取り、そこにはスマトラ西岸では時々戦闘がある、と書かれていたそうだ。彼らは実際にジャワ南岸とスマトラ西岸という回り道の動きをするだろうか？？ダーウィンやコロンボより近くに戦闘基地がなければならない。ビルマ、タイの戦闘が、マラッカに進むの？推測したり想像したりしていて、こんな動きが終わることを心から願っている。

エルレー
1944年6月14日

今日はセーヌ川を通ってフランス進攻の素晴らしいニュースがあり、それは成功したという。今度はそうであれと願っている。私達の救いを早めるものになるだろう。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年6月半ば

明るい話しが一つある。Ｊは彼らの小新聞（パダン）でローマは諦められ、フランス（ル・ハーブル）進攻。今５年後に、ドイツの降伏が近づいているのか？大東亜はどうなっているのかしら。それについてはほとんど知らないと言って良い。

エンゲル-ブラウンス
1944年6月30日

最近のニュースは愚だ（ビルマに関する戯言など）。私達は元気付けが必要なのだ。‘聞くところに依れば［フランス語］’欧州の前線は３倍に強化され、アメリカの船団が日本に向かっており、東太平洋は好調で激しく撃っている。とにかく、先ずその成果を見てからよ！そしたら初めて信じるわ。全員疲れて力がない。ティル・サルデマン[-ローデ]は一昨日あなたを見たと思っている、それはつまり闇取引をしていて、あなた達に何時に戻ってくるか、と聞いたのだ。あなた達は“１時間後”と言った。彼女はまたそこに立ち、“見てごらん、お馬鹿さん”そして“サルデマンに宜しく”と言った。あなた達はうなずいた。後になってから、彼女は、それはあなただったかも知れないと気が付いた。だから、何とも言えない。半ズボンにシャツ＋目出し帽の８人の男、その内１人はインドネシア系の青年。あなた達は働きに行った。これが本当だとは信じられない。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年7月3日

‘サイパン’の華々しい勝利のことを聞いた。やっと東方の明るい話しで、欧州ではシェルブールの激しい（とても）戦いのこと。その後、ニュースが止まった。欧州ではひどく、すごい事になっているに違いない。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月7日

それからニュースはなかなかよ。特にサイパン（マリアナ諸島）の奪還、中国からの九州爆撃は。つまり、マリアナ諸島は私達のものになった。ボナンもで、彼らは近づいている。欧州ではもちろんドイツ野郎の素晴らしい抵抗だ。至る所で戦闘で、ロンドンは新式の自動操縦‘ロケット’飛行機（自爆する！）で攻められた。兎に角、今度こそ早く行ってくれれば！！彼らは今度は私達、戦争捕虜の妻達はパダンに行く、例えば１７日等に、と言っている。ハ、ハ！

エルレー
1944年7月8日

日本への本土直接攻撃とサイパン島占領の噂があります。さて、これが本当なら、私達は実際に最後の数ヶ月の中にいるでしょう。

エンゲル-ブラウンス
1944年7月13日

最新のニュースは、ヤップが７月１日前に新聞で、欧州はこの夏に決戦となるだろうと言い、この新聞は[G.A.]ボッセラール知事はいつも読むようにもらっているのだが、７月１日からはもうこの新聞を渡されなくなった。さてさて。確かに特別な事は無いのでしょうよ！！！それ以外にはあまり聞かない、最大の悲観主義者（つまり私もそのうちの一人！）だけが年末に終わるだろうと思っている、もし、憎たらしいドイツ領アフリカがまだクタクタにやられていないとしたら、屋根にでも登って首を長くして待つしかないだろう！日本はこれまでの責任をしっかり取らされているに違いない！！本当だと良いのだが。日本から１０００ｋｍの距離（つまりメダンーコック要塞間の距離）に彼らはいるという。兎に角、戯言を言っていても始まらない。早くさえやってくれれば！！

エルレー
1944年7月19日

それから、少し楽しいことです。この２年間ずっとヤップの通訳をしていた検査官助手も、今収容されました。まだパダンでヤップのために翻訳をしていた（強制されて）西洋人全員もここに送られてきました。パダンは恒常的に燈火管制で、住んでいるのはそこに居なければならない人達だけ。私達を救いに、早く来てくれると良いんだけれど。[...]時には好奇心から戦後の出来事に心が飛んでしまいます。

エルレー
1944年7月24日

華々しいニュース。６０の爆撃機によるエマ港の爆撃、シボルガも同様。ニアスとトバ湖への上陸。アメリカ人は明後日にも戸口に来るでしょう！！私がこんなに疑い深い人間で残念だわ。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月14日

ロシアは今やワルシャワの近くで、連合軍も大幅に躍進したに違いない。兎に角、早すぎるという事はない。男達はすぐにでも終わりが来ると思っているようだ。さてね、私は自分の目で見てからよ！あの男達はもう２．１／２年間私達を騙してきたのだ。私は今年末になると思い続けている。おお、可愛い人、今はもう８月半ばだ。つまり後、３．１／２ヶ月だ。バンザイ！多くの人達は“おお、何という悲観論者でしょう、そんなこと、私には耐えられない。”と言っている。私にはそれより早く終わるとは考えられない。

エンゲル-ブラウンス
1944年8月21日

あなたが何処にいるのか、本当に知りたい。私はニケの夢をまだ見ることがある、あなたは覚えてる？つまり、あなたはもうウィムと一緒には居ないのね。今や、この前入ってきた英領インド系看護婦ちゃん達が、彼らはあなた達を日本に送ろうとした、と言っている。うまく行かず、こうしてタイ、マラッカ、シンガポールを経由してタルックへ。そこであなた達は鉄道建

設に従事し、何人かはパダンで仕事させられている。しかし、今ではメダンとジャワからの、戦争捕虜でない人達はここに戻され、そのために彼らはここであなたを他の人達と共に見たのだ。N.からとジャワからの戦争捕虜達はパカンバルーとバンキナンにいる。兎に角、何とでも言ってちょうだい。

エンゲル-ブラウンス
1944年9月9日

今は昨日（８月２３日の）のニュースだけ。[103]パリは陥落した。連合軍の軍隊は急行列車の速度でベルキーとドイツの国境に向かっている。その前のニュースは次のようなことだった。ドイツ軍は成功裡に東方に進攻した。ハ、ハ！最新の公式ニュース＝ルーヴァン陥落、つまり急行列車の速度の話しは、お話だけではなかったのだ。ド・ゴールは太平洋へ（つまりリヴィエラでは赤軍はもう必要ではなかったのだ）バルカン陥落。ロシアはルーマニアとハンガリーに事実を突きつけたに違いない。ポーランドとイタリアはドイツの手から逃れた。トルコは私たちの側に。それからパダンのエマ港はまたもや、そしてインダルンも爆撃され、パンフレットが散布された（これは前に書いた！）。ああそうだ、ヤップの内閣は揉めているらしい。近衛殿下は和平派。最後通牒は今日。

エルレー
1944年9月19日

ニュースにはルーマニア、ブルガリア、フィンランドの和平の話しがありました。ハンガリーで反乱。チェコ人はロシアと一緒にやっています。フランス人はベルギーのブラバントとマーストリフトで一緒に戦っています。ドイツ軍はくさびを打ち込まれて、散開しています。さあ、こんなに良いことはありません。日本は１０００機の飛行機で爆撃されました。ハンコウは３００機ので。さあ、やってちょうだい。蘭領東インドは日本によって独立国家宣言されました。[104]ええ、それもどうぞ。さぞがっかりすることでしょうよ。彼らは嫉妬で互いに殺し合うでしょうし、そしたら独立も大いに疑問です。大筋では日本はこの宣言で‘彼らの顔’を立て、アジア人種解放の高貴な目的を実行したことになります。まるで本当みたいでしょ！

[103] このニュースは8月23日付けの新聞に載っていた。
[104] 恐らくこれは、いわゆる小磯宣言のことで、1944年9月7日、日本の国会で小磯首相がインドネシアの独立を約束したもの。(Brugmans 等、ｐ 644).

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1944年9月22日

７月始めから、９月末になった。そこにはまた３ヶ月近くの間がある。欧州ではまたもや秋が迫っている。そこでの戦争はまだ衰えることのない激しさで続けられている。最新の‘知らせ’ではオランダ南部で戦いが行われていると告げている。ベルヘン・オプ・ゾーム、アーケン、コブレンツ、連合軍はオランダからドイツに入ろうとしているのか？すべてははっきりしない。それでも私は、この秋には戦いはドイツにとって惨憺たるものになると思う。ロシアがマンチュクオを占領した、と囁かれている。すでにロシアと日本の戦争は始まっているのだろうか？これはこれまでに聞いたことがない。

エルレー
1944年10月18日

知らせはまだ良好です。ドイツの方はもう終わったに相違なく、オランダは解放されたでしょうが、戦闘はオランダで行われたでしょう。どのようになっているのでしょうか？ここ東インドが何処まで来ているのか、それに関しては素晴らしい知らせがありますが、しかしその中で本当のことは何でしょう。私達は短気すぎ、ガツガツしすぎています、私達のあの肉にもかかわらず。

エンゲル-ブラウンス
1944年10月20日

ちょうどドリーシェ・ファン・デル・ワルと年老いた紳士の葬式があったところで、そこから次のようなニュースが入ってきた。スターリン、モロトフとチャーチルの会議。ロシアはカムチャッカ-ウラジオストック-シベリアラインの制空権を得た。アメリカは６ｘ４００機の飛行機を日本上空に放った。オランダは解放された。ドイツ野郎は全てを破壊していった。カッシアン［可哀相な］私達の国。私達の国に空軍基地。シーグフリッド前線は突破された。フィンランド人はロシア人と共にバルト海諸国と戦っている。ロシアがブタペストに入った、などなど。この知らせは１０月９日のニッポン新聞のものだったから、理論的には欧州はもう終わっていなければならない、つまり？？・・・欧州は？？オランダはどんな様子なのだろう？おお、おお、欧州は一体どんな様子なのだろう！！パダン-ニッポン新聞によれば、アンボン、セラム、マラッカ、等々も爆撃された。しかし、ここの私達には何の役にも立たない。上陸を見た

いのだ！！彼らは先ず日本を徹底爆撃して、それからやっと私達を解放するつもりだろうか？ヤップたちは自分たちの国が陥落してもここで頑張るだろうか？不可能だと私は思う。

エンゲル-ブラウンス
1944年11月14日

私は午後に５人か６人のお客の散髪をしている（ごくたまに午前中に１人か２人）。昨日は[F.]フェルウェイ小母さんなどで、彼女は私にｆ０．５０くれ、今日、‘主な出来事’というカード占いをした。ひどい（＝死亡！）の知らせがオランダから来る、それは母の死亡だ。あなたは病気だった。今は元気でこちらに来る、一人の良い友人＝寡夫といつも一緒に居る。私達はとても裕福になり、オランダに向かっていく。お金を沢山相続する（これについてはかなり考えなければならなかった。父の証券？？）。地位の高い、金持ちの将校があなたの福祉と昇進に関する知らせを持ってくる。あなたは近々来る。地位の高い金持ちの将校に注意、その人が恋人になるかも知れないから？？おお、おお、何と馬鹿げたこと。それでもまた母に関して、そして私達の明るい未来に関してはいつも同じだ。早く来てちょうだいね、愛しい人。

エンゲル-ブラウンス
1945年1月24日

またもや１４日が過ぎ、未だに同じ単調な生活だ。膨大な輸送が通り過ぎていく、昼夜をとわず。全てはパ［カン］バ［ルー］に向かって。弾薬や自転車を持った兵士、等々。確実に何かが起ころうとしている。人々はシンガポールが連合軍の手に落ちた、といっている。バガン・シ・アピ・アピが爆撃された、等。時々飛行機を見る。残念ながら赤い丸付き。[P.A.]フィス医師とともに、華々しいニュースの書かれた手紙が６通来たそうだ。でもそれは何？［占いの］石は真実を語っているの？？つまり、３月４日に戦争が終わるという。

エルレー
1945年1月26日

知らせに関しては、まだいつも同じように素晴らしいものですが、それでもまだ実現してはいません。私達の解放の、最新日付は２月４日が挙げられています。このような日付は大体精霊からのものです。精霊は収容所内でとても流行っています。

エルレー
1945年1月27日

この数日は、全てうまくカモフラージュされた、戦車や網をかぶせた完全戦闘装備輸送の通過で大変賑やかです。私達が、この意味を感じられたらよいのにと思います。後退か、戦闘か。ええ、どちらにしても私達には朗報ですが、しかし、その違いは大きいのです。

ファン・ドゥ・ワル-クーラース
1945年2月4日

今日は２０部隊がドイツ中部で戦っているという知らせが湧いてきた。これは私は信じる。全ての‘噂’の中に、私のフィーリングで幾つか信じるものがある。スマトラにも攻撃が仕掛けられるだろうか？パレンバンに上陸。このそばを通る軍隊車の列は急激に増えている。噂も増えている。やっと決定的なことが起こりつつあるのだろう。遠くからあなたに挨拶とキスを送ります。

エンゲル-ブラウンス
1945年2月6日

またもや１．１／２週間が過ぎ、私はこのページが日記の最後の部分になることを願っている。まだ戦車や大型車などなどの轟きが続いている。あの傷痍者達は一体何処から来たのだろう？エラント（スカリラ［兵補］）によればシンガポールは解放され、パレンバンに上陸した。それから沢山の爆撃。青ヒゲ［日本人のあだ名？］自身は、連合軍がここに来たら私達はどうするのか、ここに留まるつもりか、そして彼らの私達に対する扱いをどのように判断するか、を聞き続けている。そしてまた、フィリピンは解放され、今度はアメリカはここのあちらこちらを爆撃する、という。一体何を望んでいるのか？そして昨日は、ベラス［脱穀米］をもう交換したり売ったりしたりしてはいけない、それに販売用の食べ物を余りたくさん作ってはいけない、それは近々ベラス輸送が停滞するであろうから。さてさて。

エンゲル-ブラウンス
1945年2月18日

この全ての葬式で（[H.]コーヘン［-ベール］夫人など）、ヤップがひどく厳しくしているにもかかわらず、沢山の手紙が入ってきた。ニュースはまたもや華々しいが、しかし私は事実を待っている。［通過する］列は少し静かになった。ニュース：ロシアは、ベルリンから最初は１７０ｋｍの、今は５０㎞の地点にいる。アメリカ人もルールモントを過ぎてルール地帯に入った。ここではどこもかしこも爆撃され、後もう少しで終わりだ！！（またもや）。これはニ［ッポン］新聞に書いてあることなので、実際にはもっとずっとひどいのだ。

エンゲル-ブラウンス
1945年3月6日

ちょっとあなたとお喋りがしたい。３月４日、あの“石は語る”の日は過ぎた。何か‘和平調印’のようなことが行われただろうか？私達もいつかは知らされるのか？！！もう起こっても良い頃だ。

エンゲル-ブラウンス
1945年3月18日

さて、それからニュースと騒がれていること。ベンクーレンとパダンの間で船が魚雷攻撃にあい[105]、そのためにパダンに３０人の戦争捕虜死者の（大量）墓がある。ブーイには６０００人の戦争捕虜が居る。１日に２５人の男達が死んでいる、もしあなたがそれを信じたければ！外では多くの人達が病気になり、死んでいる。娘達は呼び出され、ヤップは彼女たちに、悲しむべき、険悪な情況が満ちているのに何故歌を唱うのか、などとスピーチをした。男性収容所では情況を理解している。スカリラに対してはヤップは：自分とおまえ達は明日にも明後日にも死ぬかも知れない、と言った。[F.M.]ステウプ[-リガム]が言うには、青ヒゲはコルと話しができるようにするために彼女に取り入っているのだ、今や戦争はアメリカと日本の間だけで、双方とももうやる気はないのだから、などと。彼は日本に帰りたい。これ全てが、アメリカが日

[105] これはジュンヨウ丸の事かも知れないが、だとするとこのニュースは古い。ジュンヨウ丸は1944年9月18日にイギリスの潜水艦から魚雷攻撃されて沈没した。乗船していた6500人の戦争捕虜やロウムシャの内、助かったのは880人のみであった。生存者はパダンに運ばれ、そこからパカンバルー鉄道に向けて輸送された。

本に最後通牒（３月１７日！）を送ったという噂に真実味を添えている。日本は妥協するだろうか？彼らはいつもこの事を話している。ドイツは破滅したの？

エンゲル-ブラウンス
1945年4月5日

それから３月中旬と３月２０日から２３日までの出来事に関するニュースが入った。ドイツは未だに変わらず、彼らは私達を待たせ続けている（これはニッポン新聞より）。しかし日本は、戦争情況が良くならなければ我々もお終いだ、と言っている。百万人の市民警備隊が来なくてはいけない。もし連合軍が上陸したら、我々は何とか彼らをくい止めなければならないが、しかし・・・そうはできないだろう、など。連合軍は戦争をできるだけ早く終わらせようとしている。我々をインドシナから隔離しようとしている。マンダレイも解放され、連合軍はn. z.［？］に進軍している。アチェとアンダマヌン諸島が攻撃された、つまりフィリピンの戦いはほとんど終わったということだ。統治を現地人に。本土の名古屋が爆撃され、炎上している。長崎の前で、３日間の海戦。九州の飛行場が連合軍に占領された。とにかく、全てブカン・マイン［悪くない］響きね。

エルレー
1945年4月9日

知らせは時がたてばたつほど良くなってきます。空想ニュースはそれよりずっと先を進んでいますが！しかし、そろそろそれも真実に近くなってきました。ライン川前線は今や多くの場所で突破され、オーストリア前線も同様です。空想ではヒトラーは既に殺害され、ドイツは１７人運営会で支配しています。公式な知らせは３月２７日のものです。日本も悪い状況です。

エンゲル-ブラウンス
1945年5月11日

ニュースでは何も分からない。ただ、５月５日にHB［幹部会］から発表があり、アドルフ小父さん［ヒトラー］の地位はヨセフ［スターリン］小父さんに取って代わられたという。これをフィス医師は薬の本に書き留めた。

エルレー
1945年5月20日

昨日はまた、５月８日か９日に女王がまた我々の国に入国し、統治権を手にしたという素晴らしいニュースがありました。これでヤップも私達を無国籍の、つまり無力な人間と見なすことはできなくなりました。これは確かに意味があります。

エルレー
1945年7月8日

ニュースの内容は華々しいものです。ベンクールンはもう３週間連合軍の手中にあるといいます。そしたら、そろそろ彼らが私達の門前に現れても良い頃です。歓迎しますよ！でも、片手にコンーンビーフの缶、もう一方の手にミルクの缶かバターを持ってね。それはまた何人かの命を助けることでしょう。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年8月

これは確実に何かある。ヤップたちはひどく機嫌が悪く、私達に笑ったり歌ったりすることを禁じた。昨日は急に追加の米が来た。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年8月19日

何て物資がいっぺんに入ったことか。毎日追加の食糧配給だ。突拍子でもない噂が駆けめぐっている。

# 和平の知らせ

ファン・ドゥ・ワル・クーラース

1945年8月19日

平和が来た！私はまた書くことができる！まだ良く理解できないが、それでも私は今日、この月記を終えようと思う。私達はパパからの知らせを待ち、パパのことを話し、考えている。この夜、真夜中に、イェフケは言った。“ママ、パパは[M.M.]みたいに白髪になって痩せているんじゃないの？”私は、“そんなこと無いわよ。”と言った。分かる、“パパがそんなにひどい様子じゃなかったら、とっても愛しいと思うな。”私達の気持ちを表現するには書くことが沢山ありすぎる。戦争捕虜の父親達も今度は一度来ることになるかも知れない。メアは“私は一晩中寝ずに、パパのことを考えていたわ。”と言った。私達は本当に疲れているが、でも子供達は本当に健康で、‘バンキナン解放’を楽しんでいる。ソニャは素晴らしい雄鳥や雌鳥を持ってきて、今やっと、私の身体を強くするための料理を全て作ることができるととても喜んでいる。何という日々だろう。それでもまだ現実感がない。私達はこんなに長く、長く待ったのだ。生活は度を超えそうなほど大変だった。子供達も本当に疲れ切っていた。そのためにとてもひどく感じやすくなっていた。私は悲しみにもう耐えられなかった。[...]それでも、私はこれを終えよう。ありがたい！私はまだ生きていて、ありがたいことに、あなたにまた会えるという気持ちになっている。

エルレー

1945年8月19日

またもや長い間何も話しませんでした。８月１０日に私達はロントンパン［米蒸しパン］のケーキにクニット［ウコン］の絞り出し飾り、それにウダン・サイド［えび料理］でパウルの誕生日を記念しました。塩味のケーキを食べるのは独特の経験です。子供達は喜んで食べました。これからは８月３１日［オレンジ家の女王、ウィルヘルミナの誕生日］を大きなナシ・クーニング［ウコンの根汁で黄色に染めた米］（オレンジ）で祝えるように蓄えます。それから、アメリカの最後通牒が到達したという注目すべき噂に私達は包まれていますが、その成果は何も見られません。つまり、それは本当ではないのでしょう。

ファン・アメイデン・ファン・ダウム-オール
1945年8月22日

戦争は終わった！今日、それが発表された。知事が、男性収容所からここに来た。私達は全員収容所広場にいた、私もだ。私はそこに行かなければならず、行くべきで、だからルースとアンが私を挟んでそこに連れていった。私達はウィルヘルムス［オランダ国家］をまた罰を受けずに歌うことができ、突然旗が出てきて、それをこの何年間も隠しておくことができたなんて、どうやったら可能だったのだろう。今は夜で、収容所ではお祝いをしている。１時間ごとくらいに備蓄品が入ってくる。私達はみんなお腹がはち切れそうなくらい食べた。明日は男達がここに来て良いことになっている。

エルレー
1945年8月26日

やっとその時がやってきました。８月２１日に、戦いは終わったという正式な知らせが来ました。想像はついていました、突然より多くのベラス［脱穀した米］、多くの油、多くの野菜、やっと充分な食べ物が来たからです。収容所は興奮と緊張の連続でした。夕方８時に[G.A.]ボッセラール知事が[H.H.W.]カーフと[H.]レヴィソンと供にそれを正式に発表するために入ってきたときには、その感動は書き表せないほどでした。ある人は笑い、ある人は泣き、叫び、歓声を上げ、壮大な騒ぎでした。私自身は神経がおかしくなりそうでした。泣きながら、息苦しくなりました。それは震えながら私の指に達し、一瞬私は最悪の事態になるのではないかと思いました。[M.]ブーデル夫人が私を助けに来て、それによって私の気分をそらせました。そして私は落ち着いてきて、私達は食事をすることができました。その時私はちょうど米と白豆のクリオ[106]と疑似ソーセージをよそったところだったのです。これが、これからは私達の停戦食となることでしょう。翌日にはすぐに夫達や息子達の訪問がありました。１時間ずつのグループに分かれてです。その時から、落ち着いていられなくなりました。ヤップから、そして今では、今は平和となり、私達自身の統治者から溢れるような食糧を受け取りました。私達には食べ切れませんでした。収容所の裏にはお金のいらない市場ができました。私達の古いボロ布を鶏や野菜、果物等々と交換しました。とんでもない物々交換が行われました。その時以来、もう、２羽の大きな鶏を食べ、[S.A.]ドゥ・レフト[-フリース]夫人のために小さいのを２羽料理し、魚もあり、砂糖も、兎に角、書ききれないほどです。つまり、有ったのにヤップは私達に渡さなかったのです。死者の確実に５０％はこれで助かっていたはずです。ドレス用にアメリカ製の綿布を５ｍ、新しいタオル、気持ちの良い石鹸プラス、ベダク［粉］、歯ブラシ、歯磨

[106] 脚注29参照。

き粉をもらい、つまりこれも有ったのです。昨日、和平の公式な知らせがありました。飛行機が飛んでこなければなりません。旗が地上に置いてあり、飛行機が来たら小さな子供達は屋内に入っていなければなりません。今日はバターとカチャン油［ピーナッツ油］をもらいました。男達は私達のために煮物を作りました。初めて茶色豆＋ウビ［サツマイモ］＋バビ［豚肉］２つ＋カルバウ［水牛肉］１つです。これからはクリオは魚プラス腸とババト［牛の胃］になります。ブイヨンも見ました。そこにはたっぷり数センチの脂肪が浮いていました。紳士方が今では私達の雑役をしています。昨日１０時になってまだ食肉の車が入ってきて、１２時に私達に配給されました。さあ、こんな夜中の仕事は大変です。私達の和平の晩餐は米とジャグン［トウモロコシ］の若芽＋ココナッツ卸しと濃いサッカシロップ［砂糖の］です。少ししたら私達は墓地を訪れ、花を摘みます。デデク［糠］と塩抜きの食事を食べることは止めにしました。すべてのバナナと沢山の肉のおかげで、脚気の症状はすぐになくなりました。今はあなたに早く手紙を書くか電報を打つかしましょう。彼らはもう人々を元の場所に戻すための組織作りまで始めていると思います。

**Staff Diary project**:

Elisabeth Broers (editor Dutch)
Mariska Heijmans-van Bruggen (project co-ordinator)
Jeroen Kemperman (project assistant)
Elly Touwen-Bouwsma (programme director)
Richard Voorneman (editor Dutch)

**Members Advisory Committee for the Diary project**:

Dhr. R. Boekholt
Drs. E. Derksen (Stichting Tong Tong)
Dhr. F.N.J. van Dijk
Dr. mr. G. Jungslager (Stichting Japanse Ereschulden)
Dr. E.B. Locher-Scholten (Universiteit Utrecht)
Dr. Osamu Namba
Dhr. H.R. Toorop (Voormalig Verzet Oost-Azie)
Dr. H.L. Zwitzer